

検査に関するお問合せは、045-333-1661（大代表）までご連絡ください。
月～土曜日 9:00～18:00（祝日を除く）

保健科学グループ

- 保健科学研究所 〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町 106 番地 TEL.045-333-1661 (大代表)
- 保健科学東日本 〒365-8585 埼玉県鴻巣市天神 3-673 TEL.048-543-4000
- 保健科学西日本 〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町 328 TEL.075-933-6060

サービスセンター

札幌サービスセンター 〒065-0022 北海道札幌市東区北22条東7-1-25	011-704-3131	新宿サービスセンター 〒160-0001 東京都新宿区片町3-3	03-3357-3611
旭川サービスセンター 〒078-8231 北海道旭川市豊岡一条2-1-16 桜井ビル3F	0166-31-6231	城北サービスセンター 〒175-0092 東京都板橋区赤塚3-18-1-101	03-5997-1221
函館サービスセンター 〒041-0841 北海道函館市日吉町1-19-6	0138-30-6800	三鷹サービスセンター 〒182-0011 東京都調布市深大寺北町7-40-4 ルミエール深大寺1F	0424-29-3071
苫小牧サービスセンター 〒053-0854 北海道苫小牧市啓北町2-11-9	0144-71-4211	北千住サービスセンター 〒120-0036 東京都足立区千住仲町40-12	03-3881-9201
帯広サービスセンター 〒080-0011 北海道帯広市西一条南11-1ケアビル1F	0155-28-6681	錦糸町サービスセンター 〒135-0001 東京都江東区毛利1-21-2 フォディアビル3階	03-5638-7580
釧路サービスセンター 〒085-0821 北海道釧路市鶴ヶ島2-2-10 メディカルモール ショアム2F	0154-43-1191	八王子サービスセンター 〒192-0075 東京都八王子市南新町25 内田ビル1F	042-626-2203
北見サービスセンター 〒090-0817 北海道北見市常盤町3-4-15	0157-69-3881	甲府サービスセンター 〒400-0053 山梨県甲府市大里町2829-4 コーナン第1ハイツ2F	055-241-7750
青森サービスセンター 〒030-0965 青森県青森市松森2-11-15 2F	017-743-3095	横浜サービスセンター 〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町47-4	045-337-2001
八戸サービスセンター 〒031-0812 青森県八戸市大字湊町字錦張32-2	0178-38-5850	横浜港北サービスセンター 〒224-0042 神奈川県横浜市都筑区大熊町883-1	045-945-7113
盛岡サービスセンター 〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-276 盛岡クニツクモビル2号館2F	019-635-9971	横浜港南サービスセンター 〒233-0002 神奈川県横浜市港南区上大岡西1-3-25 第7オーヴァルビル4階	045-337-2001
釜石サービスセンター 〒026-0034 岩手県釜石市中妻町1-18-3 2F	0193-25-2104	座間サービスセンター 〒252-0004 神奈川県座間市東原2-14-3	046-298-5544
一関サービスセンター 〒021-0884 岩手県一関市大手町3-19	0191-21-2675	湘南サービスセンター 〒251-0042 神奈川県藤沢市辻堂新町1-1-15 山上第2ビル5F	0466-33-6171
秋田サービスセンター 〒011-0901 秋田県秋田市寺内イサノ125-1 1階	018-883-1877	三島サービスセンター 〒411-0917 静岡県駿東郡清水町徳倉999-1 1F	055-932-8007
湯沢サービスセンター 〒012-0804 秋田県湯沢市杉沢字森道下89-11	0183-78-0183	下田サービスセンター 〒415-0036 静岡県下田市西本郷2-6-3	0558-23-2138
酒田サービスセンター 〒998-0841 山形県酒田市松原南6-5	0234-24-2961	富士サービスセンター 〒416-0931 静岡県富士市蓼原85-3 ソフィアビル2F	0545-66-3770
山形サービスセンター 〒990-2433 山形県山形市鳥居ケ丘27-2 2F	023-642-8471	静岡サービスセンター 〒422-8021 静岡県静岡市駿河区小鹿2-39-15	054-281-5011
古川サービスセンター 〒989-6117 宮城県大崎市古川旭5-3-3 STビルB棟2F南	0229-23-0611	浜松サービスセンター 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町6-17	053-411-1861
仙台サービスセンター 〒983-0034 宮城県仙台市宮城野区扇町1-1-6	022-236-9345	豊橋サービスセンター 〒441-8013 愛知県豊橋市花田一番町170 和興オフィスビル2F	0532-31-4571
郡山サービスセンター 〒963-8021 福島県郡山市桜木2-2-1 イムールSAKURAGI 2F	024-923-2351	名古屋サービスセンター 〒451-0051 愛知県名古屋市中区則武新町2-20-17 3F	052-582-3201
いわきサービスセンター 〒970-1152 福島県いわき市好間町中好間字御台16 高橋テナントビル2F東号	0246-47-0175	京都サービスセンター 〒604-8852 京都府京都市中京区壬生東大竹町38番地	075-822-4123
東北サービスセンター 〒365-8585 埼玉県鴻巣市天神3-673	048-543-2111	京都南サービスセンター 〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町328番地	075-921-6969
大宮サービスセンター 〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町2-109-3 リラ第5ビル2F	048-662-6116	舞鶴サービスセンター 〒624-0841 京都府舞鶴市引土234番地 坂根ビル2F	0773-76-7466
所沢サービスセンター 〒359-1102 埼玉県所沢市岩間町281-58	04-2923-7272	滋賀サービスセンター 〒520-2144 滋賀県大津市大蓋1-3-13 アメニティー瀬田2F	077-547-3491
小山サービスセンター 〒323-0034 栃木県小山市神鳥谷4-9-49 協和マンション2F	0285-22-8891	奈良サービスセンター 〒634-0008 奈良県橿原市十市町846-2	0744-24-6105
宇都宮サービスセンター 〒320-0851 栃木県宇都宮市鶴岡町1476-1	028-647-1781	大阪サービスセンター 〒561-0807 大阪府豊中市原田中1-2-3	06-4865-3381
前橋サービスセンター 〒371-0013 群馬県前橋市西片貝町4-22-9	027-223-7467	大阪南サービスセンター 〒547-0011 大阪府大阪市平野区長吉出戸8-12-24	06-6790-9770
水戸サービスセンター 〒310-0851 茨城県水戸市千波町455-1 市毛ビル2F	029-241-7123	神戸サービスセンター 〒653-0037 兵庫県神戸市長田区大橋町4-4-17 ヒュースピアビル3F	078-691-7511
土浦サービスセンター 〒300-0832 茨城県土浦市桜ヶ丘町11-3	029-823-8739	姫路サービスセンター 〒672-8048 兵庫県姫路市飾磨区三宅3-27 第二圭秀舎ビル302	079-243-2022
新潟サービスセンター 〒950-0054 新潟県新潟市東区秋葉1-6-31	025-275-0161	西脇サービスセンター 〒677-0052 兵庫県西脇市和田町円遠688-89	0795-22-1984
長岡サービスセンター 〒940-2105 新潟県長岡市緑町1-38-1	0258-27-5633	和田山サービスセンター 〒669-5202 兵庫県朝来市和田山町東谷385	079-672-5331
六日町サービスセンター 〒949-7115 新潟県南魚沼市泉新田199-2	025-775-2108	鳥取サービスセンター 〒680-0062 鳥取県鳥取市吉方町1-120 1F	0857-21-0381
上越サービスセンター 〒942-0004 新潟県上越市西本町3-3-5 土田第二ビル103号室	026-239-7511	徳島サービスセンター 〒770-0855 徳島県徳島市新蔵町1-10 藤井ビル2F	088-655-3801
長野サービスセンター 〒381-0034 長野県長野市高田中村458-15 伊藤ビル2F	026-239-7511	広島サービスセンター 〒730-0805 広島県広島市中区十日市町2-2-34 アーバンライフ高田2F	082-233-9321
松本サービスセンター 〒390-0851 長野県松本市島内3505 インパリアルプラザ松島203	0263-40-7920	山口サービスセンター 〒755-0241 山口県宇部市東岐波1051-1 コーパたまもと101	0836-59-1201
諏訪サービスセンター 〒392-0015 長野県諏訪市中洲中金子3015-1	0266-52-5102	松山サービスセンター 〒791-8016 愛媛県松山市久万ノ台111 忽那ビル2F	089-926-7900
飯田サービスセンター 〒395-0807 長野県飯田市豊切石3990-1	0265-24-9510	北九州サービスセンター 〒800-0228 福岡県北九州市小倉南区長野1-7-3 鶴田建設ビル4F	093-472-3521
富山サービスセンター 〒939-8211 富山県富山市二町4-3-1 2F	076-491-7611	福岡サービスセンター 〒812-0015 福岡県福岡市博多区山王2-14-34	092-452-0851
金沢サービスセンター 〒920-0368 石川県金沢市神野1-40 神野アイビル203	076-269-2525	熊本サービスセンター 〒862-0920 熊本県熊本市東区月出1-4-69	096-386-5351
千葉サービスセンター 〒266-0011 千葉県千葉市緑区鎌取町2813-13	043-263-3311	大分サービスセンター 〒870-0952 大分県大分市下郡北3-12-6 ライフ山ー101	097-554-8272
松戸サービスセンター 〒270-0034 千葉県松戸市新松戸2-8 石井ビル3F	047-374-5770	宮崎サービスセンター 〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納乙137-2 ゆとり94 101	0985-64-3172
世田谷サービスセンター 〒154-0015 東京都世田谷区桜新町2-10-17 日平会館201	03-5451-3831	沖縄サービスセンター 〒901-0241 沖縄県豊見城市豊見城466-3	098-856-6451

2024-2025 総合検査案内

2024 年度版 第 1 刷
第 1 刷の内容は、2024 年 6 月 1 日現在の内容です。

最新情報につきましては、当社、ホームページをご覧ください。
<http://www.hk-ej.co.jp/>

2024-2025 総合検査案内

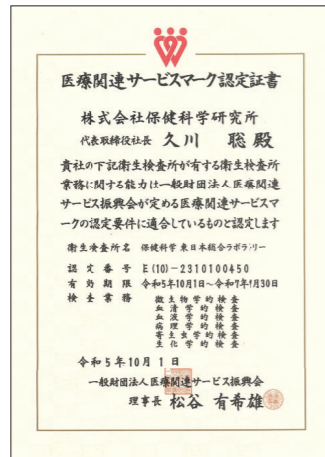
保健科学グループ 保健科学東日本

2024-2025

総合検査案内



認定資格



保健科学グループ個人情報保護方針

〈理念〉

保健科学グループでは、検体検査業を通じて国民の健康の保持増進に寄与することを目的として事業活動を行っております。この検体検査の受託にあたっては、検査結果の高い信頼性と迅速な提供を確保するために、検査を受ける方の個人情報を取得いたしますが、これらの情報は、個人の人格尊重の理念のもと、慎重に取り扱われるべきものと深く認識いたしております。

保健科学グループでは、個人情報における重要性の認識に立ち、その適切な取り扱いを確保するため、以下の個人情報保護方針を制定いたします。

- a) 臨床検査の受託および検査分析のためなど、特定された目的以外での個人情報の取得、利用及び提供は行いません。なお、それを確実にするための措置を講じます。
- b) 個人情報の取扱いに関する法令、国が定める指針、並びに日本衛生検査所協会をはじめとする規範を遵守いたします。
- c) 個人情報の漏えい、紛失または毀損の防止に努め改善・是正を行います。
- d) 個人情報保護に関する苦情及び相談に対応いたします。
- e) 個人情報保護マネジメントシステムの継続的改善を実施いたします。

2007年4月1日 制定
2021年4月1日 最終改訂
保健科学グループ
株式会社保健科学研究所
代表取締役社長 久川 聡

登録衛生検査所一覧

保健科学研究所

衛生検査所名称	業務内容	所在地	連絡先	登録番号	医療関連サービスマーク認定
保健科学 都筑総合ラボラトリー	(清・血・寄・生)	〒240-0025 横浜市都筑区早瀬2-2-1	045-333-1661	神奈川県第 8052 号	
保健科学 総合研究所	(清・血・寄・生)	〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町 106 番地	045-333-1661	神奈川県第 7 号	E(12)-1802140111
保健科学 第 2 ラボラトリー	(微・清)	〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町 56	045-333-1661	神奈川県第 62 号	E(12)-1810140343
保健科学 第 3 ラボラトリー	(微・清・血・病・生)	〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町 2-44-42	045-337-1748	神奈川県第 75 号	
保健科学 北見ラボラトリー	(清・血・生)	〒090-0817 北見市常盤町 3-4-15	0157-69-3881	北海道第 113 号	
保健科学 札幌ラボラトリー	(清・血・生)	〒065-0022 札幌市東区北 22 条東 7-1-25	011-704-3131	札幌医第 4 号	
保健科学 酒田ラボラトリー	(清・血・生)	〒998-0841 酒田市松原南 6 番 5	0234-24-2961	山形県第 2 号	
保健科学 仙台ラボラトリー	(微・清・血・寄・生)	〒983-0034 仙台市宮城野区扇町 1 丁目 1 番 6 号	022-236-9345	宮城県第 26 号	E(12)-1802040046
保健科学 新潟ラボラトリー	(微・清・血・寄・生)	〒950-0054 新潟市東区秋葉 1 丁目 6 番 31 号	025-275-0161	新市衛第 17 号	
保健科学 長岡ラボラトリー	(清・血・生)	〒940-2105 長岡市緑町 1 丁目 38-1	0258-27-5633	新潟県第 73 号	
保健科学 松戸ラボラトリー	(清・血・生)	〒270-0034 松戸市新松戸 2-8 石井ビル 3F	047-374-5770	千葉県第 55 号	
保健科学 東日本総合ラボラトリー	(清・血・生・微・寄・病)	〒365-8585 鴻巣市天神 3-673	048-543-4000	第 86 号	
保健科学 千葉ラボラトリー	(清・血・生)	〒266-0011 千葉市緑区鎌取町 2813-13	043-263-3311	千保第 14 号	
保健科学 栃木ラボラトリー	(清・血・生)	〒320-0851 宇都宮市鶴岡町 1476-1	028-647-1781	宇 7	
保健科学 東京ラボラトリー	(清・血・生)	〒160-0001 新宿区片町 3 番 3 号	03-3357-3611	東京都第 58 号	E(13)-1902130089
保健科学 県央ラボラトリー	(清・血・生)	〒252-0004 座間市東原 2-14-3	046-298-5544	神奈川県第 91 号	
保健科学 三島ラボラトリー	(清・血・生)	〒411-0917 駿東郡清水町徳倉 999-1	055-932-8007	東保登録第 16 号	
保健科学 静岡ラボラトリー	(清・血・病・生)	〒422-8021 静岡市駿河区小鹿 2-39-15	054-281-5011	第 23-2 号	
保健科学 富山ラボラトリー	(清・血・生)	〒939-8211 富山市二口町 4-3-1 日本健康倶楽部北陸支部 1F	076-491-7611	富第 1 号	
保健科学 浜松ラボラトリー	(清分)	〒430-0806 浜松市中区木戸町 6-17-1F	053-411-1861 053-464-3325	浜松市指令健第 4-12 号	
保健科学 名古屋ラボラトリー	(清・血・病・生)	〒451-0051 名古屋市中区則武新町 2-20-17	052-582-3201	愛知県第 87 号	
保健科学 大阪ラボラトリー	(清・血・病・生)	〒561-0807 豊中市原田中 1 丁目 2-3	06-6843-5622	大阪府第 150 号	
保健科学 西日本総合ラボラトリー	(微・清・血・寄・生)	〒612-8486 京都市伏見区羽束師古川町 328 番地	075-933-6060	第 1044 号	E(14)-2110260209
保健科学 京都ラボラトリー	(清・血・生)	〒604-8852 京都府京都市中京区壬生東大竹町 38 番地	075-353-1761	第 1028 号	
保健科学 京都南ラボラトリー	(清・血・生)	〒601-1434 京都市伏見区石田森東町 25-1	075-575-2102	第 1032 号	
保健科学 大阪南ラボラトリー	(清・血・生)	〒541-0011 大阪市平野区長吉出戸 8-12-24	06-6790-9770	第 22 号	
保健科学 神戸ラボラトリー	(清・血・生)	〒650-0022 神戸市中央区元町通り 2 丁目 8-14 オルタンシアビル 5F	078-391-9980	第 4-4 号	
保健科学 和田山ラボラトリー	(清・血・生)	〒669-5202 朝来市和田山町東谷 385	079-672-5331	但馬(朝健)第 1539 号	
保健科学 広島ラボラトリー	(清・血・生)	〒730-0805 広島市中区十日市町 2 丁目 2-34 アーバンライフ高田 2F	082-233-9321	広島県第 30343 号	
保健科学 北九州ラボラトリー	(清分)	〒800-0228 北九州市小倉南区長野 1-7-3 鶴田建設ビル 4F	093-472-3521	北九第 19 号	
保健科学 沖縄ラボラトリー	(清・血・生)	〒901-0241 豊見城市豊見城 466-3	098-856-6451	沖縄県第 34 号	

[注] (微：微生物学的検査 清：血清学的検査 血：血液学的検査 病：病理学的検査 寄：寄生虫学的検査 生：生化学的検査 清分：血清分離)

■ ご利用の手引き … Ⅰ～Ⅹ
 ■ 索引 …… XI～XXII

H
O
K
E
N
K
A
G
A
K
U
G
R
O
U
P

生化学

蛋白質関連検査 ……	1	有機酸 ……	12
糖関連検査/脂質関連検査 ……	3	電解質・金属 ……	13
蛋白・含窒素成分関連検査 ……	6	産薬学関連 ……	17
色素 ……	7	ビタミン関連検査 ……	18
酵素 ……	8	特殊分析検査 ……	19
アミンザイム ……	11	クリアランステスト ……	22

生化学的検査

1
5
24

内分泌学

下垂体関連検査 ……	25	性腺関連検査 ……	33
甲状腺関連検査 ……	27	胎盤機能検査 ……	35
副甲状腺関連検査 ……	27	その他 ……	36
膵・消化管関連検査 ……	28	心臓関連検査 ……	38
副腎髄質関連検査 ……	28		
副腎皮質関連検査 ……	31		

内分泌学的検査

25
5
38

内分泌負荷・糖負荷

内分泌負荷試験 ……	39
糖負荷試験 ……	40

内分泌負荷試験・糖負荷試験

39
5
40

腫瘍マーカー

胎児性蛋白 ……	41
糖鎖抗原 ……	41
腫瘍関連抗原 ……	43

腫瘍マーカー

41
5
48

免疫学

免疫血液学的検査 ……	49	自己抗体検査 ……	63
感染症血清反応 ……	51	肝・肩関連自己抗体検査 ……	67
抗原検査 ……	57	糖尿病関連自己抗体検査 ……	67
尿素呼吸試験 ……	61	免疫グロブリン ……	68
リウマトイド因子・RA 関連検査 ……	62	補体関連物質 ……	68
甲状腺関連自己抗体検査 ……	63	血漿蛋白免疫学的検査 ……	69

免疫学的検査

49
5
72

アレルギー

アレルギー関連検査 ……	73
IgE 特異的アレルゲン (疾患別セット) ……	74
IgE アレルゲン一覧表 ……	75

アレルギー

73
5
76

ウイルス

B 型肝炎ウイルス関連検査 ……	77	ウイルス中和抗体検査 (NT) ……	84
A 型肝炎ウイルス関連検査 ……	78	ウイルス抗体検査 (FA) ……	87
C 型肝炎ウイルス関連検査 ……	79	ウイルス抗体検査 (EIA) ……	87
レトロウイルス検査 ……	80	ウイルス分離・同定 ……	89
ウイルス抗体検査 (CF) ……	82	抗原検査 ……	90
ウイルス抗体検査 (HI) ……	83		

ウイルス

77
5
92

血液学

血液形態・機能検査 ……	93
凝固系一般検査 ……	96
凝固因子関連検査 ……	96
凝固・線溶系検査 ……	98
血小板機能検査 ……	100

血液学的検査

93
5
100

薬物

抗てんかん剤 ……	101	解熱鎮痛剤/消炎剤 ……	105
精神神経用剤 ……	102	抗悪性腫瘍剤 ……	105
抗炎症、リウマチ剤 ……	103	抗生物質 ……	105
強心剤 ……	103	免疫抑制剤 ……	106
不整脈用剤 ……	103	その他 ……	106

薬物検査

101
5
108

一般

尿中一般物質定性・半定量検査 ……	109	精液一般検査 ……	113
尿中特殊物質定性定量検査 ……	109	髄液一般検査 ……	113
尿沈渣顕微鏡検査 ……	111	その他の穿刺液・採取液検査 ……	115
糞便検査 ……	111		

一般検査

109
5
118

染色体・遺伝子/ 細胞性免疫 HLA 検査

先天性疾患 染色体検査 ……	119	HLA・移植関連検査 ……	126
血液疾患 染色体検査 ……	120	細胞機能検査 ……	127
細胞表面マーカー ……	122	癌関連遺伝子検査 ……	128
細胞表面マーカーセット検査 ……	125	薬剤関連遺伝子検査 ……	130

染色体・遺伝子/ 細胞性免疫 HLA 検査

119
5
130

微生物学

塗抹鏡検/培養検査/特殊培養 ……	131	衛生 (保菌検査) ……	137
真菌培養 ……	132	微生物・輸送培地・輸送容器一覧 ……	138
原虫・アメーバ/免疫学的細菌検査 ……	133	保健科学研究所薬剤セット内容 ……	139
薬剤感受性検査 ……	134	感受性薬剤一覧 ……	140
抗酸菌検査 ……	135		
衛生 (検便検査) ……	137		

微生物学的検査

131
5
150

病理学

病理組織顕微鏡検査 ……	151
腫瘍関連免疫組織検査 ……	152
病理組織顕微鏡検査検体提出方法 ……	154
細胞診検査 ……	156
細胞診検査検体提出方法 ……	157

病理学的検査

151
5
158

その他・研究検査

肝炎検診 ……	159
その他特殊検査 ……	160
自己抗体 ……	161
感染症遺伝子検査 ……	163

その他・研究検査

159
5
163

ご利用の手引き

検査の依頼方法

●当社専用の依頼書、検体容器及び検体ラベルをご使用下さい。

総合依頼書A-1の記入例

カルテ No. をご記入下さい。

(必須) 患者氏名をカタカナでご記入下さい。

医師名をカタカナでご記入下さい。

FAX報告の場合はFAXにマークして下さい。

院内セットをご依頼する場合にご利用下さい。ご利用の際は担当営業までご相談下さい。

(必須) 年齢をご記入下さい。

入院・外来のいずれかをマークして下さい。

(必須) 性別をマークして下さい。

採取日時をご記入下さい。

診療科目は、該当するものをマークし、該当しない場合は()内にご記入下さい。

依頼書に記載されていない項目については、必ず項目コードと項目名をセットでご記入下さい。

必要に応じて畜尿量、時間、身長、体重をご記入下さい。

(必須) 依頼項目のマーク欄に でマークして下さい。取消の場合は で抹消して下さい。

生化学	CHE	抗GAD抗体	PTH-Inta	アレルギー	IgM	CMV IgG	NTx (尿)	凝固検査
<input checked="" type="checkbox"/> 総蛋白	<input checked="" type="checkbox"/> CK	<input checked="" type="checkbox"/> 甲状腺	<input checked="" type="checkbox"/> イリスロポエチン	<input checked="" type="checkbox"/> I g E	<input checked="" type="checkbox"/> 血清補体価	<input checked="" type="checkbox"/> TOXO IgG	<input checked="" type="checkbox"/> β2-MG (尿)	<input checked="" type="checkbox"/> フィブリノゲン定量
<input checked="" type="checkbox"/> アルブミン	<input checked="" type="checkbox"/> 血清アミラーゼ	<input checked="" type="checkbox"/> TSH	<input checked="" type="checkbox"/> 腫瘍マーカー	<input checked="" type="checkbox"/> View-39	<input checked="" type="checkbox"/> C3	<input checked="" type="checkbox"/> TOXO IgM	<input checked="" type="checkbox"/> 一般検査	<input checked="" type="checkbox"/> PT
<input checked="" type="checkbox"/> 蛋白分画	<input checked="" type="checkbox"/> リパーゼ	<input checked="" type="checkbox"/> F-T3	<input checked="" type="checkbox"/> AFP	<input checked="" type="checkbox"/> HD1	<input checked="" type="checkbox"/> C4	<input checked="" type="checkbox"/> 風疹IgG (CL)	<input checked="" type="checkbox"/> 尿一般8種	<input checked="" type="checkbox"/> APTT
<input checked="" type="checkbox"/> 尿酸窒素	<input checked="" type="checkbox"/> Na/Cl	<input checked="" type="checkbox"/> F-T4	<input checked="" type="checkbox"/> CEA	<input checked="" type="checkbox"/> ヒノキ	<input checked="" type="checkbox"/> KL-6	<input checked="" type="checkbox"/> 麻疹IgG	<input checked="" type="checkbox"/> 尿沈査	<input checked="" type="checkbox"/> アミノ酸
<input checked="" type="checkbox"/> クレアチニン	<input checked="" type="checkbox"/> カリウム	<input checked="" type="checkbox"/> サイログロブリン	<input checked="" type="checkbox"/> CA19-9	<input checked="" type="checkbox"/> スギ	<input checked="" type="checkbox"/> RF 定量	<input checked="" type="checkbox"/> ムンプス IgG	<input checked="" type="checkbox"/> 糖定量 (尿)	<input checked="" type="checkbox"/> TAT
<input checked="" type="checkbox"/> e-GFR	<input checked="" type="checkbox"/> カルシウム	<input checked="" type="checkbox"/> TRAb (3rd)	<input checked="" type="checkbox"/> CA125	<input checked="" type="checkbox"/> ブタクサ	<input checked="" type="checkbox"/> ANA 半定量	<input checked="" type="checkbox"/> β-Dグルカン	<input checked="" type="checkbox"/> 蛋白定量 (尿)	<input checked="" type="checkbox"/> Dダイマー
<input checked="" type="checkbox"/> スタチンC	<input checked="" type="checkbox"/> マグネシウム	<input checked="" type="checkbox"/> 抗Tg抗体	<input checked="" type="checkbox"/> HE4	<input checked="" type="checkbox"/> 卵白	<input checked="" type="checkbox"/> 抗CCP抗体	<input checked="" type="checkbox"/> ABO血液型	<input checked="" type="checkbox"/> 尿中アルブミン	<input checked="" type="checkbox"/> 血漿 FDP
<input checked="" type="checkbox"/> 尿酸	<input checked="" type="checkbox"/> 無機リン	<input checked="" type="checkbox"/> 抗TPO抗体	<input checked="" type="checkbox"/> CA15-3	<input checked="" type="checkbox"/> 鼻炎13セット	<input checked="" type="checkbox"/> MMP-3	<input checked="" type="checkbox"/> Rh (D) 血液型	<input checked="" type="checkbox"/> 尿中モクローリン	<input checked="" type="checkbox"/> SFMC
<input checked="" type="checkbox"/> アンモニア	<input checked="" type="checkbox"/> 亜鉛	<input checked="" type="checkbox"/> 内分泌	<input checked="" type="checkbox"/> DUPAN-2	<input checked="" type="checkbox"/> 小児13セット	<input checked="" type="checkbox"/> 抗DNA抗体	<input checked="" type="checkbox"/> 血中薬物	<input checked="" type="checkbox"/> 尿中モクローリン	<input checked="" type="checkbox"/> プロテインC
<input checked="" type="checkbox"/> T-Chol	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄	<input checked="" type="checkbox"/> LH	<input checked="" type="checkbox"/> SLX	<input checked="" type="checkbox"/> アトピー13セット	<input checked="" type="checkbox"/> AMA (FA)	<input checked="" type="checkbox"/> 糖化ヘモグロビン	<input checked="" type="checkbox"/> 尿中モクローリン	<input checked="" type="checkbox"/> プロテインS
<input checked="" type="checkbox"/> HDL-C	<input checked="" type="checkbox"/> UIBC	<input checked="" type="checkbox"/> FSH	<input checked="" type="checkbox"/> SCC抗原	<input checked="" type="checkbox"/> 食物13セット	<input checked="" type="checkbox"/> HBs抗原	<input checked="" type="checkbox"/> カルバマゼピン	<input checked="" type="checkbox"/> 尿中モクローリン	<input checked="" type="checkbox"/> ADAMTS16遺伝子
<input checked="" type="checkbox"/> LDL-C	<input checked="" type="checkbox"/> TIBC	<input checked="" type="checkbox"/> プロラクチン	<input checked="" type="checkbox"/> シフラ	<input checked="" type="checkbox"/> 花粉症13セット	<input checked="" type="checkbox"/> HBs抗体	<input checked="" type="checkbox"/> クロナゼパム	<input checked="" type="checkbox"/> 尿中モクローリン	<input checked="" type="checkbox"/> PAI-1
<input checked="" type="checkbox"/> Cho-分画	<input checked="" type="checkbox"/> フェリチン定量	<input checked="" type="checkbox"/> E2 (血清)	<input checked="" type="checkbox"/> PSA	<input checked="" type="checkbox"/> 骨代謝マーカー	<input checked="" type="checkbox"/> HBe抗原	<input checked="" type="checkbox"/> ジゴキシシン	<input checked="" type="checkbox"/> ヒロリ菌	<input checked="" type="checkbox"/> PCR検査
<input checked="" type="checkbox"/> 中性脂肪	<input checked="" type="checkbox"/> 葉酸	<input checked="" type="checkbox"/> プロゲステロン	<input checked="" type="checkbox"/> PSA F/T比	<input checked="" type="checkbox"/> BAP	<input checked="" type="checkbox"/> HBe抗体	<input checked="" type="checkbox"/> ゾニサミド	<input checked="" type="checkbox"/> PGI-Iセット	<input checked="" type="checkbox"/> HBV DNA定量
<input checked="" type="checkbox"/> 遊離脂肪酸	<input checked="" type="checkbox"/> ビタミンB12	<input checked="" type="checkbox"/> テストステロン	<input checked="" type="checkbox"/> Pro GRP	<input checked="" type="checkbox"/> total PINP	<input checked="" type="checkbox"/> HBe抗体	<input checked="" type="checkbox"/> 炭酸リチウム	<input checked="" type="checkbox"/> H-p IgG抗体	<input checked="" type="checkbox"/> HCV-RNA定量

【依頼書記入に関する注意事項】

※複写となっておりますので、下敷きを敷いて、ボールペンで強くお書き下さい。

※カナ氏名欄は誤読しやすい文字がありますので、明確に分かる様にご記入下さい。

『ア、マ、ヤ、セ』、『カ、サ』、『ク、ワ』、『コ、コ』、『シ、ツ、フ』、『シ、ミ』、『ス、ヌ』、『チ、テ』

※依頼時の注意点につきましては、各検査項目該当ページの備考欄に赤色の文字で記していますのでご確認ください。

例) eGFR creat (項目コード: 7887) についての特記事項

血清クレアチニン (項目コード: 1041) との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。

なお、年齢が18才未満の場合、クレアチニンの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。

※依頼書1枚目をご依頼元控えとし、検体受領書とさせていただきます。

※当社では「遺伝学的検査受託に関する倫理指針 (一般社団法人日本衛生検査所協会)」その他関連する倫理指針に基づき、受託を行っております。倫理指針対象の遺伝学的検査をご依頼の際には「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。

一般細菌・抗酸菌検査依頼票の記入例

カルテ No. をご記入下さい。

医師名をカタカナでご記入下さい。

(必須) 患者氏名をカタカナでご記入下さい。

生年月日 (西暦または和暦) をご記入下さい。

使用薬剤名をご記入下さい。
※使用薬剤を検査する場合は追加項目・コメント欄にご記入下さい。

(必須) 提出形態を○印で囲んで下さい。複数本提出される場合は「本数」に合計本数を記入して下さい。

臨床情報がある場合は、該当する項目を○印で囲んで下さい。

(必須) 検査材料は該当する検査材料の○印部分をつだけ○印で囲んで下さい。
※一つの検査材料につき依頼票が1枚必要です。

採取部位をご記入して下さい。

血液と便の場合は実施しておりません。

2-1. 一般細菌培養同定検査の依頼が必須です。

院内セットをご依頼する場合にご利用下さい。登録に関しては、担当営業までご相談下さい。

集菌塗抹法または直接塗抹法のどちらか一方のみを依頼して下さい。同時依頼は出来ません。

至急報告の場合は「至急」と、報告方法 (TEL・FAX) を○で囲んで下さい。

(必須) 性別を○印で囲んで下さい。

入院・外来のいずれかを○印で囲んで下さい。

(必須) 採取日時をご記入下さい。

(必須) 病院コードをご記入下さい。

動物検体の場合は○印で囲んで下さい。

科名は、該当するものを○印で囲んで下さい。

依頼票に掲載されていない項目や追加薬剤は、コメント欄にご記入下さい。

患者情報がある場合は、該当する項目を○印で囲んで下さい。

対象となる検査材料は髄液のみです。

対象となる検査材料は皮膚・爪・毛などの固形物のみです。

培養同定と大腸菌血清型別の同時依頼が必要です。

ヘリコバクター・ピロリ検査は他の項目と同時依頼は出来ません。

単独での依頼も可能です。

培養同定の同時依頼は不要です。その他の原虫検査は「コメント」欄にご記入下さい。

左記、「2. 分離培養検査」が必須です。

小川培地または液体培地のどちらか一方のみを依頼して下さい。同時依頼は出来ません。

614 一般細菌・抗酸菌検査依頼票 (確認書)

病院名 保健科学東日本病院

カルテNo. 0123456789

患者氏名 ケンコウ ヨシオ

生年月日 西暦 1970年 4月 1日 年齢 48才

性別 男 入院/外来 入院

採取日時 5月 1日 10時 00分

報告方法 TEL FAX

動物検体

病院コード 1000000

検査のご依頼は○に沿って○印をつけて下さい。複写式ですのでボールペンで強くご記入下さい。

科名: 内科, 消化, 循環, 小児, 精神, 神経, 産科, 婦人, 耳鼻, 外科, 整形外科, 眼科, 泌尿, 透析, 皮膚, 眼科, 放射線, 健診, ドック, 歯科, リハ, 保険, 社保, 社保, 国民, 国保, 区分, 生保, 老人, その他

追加項目: 咳痰用容器, 痰用スリット, シードスワブ1号, その他スワブ, FAボトル(複数), 一般細菌用培地, その他, 本数

提出形態: 咳痰用容器, 痰用スリット, シードスワブ1号, その他スワブ, FAボトル(複数), 一般細菌用培地, その他, 本数

臨床情報: 発熱, 下痢症, 尿道炎, 髄膜炎, 敗血症, 海外帰国, 結核既往あり, Compromised host, 気管支炎, 食中毒, STD, 腹膜炎, 中耳炎, 動物情報, 結核既往あり

検査材料: 咳痰, 気管内探痰, 気管支洗浄液, 咽頭粘液, 鼻咽, 鼻腔, 胃液, 肝臓, 胃粘膜, 肺液, その他

微生物検査: 1. 顕微鏡検査 (320 グラム染色 61点, 321 培養同定, 3270 嫌気培養), 2. 菌種同定 (220点), 3. 菌種同定 (280点), 4. 薬剤感受性検査 (380点)

薬剤感受性検査: 1. 顕微鏡検査 (320 蛍光染色(集菌塗抹法) 50点, 320 蛍光染色(直接塗抹法) 50点, 3300 テールネルゼン染色 61点), 2. 分離培養検査 (530 抗酸菌分離培養1(液体培地) 280点, 530 抗酸菌分離培養2(小川培地) 204点), 3. 同定 (5330 抗酸菌同定(質量分析法) 361点, 5330 結核菌群抗原定性(乾乾ロマトグラフィ) 291点), 4. 薬剤感受性検査 (5821 SM, 5823 INH, 5825 TH, 5827 EVM, 5829 EB, 5822 PAS, 5824 RFP, 5826 KM, 5831 LVFX, 5830 CS)

株式会社 保健科学東日本

2019.04

受領日時 月 日 時 分

受領者名

ご利用の手引き

取引の申込方法

- 最寄りの営業所、又は本社営業部へご連絡下さい。
 - 担当がお伺いし、ご依頼の詳細についてご説明、ご相談申し上げます。
- (裏表紙の営業所一覧をご参照下さい)

お問い合わせ

検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘等につきましては最寄りの営業所又はラボへお問い合わせ下さい。

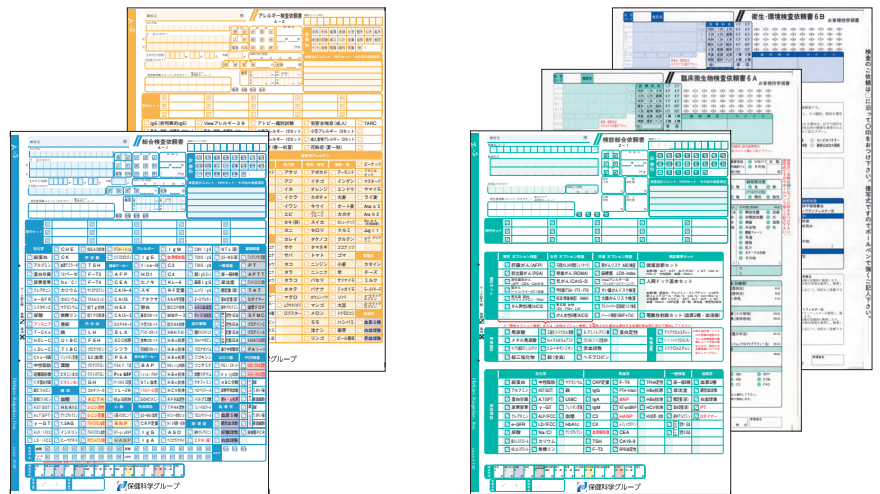
料金請求とお支払い方法

- 原則として検査料金はヶ月分をまとめてご請求申し上げます。
- 請求書の検査項目名は当社請求略号によって記載されますのでご了承下さい。
- お支払いの方法は契約にしたがってお支払いいただきます。
- 銀行振込の場合は振込金受取書をもちまして領収書に代えさせていただきますのでご了承下さい。

依頼書

依頼書種類

1. 臨床検査総合依頼書 A-1
2. アレルギー関連検査依頼書 A-2
3. 感染症・ウイルス検査依頼書
4. 検診総合依頼書 Z-1
5. 臨床微生物検査依頼書 6A
6. 衛生・環境検査依頼書 6B



検体ラベル

- 検体貼付ラベルには患者名、性別、年齢、採取日時、材料、依頼項目、依頼施設名、透析前・後、保存方法等をご記入下さい。
- 特に同一患者で複数材料の場合や、時系列検査の場合は必ず明確にご記入下さい。



容器

- ご依頼項目によって所定の容器をご使用下さい。
- 本文各項目欄・ページ下説明欄及び巻末の容器一覧をご参照下さい。

採取・保存方法

- 保存方法により測定値が変動する項目がありますので本文各項目欄、ページ下説明欄をご参照下さい。
- 原則として24時間以内の保存方法を記入してありますので、採取当日にご提出下さいようお願い致します。なお、長期間保存される場合の保存方法につきましては営業担当にお問い合わせ下さい。

検査項目名称

- 既に日本語化しているドイツ語はそのままとし、それ以外のはアメリカ英語読みに従いました。ただし、CA19-9等略号が通称化しているものは、略号をもって検査項目名称といたしました。
- 検査依頼票及び検査報告書においての検査項目名称は文字スペースに限りがある関係で略語等を使用させていただく場合がありますので、ご了承下さい。

検査方法・参考文献

- 検査方法につきましては本文各項目欄及び巻末の検査方法概略を、参考文献につきましては巻末の測定法参考文献一覧をご参照下さい。

検体必要量

- 検体必要量は、原則として再検査に应付できるように設定してあります。検体量不足にならないようご注意ください。
- 血清又は血漿を検査材料とする項目の単独での依頼では、基礎必要量として本文各項目欄記載量に0.2mL程度を加算して下さい。

所要日数

- 原則的には検体をお預かりした翌日を起算日とし、報告書をお手元にお届けするまでの日数です（日曜・祭日は含まず）。
- 依頼項目の組み合わせにより、所要日数の長い項目に準ずることがありますのでご了承下さい。
- 再検査の場合、及び一部地域では、更に若干の日数を要することがありますのでご了承下さい。

平均搬送時間

貴院から _____ までの平均搬送時間は約 _____ 時間です。
 貴院から当社総合ラボラトリーまでの平均搬送時間は約 _____ 時間です。
 当社総合ラボラトリーから最終委託先までの平均搬送時間は次の通りです。

*E：1時間	*5、6、7、B、C、D、	：1日以内
*4：1時間30分	I、K、L、M、T	
*G：3時間以内	*Q	：2日以内
*I：6時間以内	*8、9、O、R、S、U、	：3～4日以内
	V、W、X、Y	

結果のご報告

原則として当社集配員が報告書を直接お届けいたします。
 至急のご指示のある場合は検査終了しだい電話又はファクシミリでご報告いたします。
 コンピューター端末へのオンライン送信をご要望の場合は当社営業担当にご相談下さい。

検体受領方法

貴院への集配は、 _____ 曜日、 _____ 時頃に
 _____ へお伺いします。

検査実施施設及び最終委託先

検査実施施設及び最終委託先につきましては本文各項目備考欄及び報告書に下記の記号で表示してあります。

無印 当社総合ラボラトリー

記号	委託先名称	住 所
*G	保健科学都筑総合ラボラトリー	神奈川県横浜市都筑区早渕2丁目2-1
*K	保健科学西日本総合ラボラトリー	京都府京都市伏見区羽束師古川町328
*I	株式会社LSIメディアンス中央総合ラボラトリー	東京都板橋区志村3-30-1
*4	株式会社エスアールエル八王子・MUQS・セントラルラボラトリー	東京都八王子市小宮町51
*5	北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所	神奈川県相模原市南区北里1-15-1
*6	組織科学研究所	横浜市保土ヶ谷区西久保町18-4
*7	常盤特殊分析センター	東京都豊島区上池袋4-16-22
*8	Quest Diagnostics Clinical Laboratories, Inc	7600 Tyrone Avenue Van Nuys, California 91405, U.S.A
*9	Mayo Medical Laboratories	Mayo Medical Laboratories 3050 Superior Drive NW Rochester, MN 55901
*C	カイン株式会社	神奈川県横浜市泉区岡津町1469-1
*E	株式会社ビー・エム・エルBML総合研究所	埼玉県川越市の場1361-1
*F	積水メディカル SMCL 阿見ラボラトリー	茨城県稲敷郡阿見町吉原3262-12
*I	ケーアイエー細胞病理研究所	神奈川県横浜市都筑区仲町台1丁目2-28-401

報告書

報告書は検査の種類により当社指定の報告書にてご報告いたします。

再検査

当社再検査基準に基づき再検査をいたします。
 検体量が必要量に満たずに再検査ができない場合はその旨ご報告いたします。

検体の保管

- お預かりいたしました検体の保管期間は、血清検体につきましては、原則5日間とし、再検査や追加検査のご要望にお応えします。保管期間の終了後は、当社にて適正に廃棄いたします。
 なお、腐敗・変性の著しい材料につきましては、検査実施後すみやかに処分させていただきますので、予めご了承下さい。
- 検査済み検体の返却を希望される場合は、すみやかに返却いたします。又、医療機関以外又は医師個人から学術研究等の目的で検査済み検体の提供を求められたとしても、第三者への提供は行いません。
- プール化及び匿名化が可能なものについては、個人情報保護法その他関係法規及びガイドラインに従い検査精度維持、向上等のために使用することがあります。

各項目備考欄に略号を表示していない項目を中心として、一部は当社グループラボにて検査を実施させていただきます。なお、その場合は報告書上に実施ラボ名を表記いたします。

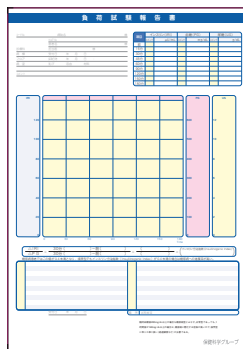
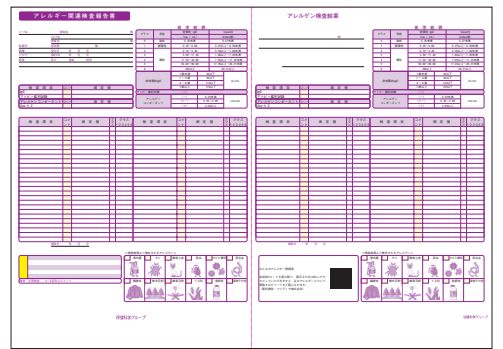
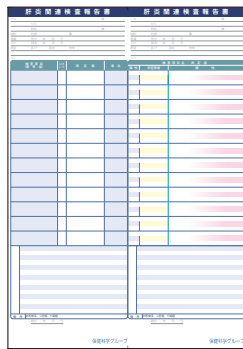
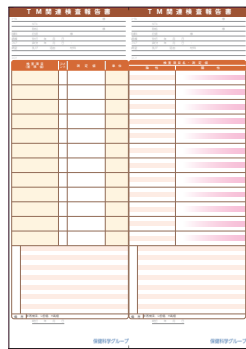
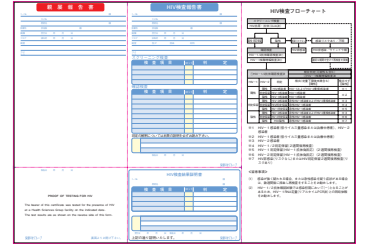
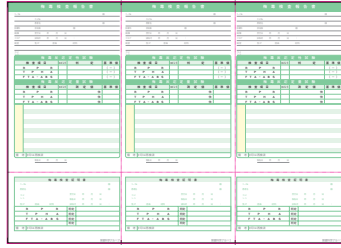
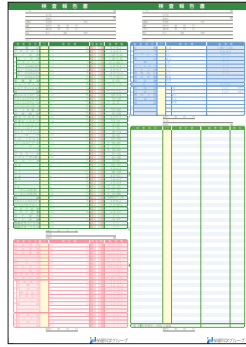
記号	委託先名称	住 所
*L	遠州予防医学研究所	浜松市中区中島4-16-10
*M	日本微生物研究所	宮城県仙台市宮城野区扇町2-3-36
*O	ラボコープ・ジャパン株式会社	東京都中央区築地2-11-9 築地MTビル2階
*Q	ファルコバイオシステムズ	京都市中京区河原町通二条上る清水346
*R	日立化成	茨城県日立市東町4-13-1
*S	シノテスト サイエンス ラボ	神奈川県相模原市南区大野台2-29-14
*T	アミンファーマ研究所	千葉県千葉市中央区玄鼻1-8-15 千葉大玄鼻イノベーションプラザ402
*U	Oncomics	名古屋市中区千種2-22-8 名古屋医工連携インキュベータ413号室
*V	京都工場保健会	京都市中京区西ノ京北壺井町67番地
*W	Athena Diagnostics	Four Biotech Park, 377 Plantation Street Worcester, MA 01605, U.S.A
*X	伏見製薬所検査センター	香川県丸亀市中津町1676
*Y	第一岸本臨床検査センター	札幌市東区伏古七条3-5-10

ご利用の手引き

検査報告書

報告書種類

1. 総合報告書
2. 梅毒報告書
3. HIV検査報告書
4. TM関連検査報告書
5. 肝炎関連検査報告書
6. アレルギー関連検査報告書
7. 甲状腺機能検査報告書
8. 負荷試験検査報告書
9. 特殊健康診断検査報告書
10. 血液型検査報告書



保険点数について

[検体検査料]

- 検体検査料は「検体検査判断料」と「検体検査実施料」に分かれています。実施料につきましては、各項目欄をご参照下さい。
- 包括算定の検査につきましては実施料を青色で表示しました。判断料につきましては、各項目欄に略号で表示いたしました（下表参照）。又、特定薬剤治療管理料は※印で表示いたしました。本文107ページをご参照下さい。

検体検査判断料		
尿・便	尿・糞便等検査判断料	34点
遺伝子	遺伝子関連・染色体検査判断料	100点
血液	血液学的検査判断料	125点
生化Ⅰ	生化学的検査(Ⅰ)判断料	144点
生化Ⅱ	生化学的検査(Ⅱ)判断料	144点
免疫	免疫学的検査判断料	144点
微生物	微生物学的検査判断料	150点

病理診断・判断料		
病理	組織診断料	450点
	細胞診断料	200点
	病理判断料	150点

(注意事項)

- 注1. 検体検査判断料は該当する検体検査の種類、回数に係らず各々月1回に限り算定できるものとする。
- 注2. 上記1.の規定に係らず、尿中一般物質定性半定量検査の所定点数を算定した場合にあっては、当該検査については、尿・糞便等検査判断料は算定しない。

負荷試験等

負荷試験等の点数につきましては本文 22 ページ及び 39・40 ページをご参照下さい。
 なお負荷試験等の点数は「検体検査料」ではございませんので、判断料の別途算定はできません。

輸血に関する検査

輸血に関する検査につきましては本文 49 ページをご参照下さい。なお輸血に関する検査の点数は「検体検査料」ではございませんので、判断料の別途算定はできません。

■生化学的検査 I (血液化学検査)

<ul style="list-style-type: none"> ●総ビリルビン、直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン、総蛋白、アルブミン、尿素窒素、クレアチニン、尿酸、アルカリホスファターゼ(ALP)、コリンエステラーゼ (ChE)、γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γ-GT)、中性脂肪、ナトリウム及びクロール、カリウム、カルシウム、マグネシウム、クレアチン、グルコース、乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)、アミラーゼ、ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)、クレアチンキナーゼ(CK)、アルドラーゼ、遊離コレステロール、鉄(Fe)、血中ケトン体・糖・クロール検査(試験紙法・アンブル法・固定化酵素電極によるもの)、不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)、総鉄結合能(TIBC)(比色法) ●リン脂質 ●HDL-コレステロール、無機リン及びリン酸、総コレステロール、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)、アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT) ●LDL-コレステロール、蛋白分画 ●銅(Cu) ●リパーゼ ●イオン化カルシウム ●マンガン(Mn)

項目数	実施料
5項目以上 7項目以下	93
8項目又は 9項目	99
10項目以上	103

■内分泌学的検査

<ul style="list-style-type: none"> ●成長ホルモン(GH)、卵胞刺激ホルモン(FSH)、C-ペプチド(CPR)、黄体形成ホルモン(LH) ●アルドステロン、テストステロン ●遊離サイロキシシン(FT₄)、遊離トリヨードサイロニン(FT₃)、コルチゾール、サイロキシシン結合グロブリン(TBG) ●抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗 GAD 抗体) ●脳性ナリ尿ペプチド(BNP) ●サイログロブリン ●サイロキシシン結合能(TBC)、脳性ナリ尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP) ●カルシトニン ●ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量 ●グルカゴン ●プロゲステロン ●I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド(NTx)、酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b) ●骨型アルカリホスファターゼ(BAP) ●低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC) ●オステオカルシン(OC) ●遊離テストステロン ●インタクト I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P I NP) ●I型コラーゲン架橋C-テロペプチド - β 異性体(β-CTX)(尿) ●セクレチン、低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量、I型コラーゲン架橋C-テロペプチド - β 異性体(β-CTX)、I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P I NP) ●サイクリック AMP(cAMP)、副甲状腺ホルモン(PTH)、カテコールアミン分画 ●デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S) ●エストロゲン半定量、エストロゲン定量、副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP) ●エストラジオール(E₂) ●デオキシピリジノリン(DPD)(尿) ●副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP) ●副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)、カテコールアミン ●エリスロポエチン ●17-ケトステロイド分画(17-KS分画)、抗 I A-2抗体、プレグナンジオール ●メタネフリン ●ソマトメジシンC ●心房性ナリ尿ペプチド(ANP)、メタネフリン・ノルメタネフリン分画 ●利尿ホルモン(ADH) ●プレグナントリオール ●ノルメタネフリン ●インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)

項目数	実施料
3項目以上 5項目以下	410
6項目又は 7項目	623
8項目以上	900

■腫瘍マーカー

<ul style="list-style-type: none"> ●癌胎児性抗原(CEA) ●α-フェトプロテイン(AFP)、扁平上皮癌関連抗原(SCC 抗原) ●DUPAN-2、NCC-ST-439、CA15-3 ●エラスターゼ I ●前立腺特異抗原(PSA)、CA19-9 ●PIVKA-II 半定量、PIVKA-II 定量 ●CA72-4、SPan-1、シアリルTn抗原(STN)、神経特異エノラーゼ(NSE) ●CA125 ●塩基性フェトプロテイン(BFP)、CA50 ●シアリル Le^x-i 抗原(SLX) ●遊離型PSA比(PSA F/T比) ●サイトケラチン 8・18(尿) ●抗p53抗体 ●BCA225 ●サイトケラチン 19フラグメント(シフラ) ●シアリルLe^x抗原(CSLEX) ●I型コラーゲン-C-テロペプチド(I CTP) ●ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP) ●CA54/61、癌関連ガラクトース転移酵素(GAT) ●CA602、α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%) ●γ-セミノプロテイン(γ-Sm) ●癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)、癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液) ●HER2蛋白 ●可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)

項目数	実施料
2項目	230
3項目	290
4項目以上	385

■肝炎ウイルス関連検査

<ul style="list-style-type: none"> ●HBs抗原、HBs抗体 ●HBe抗原、HBe抗体 ●HCV抗体定性・定量、HCVコア蛋白 ●HBC抗体半定量・定量 ●HCVコア抗体 ●HA-IgM 抗体、HA 抗体、HBC-IgM 抗体 ●HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性、HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量 ●HE-IgA抗体定性 ●HCV血清群別判定 ●HBVコア関連抗原(HBcrAg) ●デルタ肝炎ウイルス抗体 ●HCV特異抗体価、HBVジェノタイプ判定

項目数	実施料
3項目	290
4項目	360
5項目以上	425

ご利用の手引き

■自己抗体検査

<ul style="list-style-type: none"> ●抗サイログロブリン抗体、抗 RNP 抗体定性、抗 RNP 抗体半定量、抗 RNP 抗体定量、抗Jo-1抗体定性、抗Jo-1抗体半定量、抗Jo-1抗体定量 ●抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 ●抗Sm抗体定性、抗Sm抗体半定量、抗Sm抗体定量 ●抗SS-B/La抗体定性、抗SS-B/La抗体半定量、抗SS-B/La抗体定量、C1q結合免疫複合体 ●抗Scl-70抗体定性、抗Scl-70抗体半定量、抗Scl-70抗体定量 ●抗SS-A/Ro抗体定性、抗SS-A/Ro抗体半定量、抗SS-A/Ro抗体定量 ●抗RNAポリメラーゼIII抗体 ●抗ARS抗体 ●抗MDA5抗体、抗TIF1-γ抗体、抗Mi-2抗体
--

項目数	実施料
2項目	320
3項目以上	490

■出血・凝固検査

<ul style="list-style-type: none"> ●Dダイマー定性 ●プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)、Dダイマー半定量 ●von Willebrand因子(VWF)活性 ●Dダイマー ●α₂-マクログロブリン ●PIVKA-II ●凝固因子インヒビター ●von Willebrand 因子(VWF)抗原 ●プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC)、プロテインS抗原 ●プロテインS活性 ●β-トロンボグロブリン(β-TG) ●血小板第4因子(PF4) ●トロンピン・アンチトロンピン複合体(TAT) ●プロトロンビンフラグメント F1+2 ●トロンボモジュリン ●凝固因子(第II因子、第V因子、第VII因子、第VIII因子、第IX因子、第X因子、第XI因子、第XII因子、第XIII因子) ●フィブリンモノマー複合体 ●プロテインC抗原 ●tPA・PAI-1複合体 ●プロテインC活性
--

項目数	実施料
3項目又は4項目	530
5項目以上	722

緊急異常値報告対象項目と基準について

下記の検査項目につきましては当社緊急異常値報告基準に基づき、測定後ファクシミリにてご報告いたします。

対象項目	基準	対象項目	基準
生化学的検査		微生物学的検査	
ナトリウム(血清)	110 以下、170 以上 (mEq/L)	塗抹鏡検、培養、免疫学的検査	・血液・髄液・穿刺液など無菌的部位由来の検体からの菌検出時
カリウム(血清) *1 *4 *5	2.5 以下、7.0 以上 (mEq/L)		・1~3類感染症原因菌及び、感染対策として重要且つ緊急性が高い菌種などの検出時
カルシウム(血清) *2	6.0 以下、13.0 以上 (mg/dL)	抗酸菌検査	抗酸菌塗抹鏡検及び、抗酸菌分離培養で陽性結核菌群同定時
クレアチニン(血清) *2	8.00 以上 (mg/dL)	結核菌DNA [PCR] (TB-PCR)	(+)
浸透圧(血清)	255 以下、330 以上 (mOsm/kgH ₂ O)	薬物検査	
尿素窒素(血清) *2	80 以上 (mg/dL)	フェノバルビタール	60 以上 (μg/mL)
AST *5	500 以上 (U/L)	フェニトイン	30 以上 (μg/mL)
ALT *5	500 以上 (U/L)	カルバマゼピン	15 以上 (μg/mL)
LD/IFCC *5	1000 以上 (U/L)	プリミドン	15 以上 (μg/mL)
アミラーゼ(血清)	500 以上 (U/L)	バルプロ酸	150 以上 (μg/mL)
血糖(グルコース)	50 以下、500 以上 (mg/dL)	エトスクシミド	120 以上 (μg/mL)
アンモニア	320 以上 (μg/dL)	炭酸リチウム	2.00 以上 (mEq/L)
一般		サリチル酸	300 以上 (μg/mL)
糖定性(尿) *3	(4+)	ジゴキシン	2.5 以上 (ng/mL)
ケトン体定性(尿) *3	(3+)	プロカインアミド	16 以上 (μg/mL)
血液学		リドカイン	6.0 以上 (μg/mL)
白血球数	1,500 以下、20,000 以上 (/μL)	メトトレキサート	1.0 以上 (μmol/L)
赤血球数	200以下、600 以上 (×10 ⁴ /μL)	バンコマイシン	60.0 以上 (μg/mL)
ヘモグロビン(血色素量)	5.0 以下、20.0 以上 (g/dL)	テイコブラニン	60 以上 (μg/mL)
血小板数	3.0以下、100.0 以上 (×10 ⁴ /μL)	テオフィリン	25 以上 (μg/mL)
白血球像	Blastoid cell(+)	*1 血清で提出の検体に限る	
PT	INR	*2 透析検体は除外	
	活性	*3 新生児のみ	
	時間	*4 透析前検体の高値は除外	
APTT	60.0 以上 (秒)	*5 溶血検体の高値は除外	
フィブリノゲン定量	100 以下 (mg/dL)		
血漿FDP	60.0 以上 (μg/mL)		
Dダイマー	40.0 以上 (μg/mL)		
免疫血液学的検査			
直接クームス試験 *3	(+)		

検査方法の略号

BCP改良法	ブロムクレゾールパープル改良法 Bromcresol Purple	LA法	ラテックス凝集比濁法 Latex Agglutination Immunoassay
BLEIA法	生物化学発光免疫測定法 Bioluminescent Enzyme Immunoassay	LC-MS/MS法	液体クロマトグラフィータンデム質量分析法 Liquid Chromatography - Tandem Mass Spectrometry
CF法	補体結合反応 Complement Fixation Test	LIA法	ラインプロット法 Line Immunoassay
CLEIA法	化学発光酵素免疫測定法 Chemiluminescent Enzyme Immunoassay	LPIA法	ラテックス近赤外免疫比濁法 Latex Photometric Immunoassay
CLIA法	化学発光免疫測定法 Chemiluminescent Immunoassay	MO法	二重免疫拡散法 Micro Ouchterlony
ECLIA法	電気化学発光免疫測定法 Electro Chemi Luminescence Immunoassay	NT法	中和反応 Neutralization Test
EIA法	酵素免疫測定法 Enzyme Immunoassay	PA法	粒子凝集法 Particle Agglutination Test
ELISPOT法	Enzyme - Linked ImmunoSpot	※PCR法	ポリメラーゼ連鎖反応 Polymerase Chain Reaction
EMIT法	多元酵素免疫測定法 Enzyme Multiplied Immunoassay Technique	PHA法	受身赤血球凝集反応 Passive Hemagglutination Test
FA法	蛍光抗体法 Fluorescent Antibody Method	RIA法	放射免疫測定法 Radioimmunoassay
FEIA法	蛍光酵素免疫測定法 Fluorescence Enzymes Immunoassay	RPLA法	逆受身ラテックス凝集反応法 Reversed Passive Latex Agglutination Test
FISH法	蛍光 insitu ハイブリダイゼーション法 Fluorescent In Situ Hybridization	RT-PCR法	逆転写ポリメラーゼ連鎖反応 Reverse Transcription Polymerase Chain Reaction
FPIA法	蛍光偏光免疫測定法 Fluorescence Polarization Immunoassay	SDA法	Strand Displacement Amplification
GC法	ガスクロマトグラフィー法 Gas Chromatography	TIA法	免疫比濁法 Turbidimetric Immunoassay
GC/MS法	ガスクロマト質量分析法 Gas Chromatography / Mass Spectrometer	UV法	紫外吸光光度分析法 Ultraviolet Absorption Spectrophotometry
HA法	赤血球凝集反応 Hemagglutination Test	WB法	ウエスタンブロット法 Western Blot Method
HEIA法	ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ Homogeneous Enzyme Immunoassay	比濁法	Turbidimetry
HI法	赤血球凝集抑制反応 Hemagglutination Inhibition Test	比濁法：ネフェロメトリー法	Nephelometry
HPLC法	高速液体クロマトグラフィー法 High Performance Liquid Chromatography	フローサイトメトリー法	Flow Cytometry
イオン電極法	Ion Electrode Method	ラテックス凝集免疫比濁法	Latex Agglutination Turbidimetric Immunoassay
免疫クロマトグラフィー法	Immuno chromatography	リアルタイムPCR法	Real Time Polymerase Chain Reaction
金コロイド法	Gold Colloid Method	蛍光光度法	Fluorometry
酵素法	Enzymatic Method	原子吸光法	Atomic Absorption Method
電気泳動法	Electrophoresis	MALDI-TOF-MS	マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析法 Matrix-Assisted Laser Desorption / Ionization Time-of-Flight Mass Spectrometry
ハイブリッドキャプチャー法	Hybrid Capture Method	IFE法	免疫固定法 Immunofixation Electrophoresis
比色法	Colorimetry	MBP-QP法	Mutation-Biased PCR and Quenching Probe
IFA法	間接蛍光抗体法 Indirect Fluorescent Antibody Technique	PCR-rSSO法	PCR-Reverse Sequence Specific Oligonucleotide
LAMP法	ループ介在等温増幅法 Loop-Mediated Isothermal Amplification	KIMS法	Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution

※ PCR 法はエフ・ホフマン・ラ・ロシュ社のライセンスに基づいて実施しております。

基準値

正常参考値及び判定基準値は、当社では基準値で表示しております。基準値欄の略号及び単位は次の通りです。

略号	M	Male : 男性	桁記号	k	kilo : 10 ³	単位記号	AU	Arbitrary Unit	Eq	Equivalent	Osm	osmol
	F	Female : 女性		d	deci : 10 ⁻¹		B.U	Bethesda Unit	g	gram	ppm	parts per million
	RBC	Red blood cell : 赤血球		m	milli : 10 ⁻³		BCE	Bone Collagen Equivalent	HPF	High-Power Field	S.I.	Stimulation Index
	d	day : 日		μ	micro : 10 ⁻⁶		CAI	Corrected Absorbance Index	IU	International Unit	U	unit
	h	hour : 時間		n	nano : 10 ⁻⁹		CFU	Colony Forming Unit	L	Liter	%	percent
	min	minute : 分		p	pico : 10 ⁻¹²		cpm	count per minute	M	mol/L	‰	permill
		f	femto : 10 ⁻¹⁵	EIU	Enzyme Immunounits	mol	mole					

ご利用の手引き

本文の検査項目欄の記載例

本文では、検体必要量、容器・保存方法、検査方法、基準値・単位、所要日数、検体検査実施料・判断料等検査のご依頼に当たってご注意いただきたい事項を表記しています。

下記の例をご参照の上、正確な検体の管理にご協力下さい。

項目コード 総コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
蛋白関連検査								
1 3A010	総蛋白 (TP)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	Biuret 法	6.7 ~ 8.3 g/dL	1 2	11 生化 I	蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを同時に測定した場合は、主たるもの2つを算定する。
70 5C065	β ₂ -ミクログロブリン (β ₂ -MG)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	2.0 以下 mg/L	1 2	104 免疫	
544 5C065		尿 1.0	C-3 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	289 以下 μg/L	2 4	104 免疫	PH5.5以上を確認し、提出して下さい。

容器記号：A1 (普通試験管：分離剤入り) に採取し、遠心操作後、そのままご提出下さい。(但し、採血当日のご提出が不可能な場合、容器記号：G (凍結用ポリ試験管) に移しての保存をお願いします)

項目コード 総コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
凝固系一般検査								
417 2B030	プロトロンビン時間 (PT)	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	Quick 変法	PT INR 値 0.88 ~ 1.17 PT 活性 66.0 ~ 127.6 % PT 時間 9.4 ~ 12.2 秒 ※1	1 2	18 血液	緊急

容器記号：D (凝固検査用試験管) に血液を採取し、遠心操作後、血漿を容器記号：G (凍結用ポリ試験管) に移して凍結しご提出下さい。なお、検査材料の移し替えが不可欠な場合、『採取容器→提出容器』で表記しております。

赤の表示は検体取扱上の注意事項を表します。

青の表示は保険取扱上の留意事項を表します。

【マーク一覧】

受付・報告関連	緊急異常値報告対象	緊急	緊急異常値の報告範囲(ご利用の手引きVII頁参照)が設定されております。この範囲を超えた場合には、測定後すみやかに電話またはファクシミリでご報告いたします。	検体の取扱	常温	常温	15~25℃で保存してご提出して下さい。
	予約検査	予約検査	検体採取前に、最寄の営業所へご連絡下さい。		冷蔵	冷蔵	5~19℃で保存してご提出して下さい。なお、数日以上に渡って保存される場合は、凍結して保存していただくをお願いします。凍結不可の材料につきましては、その旨、記載いたします。
	曜日指定	曜日指定	受託可能日をご確認の上、ご依頼下さい。		凍結	凍結	凍結(-18℃以下)で保存してご提出して下さい。なお、凍結保存指定の検査項目につきましては、原則として単独検体での出検をお願いいたします。
	倫理指針対象検査項目	倫理指針対象	ヒト遺伝子倫理指針対象項目です。ご依頼に当たっては、先天性疾患染色体分析依頼書によってご依頼下さい。		遮光	遮光	直射日光又は蛍光灯等を避け、遮光保存して下さい。
					保温	保温	孵卵器等で保温(35~39℃)して下さい。

検体採取に当たっての注意事項

RIA・RA・RRA 等・アイソトープを用いる測定項目

- シンチグラフィー等で *in vivo* に投与したアイソトープが残存すると異常値発生の原因となることがありますのでご注意ください。

血液

【採血時間について】

- 採血は安静空腹時肘静脈採血を原則とします。
- 食事や運動が異常値発生の原因となることがありますのでご注意ください。

【採血量等について】

- 採血量は必要血清量の3~4倍、必要血漿量の2~3倍を目安にして下さい。
- 採血量が厳密に決められている採血容器は、検査結果に影響を及ぼすために、必ず規定量を守って下さい。
- 翼状針を用いる場合、必要に応じてダミーの採血管に少量の血液を採取し正確な採血量を確保して下さい。

【溶血を避けるための注意事項】

- 採血時に溶血を避けるために、無理な圧力や泡立ちを避けて下さい。特に、シリンジ採血の場合、内筒を強く引きすぎると無理な圧力を避け、又、針とシリンジがしっかりと接続されていることを確認し気泡の混入などを避けるなど、注意願います。
- 転倒混和の際、血液を泡立てないようにして下さい。
- 真空採血管の場合、採血量が規定量よりも少ない場合は、容器内部が陰圧状態のままとなり、溶血の原因となります。陰圧を解除して下さい。
- シリンジ採血の場合、各採血管の間でのコンタミネーションや血液の注入量などに注意の上、注射針を外し採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入して下さい。

【採血後の注意】

- 抗凝固剤・凝固促進剤入り採血管に採血された場合は、採血後すみやかに、泡立てないように緩やかに転倒混和させて下さい。

【血清・血漿分離の際の注意事項】

- 血清は、採血後常温で凝固させ、凝固完了後遠心分離して下さい。
- 特に指定がない場合は1,200～1,700Gで5～10分遠心分離して下さい。

遠心力換算一覧表

半径 (cm)	1,200G	1,500G	1,700G
	回転数	回転数	回転数
6	4,200	4,700	5,000
8	3,700	4,100	4,400
10	3,300	3,700	3,900
11	3,100	3,500	3,700
12	3,000	3,300	3,600
13	2,900	3,200	3,400
14	2,800	3,100	3,300
15	2,700	3,000	3,200
16	2,600	2,900	3,100
19	2,400	2,700	2,800
20	2,300	2,600	2,800

【遠心力の計算式】

回転数とローター半径より遠心力を求める場合

$$RCF (Xg) = 11.18 \times (N/1000)^2 \times R$$

遠心力とローター半径より回転数を求める場合

$$N (rpm) = 299 \times \sqrt{RCF/R}$$

RCF：遠心力 (× g)

R：ローター半径 (cm)

N：毎分回転数 (rpm)

【その他】

- 凍結する場合は破損のおそれがありますので、ガラス容器は避けて下さい。
- 採血の手技等に関しては、日本臨床検査標準協議会 (JCCLS) の標準採血法ガイドライン (GP4-A3) を参考して下さい。

尿

- 尿による検査は部分尿・早朝尿・時間指定蓄尿・24時間蓄尿等がありますので本文各項目欄をご参照下さい。

●24時間蓄尿の注意事項

1. 冷暗所にて蓄尿終了後、尿量を確認し必要量を検体容器に移し提出して下さい。
2. 防腐・安定化などの目的で添加薬剤を必要とすることがありますので本文各項目欄をご参照下さい。
3. 必ず依頼票に尿量を記入して下さい。

●酸性蓄尿の注意事項

1. 検査項目により、防腐・安定化などの目的で蓄尿時に尿の酸性化を必要とすることがあります。
2. 酸性化した尿検体ではデータに影響がある検査項目もありますので、本文各項目欄をご参照下さい。
3. 規定量の6N塩酸を予め蓄尿容器に入れて蓄尿して下さい。(添加する詳細な規定量や注意事項は本文各項目欄をご参照下さい。)

採血と保存に関する参考資料

○採血管の順序

複数の採血管に採血する場合、各採血管の間でおこる内容物によるコンタミネーションによる検査結果への影響を防ぐ為に以下の手順が推奨されております。

但し、確実なエビデンスが得られているものは少ないため、個々の状況に応じて検査項目の優先度などを考慮して順序を変更することは許容されております。

1) 真空管採血の場合

- ①凝固検査用採血管
- ②赤沈用採血管
- ③血清用採血管
- ④ヘパリン入り採血管
- ⑤EDTA入り採血管
- ⑥解糖阻害剤入り採血管
- ⑦その他

又は

- ①血清用採血管
- ②凝固検査用採血管
- ③赤沈用採血管
- ④ヘパリン入り採血管
- ⑤EDTA入り採血管
- ⑥解糖阻害剤入り採血管
- ⑦その他

2) シリンジ採血の場合 (分注の順序)

- ①凝固検査用採血管
- ②赤沈用採血管
- ③ヘパリン入り採血管
- ④EDTA入り採血管
- ⑤解糖阻害剤入り採血管
- ⑥血清用採血管
- ⑦その他

参考文献：標準採血法ガイドライン 2019年

○溶血の検査成績に及ぼす影響

健常人の血清ヘモグロビン (Hb) 濃度は1mg/dL以下とされ、肉眼的に血清中に溶血を検出できるのは、Hb30～50mg/dL以上です。血液の35～50%は赤血球からなり、各種の生化学成分は、その血球と血漿とにおける含有比から次の3種類に分けられます。

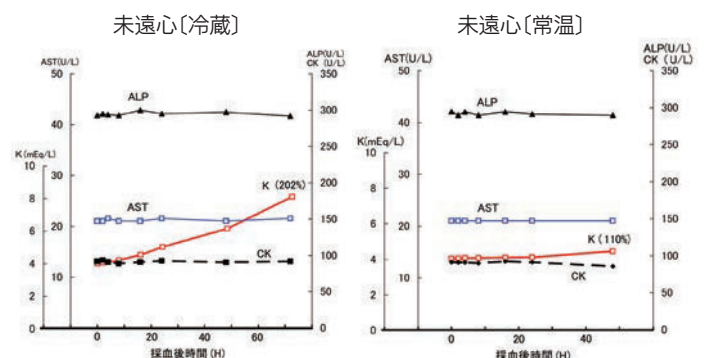
(カッコ内は血球：血漿含有比)

- 1) 血球中と血漿中にほぼ同濃度に存在するもの
グルコース (血糖)、尿素、重炭酸塩、無機リン、総コレステロール
- 2) 血球中濃度が血漿中濃度より高いもの
カリウム (23倍)、LD (200倍)、AST (80倍)、ALT (15倍)
- 3) 血球中濃度が血漿中より低いもの
ナトリウム (0.1倍)、クロール (0.5倍)、カルシウム (0.1倍)、LAP (0.2倍)、ALP (0.2倍)、コレステロールエステル (0)、CK (0)

参考文献：臨床検査法提要 改訂第31版

○未遠心分離検体の経時変化

未遠心分離の検体は、保存条件 (冷蔵又は常温) により著しくデータに影響が出る場合があります。



索引 (50音)

ア	頁	保険点数	保険区分
亜鉛 (Zn)	15	132	D007 37
悪性リンパ腫解析検査 (MLA) CD45ゲーティング	125	1940	D005 15
亜硝酸塩 (尿)	109	(26)	D000
アスコルビン酸→ビタミンC	18	296	D007 60
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ→ AST	8	17	D007 03
アスピリン→サリチル酸	103	※	B001 02
アスペノン→アプリンジン	104	※	B001 02
アスペルギルス抗原	57	157	D012 30
アセタゾラミド	101	※	B001 02
アセチルコリン受容体抗体→抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗AChR抗体)	64	775	D014 47
アセトアミノフェン	105	180	D007 47
アセトン体→ケトン体 (アセトン体) 定性 (尿)	109	(26)	D000
アセリオ→アセトアミノフェン	105	180	D007 47
アデノ (ウイルス抗体)	82・84	79	D012 11
アデノシンデアミナーゼ (ADA)	10	32	D007 11
アトピー鑑別試験	73	194	D015 21
アトピー性皮膚炎 (成人)【IgE特異的アレルギー疾患別セット】	74	74頁参照	
アドレナリン→カテコールアミン分画	28	165	D008 29
アフィニトール→エペロリムス	106	※	B001 02
アプリンジン	104	※	B001 02
アポリポ蛋白	5	※	
アミオダロン	104	※	B001 02
アミカシン	105	※	B001 02
アミカマイシン→アミカシン	105	※	B001 02
アミサリン→プロカインアミド	103	※	B001 02
アミノ酸分析定量	20	1107	D010 04 口
アミラーゼ (AMY)	9	11	D007 01
アミラーゼアイソザイム (AMY アイソザイム)	12	48	D007 14
アミロイドA蛋白→血清アミロイドA蛋白	69	47	D015 06
アラニンアミノトランスフェラーゼ→ ALT	8	17	D007 03
アルカリホスファターゼ染色 (ALP染色)	95	95頁参照	D005 06
アルカリホスファターゼアイソザイム→ ALPアイソザイム	11	48	D007 14
アルカリホスファターゼ→ ALP	8	11	D007 01
アルギニンバソプレシン→ AVP	26	224	D008 47
アルドステロン	32	122	D008 15
アルドステロン (CLEIA) / レニン活性比	32	-	
アルドステロン (CLEIA) / 活性型レニン定量 (レニン定量) 比	32	-	
アルドラーゼ (ALD)	9	11	D007 01
アルブミン (血清)	1	11	D007 01
アルブミン・グロブリン比→ A/G比	1	-	
アルブミン定量 (尿)→尿中アルブミン定量	110	99	D001 09
アルベカシン	105	※	B001 02
アルミニウム (Al)	15	109	D007 29
アレピアチン→フェニトイン	101	※	B001 02
アレルギー→ IgEシグナル・マルチアレルギー	73	110	D015 11
アンカロン→アミオダロン	104	※	B001 02
アンギオテンシン I 転換酵素 (ACE)	10	136	D007 39
アンチトロンピン活性 (AT-III)	98	70	D006 11
アンチプラスミン (プラスミンインヒビター)	98	128	D006 16
アンモニア (NH ₃)	7	50	D007 16

イ	頁	保険点数	保険区分
イオン化カルシウム	13	26	D007 07
イーケブラ→レベチラセタム	102	※	B001 02
胃がんリスク層別化検査 (ABC分類)	55		
胃がんリスク層別化検査 (ABC分類) (除菌歴あり)	55		
胃癌HER2遺伝子 (FISH)	152	2700	N005 01
イマチニブ	105	※	B001 02
インスリン (IRI)	28	100	D008 08
インスリン抗体	67	107	D014 06
インターロイキン2受容体 (IL-2R)	46	438	D009 36
インデラル→プロプラノロール	104	-	

インフルエンザ (ウイルス抗体)	82・83	79	D012 11
インプロメン→プロムペリドール	102	※	B001 02

ウ	頁	保険点数	保険区分
運動率 (精液)	113	70	D004 04
ウイルス同定	89	-	
ウイルス分離	89	-	
ウロビリノーゲン定性	109	(26)	D000
ウロポルフィリン定量 (尿)	110	105	D001 10

エ	頁	保険点数	保険区分
衛生検査 (検便検査) (保菌検査)	137	-	
エオジン細胞鏡検→鼻汁中、喀痰中好酸球	116	15	D005 03
エクセグラン→ゾニサミド	102	※	B001 02
エコー (ウイルス抗体)	85・86	79	D012 11
エステラーゼ染色	95	95頁参照	D005 06
エストラジオール (血清) (E ₂)	33	167	D008 33
エストロゲンレセプター	152	720	N002 01
エタノール	18	105	D007 26
エチオコロンノロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 43
エトスクシミド	101	※	B001 02
エピレオプチマル→エトスクシミド	101	※	B001 02
エペロリムス	106	※	B001 02
エラスターゼ 1	43	120	D009 08
エリスロポエチン	37	209	D008 41
エルシニア培養	132	132頁参照	
エルタシン→ゲンタマイシン	105	※	B001 02
塩基性フェトプロテイン→BFP	41	150	D009 17
塩酸ピルジカイニド	103	※	B001 02
エンテロ (ウイルス抗体)	86	-	
エンドトキシン	56	229	D012 52

オ	頁	保険点数	保険区分
黄体形成ホルモン (LH)	26	105	D008 12
オステオカルシン (BGP)	37	157	D008 26
オスポロット→スルチアム	101	※	B001 02
オーム病クラミジア抗体	52	79	D012 11
オリゴクローナルバンド (等電点電気泳動法)	113	522	D004 11
オリベス→リドカイン	104	※	B001 02

カ	頁	保険点数	保険区分
喀痰中好酸球 (エオジン細胞鏡検)	116	15	D005 03
下垂体後葉負荷試験	39	39頁参照	D287 02
下垂体前葉負荷試験	39	39頁参照	D287 01
ガストリン放出ペプチド前駆体→Pro GRP	44	175	D009 24
活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	96	29	D006 07
カテコールアミン分画	28	165	D008 33
カドミウム (Cd)	15	-	
ガバペン→ガバペンチン	102	※	B001 02
ガバペンチン	102	※	B001 02
花粉症【IgE特異的アレルギー疾患別セット】	74	74頁参照	
可溶性インターロイキン2レセプター→インターロイキン2受容体	46	438	D009 36
可溶性フィブリンモノマー複合体 (SFMC)	98	93	D006 13
カリウム (K)	13	11	D007 01
カリウム (K) (髄液)	114	11	D007 01
顆粒球エラスターゼ (子宮頸管粘液)	117	116	D004 08
カルシウム (Ca)	13	11	D007 01
カルシウムイオン→イオン化カルシウム	13	26	D007 07
カルシトニン	27	130	D008 18
カルニチン	19	190	D007 23
カルバマゼピン	101	※	B001 02
カロナール→アセトアミノフェン	105	180	D007 47

肝細胞増殖因子(HGF)	2	227	D007 54
カンジダ・マンナン抗原	57	134	D012 23
関節液結晶(ピロリン酸Ca、尿酸Na)	116	50	D004 02
間接クームス試験	49	47	D011 02 口
癌胎児性抗原→CEA	41	99	D009 03
癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腔分泌液)	117	204	D015 23
カンピロバクター培養	132	132頁参照	
寒冷凝集反応	52	11	D007 01

キ	頁	保険点数	保険区分
奇形精子率	113	70	D004 04
キシロカイン→リドカイン	104	※	B001 02
キニジン	104	※	B001 02
巨核細胞数(穿刺液)	116	-	

ク	頁	保険点数	保険区分
グアナーゼ(GU)	10	35	D007 12
クームス試験(間接)	49	47	D011 02 口
クームス試験(直接)	49	34	D011 02 イ
クームス定量試験	49	-	
グラセプター→タクロリムス	106	※	B001 02
クラミジア・トラコマチスDNA(PCR)	59	188	D023 01
クラミジア・トラコマチス核酸増幅→クラミジア・トラコマチスDNA(PCR)	59	188	D023 01
クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体	53	200	D012 43
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgA抗体	52	75	D012 10
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgG抗体	52	70	D012 09
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgM抗体	52	152	D012 29
クリオグロブリン定性	69	42	D015 05
グリコアルブミン(GA)	3	55	D007 17
グリコヘモグロビン→HbA1c	3	49	D005 09
クリプトコッカス抗原定性	57	169	D012 35
クリプトコッカス培養	132	132頁参照	
グリベック→イマチニブ	105	※	B001 02
グルカゴン負荷試験	40	40頁参照	D288 02
グルコース→血糖(グルコース)	3	11	D007 01
クレアチニン	6	11	D007 01
クレアチニクリアランス	22	-	
クレアチン	6	11	D007 01
クレアチンキナーゼ→CK	9	11	D007 01
クレアチンキナーゼアイソザイム→CKアイソザイム	12	55	D007 17
クロール(CI)	13	(11)	D007 01
クロール(髄液)	114	11	D007 01
クロストリジイデス・ディフィシル(嫌気培養)	132	132頁参照	
クロストリジイデス・ディフィシル抗原(トキシンA・B)	133	80	D012 12
クロナゼパム	101	※	B001 02
クロバザム	102	※	B001 02
グロブリン反応→ノンネアペルト反応	114	62	D004 03
グロブリン反応→パンディ反応	114	62	D004 03
クロム(Cr)	16	-	

ケ	頁	保険点数	保険区分
血液・穿刺液(培養検査)	131	225	D018 03
血液型(ABO)→ABO血液型	49	24	D011 01
血液型(Rh(D))→Rh(D)血液型	49	24	D011 01
血液浸透圧→浸透圧(血清)	94	15	D005 03
血液像→白血球像	93	15	D005 03
結核菌DNA(PCR)(TB-PCR)	56	410	D023 14
結核菌Nested PCR(髄液)・《胸水》	163	-	
結核菌群抗原定性	136	291	D012 56
結核菌特異的インターフェロン-γ産生能(T-SPOT.TB)(QFTプラス)	58	593	D015 30
血色素量→ヘモグロビン	93	21	D005 05
結晶証明→関節液結晶	116	50	D004 02
血漿FDP→フィブリン・フィブリノゲン分解産物	98	80	D006 10

血小板関連IgG(PA-IgG)	50	190	D011 06
血小板抗体→抗血小板抗体	49	261	D011 08
血小板数(PLT)	93	21	D005 05
血小板第4因子(PF4)	100	173	D006 25
血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体→HIT抗体	50	390	D011 10
血清アミロイドA蛋白(SAA)	69	47	D015 06
血清鉄→鉄(Fe)血清	14	11	D007 01
血清補体価(CH50)	68	38	D015 04
結石分析	20	117	D010 02
血中微生物→フィラリア・マラリア原虫	94	40	D005 07
血沈→赤血球沈降速度	94	(9)	D005 01
血糖(グルコース)	3	11	D007 01
ケトン体(アセトン体)定性(尿)	109	(26)	D000
ケトン体分画	12	59	D007 19
嫌気培養	131	131頁参照	
ゲンタシン→ゲンタマイシン	105	※	B001 02
ゲンタマイシン	105	※	B001 02
検便検査→衛生(検便検査)	137	-	

コ	頁	保険点数	保険区分
抗AChR抗体→抗アセチルコリンレセプター抗体	65	775	D014 47
抗BP180抗体(抗BP180NC16a抗体)	66	270	D014 36
抗CCP抗体定量(抗シトルリン化ペプチド抗体)	62	193	D014 24
抗CL-β2-GPI抗体→抗カルジオリピン-β2-グリコプロテイン1複合体抗体	65	223	D014 29
抗DNA抗体定量	63	159	D014 17
抗ds-DNA-IgM抗体	64	-	
抗ds-DNA-IgG抗体定量	64	159	D014 17
抗Dsg1抗体→抗デスモグレイン1抗体	66	300	D014 39
抗Dsg3抗体→抗デスモグレイン3抗体	66	270	D014 36
抗GAD抗体(抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体)	67	134	D008 19
抗GBM抗体→抗糸球体基底膜抗体	66	262	D014 34
抗IA-2抗体	67	213	D008 43
抗Jo-1抗体定量	64	140	D014 12
抗LKM1抗体	67	215	D014 28
抗MuSK抗体→抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	65	1000	D014 47
抗p53抗体	46	163	D009 22
抗RNAポリメラーゼIII抗体	63	170	D014 19
抗RNP抗体定量	64	144	D014 13
抗Scl-70抗体定量	64	157	D014 16
抗Sm抗体定量	64	147	D014 14
抗SS-A/Ro抗体定量	64	161	D014 18
抗SS-B/La抗体定量	64	157	D004 16
抗ss-DNA-IgM抗体	64	-	
抗ss-DNA-IgG抗体定量	64	159	D014 17
抗Tg抗体→抗サイログロブリン抗体	63	136	D014 10
抗TPO抗体→抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	63	138	D014 11
抗アクアポリン4抗体	65	1000	D014 47
抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	65	775	D014 47
抗胃壁細胞抗体	67	-	
抗核抗体半定量(ANA)	63	99	D014 05
抗ガラクトース欠損IgG抗体(CA・RF)	62	111	D014 08
抗カルジオリピン-β2-グリコプロテイン1複合体抗体(抗CL-β2GPI抗体)	65	223	D014 29
抗カルジオリピンIgG抗体	65	226	D014 30
抗カルジオリピンIgM抗体	65	226	D014 30
高感度HbC関連抗原定量	78	259	D013 12
高感度HCVコア蛋白→HCVコア抗原	79	102	D013 05
高感度PSAタンデム	43	121	D009 09
高感度PSAタンデムF/T比	43	150	D009 17
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	65	1000	D014 47
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体→抗GAD抗体	67	134	D008 19
抗血小板抗体	49	261	D011 08
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	63	138	D014 11
抗好中球細胞質プロテインナーゼ3抗体→PR3-ANCA	66	252	D014 33
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体→MPO-ANCA	66	251	D014 32
口腔・気道・呼吸器からの検体(培養検査)	131	180	D018 01

索引 (50音)

抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体)	63	136	D014 10
抗酸菌同定(質量分析法)	136	361	D021
抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(集菌塗抹)	135	85	D017 01+注
抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(直接塗抹)	135	50	D017 01
抗酸菌塗抹鏡検 チールネルゼン染色	135	64	D017 03
抗酸菌分離培養検査1	135	300	D020 01
抗酸菌分離培養検査2	135	209	D020 02
抗酸菌薬剤感受性検査	136	400	D022
好酸球数	94	17	D005 04
抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	66	262	D014 32
抗シトルリン化ペプチド抗体→抗CCP抗体定量	62	193	D014 24
甲状腺刺激抗体→TSAb	63	330	D014 38
甲状腺刺激ホルモン(TSH)	26	98	D008 06
甲状腺負荷試験	39	39頁参照	D287 03
抗ストレプトリジンO定量(ASO)	51	15	D012 01
抗セントロメア抗体(ELISA)	63	174	D014 20
抗デスモグレイン1抗体(抗Dsg1抗体)	66	300	D014 39
抗デスモグレイン3抗体(抗Dsg3抗体)	66	270	D014 36
抗皮膚抗体	66	-	
抗平滑筋抗体	67	-	
酵母様真菌培養	132	132頁参照	
抗ミトコンドリアM2抗体(AMA-M2)	67	189	D014 22
抗ミトコンドリア抗体(AMA)(FA)	67	181	D014 21
抗ミューラー管ホルモン(AMH)	34	597	D008 52
抗ランゲルハンス島細胞抗体(ICA)	161	-	
抗利尿ホルモン(ADH) → AVP	26	224	D008 47
コカール→アセトアミノフェン	105	180	D007 47
コクサッキーA群・B群(ウイルス抗体)	82・85	79	D012 11
骨型アルカリホスファターゼ→BAP	11	157	D008 26
骨髄像	94	788	D005 14
コプロポルフィリン定性(尿)	109	-	
コプロポルフィリン定量(血液)	7	210	D007 52
コプロポルフィリン定量(尿)	110	131	D001 14
コリンエステラーゼ(ChE)	8	11	D007 01
コルチゾール	31	121	D008 14
コレステロール→総コレステロール(T-Chol)	3	17	D007 03
コレステロール分画	3	57	D007 18

サ	頁	保険点数	保険区分
細菌顕微鏡検査	131	64	D017 02
細菌培養検査→培養検査	131	131頁参照	
細菌薬剤感受性検査→薬剤感受性検査	134	134頁参照	
サイクリックAMP(cAMP)	36	165	D008 32
サイトケラチン19フラグメント→シフラ	43	154	D009 18
サイトメガロ(ウイルス抗体)(CMV)	82	79	D012 11
サイトメガロウイルス(CMV)IgG抗体	88	200	D012 44
サイトメガロウイルス(CMV)IgM抗体	88	200	D012 44
細胞種類(髄液)	114	62	D004 03
細胞種類(穿刺液)	115	-	
細胞診検査(婦人科材料)	156	150	N004 01
細胞診検査(その他一般材料)	156	190	N004 02
細胞数(髄液)	114	62	D004 03
細胞数(穿刺液)	115	-	
サイロキシン(T ₄)	27	105	D008 11
サイロキシン結合グロブリン(TBG)	27	130	D008 18
サイログロブリン(Tg)	27	128	D008 16
サーティカン→エペロリムス	106	※	B001 02
サリチル酸	103	※	B001 02
サルソニン→サリチル酸	103	※	B001 02
サルモネラ(検便検査)	137	-	
ザロンチン→エトスクシミド	101	※	B001 02
三塩化(トリクロル)酢酸(TCA)	17	-	
サンディミュン→シクロスポリン	106	※	B001 02
サンリズム→塩酸ピルジカイニド	103	※	B001 02

シ	頁	保険点数	保険区分
シアリルLe ^x 抗原→CSLEX	42	156	D009 19
シアリルLe ^x -抗原→SLX	42	140	D009 13
シアリルTn抗原(STN)	42	146	D009 16
シアリ化糖鎖抗原KL-6→KL-6	22	108	D007 28
ジアゼパム	102	※	B001 02
ジアパックス→ジアゼパム	102	※	B001 02
ジェノタイプHCV-RNA-PCR	79	-	
子宮頸管粘液→顆粒球エラスターゼ	117	116	D004 08
シクロスポリン	106	※	B001 02
ジゴキシン	103	※	B001 02
ジゴキシン→ジゴキシン	103	※	B001 02
糸状菌培養	132	132頁参照	
シスタチンC	6	112	D007 30
ジソピラン→ジソピラミド	104	※	B001 02
ジソピラミド	104	※	B001 02
ジフテリア菌培養	132	132頁参照	
シフラ(CYFRA21-1)(サイトケラチン19フラグメント)	43	154	D009 18
シベンゾリン	103	※	B001 02
シベンゾリン	103	※	B001 02
脂肪酸4分画	19	393	D010 07
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ→TRACP-5b定量	45	156	D008 25
消化管からの検体(培養検査)	131	200	D018 02
小児アレルギー【IgE特異的アレルギー疾患別セット】	74	74頁参照	
常用負荷試験	40	40頁参照	D288 01
食物アレルギー【IgE特異的アレルギー疾患別セット】	74	74頁参照	
心筋トロポニンT(TnT)	2	109	D007 29
神経特異エノラーゼ→NSE	44	142	D009 14
心室筋ミオシン軽鎖I	2	184	D007 45
浸透圧(血清)	94	15	D005 03
浸透圧(尿)	110	16	D001 03

ス	頁	保険点数	保険区分
膵アミラーゼ(P-AMY)	9	48	D007 14
髄液一般検査	114	114頁参照	
水銀(Hg)	16	-	
膵グルカゴン	28	150	D008 23
推算GFR→eGFR	22	-	
水痘・帯状ヘルペス(ウイルス抗体)	82	79	D012 11
水痘・帯状ヘルペス(VZV)抗原	90	227	D012 51
水痘・帯状ヘルペス(VZV)IgG抗体	88	200	D012 44
水痘・帯状ヘルペス(VZV)IgM抗体	88	200	D012 44
膵ホスホリパーゼA ₂ (PLA ₂)	11	204	D074 49
髄膜炎菌培養	132	132頁参照	
スルチアム	101	※	B001 02
スロービット→テオフィリン	106	※	B001 02

セ	頁	保険点数	保険区分
精液一般検査	113	70	D004 04
精子不動化抗体	66	-	
精子数→精子濃度	113	70	D004 04
精子濃度	113	70	D004 04
精子量	113	70	D004 04
性腺負荷試験	37	37頁参照	D287 06
成長ホルモン(GH)	25	105	D008 12
赤痢(衛生検査)	137	-	
赤痢アメーバ	133	133頁参照	
赤血球コプロポルフィリン	7	210	D007 52
赤血球数(RBC)	93	21	D005 05
赤血球像	93	-	
赤血球沈降速度(ESR)	94	(9)	D005 01
セルシン→ジアゼパム	102	※	B001 02

セルセプト→ミコフェノール酸	106	※	B001 02
セルロプラスミン(CP)	1	90	D015 09
セレナミン→ジアゼパム	102	※	B001 02
セレニカR →バルプロ酸	101	※	B001 02
セレネース→ハロペリドール	102	※	B001 02
セロトニン	36	-	
線維素分解産物(血漿 FDP)→フィブリン・フィブリノゲン分解産物	98	80	D006 10
線維素分解産物(尿中FDP)	110	72	D001 07
潜血反応(尿)	109	(26)	D000
全血比重(GB)	94	-	
全脂質脂肪酸分画	20	393	D010 07
前立腺特異抗原→PSA、高感度PSAタンデム	43	121	D009 09

ソ

	頁	保険点数	保険区分
総コレステロール(T-Chol)	3	17	D007 03
総三塩化物(TTC)	17	-	
総脂質(TL)	4	-	
総胆汁酸(TBA)	5	47	D007 13
総蛋白(TP)	1	11	D007 01
総鉄結合能(TIBC)(直接比色法/ニトロソPSAP法(計算法))	14	11	D007 01
総ビリルビン(T-Bil)	7	11	D007 01
総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比→BTR	20	283	D010 05
総ホモシステイン	20	279	D010 04 イ
ゾニサミド	102	※	B001 02
その他の部位からの検体(培養検査)	131	180	D018 05
ゾマトメジンC(IGF-1)	25	212	D008 42

タ

	頁	保険点数	保険区分
大腸菌血清型別	133	175	D012 37
大腸菌ペロトキシン	133	184	D023 02 03
耐糖能精密検査	40	40頁参照	D288 02
ダイアモックス→アセタゾラミド	101	※	B001 02
第II因子	96	223	D006 29
第V因子	96	223	D006 29
第V II因子	96	223	D006 29
第V III因子	96	223	D006 29
第V III因子インヒビター(第VIII因子-INH)	98	144	D006 21
第IX因子	97	223	D006 29
第IX因子インヒビター(第IX因子-INH)	98	144	D006 21
第X因子	97	223	D006 29
第X I因子	97	223	D006 29
第X II因子	97	223	D006 29
第X III因子	97	223	D006 29
タクロリムス	106	※	B001 02
タゴシッド→テイコプラニン	106	※	B001 02
炭酸リチウム	102	※	B001 02
胆汁酸→総胆汁酸(TBA)	5	47	D007 13
単純ヘルペス(HSV) IgG抗体	88	200	D012 44
単純ヘルペス(HSV) IgM抗体	88	200	D012 44
単純ヘルペスウイルス(HSV) 抗原	90	180	D012 39
単純ヘルペス(ウイルス抗体)(HSV)	82-84	79	D012 11
蛋白→総蛋白(TP)	1	11	D007 01
蛋白定性(尿)	109	(26)	D000
蛋白定量クレアチニン換算値(尿蛋白/クレアチニン比)	109	7	
蛋白定量(尿)	109	7	D001 01
蛋白定量(髄液)	114	11	D007 01
蛋白定量(穿刺液)	116	11	D007 01
蛋白分画	1	18	D007 04
タンボコール→フレカイニド	104	※	B001 02

チ

	頁	保険点数	保険区分
チアミン→ビタミンB ₁	18	239	D007 56
菌トリコモナス/マイコプラズマゼニタリウム 同時測定DNA(PCR)(尿)(検体物)	60	347	D023 10

チルメール→メキシレチン	104	※	B001 02
チルミン→テオフィリン	106	※	B001 02
中性脂肪(TG)	4	11	D007 01
虫体検出	112	23	D003 03
虫卵→虫卵(集卵)(浮遊・沈殿)	111	15	D003 02
虫卵→虫卵(塗抹)	111	20	D003 02
虫卵(集卵)(沈殿法)	111	15	D003 02
虫卵(集卵)(浮遊法)	111	15	D003 02
虫卵(塗抹)	111	20	D003 02
直接クームス試験	49	34	D011 02 イ
直接ビリルビン(D-Bil)	7	11	D007 01
沈渣(穿刺液)	115	-	
沈渣(尿)→尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)	111	(27)	D002
沈渣(尿)染色した場合→尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)(染色した場合)	111	(27+9)	D002

ツ

	頁	保険点数	保険区分
ツツガ虫(Gilliam,Kato,Karp) IgG抗体	54	203	D012 45
ツツガ虫(Gilliam,Kato,Karp) IgM抗体	54	203	D012 45

テ

	頁	保険点数	保険区分
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	37	154	D008 24
テイコプラニン	106	※	B001 02
デオキシピリジノリン(DPD)	45	191	D008 39
テオドール→テオフィリン	106	※	B001 02
テオフィリン	106	※	B001 02
テオロング→テオフィリン	106	※	B001 02
テグレートール→カルバマゼピン	101	※	B001 02
テストステロン	34	119	D008 13
鉄(Fe)	14	11	D007 01
鉄染色	95	95頁参照	D005 06
テハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	32	164	D008 31
テパケン→バルプロ酸	101	※	B001 02
テヒドロエピアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 43
デルタアミノレプリン酸→δ-アミノレプリン酸	110	106	D001 11
テルバンス→テオフィリン	106	※	B001 02
デルタアミノレプリン酸(産業医学関連)→δ-アミノレプリン酸(産業医学関連)	17	-	
デルタアミノレプリン酸定量→δ-アミノレプリン酸	110	106	D001 11

ト

	頁	保険点数	保険区分
糖→血糖(グルコース)	3	11	D007 01
透析液エンドトキシン	56	-	
糖定量(穿刺液)	116	11	D007 01
糖定量(尿)	110	9	D001 02
銅(Cu)	15	23	D007 05
糖負荷試験	40	40頁参照	D288
ドーパミン→カテコールアミン分画	28	165	D008 29
ドーパミン総	29	-	
塗抹鏡検→細菌顕微鏡検査	131	64	D017 02
トキソプラズマIgG抗体	53	93	D012 14
トキソプラズマIgM抗体	53	95	D012 15
トコフェロール→ビタミンE	19	-	
トピナ→トピラマート	102	※	B001 02
トピラマート	102	※	B001 02
トブラシン→トブラマイシン	105	※	B001 02
トブラマイシン	105	※	B001 02
トランスサイレチン→プレアルブミン	1	101	D015 12
トランスフェリン(血清)	69	60	D015 07
トリグリセライド→中性脂肪	4	11	D007 01
トリクロル酢酸→三塩化(トリクロル)酢酸	17	-	
トリコスボロン・アサヒ抗体	52	822	D012 64
トリコモナス培養	133	133頁参照	D018 04
トリブシン	10	189	D007 49
トリプトファン反応(髄液)	114	62	D004 03

索引 (50音)

トリメタジオン	101	※	B001 02
トリヨードサイロニン(T ₃)	27	99	D008 07
トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	99	171	D006 24
トロンボモジュリン	99	204	D006 27

ナ			
	頁	保険点数	保険区分
ナイアシン→ニコチン酸	19	-	
内分泌負荷試験	39	39頁参照	D287
ナトリウム(Na)	13	(11)	D007 01
ナトリウム(髄液)	114	11	D007 01
鉛(Pb)	15	-	

ニ			
	頁	保険点数	保険区分
ニコチン酸(ナイアシン)	19	-	
ニッケル(Ni)	16	-	
ニトラゼパム	102	※	B001 02
日本脳炎(ウイルス抗体)	82-83	79	D012 11
乳癌HER2遺伝子(FISH)	152	2700	N005 01
乳酸	12	47	D007 13
乳酸脱水素酵素→LD/IFCC	8	11	D007 01
乳酸脱水素酵素アイソザイム→LDアイソザイム	11	48	D007 14
尿酸(UA)	6	11	D007 01
尿酸クリアランス	22	-	
尿素呼気試験(UBT)(クービット)	61	70	D023-2 02
尿素窒素(UN)	6	11	D007 01
尿中アルブミン定量	110	99	D001 09
尿中コルチゾール	31	121	D008 14
尿中トランスフェリン	111	98	D001 08
尿中肺炎球菌莢膜抗原定性→肺炎球菌莢膜抗原定性	58	188	D012 41
尿中免疫電気泳動(免疫固定法によるペンス・ジョーンズ蛋白(BJP)同定)	69	201	D015 22
尿中レジオネラ抗原定性	58	205	D012 46
尿中FDP→線維素分解産物(尿中FDP)	110	72	D001 07
尿中IV型コラーゲン	111	184	D001 15
尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)	111	(27)	D002
尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)(染色した場合)	111	(27+9)	D002
尿糖→糖定量(尿)	110	9	D001 02

ネ			
	頁	保険点数	保険区分
ネオラル→シクロスポリン	106	※	B001 02
ネオペリドール→ハロペリドール	102	※	B001 02
ネルボン→ニトラゼパム	102	※	B001 02

ノ			
	頁	保険点数	保険区分
脳梗塞リスク評価(A6C)	160	-	
ノルアドレナリン→カテコールアミン分画	28	165	D008 29
ノロウイルス抗原定性	90	150	D012 28
ノンネアペルト反応(髄液)	114	62	D004 04

ハ			
	頁	保険点数	保険区分
肺炎球菌莢膜抗原定性《尿》・《髄液》	58	188	D012 41
肺サーファクタントプロテインA → SP-A	22	130	D007 35
肺サーファクタントプロテインD → SP-D	22	136	D007 39
梅毒血清反応→梅毒定性・半定量	51	51頁参照	
培養検査	131	131頁参照	
白血球数(WBC)(血液)	93	21	D005 05
白血球定性(尿)	109	(26)	D000
白血球像	93	15	D005 03
白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング	125	1940	D005 16
パス染色→PAS染色	95	95頁参照	D005 06
馬尿酸(HA)	17	-	
パニールマンデル酸(VMA)	30	90	D008 04

パニールマンデル酸(VMA)定性(尿)→VMA定性(尿)	109	9	D001 02
ハプトグロビン(型判定含む)	7	129	D015 14
ハプトグロビン(型判定なし)	7	129	D015 14
ハフトロン→サリチル酸	103	※	B001 02
ハベカシン→アルベカシン	105	※	B001 02
パラインフルエンザ(ウイルス抗体)	83	79	D012 11
バルプロ酸	101	※	B001 02
バレリン→バルプロ酸	101	※	B001 02
ハロステン→ハロペリドール	102	※	B001 02
ハロペリドール	102	※	B001 02
ハロマンズ→ハロペリドール	102	※	B001 02
バンコマイシン	106	※	B001 02
バンディ反応(髄液)	114	62	D004 04
反応(pH)(髄液)→pH(髄液)	114	62	D004 03
反応(pH)(精液)→pH(精液)	113	70	D004 04
反応(pH)(穿刺液)→pH(穿刺液)	115	-	
反応(pH)(尿)→pH(尿)	109	(26)	D000

ヒ			
	頁	保険点数	保険区分
ヒアルロン酸	12	179	D007 46
鼻炎・喘息・結膜炎【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	74	74頁参照	
比重(穿刺液)	115	-	
比重(髄液)	114	62	D004 03
比重(全血)→全血比重	94	-	
比重(尿)	109	(26)	D000
鼻汁中好酸球(エオジン細胞鏡検)	116	15	D005 03
ビタミンA(レチノール)	18	-	
ビタミンB ₁ (チアミン)	18	239	D007 56
ビタミンB ₁₂	18	136	D007 39
ビタミンB ₂ (リボフラビン)	18	235	D007 55
ビタミンB ₆	18	-	
ビタミンC(アスコルビン酸)	18	296	D007 60
ビタミンD→1 α -25-(OH) ₂ ビタミンD	19	388	D007 63
ビタミンE(トコフェロール)	19	-	
ビタミンK分画	19	-	
ヒダントール→フェニトイン	101	※	B001 02
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(HCG)	35	130	D008 18
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白→H-FABP定量	2	131	D007 36
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド→HANP	38	221	D008 46
ヒト精巢上体蛋白4(HE4)	42	200	D009 29
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド→BNP	38	130	D008 18
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント→NT-proBNP	38	130	D008 18
ヒトパピローマウイルスDNA(HPV-DNA)	91	91頁参照	
ヒトパルボB19IgG抗体	87	-	
ヒトパルボB19IgM抗体	87	200	D012 44
泌尿器・生殖器からの検体(培養検査)	131	190	D018 04
ピブカII→PIVKA II 定量(腫瘍マーカー)	44	131	D009 10
ピブリオ(検便検査)	137	-	
ピメノール→ピルメノール	104	※	B001 02
百日咳菌抗体	53	257	D012 54
百日咳菌培養	131	131頁参照	
病理組織顕微鏡検査	151	151頁参照	
ビリルビン(血清)→総ビリルビン、直接ビリルビン	7	11	D007 01
ビリルビン定性(尿)	109	(26)	D000
ピルシカイニド塩酸塩→塩酸ピルジカイニド	103	※	B001 02
ピルビン酸	12	47	D007 13
ピルメノール	104	※	B001 02
ピレチノール→アセトアミノフェン	105	180	D007 47

フ			
	頁	保険点数	保険区分
フィブリノゲン定量(Fib)	96	23	D006 04
フィブリン・フィブリノゲン分解産物(血漿FDP)	98	80	D006 10
フィラデルフィア染色体→BCR-ABL1t(9;22)転座	121	2477	D006-5 01
フィラリア原虫	94	40	D005 07

風疹(ウイルス抗体)	83	79	D012 11
風疹IgG抗体(CLEIA)	88	200	D012 44
風疹IgM抗体	88	200	D012 44
風疹IgM抗体	88	200	D012 44
フェニトイン	101	※	B001 02
フェノバル→フェノバルビタール	101	※	B001 02
フェノバルビタール	101	※	B001 02
フェリチン定量	1	102	D007 25
フォン・ウィルブラント因子抗原定量(v:W因子抗原定量)	97	147	D006 20
フォン・ウィルブラント因子活性(v:W因子活性)	97	126	D006 14
不規則抗体	49	159	D011 04
副甲状腺負荷試験	39	39 頁参照	D287 04
副甲状腺ホルモン	27	161	D008 29
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	27	186	D008 38
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	26	184	D008 37
副腎皮質負荷試験	39	39 頁参照	D287 05
ブドウ糖(血糖)→血糖(グルコース)	3	11	D007 01
不飽和鉄結合能(UIBC)(ニトロソPSAP法)	14	11	D007 01
プラスミノゲンアクチベーターインヒビター-1(PAI-1)	99	240	D006 32
プラスミノゲン活性	98	100	D006 12
プラスミノゲン抗原	98	100	D006 12
プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	98	128	D006 16
プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC)	98	150	D006 21
プリミドン	101	※	B001 02
プレアルブミン(トランスサイレチン)	1	101	D015 12
フレカイニド	104	※	B001 02
プレグナンジオール(P ₂)	34	213	D008 43
プレグナントリオール(P ₃)	34	232	D008 48
プロカインアミド	103	※	B001 02
プロカルシトニン定量(PCT)	56	276	D007 59
プログラフ→タクロリムス	106	※	B001 02
プログステロン	33	143	D008 22
プログステロンレセプター	152	690	N002 02
プロコラーゲン-III-ペプチド(P-III-P)	1	136	D007 39
プロステートヘルスインデックス(phi)	43	271	D009 09
プロテインC(抗原量)	99	226	D006 30
プロテインC活性	99	227	D006 31
プロテインS(抗原量)	99	154	D006 22
プロテインS(遊離型抗原量)	99	154	D006 22
プロテインS活性	99	154	D006 23
プロトポルフィリン(血中)	8	272	D007 58
プロトロンビン時間(PT)	96	18	D006 02
プロノン→プロパフェノン	103	※	B001 02
プロパフェノン	103	※	B001 02
プロプラノロール	104	-	
プロムペリドール	102	※	B001 02
プロラクチン(PRL)	26	98	D008 06
糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	61	142	D012 25

ヘ	頁	保険点数	保険区分
ペーハー→pH(精液)	113	70	D004 04
ペーハー→pH(髄液)	114	62	D004 03
ペーハー→pH(穿刺液)	115	-	
ペーハー→pH(尿)	109	(26)	D000
ヘパルス→サリチル酸	103	※	B001 02
ペプシノゲン I・II(PG I・II)	11	-	
ペブリコール→ペブリジル	104	※	B001 02
ペブリジル	104	※	B001 02
ヘマトクリット(Ht)	93	21	D005 05
ヘモグロビン(Hb)	93	21	D005 05
ヘモグロビン(潜血LA)定性(糞便)	112	37	D003 05
ヘモグロビン(潜血LA)定量(糞便)	112	41	D003 07
ヘモグロビン(潜血金コロイド)定性(糞便)	112	37	D003 05
ヘモグロビン(潜血金コロイド)定量(糞便)	112	41	D003 07
ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)定性(糞便)	112	56	D003 08

ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)定量(糞便)	112	56	D003 08
ヘモグロビンA1c→HbA1c	3	49	D005 09
ヘリコバクター・ピロリ感受性検査	134	134 頁参照	D019 01
ヘリコバクター・ピロリ抗原(糞便中)→糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	60	142	D012 25
ヘリコバクター・ピロリ IgG抗体/国内株	55	80	D012 12
ヘリコバクター・ピロリ抗体/国内株	55	80	D012 12
ヘリコバクター・ピロリ培養	132	132 頁参照	D018 02
ペルオキシダーゼ染色	95	95 頁参照	D005 06
ベンザリン→ニトラゼパム	102	※	B001 02
ペンスジョーンズ蛋白定性(尿)	109	-	
ペンスジョーンズ蛋白同定→尿中免疫電気泳動	69	201	D015 22
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	43	101	D009 04
便潜血	112	112 頁参照	

ホ	頁	保険点数	保険区分
補体蛋白C ₃ →C ₃	68	70	D015 08
補体蛋白C ₄ →C ₄	68	70	D015 08
ホモシステイン→総ホモシステイン	20	279	D010 04 イ
ホモバニリン酸(HVA)	29	69	D008 03
ホリゾン→ジアゼパム	102	※	B001 02
ポルフォビリノーゲン定量(尿)	110	186	D001 16

マ	頁	保険点数	保険区分
マイクロサテライト不安定性検査(HNPCC・リンチ症候群)	130	2100	D004-2 01 イ
マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(CDX)	130	2500	D004-2 01 イ
マイクロトランスフェリン→尿中トランスフェリン	111	98	D001 08
マイコバクテリウム・アビウム及びイソラセラー核酸検出→MAC DNA(PCR)	58	421	D023 16
マイコプラズマ培養	132	132 頁参照	
マイコプラズマ抗体半定量	51	32	D012 04
マイスタン→クロバザム	102	※	B001 02
マグネシウム(Mg)	14	11	D007 01
麻疹(ウイルス抗体)	84	79	D012 11
麻疹IgG抗体	88	200	D012 44
麻疹IgM抗体	88	200	D012 44
末梢血液一般検査	93	21	D005 05
マトリックスメタロプロテイナーゼ -3→MMP-3	62	116	D014 09
マラリア原虫	94	40	D005 07
マンガン(Mn)	16	27	D007 08
マンデル酸及びフェニルグリオキシ酸総量(MA及びPGA総量)	17	-	

ミ	頁	保険点数	保険区分
ミエリン塩基性蛋白(MBP)	113	570	D004 12
ミオグロビン定量	2	131	D007 36
ミオシン→心室筋ミオシン軽鎖 I	2	184	D007 45
ミクロフィラリア→フィラリア原虫	94	40	D005 07
ミコフェノール酸	106	※	B001 02
ミトコンドリア抗体→抗ミトコンドリア抗体	67	181	D014 21
ミノアレ→トリメタジオン	101	※	B001 02

ム	頁	保険点数	保険区分
無機リン(IP)	14	17	D007 03
ムチン塊形成試験	115	-	
ムンプス(ウイルス抗体)	82-83-84	79	D012 11
ムンプスIgG抗体	88	200	D012 44
ムンプスIgM抗体	88	200	D012 44

メ	頁	保険点数	保険区分
メキシチール→メキシレチン	104	※	B001 02
メキシレチン	104	※	B001 02
メソトレキセート→メソトレキサート	105	※	B001 02
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	30	220	D008 45

索引 (50音)

メチル馬尿酸(MHA)	17	-	
メトトレキサート	105	※	B001 02
免疫グロブリン→IgA	68	38	D015 04
免疫グロブリン→IgE	73	100	D015 11
免疫グロブリン→IgG	68	38	D015 04
免疫グロブリン→IgM	68	38	D015 04
免疫組織化学染色	151	151	頁参照
免疫電気泳動(抗ヒト全血清による定性)	69	170	D015 17
免疫電気泳動(免疫固定法によるM蛋白同定)	69	218	D015 24
免疫複合体→C1q 結合免疫複合体	61	153	D014 13
免疫複合体→モノクローナルRF結合免疫複合体	61	194	D014 25

モ

	頁	保険点数	保険区分
網赤血球数	94	12	D005 02
モノクローナルRF結合免疫複合体(mRF-IC)	62	194	D014 25
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	123	-	

マ

	頁	保険点数	保険区分
薬剤感受性検査	134	134	頁参照
薬剤血中濃度	101~108	101~108	頁参照
薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	127	127	頁参照 D016 07

コ

	頁	保険点数	保険区分
有核細胞数(穿刺液)	116	-	
有機モノカルボン酸定量→ピルビン酸	12	47	D007 13
有機モノカルボン酸定量→乳酸	12	47	D007 13
遊離コレステロール(F-Cho)	4	11	D007 01
遊離サイロキシン(F-T ₄)	27	121	D008 14
遊離脂肪酸(FFA・NEFA)	4	59	D007 19
遊離テストステロン	34	159	D008 27
遊離トリヨードサイロニン(F-T ₃)	27	121	D008 14
遊離L鎖κ/λ比(FLC)	69	388	D015 29
遊離βHCG(HCGβサブユニット)	35	129	D008 17
ユービット→尿素呼吸試験	61	70	D023-2 02
ユニコソ→テオフィリン	106	※	B001 02
ユニフィル→テオフィリン	106	※	B001 02

コ

	頁	保険点数	保険区分
葉酸	18	146	D007 41

ラ

	頁	保険点数	保険区分
ラミクタール→ラモトリギン	102	※	B001 02
ラモトリギン	102	※	B001 02
卵巣悪性腫瘍推定値→ROMA	42	-	
卵胞刺激ホルモン(FSH)	26	105	D008 12
ランドセン→クロナゼパム	101	※	B001 02

リ

	頁	保険点数	保険区分
リウマトイド因子(RF)定性	62	-	
リウマトイド因子(RF)定量	62	30	D014 02
リストセチンコファクター→フォン・ウィルブランド因子活性	97	126	D006 14
リスモダン→ジソピラミド	104	※	B001 02
リゾチーム	10	-	
リチウム→炭酸リチウム	102	※	B001 02
リドカイン	104	※	B001 02
リパーゼ	9	24	D007 06
リパルタ反応(穿刺液)	115	-	
リポ蛋白分画	4	49	D007 15
リポ蛋白リパーゼ(LPL)	9	219	D007 52
リポ蛋白(a)(LP(a))	5	107	D007 27

リポトリール→クロナゼパム	101	※	B001 02
リポフラビン→ビタミンB ₂	18	235	D007 55
リポ蛋白(a)→リポ蛋白(a)	5	107	D007 27
リーマス→炭酸リチウム	102	※	B001 02
硫酸キニジン→キニジン	104	※	B001 02
緑膿菌(保菌検査)	137	-	
リン→無機リン	14	17	D007 03
淋菌核酸増幅→淋菌DNA(PCR)	59	198	D023 02
淋菌/クラミジア・トラコマチス同時測定 DNA(PCR)	59	262	D023 05
淋菌DNA(PCR)	59	198	D023 02
淋菌培養	132	132	頁参照
リン脂質(PL)	4	15	D007 02
リンパ球混合培養試験→MLC	126	-	
リンパ球幼若化検査(Con-Aによるリンパ球幼若化検査)	127	345	D016 07
リンパ球幼若化検査(PHAによるリンパ球幼若化検査)	127	345	D016 07

ル

	頁	保険点数	保険区分
ループスアンチコアグラント(LA)	65	265	D014 35
ルンベルグ反応(穿刺液)	115	-	

レ

	頁	保険点数	保険区分
レジオネラ抗原定性→尿中レジオネラ抗原定性	58	205	D012 46
レジオネラ培養	132	132	頁参照
レチクロ→網赤血球数	94	12	D005 02
レチノール→ビタミンA	18	-	
レチノール結合蛋白(RBP)	18	132	D015 15
レニン活性(PRA)	36	100	D008 08
レニン定量(ARC)	36	102	D008 10
レバチラセタム	102	※	B001 02
レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	4	174	D007 44

ロ

	頁	保険点数	保険区分
ロイシンアミノペプチダーゼ→LAP	9	11	D007 01
ロイシンリッチα2グリコ蛋白(LRG)	66	268	D007 57

A	頁	保険点数	保険区分
ABO血液型	49	24	D011 01
ACE→アンギオテンシン I 転換酵素	10	136	D007 39
ACTH→副腎皮質刺激ホルモン	26	184	D008 37
ADA→アデノシンデアミナーゼ	10	32	D007 11
ADAMTS13活性	97	400	D006 34
ADAMTS13インヒビター定量	97	1000	D006 35
ADH→AVP	26	224	D008 47
AFP→α-フェトプロテイン	41	98	D009 02
AFP-L3%→α-フェトプロテインレクチン分画	41	185	D009 26
A/G比	1	-	
AI→アルミニウム	15	109	D007 29
ALD→アルドラーゼ	9	11	D007 01
ALP(アルカリホスファターゼ)	8	11	D007 01
ALPアイソザイム(IFCC)	11	48	D007 14
ALP染色→アルカリホスファターゼ染色	95	95頁参照	D005 06
ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)(GPT)	8	17	D007 03
AMA→抗ミトコンドリア抗体	67	181	D014 21
AMA-M2→抗ミトコンドリアM2抗体	67	189	D014 22
AMH→抗ミュラー管ホルモン	34	597	D008 52
AML1-ETO t(8;21)転座→RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21)転座	121	2477	D006-5 01
AMY→アミラーゼ	9	11	D007 01
AMYアイソザイム→アミラーゼアイソザイム	12	48	D007 14
ANA→抗核抗体半定量	63	99	D014 05
Angelman症候群(15番染色体D15S10)→15染色体(アンジェルマン症候群)	119	2477	D006-5 01
APTT→活性化部分トロンボプラスチン時間	96	29	D006 07
ARC→レニン定量	36	102	D008 10
ASO→抗ストレプトリジンO定量	51	15	D012 01
AST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)(GOT)	8	17	D007 03
AT-III→アンチトロンピン活性	98	70	D006 11
ATLA→HTLV- I 抗体(第3世代)	80	159	D012 31
ATLA→HTLV- I 抗体(ラインプロット法・LIA法)	80	425	D012 60
AVP(アルギニンバソプレシン)	26	224	D008 47
AZF欠失→Y染色体微小欠失	160	-	
A6C→脳梗塞リスク評価	161	-	

B	頁	保険点数	保険区分
B群連鎖球菌(GBS)培養	132	132頁参照	
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgG、IgA、IgM、IgD、K、L	122	155	D016 01
BAP(骨型アルカリホスファターゼ)	11	157	D008 26
BCA225	42	158	D009 20
BCR-ABL1 t(9;22)転座(フィラデルフィア染色体)	121	2477	D006-5 01
BFP(塩基性フェトプロテイン)	41	150	D009 17
BGP→オステオカルシン	37	157	D008 26
B-J蛋白定性→ヘンズジョーンズ蛋白定性(尿)	109	9	
B-J蛋白同定→尿中免疫電気泳動	69	201	D015 22
BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	38	130	D008 18
BTR(総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比)	20	283	D010 05

C	頁	保険点数	保険区分
C反応性蛋白(CRP)定性	69	16	D015 01
C反応性蛋白(CRP)定量	69	16	D015 01
C-ペプチド	28	105	D008 12
Ca→カルシウム	13	11	D007 01
c-AMP→サイクリックAMP	36	165	D008 32
CA15-3	41	112	D009 06
CA19-9	41	121	D009 09
CA72-4	42	146	D009 16
CA125	41	136	D009 11
CA・RF→抗ガラクトース欠損IgG抗体定量	62	111	D014 08
C-ANCA → PR3-ANCA	66	252	D014 33
CCR4タンパク[FCM]	125	10000	D006-10

Cd→カドミウム	15	-	
CD45ゲーティング	125	1940	D005 15
CEA(癌胎児性抗原)	41	99	D009 03
CH ₅₀ →血清補体価	68	38	D015 04
ChE→コリンエステラーゼ	8	11	D007 01
CK(クレアチンキナーゼ)	9	11	D007 01
CKアイソザイム	12	55	D007 17
CK-MB	9	90	D007 22
CKS1B 1q21 増幅	121	2477	D006-5 01
Cl→クロール	13	(11)	D007 01
Cl→クロール(髄液)	114	11	D007 01
CMV→サイトメガロ(ウイルス抗体)	82	79	D012 11
CMV→サイトメガロウイルスIgG抗体	88	200	D012 44
CMV→サイトメガロウイルスIgM抗体	88	200	D012 44
Con-Aによるリンパ球幼若化検査	127	345	D016 07
CP→セルロプラスミン	1	90	D015 09
CPR→C-ペプチド	28	105	D008 12
Cr→クロム	16	-	
CRE(カルバペネム耐性腸内細菌科)(保菌検査)	137	-	
CRP定性→C反応性蛋白定性	69	16	D015 01
CRP定量→C反応性蛋白定量	69	16	D015 01
CSLEX(シアリルLe ^x 抗原)	42	156	D009 19
Cu→銅	15	23	D007 05
CYFRA21-1→シフラ	43	154	D009 18
C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)	99	253	D015 25
C1q	68	-	
C ₃ (β ₁ C/β ₁ Aグロブリン)	68	70	D015 08
C ₄ (β ₁ Eグロブリン)	68	70	D015 08

D	頁	保険点数	保険区分
Dダイマー	98	127	D006 15
D-Bil→直接ビリルビン	7	11	D007 01
DHEA-S→デヒドロエピアンドロステロンサルフェート	32	164	D008 31
DPD→デオキシピリジノリン	45	191	D008 39
DUPAN-2	41	115	D009 07
D13S319 del(13)長腕欠失	121	2477	D006-5 01

E	頁	保険点数	保険区分
EBウイルス(ウイルス抗体)	87	200	D012 44
EBウイルス(ウイルス抗体)	87	79	D012 11
EGFR遺伝子変異解析[リアルタイムPCR法]	129	2500	D004-21-1-1
EGFR遺伝子変異解析《血漿》	128	2100	D006-12
EGFRタンパク	153	690	N002 04
eGFRcreat	22	-	
eGFRcys	22	-	
EHEC O157(検便検査)	137	-	
ESBL(基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ)産性菌(保菌検査)	137	-	
ESR→赤血球沈降速度	94	(9)	D005 01
E ₂ →エストラジオール(血清)	33	167	D008 33

F	頁	保険点数	保険区分
F-Cho→遊離コレステロール	4	11	D007 01
FDP→フィブリン・フィブリノゲン分解産物(血漿FDP)	98	80	D006 10
FDP→線維素分解産物(尿中FDP)	110	72	D001 07
Fe→鉄	14	11	D007 01
FFA→遊離脂肪酸	4	59	D007 19
Fib→フィブリノゲン定量	96	23	D006 04
FLC→遊離L鎖κ / λ比	69	388	D015 29
FSH→卵巣刺激ホルモン	26	105	D008 12
F-T ₃ →遊離トリヨードサイロニン	27	121	D008 14
F-T ₄ →遊離サイロキシニン	27	121	D008 14
FTA-ABS試験 定性	51	134	D012 23
FTA-ABS試験 半定量	51	134	D012 23

索引 (アルファベット)

G	頁	保険点数	保険区分
GA→グリコアルブミン	3	55	D007 17
GB→全血比重	94	-	
G-band法(血液疾患)	120	2874	D006-5(03)+ D006-5(注)
G-band法(先天性疾患)	119	2874	D006-5(03)+ D006-5(注)
GBM→抗糸球体基底膜抗体	66	262	D014 32
GBS→B群連鎖球菌(GBS)培養	132	132頁参照	
GH→成長ホルモン	25	105	D008 12
GOT→AST	8	17	D007 03
GPT→ALT	8	17	D007 03
GU→グアナゼ	10	35	D007 12

H	頁	保険点数	保険区分
HA→馬尿酸	17	-	
HA-IgG抗体	78	146	D013 08
HA-IgM抗体	78	146	D013 08
HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	38	221	D008 46
Hb→ヘモグロビン	93	21	D005 05
HbA1c	3	49	D005 09
HBs抗原定性	77	29	D013 01
HBs抗原	77	88	D013 03
HBs抗体定性	77	32	D013 02
HBs抗体半定量	77	32	D013 02
HBs抗体	77	88	D013 03
HBc抗体	77	130	D013 06
HBc-IgM抗体	77	146	D013 08
HBe抗原	77	98	D013 04
HBe抗体	77	98	D013 04
HBVゲノタイプ(判定)	78	330	D023 09
HBVプロコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査(HBV-DNA PC・CP)	78	450	D023 17
HBV-DNA定量(リアルタイムPCR法)	78	256	D023 04
HCG→ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量	35	130	D008 18
HCGβサブユニット→遊離βHCG	35	129	D008 17
HCV検診セット(C型肝炎ウイルス検診)	159	-	
HCV群別	79	215	D013 11
HCVコア抗原	79	102	D013 05
HCV抗体	79	102	D013 05
HCV-RNA定量(リアルタイムPCR法)	79	412	D023 15
HDL-コレステロール(HDL-C)	3	17	D007 03
HDL-C→HDL-コレステロール	3	17	D007 03
HER2/neuタンパク(病理組織)	153	690	N002 03
HE4 → ヒト精巣上体蛋白4	42	200	D009 29
H-FABP定量(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	2	131	D007 36
Hg→水銀	16	-	
HGF→肝細胞増殖因子	2	227	D007 54
HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	50	390	D011 10
HIV-1RNA定量(リアルタイムPCR法)	81	520	D023 18
HIV-1/2抗体確認検査	81	660	D012 63
HIV抗原・抗体	81	127	D012 20
HLA-A(DNAタイピング)	126	-	
HLA-A,B(血清対応型タイピング)	126	-	
HLA-B(DNAタイピング)	126	-	
HLA-C(DNAタイピング)	126	-	
HLA-DPB1(DNAタイピング)	126	-	
HLA-DQB1(DNAタイピング)	126	-	
HLA-DR(血清対応型タイピング)	126	-	
HLA-DRB1(DNAタイピング)	126	-	
HP抗体→ヘリコバクター・ピロリ抗体	55	80	D012 12
HPV-DNA検出(高リスク)	91	347	D023 10
HPV-DNA簡易ジェノタイプ(16型,18型,その他ハイリスクグループ)	91	347	D023 11
HPV-DNAジェノタイプ(ハイリスク13種)	91	2000	D023 25
HPV-DNA型別	91	-	
HSV→単純ヘルペス(ウイルス抗体)	82・84	79	D012 11

HSV→単純ヘルペスIgG抗体	88	200	D012 44
HSV→単純ヘルペスIgM抗体	88	200	D012 44
HSV→単純ヘルペスウイルス(HSV)抗原	90	180	D012 39
Ht→ヘマトクリット	93	21	D005 05
HTLV-I抗体(第3世代)(ATLA)	80	159	D012 31
HTLV-I抗体(ATLV)[ラインプロット法・LIA法]	80	425	D012 60
HVA→ホモパニリン酸	29	69	D008 03

I	頁	保険点数	保険区分
ICA→抗ランゲルハンス島細胞抗体	161	-	
IEP→免疫電気泳動(抗ヒト全血清による定性)	69	170	D015 17
IEP→免疫電気泳動(免疫固定法によるM蛋白固定)	69	218	D015 24
IgA	68	38	D015 04
IgE(非特異的IgE)	73	100	D015 11
IgEシングルアレルゲン	73	110	D015 13
IgE特異的アレルゲン(疾患別セット)・10アレルゲンセット	74	1100	D015 13
IgE特異的アレルゲン(疾患別セット)・13アレルゲンセット	74	1430	D015 13
IgEマルチアレルゲン	73	110	D015 13
IGF-1→ソマトメジンC	25	212	D008 42
IgG	68	38	D015 04
IgG型リウマトイド因子(IgG-RF)	62	198	D014 26
IgG-RF→IgG型リウマトイド因子	62	198	D014 26
IgG2	68	239	D014 31
IgG4	68	377	D014 41
IgM	68	38	D015 04
IGH-CCND1 t(11;14)転座	121	2477	D006-5 01
IGH-MYC t(8;14)転座	121	2477	D006-5 01
IGH-FGFR3 t(4;14)転座	121	2477	D006-5 01
IGH-MAF t(14;16)転座	121	2477	D006-5 01
IL-2R→インターロイキン2受容体	46	438	D009 36
IP→無機リン	14	17	D007 03
IRG→グルカゴン	28	150	D008 23
IRI→インスリン	28	100	D008 08

K	頁	保険点数	保険区分
K→カリウム	13	11	D007 01
K→カリウム(髄液)	114	11	D007 01
KL-6	22	111	D007 28

L	頁	保険点数	保険区分
L型脂肪酸結合蛋白→L-FABP	111	210	D001 19
L-ドーパ	29	-	
LA→ループスアンチコアグラント	65	265	D014 35
LAP(ロイシンアミノペプチダーゼ)	9	11	D007 01
LD/IFCC(乳酸脱水素酵素)	8	11	D007 01
LDアイソザイム	11	48	D007 14
LDL-C→LDL-コレステロール	3	18	D007 04
LDL-コレステロール(LDL-C)	3	18	D007 04
L-FABP	111	210	D001 19
LH→黄体形成ホルモン	26	105	D008 12
LP(a)→リポ蛋白(a)	5	107	D007 27
LPL→リポ蛋白リパーゼ	9	219	D007 52
LST→薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	127	127頁参照	D016 07
LRG→ロイシンリッチα ₂ グロブリン	66	268	D007 57

M	頁	保険点数	保険区分
M2BPGi(MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	20	194	D007 50
MA→マンデル酸及びフェニルグリオキシ酸総量	17	-	
MAC DNA(PCR)(マイコバクテリウム・アピウム及びイントラセラー核酸検出)	58	421	D023 16
MAC抗体	52	116	D012 18
MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体→M2BPGi	20	194	D007 50
MBL(メタロβ-ラクタマーゼ)産生菌(保菌検査)	137	-	

MBP→ミエリン塩基性蛋白	113	570	D004 12
MDRA(多剤耐性アシネトバクター)(保菌検査)	137	-	
MDRP(多剤耐性緑膿菌)(保菌検査)	137	-	
Mg→マグネシウム	14	11	D007 01
MHA→メチル馬尿酸	17	-	
MLC(リンパ球混合培養試験)	126	-	
MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	62	116	D014 09
Mn→マンガン	16	27	D007 08
MPO-ANCA(P-ANCA)(抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	66	251	D014 32
mRF-IC→モノクローナルRF結合免疫複合体	62	194	D014 25
MRSA(保菌検査)	137	-	
MRSA培養	131	131	頁参照

N 頁 保険点数 保険区分

N-メチルホルムアミド	17	-	
Na→ナトリウム	13	(11)	D007 01
Na→ナトリウム(髄液)	114	11	D007 01
NAG	110	41	D001 05
NCC-ST-439	41	112	D009 06
NEFA →遊離脂肪酸	4	59	D007 19
NH ₃ →アンモニア	7	50	D007 16
Ni→ニッケル	16	-	
NK細胞活性	127	-	
non-HDL-コレステロール(non-HDL-C)	3	-	
NSE(神経特異エノラーゼ)	44	142	D009 14
NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント)	38	130	D008 18
NT _x (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド)	45	156	D008 27

P 頁 保険点数 保険区分

P型アミラーゼ→膵アミラーゼ(P-AMY)	9	48	D007 14
P ₂ →プレグナンジオール	34	213	D008 43
P ₃ →プレグナントリオール	34	232	D008 48
P-III -P→プロコラーゲン-III - ペプチド	1	136	D007 39
PAC/PRA 比→アルドステロン/レニン活性比	32	-	
PAC/PRC 比→アルドステロン/レニン定量比	32	-	
PAI-1→プラスミノゲンアクチベーターインヒビター 1	99	240	D006 32
PA-IgG→血小板関連IgG	50	190	D011 06
P-AMY→膵アミラーゼ	9	48	D007 14
P-ANCA→MPO-ANCA(P-ANCA)(抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	66	251	D014 32
PAS染色	95	95	頁参照
Pb→鉛	15	-	
PCT→プロカルシトニン定量	56	276	D007 59
PF→蛋白分画	1	18	D007 04
PF4→血小板第4因子	100	173	D006 25
PF ₄ (PABA 排出率)(脾機能)	22	100	D289 01
PG I・II→ペプシノゲン I・II	11	-	
pH(髄液)	114	62	D004 03
pH(精液)	113	70	D004 04
pH(穿刺液)	115	-	
pH(尿)	109	(26)	D000
PHAによるリンパ球幼若化検査	127	345	D016 07
phi→プロステートヘルスインデックス	43	271	D009 09
PIC→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	98	150	D006 21
PIVKA II 定量(腫瘍マーカー)	44	131	D009 10
PL→リン脂質	4	15	D007 02
PLA ₂ →膵ホスホリパーゼA ₂	11	204	D007 49
PLT→血小板数	93	21	D005 05
PML-RARA t(15;17)転座	121	2553	D006-5 01
PR3-ANCA(C-ANCA)(抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体)	66	252	D014 33
PRA→レニン活性	36	100	D008 08
Prader-Willi症候群(15番染色体SNRPN)→15染色体(ブラダーウィリ症候群)	119	2477	D006-5 01
PRL→プロラクチン	26	98	D008 06
Pro GRP(ガストリン放出ペプチド前駆体)	44	175	D009 24
PSA(前立腺特異抗原)	43	121	D009 09

PT→プロトロンビン時間	96	18	D006 02
PTH-Intact→副甲状腺ホルモン	27	161	D008 29
PTHrP→副甲状腺ホルモン関連蛋白	27	186	D008 38
p53 17p13 欠失→TP53 del(17)短腕欠失	121	2477	D006-5 01

Q 頁 保険点数 保険区分

QFTプラス→結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	58	593	D015 30
----------------------------	----	-----	---------

R 頁 保険点数 保険区分

RAS/BRAF変異解析	129	4000	D004-2 注工
RBC→赤血球数	93	21	D005 05
RBP→レチノール結合蛋白	18	132	D015 15
RF定性(リウマトイド因子)→リウマトイド因子定性	62	-	
RF定量(リウマトイド因子)→リウマトイド因子定量	62	30	D014 02
Rh(D)血液型	49	24	D011 02
Rh-Hr式血液型	49	148	D011 03
RLP-C→レムナント様リポ蛋白コレステロール	4	174	D007 44
ROMA(卵巣悪性腫瘍推定値)	42	-	
RPR(梅毒)定性	51	15	D012 01
RPR(梅毒)半定量	51	34	D012 05
RS(ウイルス抗体)	82-84	79	D012 11
RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21)転座	121	2477	D006-5 01

S 頁 保険点数 保険区分

SAA→血清アミロイドA蛋白	69	47	D015 06
SCC抗原→扁平上皮癌関連抗原	43	101	D009 04
SFMC→可溶性フィブリノモノマー複合体	98	93	D006 13
Single-color 解析によるリンパ球マーカー検査 →モノクローナル抗体によるリンパ球マーカーの自動解析	123	-	
SLX(シアルリルLe ^x -i抗原)	42	140	D009 13
Span-1	42	144	D009 15
SP-A(肺サーファクタント蛋白A)	22	130	D007 35
SP-D(肺サーファクタント蛋白D)	22	136	D007 39
STN→シアルリルTn抗原	42	146	D009 16

T 頁 保険点数 保険区分

T ₃ →トリヨードサイロニン	27	99	D008 07
T ₄ →サイロキシン	27	105	D008 11
TARC(Th2ケモカイン)	73	179	D015 18
TAT→トロンビン・アンチトロンビン複合体	99	171	D006 24
TBA→総胆汁酸	5	47	D008 18
TBG→サイロキシン結合グロブリン	27	130	D008 17
T-Bil→総ビリルビン	7	11	D007 01
TB-PCR→結核菌DNA(PCR)	58	410	D023 14
TCA→三塩化(トリクロル)酢酸	17	-	
T-Cho→総コレステロール	3	17	D007 03
Tf →トランスフェリン	69	60	D015 07
TG→中性脂肪	4	11	D007 01
Tg→サイログロブリン	27	128	D008 18
Th2 ケモカイン→TARC	73	179	D015 19
TIBC→総鉄結合能(直接比色法/ニトロソPSAP法(計算法))	14	11	D007 01
TL→総脂質	4	-	
TM→トロンボモジュリン	99	204	D006 27
TnT→心筋トロポニン T	2	109	D007 29
total P I NP(I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	11	160	D008 28
TP→総蛋白	1	11	D007 01
TPHA(梅毒)定性	51	32	D012 04
TPHA(梅毒)半定量	51	53	D012 06
TP53 del(17)短腕欠失	121	2477	D006-5 01
TRAb(第3世代)→TSHレセプター抗体(第3世代)	63	214	D014 27
TRACP-5b定量(酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	45	156	D008 25
TSAb(甲状腺刺激抗体)	63	330	D014 40
TSH→甲状腺刺激ホルモン	26	98	D008 06

索引 (アルファベット・ギリシャ文字・数字)

TSHレセプター抗体(第3世代)	63	214	D014 27
T-SPOT.TB→結核菌特異的インターフェロン- γ 産生能	58	593	D015 30
TTC→総三塩化物	17	-	
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	124	124 頁参照	D016 02
T細胞サブセット(CD4,CD8)	122	190	D016 02
T細胞・B細胞百分率(CD3,CD19)	122	193	D016 03

U

UA→尿酸	6	11	D007 01
UBT→尿素呼吸試験	61	70	D023-2 02
ucOC→低カルボキシル化オステオカルシン	37	154	D008 24
UGT1A1 遺伝子多型解析	130	2004	D006-7
UIBC→不飽和鉄結合能(ニトロソPSAP法)	14	11	D007 01
UN→尿素窒素	6	11	D007 01

V

Viewアレルギー39	73	1430	D015 13
VMA→バニールマンデル酸	30	90	D008 04
VMA 定性(尿)	109	9	D001 02
v.W因子活性	97	126	D006 14
v.W因子抗原定量	97	147	D006 20
VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)(保菌検査)	137	-	
VZV→水痘・帯状ヘルペス(ウイルス抗体)	82	79	D012 11
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペス(VZV)抗原	90	227	D012 51
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペスIgG抗体	88	200	D012 44
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペスIgM抗体	88	200	D012 44

W

WBC→白血球数	93	21	D005 05
Whole-PTH	27	161	D008 29

Y

Y染色体微小欠失(AZF欠失)	160	-	
-----------------	-----	---	--

Z

Zn→亜鉛	15	132	D007 37
-------	----	-----	---------

α

α -フェトプロテイン(AFP)	41	98	D009 02
α -フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	41	185	D009 26
α FP→ α -フェトプロテイン	41	98	D009 02
α_1 -アシドグリコプロテイン→ α_1 -酸性糖蛋白	44	-	
α_1 -アンチトリプシン	69	80	D006 10
α_1 -マイクログロブリン(α_1 -MG)	2	129	D015 14
α_1 -酸性糖蛋白(α_1 -AGP)	44	-	
α_1 -AGP→ α_1 -酸性糖蛋白	44	-	
α_2 -プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	98	128	D006 16
α_2 -プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC)→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	98	150	D006 21
α_2 -PIC→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	98	150	D006 21

B

β -トロンボグロブリン(β -TG)	100	171	D006 24
β -リボ蛋白(β -LP)	4	-	
β -D-グルカン→(1→3)- β -D-グルカン	56	195	D012 42
β -LP→ β -リボ蛋白	4	-	
β -TG→ β -トロンボグロブリン	100	171	D006 24
β_1 C/ β_1 Aグロブリン→C ₃	68	70	D015 08
β_1 Eグロブリン→C ₄	68	70	D015 08
β_2 -マイクログロブリン(β_2 -MG)	2	98	D015 10

γ

γ -GT(γ -グルタミルトランスペプチダーゼ)	8	11	D007 01
γ -セミノプロテイン→ γ -Sm	44	192	D009 28
γ -Sm(γ -セミノプロテイン)	44	192	D009 28

δ

δ -アミノレブリン酸(δ -ALA)(産業医学関連)	17	106	D001 11
δ -アミノレブリン酸(δ -ALA)	110	106	D001 11
δ -ALA→ δ -アミノレブリン酸(産業医学関連)	17	106	D001 11
δ -ALA→ δ -アミノレブリン酸	110	106	D001 11

数字

(1→3)- β -D-グルカン	56	195	D012 42
I CTP(I型コラーゲンCテロペプチド)	45	170	B001 03
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド→NT _x	45	156	D008 25
I型コラーゲンCテロペプチド→I CTP	45	170	B001 03
I型プロコラーゲン-N-プロペプチド→totalP I NP	11	160	D008 28
1 α -25-(OH) ₂ ビタミンD(1,25-ジヒドロキシビタミンD3)	19	388	D007 63
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5-AG)	3	80	D007 21
1,5-AG→1,5-アンヒドロ-D-グルシトール	3	80	D007 21
2,5-ヘキサンジオン(2,5-HD)	17	-	
IV型コラーゲン	1	131	D007 36
IV型コラーゲン7S	1	148	D007 40
5-ヒドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	29	95	D008 05
5-HIAA→5-ヒドロキシインドール酢酸	29	95	D008 05
11-ケトアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 43
11-ケトエチオコラノロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 43
11-ヒドロキシコルチコステロイド	31	60	D008 02
11-ヒドロキシアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 43
11-ヒドロキシエチオコラノロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 43
11-OHCS→11-ヒドロキシコルチコステロイド	31	60	D008 02
15染色体(プラダーウィリ症候群)、(アンジェルマン症候群)	119	2477	D006-5 01
17-ケトステロイド分画(17-KS分画)	31	213	D008 43
22染色体(22q11欠失)	119	2477	D006-5 01
25OHビタミンD[CLEIA]	19	117	D007 31

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

蛋白関連検査

1 3A010	総蛋白 (TP) (1001)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	Biuret 法	6.7 ~ 8.3 g/dL	1 2	11 生化 I	蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを同時に測定した場合は、主たるもの2つを算定する。
58 3A015	アルブミン (1077)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	BCP 改良法	3.8 ~ 5.3 g/dL	1 2	11 生化 I	ヒトアルブミンへの特異性が高いBCPを用いた方法です。
3 3A020	蛋白分画 (1003)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	セルロースアセテート膜 電気泳動法	A/G 1.36~2.26 Alb 57.5~69.2 α ₁ 2.0~3.3 α ₂ 5.9~9.7 β 8.0~12.2 γ 11.1~22.0 %	1 2	18 生化 I	
2 3A016	A/G 比 (1002)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	BCP 改良 / Biuret 法	1.20 ~ 2.00	1 2		
69 5C095	フェリチン定量 (1197)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	ラテックス凝集 比濁法	M 13 ~ 277 F 5 ~ 152 ng/mL	1 2	102 生化 I	
1075 5C010	プレアルブミン (トランスサイレチン) (4139)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA 法	22.0 ~ 40.0 mg/dL	2 4	101 生化 I	* G
174 5C045	セルロプラスミン (CP) (1175)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ネフェロメトリー法	21 ~ 37 mg/dL	4 6	90 生化 I	* 4
126 5C130	プロコラーゲン - III - ペプチド (P- III -P) (4059)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA 法	3.62 ~ 9.52 ng/mL	4 6	136 生化 I	カットオフ値 (肝に繊維化のみられる疾患) : 6.95ng/mL * 4
1095 5C135	IV型コラーゲン 7S (4413)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	4.4 以下 ng/mL	3 6	148 生化 I	IV型コラーゲン又はIV型コラーゲン・7Sは、プロコラーゲン - III - ペプチド(P - III - P) 又は、M2BPGiと併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。 * G
1060 5C134	IV型コラーゲン (4582)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	150 以下 ng/mL	4 6	131 生化 I	* 4

下記の「生化学的検査」「免疫学的検査」等において、多項目を同時に依頼の場合、各グループの必要量算式に基づいた血清量をおよその目安としてご提出下さい。

グループ 1 / 必要量算式 = (0.4 + (0.05 × 依頼項目数)) mL : 依頼項目数 ≥ 2				
1 総蛋白	31 遊離脂肪酸	10 ALT	38 ナトリウム	21 RF 定量
58 アルブミン	29 β-リポ蛋白	11 ALP	40 クロール	970 CRP 定性
2 A / G比	36 尿素窒素	12 LD	39 カリウム	20 CRP 定量
1119 グリコアルブミン	37 クレアチニン	13 コリンエステラーゼ	41 カルシウム	
1008 1,5-AG	57 クレアチン	14 γ-GT	43 マグネシウム	
28 総コレステロール	34 尿酸	15 LAP	42 無機リン	
2632 LDL コレステロール	51 総ビリルビン	165 アルドラーゼ	45 鉄	
54 HDL コレステロール	52 直接ビリルビン	16 CK	47 UIBC (ニトロソPSAP法)	
56 遊離コレステロール	9 AST	27 アミラーゼ	44 銅	
30 中性脂肪		60 リパーゼ	22 抗ストレプトリジンO定量	
33 リン脂質		245 ADA	971 RF 定性	

生化学的検査

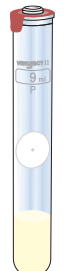
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

蛋白関連検査


1113 4Z315	肝細胞増殖因子 (HGF) (1318)	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	EIA 法	0.39 以下 ng/mL	4 ↓ 10	227 生化 I	肝炎にて劇症化が疑われる 場合又は劇症肝炎の経過 観察に用いた場合に限り算 定する。 * 1
117 5C015	α ₁ -ミクログロブリン (α ₁ -MG) (1193)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	12.7 ~ 27.3 mg/L	2 ↓ 4	129 免疫	* G
589 5C015		尿 1.0	C-3 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	11.0 以下 mg/L	2 ↓ 4	129 免疫	* G
70 5C065	β ₂ -ミクログロブリン (β ₂ -MG) (1195)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	2.0 以下 mg/L	1 ↓ 2	98 免疫	
544 5C065		尿 1.0	C-3 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	289 以下 μg/L	1 ↓ 3	98 免疫	PH5.5以上を確認し、提出 して下さい。
175 5C090	ミオグロビン定量 (1169)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	85 以下 ng/mL	2 ↓ 3	131 生化 I	H-FABPと同時算定不可 * G
7783 5C090		尿 8.0	ア 冷蔵	CLEIA 法	2.0 未満 ng/mL	4 ↓ 5	131 生化 I	* E
729 5C091	H-FABP 定量 (ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白) (1712)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	6.2 以下 ng/mL	1 ↓ 2	131 生化 I	急性心筋梗塞の診断に用い た場合に限り算定する。ミ オグロビンと同時算定不可。
1092 5C092	心室筋ミオシン軽鎖 I (1114)	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	2.5 以下 ng/mL	4 ↓ 7	184 生化 I	1日につき1回のみ算定す る。 * 1
1055 5C093	心筋トロポニン T (TnT) (1198)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA 法	0.014 以下 ng/mL	2 ↓ 4	109 生化 I	急性心筋梗塞診断のカット オフ値: 0.100ng/mL * G

生化学

A1-1
血清分離
冷蔵保存




C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保
存 (尿量記載の必要な
し)



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



ア
採尿した尿を入れ
よく混和させ、
冷蔵保存
(凍結不可)



安定化剤

実施料について(生化 I)

一回に採取した血液を用いて
青色で表記されている検査を
5項目以上行った場合

- 5項目以上7項目以下の場合
1. 生化 I 93点
- 8項目又は9項目の場合
2. 生化 I 99点
- 10項目以上の場合
3. 生化 I 106点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

糖関連検査

490 3D010	血糖 (グルコース) (1055)	血漿 1.0	J 冷蔵	酵素法	空腹時 70~109 mg/dL	1 2	11 生化I	緊急
1119 3D055	グリコアルブミン (GA) (1502)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	酵素法	11.0~16.0 %	1 2	55 生化I	HbA1c、グリコアルブミン又は1,5AGのうちいずれかを同一月中に合わせて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定可。
1008 3D085	1,5-アンヒドロ-D- グルシトール (1,5-AG) (1316)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	酵素法	14.0以上 μg/mL	1 2	80 生化I	
163 3D046	HbA1c (NGSP) (2131)	全血 2.0	J 冷蔵	酵素法	4.6~6.2 %	1 2	49 血液	凍結不可

脂質関連検査

28 3F050	総コレステロール (T-Cho) (1010)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	130~219 mg/dL	1 2	17 生化I	
2632 3F077	LDL-コレステロール (LDL-C) (1115)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	70~139 表1参照 mg/dL	1 2	18 生化I	HDLコレステロール、総コレステロール及びVLDLコレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つに限り算定する。
54 3F070	HDL-コレステロール (HDL-C) (1013)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	M 40~86 F 40~96 表1参照 mg/dL	1 2	17 生化I	
1695	non-HDL-コレステロール (non-HDL-C) (1695)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法・計算法	なし 表1 mg/dL	1 2		
1713 3F150	コレステロール分画 (1596)	血清 0.2	A1-2 冷蔵	アガロース電気泳動法	HDL 17.1~42.4 LDL 51.0~76.7 VLDL 1.3~18.6 %	2 4	57 生化I	凍結不可

(表1) 動脈硬化性疾患予防のためのスクリーニングにおける脂質異常症診断基準 (空腹時採血*)

(動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017年度版より)

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120~139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症
non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150~169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

- LDL-CはFriedewald式(TC-HDL-C-TG/5)または直接法で求める。
- TGが400mg/dL以上や食後採血の場合はnon-HDL-C(TC-HDL-C)かLDL-C直接法を使用する。但しスクリーニング時に高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

* 10時間以上の絶食を「空腹時」とする。但し、水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。

** スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。

(表2) 新生児・乳児におけるUSBA検査結果の見方

USBAクレアチニン補正值 (基準値: 55.00 μmol/g・CRE 以下)	判定	備考
55.00 μmol/g・CRE 以下	正常	黄疸の遷延、白色便などの肝・胆道系疾患の臨床症状がある場合、念のため経過観察を実施して下さい。
55.00 μmol/g・CRE 超		
但し、尿中クレアチニンが2.5mg/dL未満の場合はUSBA実測値のみで判定する。USBA実測値: 5.00 μmol/L以下	再検査 精査	肝・胆道系疾患が疑われます。

注) USBAは、胆道閉鎖症だけでなく他の肝疾患(新生児肝炎など)でも高値を示します。

生化学的検査

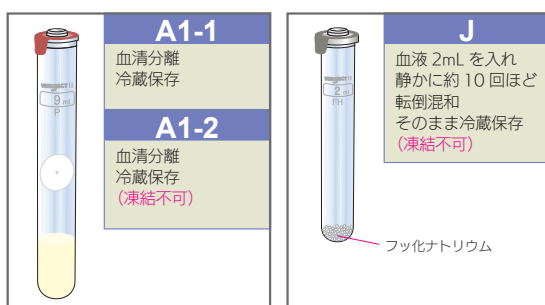
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

脂質関連検査

128 3F078	レムナント様リポ蛋白 コレステロール (RLP-C) (1097)	血清 0.4	A1-2 冷蔵	酵素法	7.5 以下 mg/dL 糖尿病、冠動脈疾患等の既往歴がある場合は、5.2mg/dL以上がハイリスク域といわれています。	1 3	174 生化 I	凍結不可 3か月に1回のみ算定できる。
56 3F065	遊離コレステロール (F-Cho) (1012)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	31 ~ 64 mg/dL	1 2	11 生化 I	
30 3F015	中性脂肪 (TG) (1016)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	35 ~ 149 mg/dL 表1参照	1 2	11 生化 I	
32 3F010	総脂質 (TL) (1017)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	計算法	380 ~ 800 mg/dL	1 2		
33 3F025	リン脂質 (PL) (1018)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	酵素法	150 ~ 250 mg/dL	1 2	15 生化 I	
31 3F035	遊離脂肪酸 (FFA・NEFA) (1019)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	空腹時 0.14 ~ 0.85 mEq/L	1 2	59 生化 I	
29 3F130	β - リポ蛋白 (β -LP) (1015)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	比濁法	170 ~ 500 mg/dL	1 2		
100 3F135	リポ蛋白分画 (1065)	血清 0.2	A1-2 冷蔵	アガロース 電気泳動法	M α 26.9~50.5 Preβ 7.9~23.8 β 35.3~55.5 Origin 0.0~4.7 F α 32.6~52.5 Preβ 6.6~20.8 β 33.6~52.0 Origin 0.0~4.4 %	2 4	49 生化 I	凍結不可

生化学

※1 新生児肝胆道疾患スクリーニングとしての採尿時期は、生後3週間前後です。なお、採尿にあたっては、できるだけ大便が混入しないようにして下さい。

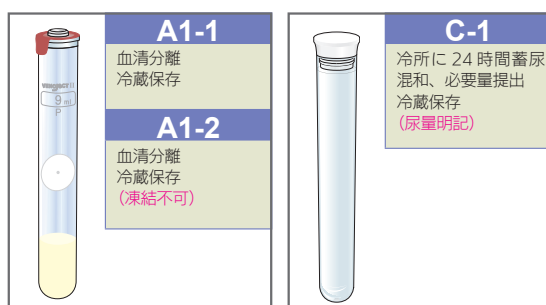


実施料について(生化 I)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化 I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化 I 99点
3.	10項目以上の場合 生化 I 106点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
脂質関連検査								
625 3F180	アポリポ蛋白 A- I (1176)	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA 法	M F 119 ~ 155 126 ~ 165 mg/dL	2 3	※ 生化 I	凍結不可 アポリポ蛋白は、A I、A II、B、 C II、C III 及び E のうち、測 定した項目数に応じて、以下 の所定点数を算定する。 イ 1項目の場合31 ロ 2項目の場合62 ハ 3項目以上の場合94
626 3F185	アポリポ蛋白 A- II (1177)	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA 法	M F 25.9 ~ 35.7 24.6 ~ 33.3 mg/dL	2 3		
627 3F190	アポリポ蛋白 B (1178)	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA 法	M F 73 ~ 109 66 ~ 101 mg/dL	2 3		
628 3F195	アポリポ蛋白 C- II (1179)	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA 法	M F 1.8 ~ 4.6 1.5 ~ 3.8 mg/dL	2 3		
629 3F200	アポリポ蛋白 C- III (1180)	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA 法	M F 5.8 ~ 10.0 5.4 ~ 9.0 mg/dL	2 3		
630 3F205	アポリポ蛋白 E (1181)	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA 法	M F 2.7 ~ 4.3 2.8 ~ 4.6 mg/dL	2 3		
1010 3F156	リポ蛋白 (a) (LP (a)) (4378)	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA 法	(参考値) 30.0 以下 mg/dL	2 3		
72 3F110	総胆汁酸 (TBA) (1165)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	10.0 以下 μ mol/L	2 4	47 生化 I	※1

※ 1 肝胆道疾患の診断の目的で尿中硫酸抱合型胆汁酸測定を酵素法により実施した場合は、コレステロール分画に準じて算定する。但し、胆汁酸を同時に測定した場合には、いずれか一方の所定点数のみを算定する。尿中硫酸抱合型胆汁酸と同時算定不可。



生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

蛋白・含窒素成分関連検査

36 3C025	尿素窒素 (UN)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	ウレアーゼ・ GLDH (アンモニア 消去) 法	8 ~ 22 mg/dL	1 2	11 生化 I	緊急 (対象: 血清) 随時尿でのご依頼も可能です。 (報告単位: mg/dL)
524 3C025		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	ウレアーゼ・ GLDH (アンモニア 消去) 法	6.5 ~ 13.0 g/day	1 2	11 生化 I	
37 3C015	クレアチニン	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	M 0.61 ~ 1.04 F 0.47 ~ 0.79 mg/dL	1 2	11 生化 I	緊急 (対象: 血清) 随時尿でのご依頼も可能です。 (報告単位: mg/dL)
525 3C015		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	酵素法	0.5 ~ 1.5 g/day	1 2	11 生化 I	
2454 3C016	シスタチン C	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	M 0.63 ~ 0.95 F 0.56 ~ 0.87 mg/L	2 3	112 生化 I	※1
57 3C010	クレアチン	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	0.17 ~ 1.00 mg/dL	1 2	11 生化 I	随時尿でのご依頼も可能です。 (報告単位: mg/dL) *G
526 3C010		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	酵素法	0.15 以下 g/day	1 2	11 生化 I	
34 3C020	尿酸 (UA)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	ウリカーゼ・ ペルオキシダーゼ法	M 3.7 ~ 7.0 F 2.5 ~ 7.0 mg/dL	1 2	11 生化 I	随時尿でのご依頼も可能です。 (報告単位: mg/dL)
523 3C020		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	ウリカーゼ・ ペルオキシダーゼ法	※2 0.4 ~ 1.2 g/day	1 2	11 生化 I	

※ 1 尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。但し、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※ 2 基準値上限は、日本痛風・核酸代謝学会「高尿酸血症・痛風の治療ガイド」における高尿酸血症の定義に基づいております。

実施料について(生化 I)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1.	5項目以上7項目以下の場合 生化 I	93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化 I	99点
3.	10項目以上の場合 生化 I	106点

生化学的検査

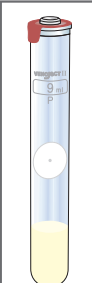



項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	-----

蛋白・含窒素成分関連検査

75 3C040	アンモニア (NH ₃) (1092)	全血 1.0 ↓ 除蛋白 上清 3.0	M ↓ G-1 凍結	酵素サイクリング法	12 ~ 66 μg/dL	1 ↓ 2	50 生化 I	緊急 真空採血厳禁
-------------	---------------------------------------	------------------------------	---------------------	-----------	----------------------	-------------	------------	--------------

色素

51 3J010	総ビリルビン (T-Bil) (1023)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	バナジウム酸化法	0.2 ~ 1.1 mg/dL	1 ↓ 2	11 生化 I	
52 3J015	直接ビリルビン (D-Bil) (1024)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	バナジウム酸化法	0.4 以下 mg/dL	1 ↓ 2	11 生化 I	
172 5C041	ハプトグロビン (型判定含む) (4058)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ネフェロメトリー法	1-1 型 83 ~ 209 2-1 型 66 ~ 218 2-2 型 25 ~ 176 mg/dL	4 ↓ 6	129 免疫	* 4
1118 5C040	ハプトグロビン (型判定なし) (4026)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA 法	19 ~ 170 mg/dL	2 ↓ 4	129 免疫	* G
5070 3J040	コプロポルフィリン定量 (5070)	全血 1.5	F-5 遮光 冷蔵	HPLC 変法	(赤血球) 1 以下 μg/dL RBC	5 ↓ 11	210 生化 I	凍結不可 * E

 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p> <p>A1-2 血清分離 冷蔵保存 (凍結不可)</p>	 <p>F-5 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p> <p>ヘパリン5mL用 又は10mL用</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>	 <p>M 血液を正確に 1mL 入れ十分に振とう 混和すみやかに遠心 分離後 (上清を直ちに) (凍結保存) 保存はポリ試験管 容器に移すとき、沈 殿物が混ざらないよ う注意して下さい</p> <p>タングステン酸 ナトリウム4mL</p>
---	--	---	--

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

色素

2611 3J055	プロトポルフィリン定量 (血中) (5894)	全血 1.0	F-5 遮光 冷蔵	HPLC 法	(赤血球) 30 ~ 86 μg/dL RBC	5 11	272 生化 I	凍結不可 17頁参照 *4
---------------	----------------------------	--------	-----------------	--------	----------------------------	---------	-------------	---------------------

酵素

9 3B035	AST (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ) (GOT) (1029)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC 標準化対応法	10 ~ 40 U/L	1 2	17 生化 I	緊急 溶血血清は高値を示す場合 があります。
10 3B045	ALT (アラニンアミノトランスフェラーゼ) (GPT) (1030)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC 標準化対応法	5 ~ 45 U/L	1 2	17 生化 I	緊急 溶血血清は高値を示す場合 があります。
1765 3B070	ALP / IFCC (アルカリホスファターゼ) (1694)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IFCC 標準化対応法	38 ~ 113 U/L	1 2	11 生化 I	
1766 3B050	LD / IFCC (乳酸脱水素酵素) (1766)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IFCC 標準化対応法	115 ~ 245 U/L	1 2	11 生化 I	緊急 凍結不可 溶血血清は高値を示す場合 があります。
13 3B110	コリンエステラーゼ (ChE) (1036)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	JSCC 標準化対応法 (基質: BZTC)	M 235 ~ 494 F 196 ~ 452 U/L	1 2	11 生化 I	
14 3B090	γ-GT (γ-グルタミルトランスペプチダーゼ) (1038)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	JSCC 標準化対応法	M 75 以下 F 45 以下 U/L	1 2	11 生化 I	

実施料について(生化 I)

一回に採取した血液を用いて 青色で表記されている検査を 5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化 I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化 I 99点
3.	10項目以上の場合 生化 I 106点

生化学的検査

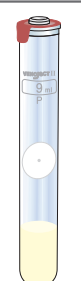
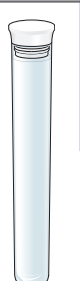


項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

酵素

15 3B135	LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ) (1034)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	L-ロイシル-P-ニトロアニリド基質法	30 ~ 70 U/L	1 2	11 生化I	
165 3B100	アルドラーゼ (ALD) (1039)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	UV法	1.2 ~ 7.6 U/L	1 2	11 生化I	
16 3B010	CK (クレアチンキナーゼ) (1040)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC 標準化対応法	M F 50 ~ 250 45 ~ 210 U/L	1 2	11 生化I	
1150 3B015	CK-MB (1117)	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLEIA法	0.6 ~ 6.3 ng/mL	2 3	90 生化I	*G
27 3B160	アミラーゼ (AMY) (1042)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	JSCC 標準化対応法 (G3-CNP 基質)	37 ~ 125 U/L	1 2	11 生化I	緊急 (対象: 血清) アミラーゼ、リパーゼ、アミラーゼアイソザイム、トリプシン又はエラスターゼ ¹ を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
522 3B160		尿 5.0	C-3 冷蔵	JSCC 標準化対応法 (G3-CNP 基質)	60 ~ 790 U/L	1 2	11 生化I	
1005 3B175	膵アミラーゼ (P-AMY) (1320)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	G3-CNP 基質免疫阻害法	16 ~ 52 U/L	2 3	48 生化I	アミラーゼアイソザイム
60 3B180	リパーゼ (1043)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	酵素法	13 ~ 55 U/L	1 2	24 生化I	アミラーゼ、リパーゼ、アミラーゼアイソザイム、トリプシン又はエラスターゼ ¹ を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
1009 3F160	リポ蛋白リパーゼ (LPL) (1319)	血漿 0.5	F-3 ↓ G-1 凍結	ELISA法	164 ~ 284 ng/mL	4 10	219 生化I	*1 *E

注1 (リポ蛋白リパーゼ採血上の注意事項) 早朝空腹時にヘパリンを体重1kg当り30単位静注し、15分後に採血して下さい。

*1 高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合に限り算定できる。又、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは、薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。

 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>C-3 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>	 <p>F-3 採血後静かに約10 回ほど転倒混和 血漿分離 (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用</p> <p>ヘパリン5mL用 又は10mL用</p>
--	--	---	---

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
245 3B130	アデノシンデアミナーゼ (ADA) (1096)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	10.0 ~ 31.0 U/L	1 2	32 生化 I	
120 3B125	グアナーゼ (GU) (1095)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法	1.0 以下 U/L	4 6	35 生化 I	*4
244 3B255	リゾチーム (4068)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	比濁法	5.0 ~ 10.2 μg/mL	4 6		
542 3B255		尿 0.4	C-3 冷蔵	比濁法	0.1 未満 μg/mL	4 6		*4
166 3B325	アンギオテンシンⅠ転換酵素 (ACE) (1170)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	笠原法	8.3 ~ 21.4 U/L	2 4	136 生化 I	*G
646 3B185	トリプシン (1168)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	210 ~ 570 ng/mL	2 4	189 生化 I	緊急 (対象:血清) アミラーゼ、リパーゼ、アミラーゼアイソザイム、トリプシン又はエラスターゼ1を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。 *G

生化学

実施料について(生化 I)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

- 5項目以上7項目以下の場合
生化 I 93点
- 8項目又は9項目の場合
生化 I 99点
- 10項目以上の場合
生化 I 106点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

酵素

1035 3B192	膵ホスホリパーゼ A ₂ (PLA ₂) (1317)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	RIA・固相法	130 ~ 400 ng/dL	4 5	204 生化 I	動物検体不可 * E
1083 3B339	ペプシノゲン I・II (PG I・II) (4675)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	表 1 参照	2 4		
2643 3B072	BAP (骨型アルカリホスファターゼ) (1711)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	M F 3.7 ~ 20.9 (閉経前) 2.9 ~ 14.5 (閉経後) 3.8 ~ 22.6 μg/L	2 4	157 生化 II	*1
364 5C120	total P I NP (I型プロコラーゲン -N- プロペプチド) (5913)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA 法	M F 18.1 ~ 74.1 (閉経前) 16.8 ~ 70.1 (閉経後) 26.4 ~ 98.2 ng/mL	2 4	160 生化 II	*1

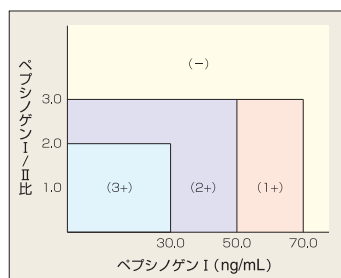
アイソザイム

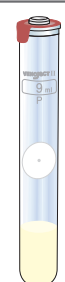



102 3B055	LD アイソザイム (1067)	血清 0.2	A1-4 常温	アガロース 電気泳動法	LD ₁ 20.0 ~ 31.0 LD ₂ 28.8 ~ 37.0 LD ₃ 21.5 ~ 27.6 LD ₄ 6.3 ~ 12.4 LD ₅ 5.4 ~ 13.2 %	2 4	48 生化 I	凍結不可 溶血不可 * G
1710 3B080	ALP アイソザイム (IFCC) (1068)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	アガロース 電気泳動法	ALP ₁ 0.0 ~ 5.3 ALP ₂ 36.6 ~ 69.2 ALP ₃ 25.2 ~ 54.2 ALP ₅ 0.0 ~ 18.1 %	2 4	48 生化 I	* G

* 1 BAP、Intact P I NP、total P I NP 及び ALP アイソザイム (PAG 電気泳動法) のうち 2 項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

(表 1) ペプシノゲン I・II 判定基準

判定	ペプシノゲン I 値及び I/II 比
(3+)	30.0ng/mL 以下 且つ 2.0 以下
(2+)	50.0ng/mL 以下 且つ 3.0 以下
(1+)	70.0ng/mL 以下 且つ 3.0 以下
(-)	上記条件以外



 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>C-3 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保 存 (尿量記載の必要な し)</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>	 <p>L 血液を正確に 1.0mL 入れ、激しく 10 数回 振とう混和すみやかに遠心分離 (上清を直ちに凍結保存 保存はポリ試験管)</p> <p>過塩素酸 除蛋白液 1.0mL</p>
<p>A1-4 血清分離 常温保存 (凍結不可)</p>			

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

アイソザイム

1711 3B165	アミラーゼアイソザイム (1072) (AMY アイソザイム)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	アガロース 電気泳動法	P-TOTAL :15.7~64.0 S-TOTAL :36.0~84.3 P/S比 :0.19~1.79 %	2 4	48 生化I	アミラーゼ、リパーゼ、アミラーゼアイソザイム、トリプシン又はエラスターゼ1を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
1714 3B165		尿 0.5	C-3 冷蔵	アガロース 電気泳動法	P-TOTAL :38.7~82.3 S-TOTAL :17.7~61.3 P/S比 :0.63~4.65 %	2 4	48 生化I	
1712 3B025	CK アイソザイム (1069)	血清 0.2	A1 ↓ G-1 凍結	アガロース 電気泳動法	MM 92.4~100.0 MB 0.0~6.6 BB 0.0~1.9 %	2 4	55 生化I	溶血不可 *G

有機酸

125 3E045	ケトン体分画	《静脈血》 (5177)	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	酵素法	アセト酢酸 14~68 3-ヒドロキシ酢酸74以下 総ケトン体 28~120 μmol/L	2 4	59 生化I	*G
1450 3E045		《動脈血》 (5521)	血清 0.4 (動脈血)	A1 ↓ G-1 凍結	酵素法	アセト酢酸/3-ヒドロキシ酢酸比 0.7以上	2 4	59 生化I	ブドウ糖投与下又は食後(血糖120mg/dL以上)に動脈採血して下さい。採血後はすみやかに冷却遠心にて分離し、凍結保存して下さい。*G
148 3E010	乳酸 (4060)	全血 1.0 ↓ 除蛋白 上清 0.8	L ↓ G-1 凍結	酵素法	5.0~20.0 mg/dL	2 4	47 生化I	*G	
149 3E015	ピルビン酸 (4061)	全血 1.0 ↓ 除蛋白 上清 0.8	L ↓ G-1 凍結	酵素法	0.3~0.9 mg/dL	2 4	47 生化I	*G	
1033 3D080	ヒアルロン酸 (4024)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	(健常者) 50以下 ng/mL 肝硬変の判断基準 130 ng/mL以上(50~130 ng/mLの場合、肝の線維化が疑われます)	2 4	179 生化I	慢性肝炎の患者に対して慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。	

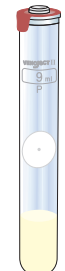


実施料について(生化I)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

- 5項目以上7項目以下の場合
生化I 93点
- 8項目又は9項目の場合
生化I 99点
- 10項目以上の場合
生化I 106点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
38 3H010	ナトリウム (Na) (1044)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	電極法	135 ~ 147 mEq/L	1 2	(11) 生化 I	緊急 (対象:ナトリウム血清) ナトリウム及びクロールは 同時算定不可 ナトリウム、クロール共に 随時尿でのご依頼も可能で す。(報告単位: mEq/L)
		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	電極法	1.6 ~ 5.8 g/day	1 2	(11) 生化 I	
40 3H020	クロール (Cl) (1046)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	電極法	98 ~ 108 mEq/L	1 2	(11) 生化 I	緊急 (対象:血清) 全血で放置した場合、変動 します。 随時尿でのご依頼も可能で す。(報告単位: mEq/L)
		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	電極法	2.5 ~ 8.9 g/day	1 2	(11) 生化 I	
39 3H015	カリウム (K) (1045)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	電極法	3.6 ~ 5.0 mEq/L	1 2	11 生化 I	緊急 (対象:血清) 全血で放置した場合、変動 します。 随時尿でのご依頼も可能で す。(報告単位: mEq/L)
		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	電極法	1.0 ~ 3.9 g/day	1 2	11 生化 I	
41 3H030	カルシウム (Ca) (1047)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	アルセナゾⅢ法	8.6 ~ 10.1 mg/dL	1 2	11 生化 I	緊急 (対象:カルシウム血清) イオン化カルシウムとカルシウム は同時算定不可 随時尿でのご依頼も可能で す。(報告単位: mg/dL)
		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	アルセナゾⅢ法	0.1 ~ 0.3 g/day	1 2	11 生化 I	
76 3H035	イオン化カルシウム (5112)	血清 0.9	A1 ↓ G-1 凍結	電極法	2.41 ~ 2.72 (37°C、PH7.4) mEq/L	5 7	26 生化 I	動物検体不可 *4

 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>C-1 冷所に 24 時間蓄尿 混和、必要量提出 冷蔵保存 (尿量明記)</p> <p>C-3 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保 存 (尿量記載の必要な し)</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>
--	---	---

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 点数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

電解質・金属

43 3H025	マグネシウム (Mg) (1048)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	キシリジルブルー 比色法	1.8 ~ 2.6 mg/dL	1 2	11 生化 I	
577 3H025		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	キシリジルブルー 比色法	0.02 ~ 0.13 g/day	1 2	11 生化 I	随時尿でのご依頼も可能です。 (報告単位: mg/dL)
42 3H040	無機リン (IP) (1049)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	モリブデン酸直接法	2.5 ~ 4.6 mg/dL	1 2	17 生化 I	
578 3H040		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	モリブデン酸直接法	0.5 ~ 1.0 g/day	1 2	17 生化 I	随時尿でのご依頼も可能です。 (報告単位: mg/dL)
45 3I010	鉄 (Fe) (1051)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	直接比色法	M 45 ~ 200 F 40 ~ 170 μg/dL	1 2	11 生化 I	
584 3I010		尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	50 ~ 160 μg/L	6 12	11 生化 I	*E
46 3I015	総鉄結合能 (TIBC) (1088)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	直接比色法 / ニトロソ PSAP 法 (計算法)	M 245 ~ 385 F 265 ~ 430 μg/dL	1 2	11 生化 I	
47 3I020	不飽和鉄結合能 (UIBC) (1089)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ニトロソ PSAP 法	M 110 ~ 300 F 135 ~ 350 μg/dL	1 2	11 生化 I	※1

※1 総鉄結合能 (TIBC) (比色法) と不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法) を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法) 又は総鉄結合能 (TIBC) (比色法) の所定点数を算定する。

実施料について(生化 I)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1.	5項目以上7項目以下の場合	生化 I 93点
2.	8項目又は9項目の場合	生化 I 99点
3.	10項目以上の場合	生化 I 106点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

電解質・金属

44 31025	銅 (Cu)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	直接法 (3,5-DiBr-PAESA)	M F 80 ~ 130 100 ~ 150 μg/dL	1 2	23 生化 I	
585 31025		尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	36 以下 μg/L	6 12	23 生化 I	*E
660 3K105	アルミニウム (Al)	全血 2.0	ソ 冷蔵	原子吸光法	1.0 以下 μg/dL	3 6	109 生化 I	*G
160 31030	亜鉛 (Zn)	血清 0.5	A1-1 ↓ G-2 冷蔵	原子吸光法	80 ~ 130 μg/dL	2 4	132 生化 I	ゴム栓不可 *G
583 31030		尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	50 ~ 1000 μg/L	2 4	132 生化 I	*G
231 3K110	鉛 (Pb)	全血 1.0	F-5 冷蔵	原子吸光法	μg/dL	3 6		凍結不可 *G
1170 3K110		尿 2.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	20 以下 μg/L	3 7		*G
5062 3K120	カドミウム (Cd)	全血 1.0	F-5 冷蔵	ICP-MS 法	0.5 以下 μg/dL	6 9		凍結不可 *1
2304 3K120		尿 1.0	C-3 冷蔵	ICP-MS 法	3.8 以下 μg/L	6 12		*1

A1-1
血清分離
冷蔵保存

C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保
存
(尿量記載の必要な
し)

F-5
採血後静かに約 10
回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)

ヘパリン5mL用
又は10mL用

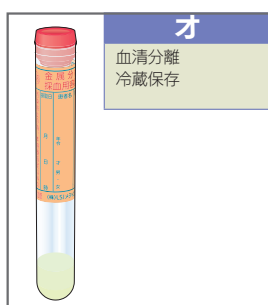
G-2
血清又は血漿分離
冷蔵保存
(ゴム栓不可)
ポリ試験管使用

ソ
2mL 採血
そのまま冷蔵保存
(ガラス器具は絶
対使用しないで
下さい)

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所 要 日 数	実施料 判断料	備 考
1440 3K115	クロム (Cr) (5109)	全血 2.0	F-5 冷蔵	原子吸光分光光度法	1.0 以下 μg/dL	6 19		凍結不可 *E
		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光分光光度法	2 以下 μg/L	6 19		*E
613 3K150	水銀 (Hg) (5061)	全血 0.5	F-5 冷蔵	原子吸光法	5 以下 μg/dL	7 12		凍結不可 *1
		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	25 以下 μg/L	7 12		*1
1029 3K125	マンガン (Mn) (5060)	全血 0.5	F-5 冷蔵	原子吸光法	0.4 ~ 2.0 μg/dL	8 13	27 生化I	凍結不可 1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。 *1
		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	2.0 未満 μg/L	8 13	27 生化I	*1
5293 3K130	ニッケル (Ni) (5374)	血清 0.5	オ 冷蔵	原子吸光法	0.6 以下 μg/dL	8 13		*1

生化学



実施料について(生化I)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化I 99点
3.	10項目以上の場合 生化I 106点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
1172 1174 1176 3K010	総三塩化物 (TTC) (5125)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注1	GC 法	mg/L	3 ~ 6		防腐剤使用不可
1171 1173 1175 3K015	三塩化(トリクロル) 酢酸 (TCA) (5244)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注1	GC 法	mg/L	3 ~ 6		
559 3K040	マンデル酸及び フェニルグリオキシル酸総量 (MA 及び PGA 総量) (5444)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC 法	g/L	3 ~ 5		
571 3K025	馬尿酸 (HA) (5082)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC 法	g/L	3 ~ 5		
572 3K030	メチル馬尿酸 (MHA) (5083)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC 法	g/L	3 ~ 5		
573 3J075	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA) (5067)	尿 1.0	I-1 避光 冷蔵	HPLC 法	mg/L	3 ~ 6		
1168 3K045	N-メチルホルムアミド (5443)	尿 3.0	I-1 冷蔵 注2	GC 法	mg/L	3 ~ 8		
1169 3K050	2,5-ヘキサンジオン (2,5-HD) (5445)	尿 5.0	I-1 冷蔵 注2	GC 法	mg/L	3 ~ 8		

*G

注1 週末の作業終了後に採尿して下さい。作業終了2時間前に一度排尿を行い、その後2時間は排尿せずに採取するようにして下さい。

注2 連続した作業日の最初の日以外の作業終了時に採尿して下さい。作業終了2時間前に一度排尿を行い、その後2時間は排尿せずに採取するようにして下さい。

特殊健康診断の検査分布 (改正省令による)

鉛健康診断結果報告書(鉛中毒予防規則、様式第3号)

有機溶剤など健康診断結果報告書(有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2)より

項目コード	有機溶剤の名称	検査内容	単位	分 布			注	
				1	2	3		
572	キシレン	メチル馬尿酸	g/L	0.5以下	0.5超	1.5以下	1.5超	Ns
1168	N・N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	
559	スチレン	マンデル酸	g/L	100以下	100超	250以下	250超	Ns
1171	テトラクロルエチレン	トリクロル酢酸	mg/L	1.0以下	1.0超	2.5以下	2.5超	Ns
1172		総三塩化物	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
1173	1,1,1-トリクロルエタン	トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
1174		総三塩化物	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	Ns
1175	トリクロルエチレン	トリクロル酢酸	mg/L	30以下	30超	100以下	100超	Ns
1176		総三塩化物	mg/L	100以下	100超	300以下	300超	Ns
571	トルエン	馬尿酸	g/L	1以下	1超	2.5以下	2.5超	B.Ns
1169	ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	mg/L	2以下	2超	5以下	5超	Ns
231	(鉛業務)	鉛(血中)	μg/dL	20以下	20超	40以下	40超	B
573		δ-ALA	mg/L	5以下	5超	10以下	10超	
2611		プロトポルフィリン定量(血中)	μg/dLRBC	100以下	100超	250以下	250超	B

注 B ; 測定対象物質は通常職業性の曝露を受けない人の試料にも明らかに存在しています。
Ns ; 非特異的な測定対象物質。そのため他の化学物質の曝露後でも検出されます。したがって特異的検査よりも曝露の相関が高く、有効利用できます。



I-1

蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保
存
(避光保存)

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所 需 日 数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	------------------	------------	--------

産業医学関連

1140 3Z040	エタノール (5124)	全血 1.0	F-1 凍結	GC 法	0.1 未満 mg/mL	5 8	105 生化 I	*4
---------------	-----------------	--------	-----------	------	-----------------	--------	-------------	----

ビタミン関連検査

608 3G015	ビタミン A (レチノール) (5105)	血清 0.4	A1-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	97 ~ 316 IU/dL	5 7		*4
618 5C030	レチノール結合蛋白 (RBP) (5317)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	M 2.7 ~ 6.0 F 1.9 ~ 4.6 mg/dL	4 5	132 免疫	*1
609 3G025	ビタミン B ₁ (チアミン) (5055)	全血 0.5	S 凍結	HPLC 蛍光法	30 ~ 70 ng/mL	3 5	239 生化 I	*G
610 3G030	ビタミン B ₂ (リボフラビン) (5077)	全血 0.5	S 遮光 凍結	HPLC 蛍光法	70.4 ~ 123.7 ng/mL	3 6	235 生化 I	*G
611 3G036	ビタミン B ₆ (5298)	血清 0.5	A1-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	PAM 0.6 以下 PAL M 6.0 ~ 40.0 F 4.0 ~ 19.0 PIN 3.0 以下 ng/mL	5 7		*4
209 3G040	ビタミン B ₁₂ (5056)	血清 0.6	A1-1 冷蔵 (7日)	CLEIA 法	180 ~ 914 pg/mL	1 2	136 生化 I	過剰な露光は、ビタミン B ₁₂ の値を変化させること があります。
241 3G105	葉酸 (5057)	血清 0.6	A1-1 冷蔵 (7日)	CLEIA 法	3.1 ~ 19.9 ng/mL	1 2	146 生化 I	溶血の場合は高値となりま すのでご注意ください。
615 3G060	ビタミン C (アスコルビン酸) (5106)	血清 0.5 ↓ 除蛋白 上清 0.5	Z G-1 遮光 凍結	HPLC 法	5.5 ~ 16.8 μg/mL	5 7	296 生化 I	*4

A1-1
血清分離
冷蔵保存

F-1
採血後静かに約 10
回ほど
転倒混和そのまま
(必ず凍結保存)
(溶血してもよい)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結

ヘパリン 5mL用
又は 10mL用

G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

S
採血後静かに
約 10 回ほど
転倒混和
そのまま
(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結
他の項目との同時依
頼はできません。

EDTA-2K
2mL用

Z
採血後、直ちに血清
分離し、正確に血清
0.5mL を専用容器
「Z」に加え、混和後、
遠心分離し、その上
清を遮光ポリスピツ
ツにてご提出下さい。
(必ず凍結)

0.8N過塩素酸0.5mL

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

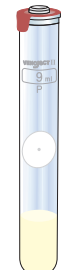
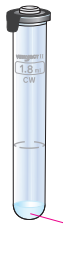
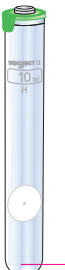


ビタミン関連検査

5103 3G065	25OH ビタミン D [CLEIA] (5103)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	ビタミンD充足状態 30.0以上 ビタミンD不足 20.0~29.9 ビタミンD欠乏 20.0未満 ng/mL	2 } 4	117 生化 I	※1 *G
616 3G070	1 α -25-(OH) ₂ ビタミン D (1,25-ジヒドロキシビタミン D3) (5316)	血清 1.0	A1 ↓ G-1 凍結	RIA・2抗体法	20 ~ 60 pg/mL	5 } 8	388 生化 I	動物検体不可 ※2 *E
617 3G080	ビタミン E (トコフェロール) (5104)	血清 0.5	A1 ↓ G-1 遮光 凍結	蛍光法	0.75 ~ 1.41 mg/dL	5 } 11		*7
2508 3G090	ビタミン K 分画 (5754)	血漿 2.0	D-1 ↓ G-1 遮光 凍結	HPLC 法	K ₁ 0.15 ~ 1.25 K ₂ 0.10 以下 ng/mL	5 } 11		*4
2707 3G055	カルニチン (5701)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素サイクリング法	総カルニチン 45 ~ 91 遊離カルニチン 36 ~ 74 アシルカルニチン 6 ~ 23 μ mol/L	2 } 4	95+95 生化 I	総カルニチン : 95 遊離カルニチン : 95 *G
2502 3G110	ニコチン酸 (ナイアシン) (5107)	全血 1.5	F-5 冷蔵	Bioassay	4.7 ~ 7.9 μ g/mL	9 } 15		*4

特殊分析検査

2601 3F095	脂肪酸 4 分画 (5360)	血清 0.5 又は 血漿 0.5	A1 ↓ G-1 凍結 F-3 ↓ G-1 凍結	GC 法	DHLA : 10.9 ~ 43.5 AA : 85.1 ~ 207.8 EPA : 11.6 ~ 107.2 DHA : 48.6 ~ 152.4 μ g/mL EPA/AA 比 : 0.09 ~ 0.75	3 } 6	393 生化 II	*G
---------------	--------------------	------------------------	---	------	--	----------	--------------	----

- ※ 1 原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に 1 回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。ビタミン D 欠乏性くる病若しくはビタミン D 欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にした場合は、診断時においては 1 回を限度とし、その後は 3 月に 1 回を限度として算定できる。
- ※ 2 慢性腎不全、特異性及び偽性副甲状腺機能低下症、ビタミン D 依存症 I 型、低リン血症性ビタミン D 抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミン D3 剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。なお、活性型ビタミン D3 剤による治療開始後 1 月以内においては 2 回を限度とし、その後は 3 月に 1 回を限度とする。

 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>D-1 血液を正確に 1.8mL 入れ静かに約 10 回ほど転倒混和 (血漿分離) (必ず凍結保存) ポリ試験管使用 3.2% クエン酸ナトリウム 0.2mL</p>	 <p>F-3 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用 ヘパリン 5mL 用 又は 10mL 用</p>	 <p>F-5 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可) ヘパリン 5mL 用 又は 10mL 用</p>	 <p>X-4 必要量採取 常温保存</p>
--	--	--	---	--

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

特殊分析検査


1018 3Z065	結石分析 (5119)	10mg 以上	X-4 常温	赤外線吸収スペクトロ フォトメトリー	%	6 8	117 生化II	サンプルは乾燥させてご提出 下さい。血液などの付いた サンプルは蒸留水で洗浄後、 乾燥させてご提出下さい。 *4
142 3F095	全脂質脂肪酸分画 (5173)	血清 0.8	A1 ↓ G-1 凍結	LC-MS/MS 法	次頁表 1 参照	16 23	393 生化II	*1
5072 3C070	総ホモシステイン (5072)	血漿 0.4	E-2 ↓ G-2 冷蔵	HPLC 法	M F 6.3 ~ 18.9 5.1 ~ 11.7 nmol/mL	7 13	279 生化II	*E
7287 3C045	アミノ酸分析定量 (5539)	血漿 0.9	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	次頁表 2 参照	6 13	1107 生化II	
7288 3C045		尿 3.0	G-6 凍結					
2637 3C047	BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比) (5460)	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	酵素法	BCAA 344 ~ 713 チロシン 51 ~ 98 μmol/L BCAA/Tyr 4.41 ~ 10.05	4 5	283 生化II	*1
7644 5C141	M2BPGi (MAC2 結合蛋白糖鎖修飾異性体) (7644)	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	Cut off index 1.00 未満 判定 (-) 表1参照	2 7	194 生化I	*1、*2 *G

- ※ 1 慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
 ※ 2 IV型コラーゲン又はIV型コラーゲン・7S、プロコラーゲン - III - ペプチド (P - III - P) と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

(表 1) M2BPGi 判定基準と意義

Cut off index	判定	意義
1.00 未満	陰 性 (-)	非慢性肝炎
1.00 以上 ~ 3.00 未満	陽 性 (1+)	慢性肝炎
3.00 以上	強陽性 (2+)	肝硬変

生検検査によって判定した肝臓の線維化ステージと良い一致率を示しますが、まれに両者で異なる結果を示すことがあります。
 つきましては、測定結果に基づく診断については、他の検査及び臨床症状等により総合的な判断をお願いします。

 EDTA-2Na 5mL用	E-2 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、 必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使 用	G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用	G-5 冷所に 24 時間蓄尿 尿量測定、混和 必要量を提出 (尿量明記) (必ず凍結保存)
	G-2 血清又は血漿分離 冷蔵保存 (ゴム栓不可) ポリ試験管使用	G-6 蓄尿又は部分尿 必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量記載の必要なし)	

実施料について(生化 I)	
一回に採取した血液を用いて 青色で表記されている検査を 5項目以上行った場合	
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化 I 93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化 I 99点
3.	10項目以上の場合 生化 I 106点

生化学的検査

(表 1) 全脂質脂肪酸分画基準値一覧表

分画成分名	略号	基準値		分画成分名	略号	基準値	
		濃度 (μg/mL)	成分比(weight %)			濃度 (μg/mL)	成分比(weight %)
ラウリン酸	C12:0	4.2以下	0.16以下	5-8-11 エイコサトリエン酸	C20:3ω9	1.2~5.4	0.17以下
ミリスチン酸	C14:0	8.2~40	0.33~1.17	ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	23~72	0.92~2.24
ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.4以下	0.10以下	アラキドン酸	C20:4ω6	142~307	4.86~9.42
パルミチン酸	C16:0	451~898	18.38~22.80	エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	12~112	0.36~3.42
パルミトレイン酸	C16:1ω7	25~112	0.90~3.05	バヘニン酸	C22:0	1.3~2.6	0.08以下
ステアリン酸	C18:0	164~306	6.30~9.10	エルシン酸	C22:1ω9	1.4以下	0.04以下
オレイン酸	C18:1ω9	432~1069	17.53~26.82	ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9~7.6	0.11~0.23
リノール酸	C18:2ω6	697~1280	25.30~37.02	ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	26~60	0.98~1.79
γ-リノレン酸	C18:3ω6	3.6~22	0.14~0.71	リグノセリン酸	C24:0	1.6~2.9	0.09以下
リノレン酸	C18:3ω3	10~41	0.31~1.06	ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	51~185	1.69~5.55
アラキジン酸	C20:0	1.2~2.7	0.07以下	ネルボン酸	C24:1ω9	2.1~4.0	0.13以下
エイコセン酸	C20:1ω9	3.2~8.2	0.12~0.23	T/T比(C20:3ω9/C20:4ω6)		0.02以下*	—
エイコサジエン酸	C20:2ω6	3.6~10	0.17~0.29	EPA/AA比(C20:5ω3/C20:4ω6)		0.06~0.44*	—

*単位なし

(表 2) アミノ酸分析基準値一覧表

アミノ酸名(英語)	アミノ酸名(日本語)	基準値		アミノ酸名(英語)	アミノ酸名(日本語)	基準値	
		血漿 (単位: nmol/mL)	尿 (単位: μmol/g・Cr)			血漿 (単位: nmol/mL)	尿 (単位: μmol/g・Cr)
Taurine	タウリン	46.4~128.2	280~2000	Isoleucine	イソロイシン	37.0~100.4	13~46
Phosphoethanolamine	ホスホエタノールアミン	TRA	7~70	Leucine	ロイシン	74.2~169.1	24~77
Aspartic acid	アスパラギン酸	TRA~7.2	TRA~12	Tyrosine	チロシン	38.4~89.4	49~230
Hydroxyproline	ヒドロキシプロリン	TRA~18.8	ND	Phenylalanine	フェニルアラニン	43.5~79.8	27~96
Threonine	トレオニン	74.2~216.1	70~390	β-Alanine	β-アラニン	TRA~11.8	2~110
Serine	セリン	91.5~186.4	120~630	β-Amino-iso-butyric acid	β-アミノイソ酪酸	5.9以下	TRA~830
Asparagine	アスパラギン	43.8~90.6	51~300	Homocystine	ホモシスチン	ND	ND
Glutamic acid	グルタミン酸	12.2~82.7	3~29	γ-Amino-n-butyric acid	γ-アミノ-n-酪酸	ND	ND
Glutamine	グルタミン	418.0~739.8	150~810	Ethanolamine	エタノールアミン	TRA~10.5	190~530
Sarcosine	サルコシン	TRA	ND	Hydroxylysine	ヒドロキシリジン	ND	8以下
α-Amino adipic acid	α-アミノアジピン酸	ND	5~52	Ornithine	オルニチン	42.6~141.2	TRA~35
Proline	プロリン	71.3~373.0	ND	Tryptophan	トリプトファン	36.2~79.3	22~110
Glycine	グリシン	140.4~427.3	380~3600	Lysine	リジン	125.7~281.9	78~800
Alanine	アラニン	258.8~615.2	89~560	1-Methylhistidine	1-メチルヒスチジン	9.1以下	25~2400
Citrulline	シトルリン	17.9~48.0	2~41	Histidine	ヒスチジン	63.0~105.2	400~2000
α-Amino-n-butyric acid	α-アミノ-n-酪酸	8.1~31.0	3~21	3-Methylhistidine	3-メチルヒスチジン	TRA~8.2	110~340
Valine	バリン	156.2~360.4	23~66	Anserine	アンセリン	ND	ND
Cystine	シスチン	4.7~34.8	13~76	Carnosine	カルノシン	ND	4~74
Methionine	メチオニン	15.5~38.6	11~58	Arginine	アルギニン	31.8~149.5	8~71
Cystathionine	シスタチオニン	ND	6~37	Fischer's ratio	フィッシャー比	2.2~4.3	---

(備考) ND: 検出感度以下 TRA: 痕跡

$$\text{フィッシャー比} = \frac{\text{分岐鎖アミノ酸 (BCAA)}}{\text{芳香族アミノ酸 (AAA)}} = \frac{\text{Val} + \text{Leu} + \text{Ile}}{\text{Phe} + \text{Tyr}}$$

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

特殊分析検査

1392 5C210	KL-6 (1710)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集法	500 未満 U/mL	1 2	108 生化 I	
2732 3F250	SP-A (肺サーファクタントプロテイン A) (1708)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	43.8 未満 ng/mL	4 6	130 生化 I	SP-A (肺サーファクタントプロテインA) KL-6及びSP-D (肺サーファクタントプロテインD) のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。 *1
1393 3F253	SP-D (肺サーファクタントプロテイン -D) (1709)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	110 未満 ng/mL	2 4	136 生化 I	*G

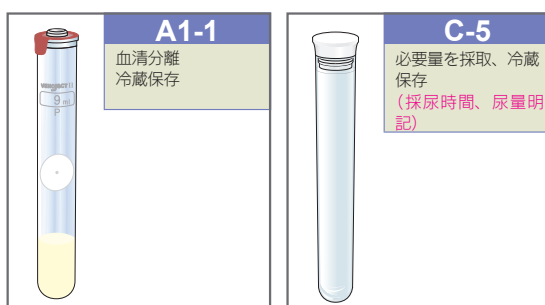
クリアランステスト

292 8A020	クレアチンクリアランス (1063)	血清 0.4 及び 尿 5.0 (同時提出)	A1-1 及び C-5 冷蔵	酵素法	90 以上 mL/min	1 2		23頁参照
293 8A025	クレアチンクリアランス (24 時間内因性) (1064)	血清 0.4 及び 蓄尿 5.0 (同時提出)	A1-1 及び C-5 冷蔵	酵素法	130 以上 ※1 L/day	1 2		23頁参照
1271 8A040	尿酸クリアランス (1942)	血清 0.4 及び 尿 5.0 (同時提出)	A1-1 及び C-5 冷蔵	ウリカーゼ・ペルオキシダーゼ法	mL/min	1 2		23頁参照
574 8A090	PFD (PABA 排出率) (膀胱機能) (4071)	尿 3.0(投与前) 及び 蓄尿 3.0 (6 時間蓄尿) (同時提出)	C-5 冷蔵	DACA 法	73.4 ~ 90.4 %	4 5	100	24頁参照 *E
4447 8A065	eGFRcreat (1152)			計算法	24 頁参照 mL/min/1.73m ²	1 2		血清クレアチンを用いた 推算GFRです。 ※2
4401 8A066	eGFRcys (1155)			計算法	24 頁参照 mL/min/1.73m ²	2 3		血清シスタチンCを用いた 推算GFRです。 ※3

※1 単位の変換式: $Y (\text{mL} / \text{min}) = X (\text{L} / \text{day}) \times 1000 \div 1440$

※2 血清クレアチン (項目コード: 37) との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。
なお、年齢が18才未満の場合、クレアチンの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。

※3 血清シスタチンC (項目コード: 2454) との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。
なお、年齢が18才未満の場合、シスタチンCの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。

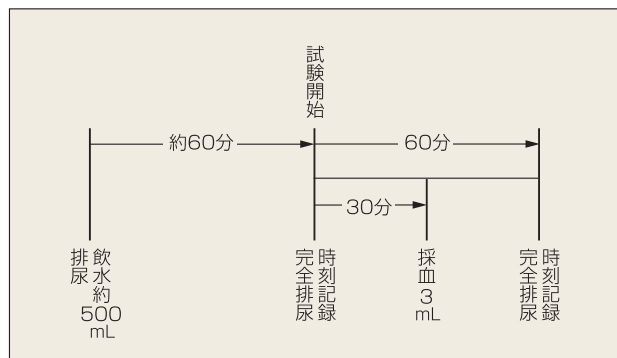


生化学的検査

クリアランステスト検体採取方法

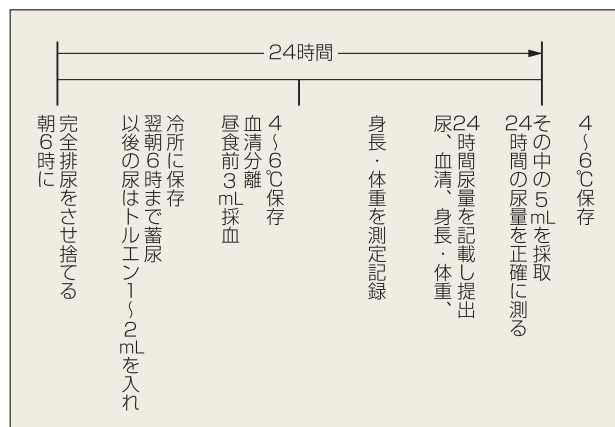
クレアチニンクリアランス、尿酸クリアランス

- (1) 朝、身長・体重を測定記録し、依頼書に記載する。
- (2) 完全排尿させて捨てる。
- (3) 排尿後、温湯約 500mL を飲ませる。
- (4) 飲水後、約 60 分に完全に排尿させて排尿終了の時刻を 1 分以内の正確さで記録する。(試験開始)
- (5) 開始後 30 分後に 3mL 採血、血清分離、4～6℃に保存。
- (6) 開始 60 分後に完全排尿、排尿終了時刻及び尿量を正確に記録する。(約 5mL 保存)
- (7) (5) の血清、(6) の尿 5mL、身長・体重を記載の上提出する。
 - a 誤差の原因は不完全な排尿によるので、排尿時に十分な注意が必要である。
 - b 浮腫のある人は正常時の体重を記入して下さい。
 - c 正確を期待する場合は開始 1 時間半後 第 2 回目の採血、2 時間後 第 2 回目の採尿を行い (5) 以下の重複試験を実施、平均値を取る。
 - d 一回試験でも正確に実施すれば大きな誤差は生じない。



クレアチニンクリアランス (24 時間内因性)

- (1) 朝 6 時に完全排尿させて捨てる。
- (2) 以後の尿は翌朝 6 時までに冷所に蓄尿する。蓄尿ビンには予め防腐剤としてトルエン 1～2mL を入れ、冷所に保存する。(時間を正確に)
- (3) 24 時間の尿量を正確に測る。その中の 5mL を採取、4～6℃保存。
- (4) 採血は昼食前に 3mL 採血。血清分離、4～6℃保存。
- (5) 身長・体重を測定記録する。
- (6) (3) の尿、(4) の血清、身長・体重、24 時間尿量を記載して提出する。
 - a 腎障害が著しく患者に水分負担ができない時。
 - b 尿量による誤差が無視できる。
 - c 患者の日常生活のまま実施できる等の利点がある。



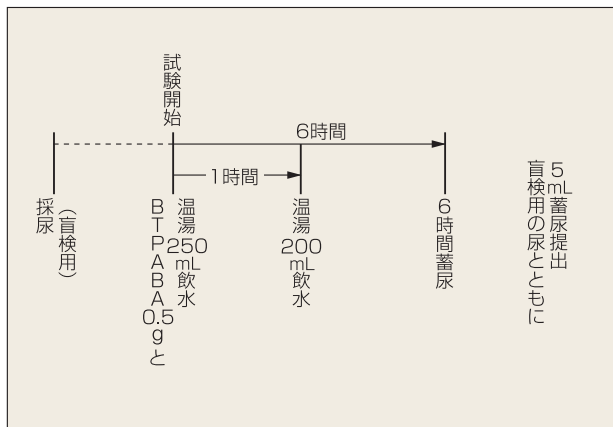
クリアランステスト検体採取方法

PFD

- (1) 検査開始前に盲検用の尿を採尿する。
- (2) BTPABA0.5g を温湯 250mL とともに服用させる。
- (3) 服用 1 時間後に利尿のため温湯 200mL を飲ませる。
- (4) 検査開始後 3 時間後は絶食させ、その後は食事を摂らせてもよい。
- (5) 検査開始後 6 時間蓄尿する。
- (6) 蓄尿量を依頼票に記入し、5mL を容器に取り、盲検用の尿とともに提出して下さい。

注意

- ・早朝空腹時に開始して下さい。
- ・検査前 3 日間は消化酵素剤、分泌抑制剤、制酸剤などの投与は中止して下さい。



●推算 GFR 参考資料

1) 血清クレアチニン、及び血清シスタチン C を用いた日本人の GFR 推算式

男性

$$eGFR_{creat}(mL/分/1.73m^2) = 194 \times Cr^{-1.094} \times \text{年齢}^{-0.287}$$

$$eGFR_{cys}(mL/分/1.73m^2) = (104 \times Cys-C^{-1.019} \times 0.996^{\text{年齢}}) - 8$$

女性

$$eGFR_{creat}(mL/分/1.73m^2) = 194 \times Cr^{-1.094} \times \text{年齢}^{-0.287} \times 0.739$$

$$eGFR_{cys}(mL/分/1.73m^2) = (104 \times Cys-C^{-1.019} \times 0.996^{\text{年齢}} \times 0.929) - 8$$

2) CKD の重症度分類

原疾患		蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病		尿アルブミン定量 (mg/日) 尿アルブミン/Cr 比 (mg/gCr)	正常	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
			30 未満	30 ~ 299	300 以上	
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎 不明 その他		尿蛋白定量 (g/日) 尿蛋白/Cr 比 (g/gCr)	正常	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
			0.15 未満	0.15 ~ 0.49	0.50 以上	
GFR 区分 (mL/分/1.73 m ²)	G1	正常または高値	≥ 90			
	G2	正常または軽度低下	60 ~ 89			
	G3a	軽度～中等度低下	45 ~ 59			
	G3b	中等度～高度低下	30 ~ 44			
	G4	高度低下	15 ~ 29			
	G5	末期腎不全 (ESKD)	< 15			

重症度は原疾患・GFR 区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKD の重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑 ■ のステージを基準に、黄 ■、オレンジ ■、赤 ■ の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。
(KDIGO CKD guideline 2012 を日本人用に改変)

内分泌学的検査

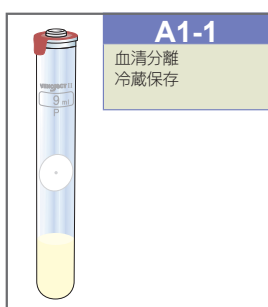
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

下垂体関連検査

184 4A010	成長ホルモン (GH) (5002)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ECLIA 法	M 2.47 以下 F 0.13 ~ 9.88 ng/mL	2 ~ 4	105 生化II	*G
1030 4A015	ソマトメジン C (IGF-1) (5468)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA 法	表 1 参照 ng/mL	2 ~ 4	212 生化II	*G

(表 1) ソマトメジン C (IGF-1) 基準値

《男 性》						《女 性》					
(単位 : ng/mL)						(単位 : ng/mL)					
年 齢	-2SD ~ +2SD	年 齢	-2SD ~ +2SD	年 齢	-2SD ~ +2SD	年 齢	-2SD ~ +2SD	年 齢	-2SD ~ +2SD	年 齢	-2SD ~ +2SD
0	11 ~ 149	26	119 ~ 329	52	86 ~ 242	0	15 ~ 154	26	146 ~ 336	52	78 ~ 213
1	14 ~ 148	27	116 ~ 322	53	85 ~ 240	1	23 ~ 186	27	141 ~ 328	53	77 ~ 212
2	18 ~ 154	28	114 ~ 315	54	84 ~ 239	2	32 ~ 213	28	137 ~ 320	54	76 ~ 211
3	24 ~ 164	29	111 ~ 309	55	84 ~ 238	3	40 ~ 227	29	133 ~ 312	55	75 ~ 210
4	32 ~ 176	30	109 ~ 303	56	83 ~ 237	4	48 ~ 238	30	129 ~ 304	56	74 ~ 208
5	44 ~ 193	31	107 ~ 297	57	82 ~ 236	5	56 ~ 252	31	126 ~ 297	57	73 ~ 207
6	55 ~ 215	32	105 ~ 292	58	81 ~ 235	6	69 ~ 287	32	122 ~ 290	58	72 ~ 205
7	63 ~ 247	33	103 ~ 287	59	80 ~ 233	7	89 ~ 357	33	119 ~ 283	59	71 ~ 203
8	72 ~ 292	34	102 ~ 283	60	79 ~ 232	8	111 ~ 438	34	115 ~ 277	60	70 ~ 201
9	84 ~ 350	35	100 ~ 279	61	77 ~ 230	9	133 ~ 517	35	112 ~ 271	61	69 ~ 198
10	99 ~ 423	36	99 ~ 275	62	76 ~ 228	10	155 ~ 588	36	109 ~ 265	62	68 ~ 196
11	113 ~ 499	37	97 ~ 272	63	75 ~ 226	11	175 ~ 638	37	106 ~ 260	63	66 ~ 194
12	125 ~ 557	38	96 ~ 269	64	73 ~ 224	12	188 ~ 654	38	103 ~ 254	64	65 ~ 191
13	133 ~ 579	39	95 ~ 266	65	72 ~ 221	13	193 ~ 643	39	100 ~ 250	65	64 ~ 188
14	138 ~ 570	40	94 ~ 263	66	70 ~ 219	14	193 ~ 625	40	98 ~ 245	66	62 ~ 186
15	141 ~ 552	41	94 ~ 261	67	68 ~ 216	15	192 ~ 614	41	95 ~ 240	67	61 ~ 183
16	142 ~ 543	42	93 ~ 259	68	66 ~ 213	16	192 ~ 611	42	93 ~ 236	68	60 ~ 180
17	142 ~ 540	43	92 ~ 257	69	65 ~ 209	17	191 ~ 599	43	90 ~ 233	69	59 ~ 177
18	142 ~ 526	44	92 ~ 255	70	63 ~ 206	18	188 ~ 574	44	88 ~ 229	70	57 ~ 175
19	143 ~ 501	45	91 ~ 253	71	61 ~ 202	19	182 ~ 539	45	87 ~ 226	71	56 ~ 172
20	142 ~ 470	46	90 ~ 250	72	58 ~ 198	20	175 ~ 499	46	85 ~ 224	72	55 ~ 170
21	139 ~ 436	47	90 ~ 250	73	56 ~ 194	21	168 ~ 459	47	83 ~ 221	73	54 ~ 167
22	135 ~ 405	48	89 ~ 248	74	54 ~ 190	22	161 ~ 425	48	82 ~ 219	74	53 ~ 165
23	131 ~ 379	49	88 ~ 246	75	52 ~ 185	23	155 ~ 397	49	81 ~ 218	75	52 ~ 163
24	128 ~ 356	50	87 ~ 245	76	50 ~ 181	24	151 ~ 375	50	80 ~ 216	76	50 ~ 160
25	125 ~ 337	51	87 ~ 243	77	48 ~ 177	25	147 ~ 358	51	79 ~ 215	77	49 ~ 158



内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

下垂体関連検査

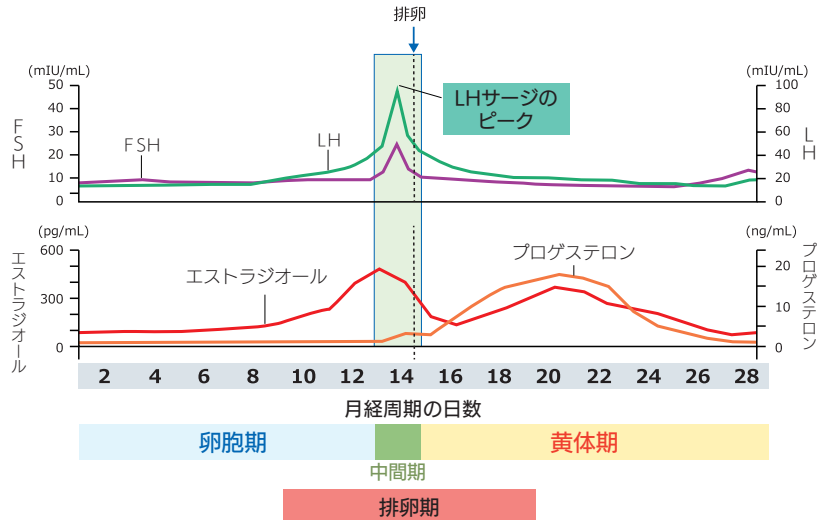
90 4A055	甲状腺刺激ホルモン (TSH) (5001)	血清 0.6	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	0.350 ~ 4.940 μIU/mL	1 2	98 生化II	
91 4A030	黄体形成ホルモン (LH) (5003)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	表 2 参照 mIU/mL	1 2	105 生化II	
92 4A035	卵胞刺激ホルモン (FSH) (5004)	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA 法	表 2 参照 mIU/mL	1 2	105 生化II	
185 4A025	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) (5005)	血漿 0.4	E-2 G-1 凍結	ECLIA 法	(早朝安静時) 7.2 ~ 63.3 pg/mL	2 4	184 生化II	
93 4A020	プロラクチン (PRL) (5006)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	M 3.46 ~ 19.40 F 5.18 ~ 26.53 ng/mL	1 2	98 生化II	
8590 4A070	AVP (アルギニンバゾプレシン) (5007)	血漿 1.2	E-2 G-1 凍結	RIA 法	水制限 : 4.0 以下 自由飲水 : 2.8 以下 pg/mL	7 9	224 生化II	溶血の影響により測定値が 変動する可能性があります。 抗利尿ホルモン (ADH) *1

内分泌学

(表 2) LH・FSH 基準値 (単位: mIU/mL)

	LH	FSH
女性 卵胞期	1.80 ~ 11.78	3.03 ~ 8.08
中間期ピーク	7.59 ~ 89.08	2.55 ~ 16.69
黄体期	0.56 ~ 14.00	1.38 ~ 5.47
閉経後	5.16 ~ 61.99	26.72 ~ 133.41
男性	0.57 ~ 12.07	0.95 ~ 11.95

LH, FSH 中間期ピーク



E-2

採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、
必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

EDTA-2Na
5mL用

G-1

血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

実施料について (内分泌)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

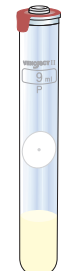
甲状腺関連検査

84 4B010	トリヨードサイロニン (T ₃) (5010)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	0.57 ~ 1.52 ng/mL	1 2	99 生化II	
265 4B015	遊離トリヨードサイロニン (F-T ₃) (5097)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	1.68 ~ 3.67 pg/mL	1 2	121 生化II	
83 4B030	サイロキシシン (T ₄) (5011)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	4.87 ~ 11.72 μg/dL	1 2	105 生化II	
85 4B035	遊離サイロキシシン (F-T ₄) (5086)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	0.70 ~ 1.48 ng/dL	1 2	121 生化II	
5909 4B045	サイロキシシン結合グロブリン (TBG) (5036)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	1.4 ~ 3.1 μg/mL	4 6	130 生化II	*4
150 4B040	サイログロブリン (Tg) (5161)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	3.68 ~ 64.15 ng/mL	2 4	128 生化II	

副甲状腺関連検査

191 4C035	カルシトニン (5018)	血清 0.5	A1 G-1 凍結	ECLIA 法	M 5.15 以下 F 3.91 以下 pg/mL	2 4	130 生化II	*G
190 4C025	副甲状腺ホルモン PTH-Intact (5088)	血漿 0.4	E-1 冷蔵	ECLIA 法	10 ~ 65 pg/mL	2 4	161 生化II	血清(凍結)による検査も可能です。但し、急速凝固管のご使用は避け下さい。
2736 4C026	副甲状腺ホルモン Whole-PTH (5746)	血漿 0.5	E-2 G-1 凍結	ECLIA 法	14.9 ~ 56.9 pg/mL	2 7		*G
4388 4C030	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP) (5884)	血漿 0.5	ネ G-1 凍結	IRMA 法	1.1 以下 pmol/L	7 9	186 生化II	高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合のみ算定する。 *4

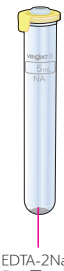
A1-1
血清分離
冷蔵保存



E-1
採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)

E-2
採血後静かに約10回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

EDTA-2Na
5mL用




G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

G-5
冷所に24時間蓄尿
尿量測定、混和
必要量を提出
(尿量明記)
(必ず凍結保存)



ネ
採血後、静かに約10回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
(保存はポリ試験管使用)

トラジロール入り
EDTA-2Na



内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

膵・消化管関連検査

151 4G010	インスリン (IRI) (5043)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	(空腹時負荷前) 2.7 ~ 10.4 μU/mL	2 3	100 生化II	溶血血清不可
221 4G020	C-ペプチド (CPR) (5046)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	(空腹時負荷前) 0.78 ~ 5.19 ng/mL	2 3	105 生化II	急速凝固管のご使用はお 避け下さい。 血中と尿中を同時測定した 場合、血液の点数のみ算 定する
4019 4G020		蓄尿 1.0 ※1	G-5 又は ナ 凍結	CLIA 法	23.74 ~ 206.96 μg/day	2 3	105 生化II	
5530 4G030	膵グルカゴン (IRG) (5530)	血漿 0.5	ネ G-1 凍結	EIA 法	(空腹時) 5.4 ~ 55.0 pg/mL	5 8	150 生化II	溶血は低値の影響があり ます。 *E

副腎髄質関連検査

197 4E016	カテコールアミン 分画 (5380)	血漿 1.3	E-2 G-1 凍結	HPLC 法	安静時 アドレナリン (A) 100 以下 ノルアドレナリン (NA) 140 ~ 450 ドーパミン (DA) 20 以下 pg/mL	3 5	165 生化II	
2201 4E016		髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC 法	pg/mL	3 5	161 生化II	
549 4E016		蓄尿 2.0	I-3 凍結	HPLC 法	アドレナリン (A) 3.4 ~ 26.9 ノルアドレナリン (NA) 48.6 ~ 168.4 ドーパミン (DA) 365.0 ~ 961.5 μg/day	3 6	161 生化II	*G

※1 他項目との重複依頼は避けて下さい。

I-3

6N 塩酸 20mL (小児 5 ~ 10mL) を予め入れた容器に 24 時間蓄尿
尿量測定、混和と必要量提出
(必ず凍結保存)
(尿量明記)
(市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する)
(6N 塩酸)

X-5

必要量採取
(必ず凍結保存)

ナ

専用安定化剤

予め専用安定化剤を蓄尿容器に一袋全量 (10g/袋 最終濃度約 0.5%) を入れて 24 時間蓄尿を行って下さい。
尿量測定、混和、凍結用容器に「尿 CPR 安定化剤入り」のラベルを貼り、必要量提出
(凍結保存) (尿量明記)

■特長
1. 予めの安定化剤添加により、常温蓄尿が可能
2. 蓄尿サンプルで他項目の検査依頼は不可

尿CPR 安定化剤入り 有効期限3年

実施料について(内分泌)


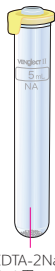


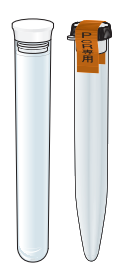
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

- 3項目以上5項目以下の場合
内分泌 410点
- 6項目又は7項目の場合
内分泌 623点
- 8項目以上の場合
内分泌 900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
198 4E050	ドーパミン総 (5250)	血漿 1.5	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	1.8 ~ 7.7 ng/mL	7 ↓ 13		*4
973 4E045	L - ドーパ (5450)	血漿 1.5	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	1.2 ~ 2.2 ng/mL	7 ↓ 20		*4
1049 4E070	5- ハイドロキシイン ドール (5356)	血漿 1.1	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	3.6 ~ 21.5 ng/mL	3 ↓ 8	95 生化II	
8509 4E070	5- ハイドロキシイン ドール 酢酸 (5-HIAA) (5257)	髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC 法	5.0 ~ 34.7 ng/mL	3 ↓ 8	95 生化II	
556 4E070	(5022)	酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC 法	1.7 ~ 7.2 mg/day	3 ↓ 8	95 生化II	*G
1045 4E055	(5355)	血漿 1.1	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	7.0 ~ 25.0 ng/mL	3 ↓ 8	69 生化II	
5111 4E055	ホモバニリン酸 (HVA) (5111)	髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC 法	18.7 ~ 41.9 ng/mL	3 ↓ 8	69 生化II	
555 4E055	(5021)	酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC 法	1.0 ~ 10.3 mg/day	3 ↓ 8	69 生化II	*G

内分泌学

 <p>C-9 6N 塩酸 20mL (小児 5 ~ 10mL) を予め入れた容器に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量明記) (市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する (6N 塩酸))</p>	 <p>E-2 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用</p> <p>EDTA-2Na 5mL用</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>	 <p>I-3 6N 塩酸 20mL (小児 5 ~ 10mL) を予め入れた容器に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量明記) (市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する (6N 塩酸))</p>	 <p>X-5 必要量採取 (必ず凍結保存)</p>
--	--	---	---	--

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

副腎髄質関連検査

2503 4E060	(5354)	血漿 1.1	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	3.3 ~ 9.9 ng/mL	3 } 8	90 生化II	
5095 4E060	バニールマンデル酸 (VMA) (5095)	髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC 法	1 以下 ng/mL	3 } 8	90 生化II	
567 4E060	(5020)	酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC 法	1.1 ~ 7.2 mg/day	3 } 8	90 生化II	*G
7481 4E040	メタネフリン・ノルメタネフリン分画 (5481)	酸性蓄尿 2.0	C-9 冷蔵	LC/MS/MS 法	メタネフリン (MN) 0.04 ~ 0.19 ノルメタネフリン (NMN) 0.09 ~ 0.33 mg/day	5 } 7	220 生化II	*1 *4

※1 「メタネフリン」、「メタネフリン・ノルメタネフリン分画」、「ノルメタネフリン」又は「遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

実施料について (内分泌)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	-----

副腎皮質関連検査

538 4D018	17- ケトステロイド分画 (17-KS 分画) (5702)	蓄尿 12.0	C-1 冷蔵	GC / MS 法 (酵素水解法)	表 1 参照 mg/day	8 } 9	213 生化II	酸性蓄尿は避けて下さい。 *4
95 4D035	11- ハイドロキシ コルチコステロイド (11-OHCS) (5030)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	蛍光法 (De Moor 変法)	(午前 10 時採血) 7.0 ~ 23.0 μg/dL	4 } 10	60 生化II	*4
94 4D040	コルチゾール (5028)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	CLIA 法	午前 (10 時以前) 3.7 ~ 19.4 μg/dL	1 } 2	121 生化II	
7784 4D045	尿中コルチゾール (5016)	蓄尿 1.0 又は 尿 1.0	C-1 冷蔵	CLIA 法	蓄尿 4.3 ~ 176.0 μg/day 随時尿 なし μg/L	4 } 5	121 生化II	*E

(表1)

17-ケトステロイド分画基準値 (単位: mg/day)

	男 性	女 性	
11-deoxy 17-KS	アンドロステロン	1.10 ~ 4.20	0.40 ~ 3.00
	エチオコラノロン	0.55 ~ 2.60	0.30 ~ 2.50
11-oxo 17-KS	11-ケトエチオコラノロン	0.04 ~ 0.65	0.03 ~ 0.50
	11-ヒドロキシアンドロステロン	0.40 ~ 2.30	0.22 ~ 1.60
	11-ヒドロキシエチオコラノロン	0.03 ~ 0.65	0.02 ~ 0.65
	11-ケトアンドロステロン	0.12 以下	0.07 以下

A1-1
血清分離
冷蔵保存

C-1
冷所に 24 時間蓄尿
尿量測定、混和、必
要量提出
冷蔵保存
(尿量明記)

E-2
採血後静かに約 10
回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、
必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使
用

EDTA-2Na
5mL

G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

G-5
冷所に 24 時間蓄尿
尿量測定、混和
必要量を提出
(尿量明記)
(必ず凍結保存)

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
127 4D090	デハイドロエピアンドロステロン サルフェート (DHEA-S) (5369)	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	表 2 参照	2 } 4	164 生化II	*G
98 4D115	アルドステロン (5024)	血清 0.3 又は 血漿 0.3	A1-1 冷蔵 又は E-2→G-1 凍結 31頁参照	CLEIA 法	4.0 ~ 82.1 pg/mL	2 } 4	122 生化II	*G
5533 4D115		蓄尿 1.5	G-5 凍結	CLEIA 法	1.0 ~ 19.3 μg/day	7 } 9	122 生化II	*4
7245	アルドステロン (CLEIA) / レニン活性比 (5245)	血漿 0.6 又は 血漿 0.3 血清 0.3 (同時提出)	E-2→G-1 凍結 又は E-2→G-1 凍結 A1-1 冷蔵 31頁参照	アルドステロン: CLEIA 法 レニン活性: EIA 法	100 未満	3 } 5		「アルドステロン」と「レニン活性」の同時依頼が必要です。(32、36頁参照) ※1 *G
7241	アルドステロン (CLEIA) / 活性型レニン定量 (レニン定量) 比 (5241)	血漿 0.6 又は 血漿 0.3 血清 0.3 (同時提出)	E-2→G-1 凍結 又は E-2→G-1 凍結 A1-1 冷蔵 31頁参照	CLEIA 法	20 未満	3 } 5		「アルドステロン」と「レニン定量」の同時依頼が必要です。(32、36頁参照) ※2 *G
205 4F025	エストラジオール (E ₂) (5091)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	表 1 参照	1 } 2	167 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。

内分泌学

注1 降圧剤(利尿剤)であるスピロノラクトン及びその代謝物による交差反応が検査値に影響を与える可能性があり、当該薬剤投与時には測定の実施を避けて下さい。

※1 アルドステロン / レニン活性比では、「アルドステロン」、「レニン活性」の容器・保存方法及び両項目の検体量を掲載しています。

※2 アルドステロン / レニン定量比では、「アルドステロン」、「レニン定量」の容器・保存方法及び両項目の検体量を掲載しています。

※3 PAC RIA相当値の計算式 RIA相当値=アルドステロンCLEIA値×1.174+42.3

(表2)デハイドロエピアンドロステロンサルフェート
(DHEA-S)基準値 (単位: μg/dL)

年齢(歳)	男性	女性
18 ~ 20	24 ~ 537	51 ~ 321
21 ~ 30	85 ~ 690	18 ~ 391
31 ~ 40	106 ~ 464	23 ~ 266
41 ~ 50	70 ~ 495	19 ~ 231
51 ~ 60	38 ~ 313	8 ~ 188
61 ~ 70	24 ~ 244	12 ~ 133
71 以上	5 ~ 253	7 ~ 177

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

- 3項目以上5項目以下の場合
内分泌 410点
- 6項目又は7項目の場合
内分泌 623点
- 8項目以上の場合
内分泌 900点

内分泌学的検査

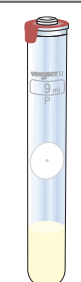
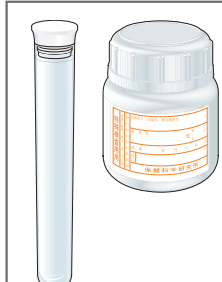

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

性腺関連検査

203 4F045	プロゲステロン (5038)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	M 0.1 ~ 0.2 F (卵胞期) 0.1 ~ 0.3 (黄体期) 1.2 ~ 15.9 (閉経後) 0.1 ~ 0.2 (妊娠前期) 2.8 ~ 147.3 (妊娠中期) 22.5 ~ 95.3 (妊娠後期) 27.9 ~ 242.5 ng/mL	1 { 2	143 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。

(表1) エストラジオール基準値

	血清(単位: pg/mL)	
	E2	
男性	11 ~ 44	
女性	卵胞期	21 ~ 251
	中間期	38 ~ 649
	黄体期	21 ~ 312
	閉経後	10 ~ 28

	A1-1 血清分離 冷蔵保存
	C-1 冷所に24時間蓄尿 混和、必要量提出 冷蔵保存 (尿量明記)
	G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所 需 日 数	実施料 判断料	備 考
290 4F055	プレグナンジオール (P ₂) (5037)	蓄尿 12.0	C-1 冷蔵	GC / MS 法 (酵素水解法)	M 0.16 ~ 0.79 F (卵胞期) 0.28 ~ 1.42 (黄体期) 0.79 ~ 6.83 (妊娠前期) 1.29 ~ 6.08 (妊娠中期) 3.05 ~ 24.22 (妊娠後期) 9.10 ~ 60.51 mg/day	8 9	213 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。 *4
291 4F060	プレグナントリオール (P ₃) (5009)	蓄尿 12.0	C-1 冷蔵	GC / MS 法 (酵素水解法)	M 0.13 ~ 1.60 F (卵胞期) 0.13 ~ 1.30 (分泌期) 0.13 ~ 1.90 (閉経期) 0.02 ~ 0.83 mg/day	8 9	232 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。 *4
202 4F065	テストステロン (5039)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (4日)	CLIA 法	M (21 ~ 49 歳) 240.24 ~ 870.68 (50 歳以上) 220.91 ~ 715.81 F (21 ~ 49 歳) 13.84 ~ 53.35 (50 歳以上) 12.40 ~ 35.76 ng/dL	1 2	119 生化II	
5915 4F070	遊離テストステロン (5915)	血清 0.2	A1 ↓ G-1 凍結	EIA 法	表 2 参照 pg/mL	3 5	159 生化II	*G
5048 4F100	抗ミュラー管ホルモン (AMH) (5048)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	表 3 参照 ng/mL	2 4	597 生化II	*1 *G

※1 不妊症の患者に対して、調節卵巣刺激療法における治療方針の決定を目的として測定した場合に、6月に1回に限り算定できる。

(表2) 遊離テストステロン基準値

(単位: pg/mL)

年齢	男性	女性
20 ~ 29	8.8 ~ 31.7	1.5 ~ 4.9
30 ~ 39	7.3 ~ 28.9	0.8 ~ 4.1
40 ~ 49	6.2 ~ 24.9	0.5 ~ 4.0
50 ~ 59	6.1 ~ 25.0	
60 ~ 80	5.8 ~ 18.2	

(表3) 抗ミュラー管ホルモンの参考基準値

AMH測定値の年齢別分布

年齢(歳)	n	中央値(ng/mL)	95%信頼区間(参考基準値)(ng/mL)
≤ 27	558	4.69	0.76 ~ 14.18
28	387	4.27	0.84 ~ 12.44
29	555	4.14	0.86 ~ 11.97
30	663	4.02	0.79 ~ 12.74
31	865	3.85	0.44 ~ 13.08
32	872	3.54	0.62 ~ 13.87
33	959	3.32	0.40 ~ 12.76
34	1,064	3.14	0.38 ~ 11.16
35	1,191	2.62	0.37 ~ 10.18
36	1,122	2.50	0.33 ~ 9.93
37	1,154	2.27	0.24 ~ 8.50
38	1,230	1.90	0.11 ~ 7.81
39	1,176	1.80	0.13 ~ 7.45
40	1,057	1.47	0.08 ~ 6.13
41	888	1.30	0.06 ~ 5.52
42	715	1.00	0.05 ~ 5.81
43	509	0.72	0.03 ~ 4.49
44	309	0.66	0.03 ~ 3.98
45	144	0.41	0.03 ~ 3.43
46 ≤	127	0.30	0.02 ~ 1.67
全群	15,545	2.36	0.12 ~ 10.67

※JISART (日本生殖補助医療標準化機関) の各施設に通院する不妊症患者で本品を用いて測定した16,526例のうち、多嚢胞性卵巣(PCO) (939例) および早発卵巣不全(POI) (42例) と診断された症例を除外した後の、女性15,545例のAMH測定値の年齢別分布(中央値)をノンパラメトリック法により求めました。(JISART多施設共同研究での国内検討データ)

【判定上の留意事項】

- 日本産科婦人科学会 生殖・内分泌委員会 生殖医療リスクマネージメント小委員会の報告では、AMH測定に際して留意すべき事項として次の4項目が挙げられています。
- ①AMHは卵子の質とは関連しない。
 - ②AMHの測定値は個人差が大きく、若年女性でも低い場合や高齢女性でも高い場合があり、測定値からいわゆる「卵巣年齢」の推定はできない。
 - ③測定値と妊娠する可能性とは直接的な関連はなく、測定値から「妊娠できる可能性」を判定するのは不適切と考えられる。
 - ④測定値が低い場合でも「閉経が早い」という断定はできない。

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

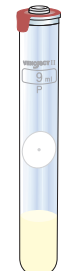
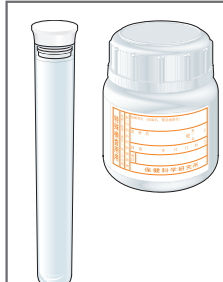
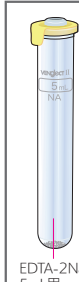
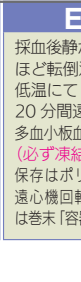

胎盤機能検査

207 4F080	ヒト絨毛性 ゴナドトロピン定量 (HCG) (5040)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA 法	表 1 参照 mIU/mL	1 2	130 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必 ず記載して下さい。
		尿 1.0	C-3 冷蔵	ECLIA 法	3.0 以下 mIU/mL	1 2	130 生化II	
281 4F080	(5258)							※1
7846 4F090	遊離βHCG (HCGβサブユニット) (5442)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA 法	1.00 未満 ng/mL	4 5	132 生化II	動物検体受付不可 HCG産生腫瘍患者の場合 算定 ※1

※ 1 ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定性又は、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

(表 1) ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量 (HCG)《血清》基準値
(単位: mIU/mL)

男 性		1.0 以下
女 性	閉経前非妊婦	4.9 以下
	閉経後非妊婦	8.1 以下
	妊 婦	
	3 週	5.4 ~ 72.0
	4 週	10.2 ~ 708
	5 週	217 ~ 8254
	6 週	152 ~ 32177
	7 週	4059 ~ 153767
	8 週	31366 ~ 149094
	9 週	59109 ~ 135901
	10 週	44186 ~ 170409
	12 週	27107 ~ 201615
	14 週	24302 ~ 93646
	15 週	12540 ~ 69747
	16 週	8904 ~ 55332
17 週	8240 ~ 51793	
18 週	9649 ~ 55271	

 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>C-3 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保 存 (尿量記載の必要な し)</p>	 <p>E-2 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、 必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用</p> <p>EDTA-2Na 5mL用</p>	 <p>E-5 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 低温にて 180G 20 分間遠心 多血小板血漿を分取し (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用 遠心機回転数について は巻末「容器一覧」参照</p>	 <p>G-7 トルエン 1 ~ 2mL を加え冷所に 24 時 間蓄尿 尿量測定、混和 必要量を提出 (尿量明記) (必ず凍結保存)</p>
--	--	---	--	---

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
その他								
1011 4Z255	サイクリック AMP (c-AMP) (5157)	血漿 0.3	E-2 ↓ G-1 凍結	RIA 法	11 ~ 21 pmol/mL	要 確 認	165 生化 II	
1012 4Z255		蓄尿 1.0	G-7 凍結	RIA 法	1.8 ~ 6.3 μmol/day	要 確 認	165 生化 II	* 4
199 4E065	セロトニン (5023)	全血 2.0	S 凍結	LC-MS/MS 法	52.8 ~ 200 ng/mL	5 ↓ 11		
5120 4E065		多血小板 血漿 0.6	E-5 ↓ G-1 凍結	LC-MS/MS 法	623 以下 ng/mL	5 ↓ 11		* 1
96 4Z010	レニン活性 (PRA) (5025)	血漿 0.3	E-2 ↓ G-1 凍結	EIA 法	臥位 0.2 ~ 2.3 座位 0.2 ~ 3.9 立位 0.2 ~ 4.1 ng/mL/h	3 ↓ 6	100 生化 II	同時算定不可
1050 4Z020	レニン定量 (ARC) (5367)	血漿 0.5	E-2 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	2.21 ~ 39.49 pg/mL	2 ↓ 7	102 生化 II	* G



S

採血後静かに
約 10 回ほど
転倒混和
そのまま
(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結
他の項目との同時依
頼はできません。

EDTA-2K
2mL用

実施料について(内分泌)	
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

その他

177 4Z275	エリスロポエチン (5042)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	4.2 ~ 23.7 mIU/mL	2 } 4	209 生化II	※1 *G
1107 4Z280	オステオカルシン (BGP) (5451)	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	FEIA 法	8.3 ~ 32.7 ng/mL	4 } 7	157 生化II	※2、※3 *1
4449 4Z282	低カルボキシル化 オステオカルシン (ucOC) (4704)	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	4.50 未満 ※4 ng/mL	5 } 7	154 生化II	※5 溶血血清は低値を示す場 合があります。 *F

※ 1 以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。

ア) 赤血球増加症の鑑別診断

イ) 重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンペータペゴル若しくは HIF-PH 阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断

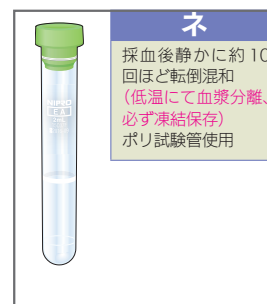
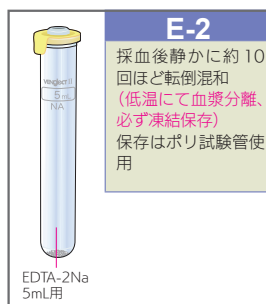
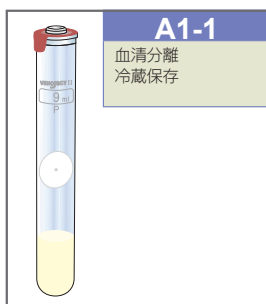
ウ) 骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定

※ 2 続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合のみ算定できる。

※ 3 NTx、デオキシピリジノリン（尿）、TRACP-5b を併せて実施した場合は、いずれか 1 つのみ算定する。

※ 4 骨粗鬆症患者におけるビタミン K 不足状態判定のカットオフ値です。

※ 5 低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC) は、骨粗鬆症におけるビタミン K2 剤の治療選択目的で行った場合、又は治療経過観察を行った場合に算定できる。但し、治療開始前においては 1 回、その後は 6 月以内に 1 回に限り算定できる。



内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

心臓関連検査

1069 4Z270	HANP (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド) (5063)	血漿 0.4	ネ ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	43.0 以下 pg/mL	2 ↓ 4	221 生化II	※2、※3 溶血の場合は低値となり ますのでご注意ください。
2515 4Z271	BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド) (5570)	血漿 0.4	E-2 ↓ G-1 凍結	CLIA 法	18.4 以下 pg/mL	2 ↓ 4	130 生化II	溶血の場合は低値となり ますのでご注意ください。 ※2、※3、※4
4439 4Z272	NT-proBNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド) 前駆体 N 端フラグメント (5777)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	125 以下 pg/mL ※1	2 ↓ 4	130 生化II	

※ 1 基準値はメーカー設定による基準値（心不全除外のカットオフ値）です。

※ 2 BNP、NT-proBNP 及び HANP のうち 2 項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して 1 週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの 1 つに限り算定する。

※ 3 心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月 1 回に限り算定する。

※ 4 BNP、NT-proBNP 及び HANP のうち 2 項目以上を実施する場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細の摘要欄に記載する。

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて
青色で表記されている検査を
3項目以上行った場合

1.	3項目以上5項目以下の場合	内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合	内分泌 623点
3.	8項目以上の場合	内分泌 900点

内分泌負荷試験

内分泌負荷試験

負荷試験名	測定ホルモン	内容	保険点数
下垂体前葉負荷試験	成長ホルモン(GH)	インスリン負荷、アルギニン負荷、L-DOPA負荷 クロニジン負荷、グルカゴン負荷、プロプラノロール負荷 プロモクリプチン負荷、睡眠負荷など	1200 (一連として) ※
	黄体形成ホルモン(LH)及び 卵胞刺激ホルモン(FSH)	LH-RH負荷、クロミフェン負荷など	1600 (一連として月一回)
	甲状腺刺激ホルモン(TSH)	TRH負荷など	1200 (一連として月一回)
	プロラクチン(PRL)	TRH負荷、プロモクリプチン負荷など	1200 (一連として月一回)
	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	インスリン負荷、メトピロン負荷、デキサメサゾン負荷、CRH負荷など	1200 (一連として月一回)
下垂体後葉負荷試験	アルギニンバソプレッシン(AVP) (抗利尿ホルモン)(ADH)	水制限、高張食塩水負荷(カーター・ロビンテスト)など	1200 (一連として月一回)
甲状腺負荷試験	T ₃ 、T ₄ 、FT ₃ 、FT ₄	T ₃ 抑制など	1200 (一連として月一回)
副甲状腺負荷試験	PTH	カルシウム負荷、PTH負荷(エルスワース・ハワードテスト)EDTA負荷など	1200 (一連として月一回)
副腎皮質負荷試験	鉱質コルチコイド(レニン、レニン活性、 アルドステロン)	フロセマイド負荷、アンギオテンシン負荷など	1200 (一連として月一回)
	糖質コルチコイド(コルチゾール、 DHEA-S)	ACTH負荷、デキサメサゾン負荷、メトピロン負荷など	1200 (一連として月一回)
性腺負荷試験	テストステロン	HCG負荷など	1200 (一連として月一回)
	エストラジオール(E ₂)	HMG負荷など	

※患者1人につき月2回に限り算定する。

保険点数について

- 1月に3600点を限度として算定する。
- 負荷試験に伴って行った注射(手技料)、採血及び検体測定のコスト(点数)は、採血回数及び測定回数に係らず、所定点数に含まれるものとする。

糖負荷試験

負荷試験名	測定項目・内容	保険点数
常用負荷試験	血糖（尿糖検査を含む）	200 ※
耐糖能精密検査 グルカゴン負荷試験	常用負荷試験及び血中インスリン測定又は常用負荷試験及び血中 C-ペプチド（CPR）を測定した場合	900 ※

※注射（手技料）、採血及び検体測定のコスト（点数）は、採血回数に係らず所定点数に含まれるものとする。

75g 経口ブドウ糖負荷試験（75gOGTT）実施上の注意

検査手順

- 朝まで 10 時間以上絶食の後、空腹のまま来院させる。この検査を午前 9 時頃に開始することが望ましい。
- 空腹のまま採血^{注1)}し血糖値を測定する。次にブドウ糖（無水ブドウ糖末 75g を水に溶かしたもの、又はでんぷん分解産物の相当量、例えばトレーラン G）を飲用させる。
- ブドウ糖負荷後 30 分、1 時間^{注2)}と 2 時間に採血し血糖値を測定する。
- 判定基準に従い、糖尿病型、正常型、境界型のいずれかに判定する。
- 検査終了まで喫煙、運動は控える。又、上部消化管造影 X 線検査や内視鏡検査後に本試験を行わない。

注 1) 75gOGTT 前後のインスリン反応を測定する場合には、負荷前及び負荷後 30 分にインスリン測定用のサンプルを採血する

注 2) 75gOGTT で、30 分、60 分の血糖値は糖尿病の診断には必要ないが、境界型を正確に判定し糖尿病高リスク群を見出すために役立つ。

糖尿病の診断方法および診断基準

型の判定（1 時点での高血糖の存在確認）

- | | |
|-------------------------------|--|
| ① 早朝空腹時血糖値 126mg/dL 以上 | } ①～④のいずれかが確認された場合は「 糖尿病型 」と判定する。 |
| ② 75gOGTT で 2 時間値 200mg/dL 以上 | |
| ③ 随時血糖値 200mg/dL 以上 | |
| ④ HbA1c が 6.5% 以上 | |
| ----- | |
| ⑤ 早朝空腹時血糖値 110mg/dL 未満 | } ⑤および⑥の血糖値が確認された場合は「 正常型 」と判定する。 |
| ⑥ 75gOGTT で 2 時間値 140mg/dL 未満 | |

●上記の「糖尿病型」「正常型」いずれにも属さない場合は「**境界型**」と判定する。

空腹時血糖値^{注1)}および 75gOGTT による判定区分と判定基準

血糖値 (静脈血漿値)	血糖測定時間		判定区分
	空腹時	負荷後 2 時間	
126mg/dL 以上	← または →	200mg/dL 以上	糖尿病型
糖尿病型にも正常型にも属さないもの			境界型
110mg/dL 未満	← および →	140mg/dL 未満	正常型 ^{注2)}

注 1) 血糖値は、とくに記載のない場合には静脈血漿値を示す。

注 2) 正常型であっても 1 時間値が 180mg/dL 以上の場合は 180mg/dL 未満のものに比べて糖尿病に悪化する危険が高いため、境界型に準じた取り扱い（経過観察など）が必要である。また、空腹時血糖値が 100～109mg/dL は正常域ではあるが、「正常高値」とする。この集団は糖尿病への移行や OGTT 時の耐糖能障害の程度からみて多様な集団であるため、OGTT を行うことが勧められる。

日本糖尿病学会糖尿病診断基準に関する調査検討委員会：糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告（国際標準化対応版）．糖尿病 55：499，2012 より一部改変

腫瘍マーカー

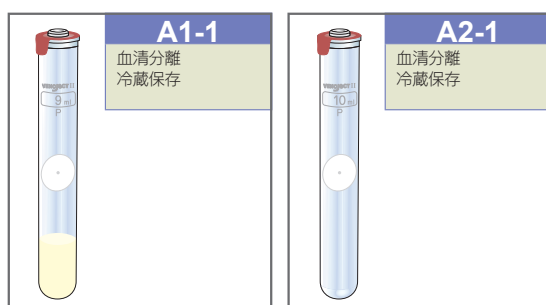
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

胎児性蛋白

67 5D015	α-フェトプロテイン (AFP) (4009)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	10.0 以下 ng/mL	1 2	98 生化II	
2593 5D018	α-フェトプロテイン レクチン分画 (AFP-L3%) (4587)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LBA (LBA-EATA) 法	L3 分画 10.0 未満 %	2 5	185 生化II	*G
230 5D010	CEA (癌胎児性抗原) (4010)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	5.0 以下 ng/mL	1 2	99 生化II	DUPAN-2と同時算定不可
1110 5D025	BFP (塩基性フェトプロテイン) (4330)	血清 0.2	A2-1 冷蔵	EIA 法	7.5 未満 ng/mL	2 7	150 生化II	採血後2時間以内に血清分離して下さい。 溶血不可 分離剤入りの容器での採血不可 *G

糖鎖抗原

229 5D200	NCC-ST-439 (4332)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	M 4.5 未満 F (49才以下) 7.0 未満 (50才以上) 4.5 未満 U/mL	2 5	112 生化II	*G
238 5D170	DUPAN-2 (4365)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	EIA 法	150 以下 U/mL	2 5	115 生化II	癌胎児性抗原(CEA) と同時算定不可 *G
256 5D130	CA19-9 (4103)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	37.0 以下 U/mL	1 2	121 生化II	
263 5D120	CA15-3 (4049)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	31.3 以下 U/mL	1 2	112 生化II	CSLEXと同時算定不可
257 5D100	CA125 (4106)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	35.0 以下 U/mL	1 2	136 生化II	



腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所 要 日 数	実施料 判断料	備 考
糖鎖抗原								
4169 5D110	ヒト精巢上体蛋白 4 (HE4) (4331)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLIA 法	閉経前：70.0 以下 閉経後：140.0 以下 pmol/L	2 ┌ 7	200 生化II	*G
4956	ROMA (卵巣悪性腫瘍推定値) (4828)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	計算法	閉経前：7.4 未満 閉経後：25.3 未満 %	2 ┌ 7		*1、2 *G
1097 5D125	BCA225 (4394)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	160.0 未満 U/mL	2 ┌ 4	158 生化II	*G
132 5D175	SLX (シアリル Le ^x -i 抗原) (4359)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IRMA 法 (RIA・固相法)	38.0 以下 U/mL	5 ┌ 7	140 生化II	溶血不可 動物検体受付不可 *E
2561 5D177	CSLEX (シアリル Le ^x 抗原) (4765)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	EIA 法	8.0 未満 U/mL	4 ┌ 8	156 生化II	診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。 CA15-3と同時算定不可 *E
1099 5D153	シアリル Tn 抗原 (STN) (4447)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	RIA 固相法	45 以下 U/mL	4 ┌ 7	146 生化II	*4
1091 5D150	CA72-4 (4033)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	11.97 以下 U/mL	2 ┌ 5	146 生化II	*G
1109 5D220	SPan-1 (4034)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IRMA 法 (RIA・固相法)	30.0 以下 U/mL	4 ┌ 5	144 生化II	動物検体受付不可 *E

※ 1 閉経前・後で計算式、基準値が異なるため、閉経前・後両方の結果値を報告いたします。

※ 2 ROMA は、HE4 と CA125 (専用試薬) の測定結果から計算で算出します。なお、HE4、および、CA125 (ROMA 用) を併せて報告いたします。

青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、47～48頁をご参照下さい。

腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

腫瘍関連抗原

1431 5D325	シフラ (CYFRA21-1) (サイトケラチン 19 フラグメント) (4388)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	2.08 以下 ng/mL	2 3	154 生化II	※ 1
638 5D300	扁平上皮癌関連抗原 (SCC 抗原) (4050)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLIA 法	2.0 以下 ng/mL	1 2	101 生化II	注 1
138 3B195	エラスターゼ 1 (4027)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	300 以下 ng/dL	2 3	120 生化II	緊急 (対象:血清) アミラーゼ、リパーゼ、アミラーゼアインザイム、トリプシン又はエラスターゼ 1を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
219 5D305	PSA (前立腺特異抗原) (4088)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	4.000 以下 ng/mL	1 2	121 生化II	※ 2
2517 5D305	高感度 PSA タンデム (4397)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	4.00 以下 ng/mL	1 2		
2727 5D308	高感度 PSA タンデム F/T 比 (4781)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	F/T 比 : 25 % 総 PSA : 4.00 以下 ng/mL	1 2	150 生化II	※ 3
5D308 5D309	プロステートヘルス インデックスセット (phi セット) (4281)	血清 0.8	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	表 1 参照	1 2	127 + 154 生化II	採血後 3 時間以内に血清分離して下さい。 ※ 4、※ 5
5D308 5D309	phi F/T 比同時依頼セット (4122)				表 2 参照			

注 1 フケ、毛髪、皮膚 (表皮)、爪等の混入により異常高値を示す場合がありますので、検体の取り扱いには十分ご注意ください。

※ 1 悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。

※ 2 前立腺特異抗原 (PSA) は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1 回を限度として算定する。但し、前立腺特異抗原 (PSA) の検査結果が 4.0ng/mL 以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3 月に 1 回に限り、3 回を上限として算定できる。なお、当該検査を 2 回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※ 3 PSA F/T 比のカットオフ値 25% は、高感度 PSA タンデムのグレーゾーン (4.01 ~ 10.0ng/mL) における前立腺癌と前立腺肥大症の判別に用いるカットオフ値です。25%以下 低値になる程、前立腺癌の確率が高くなります。25%超 高値になる程、良性前立腺疾患の確率が高くなります。

※ 4 F/T 比の報告が必要な場合は、(4122) phi F/T 比同時依頼セットをご依頼下さい。

※ 5 計算式 : $\text{phi} = [-2] \text{proPSA} / \text{f-PSA} \times \sqrt{\text{t-PSA}}$

(表1)phiセット 基準値・単位

項目名	基準値	単位
phi	27.2未満	なし
t-PSA	4.00以下	ng/mL
f-PSA	なし	ng/mL
[-2]proPSA	なし	pg/mL

(表2)phi F/T比同時依頼セット 基準値・単位

項目名	基準値	単位
phi	27.2未満	なし
t-PSA	4.00以下	ng/mL
f-PSA	なし	ng/mL
[-2]proPSA	なし	pg/mL
F/T比	25超	%

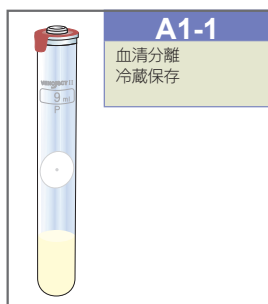
腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所 費 日 数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	------------------	------------	--------

腫瘍関連抗原

235 5D310	γ -Sm (γ -セミノプロテイン) (4043)	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	4.00 以下 ng/mL	4 } 5	192 生化II	*1
2524 5D550	Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体) (4429)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA 法	81.0 未満 pg/mL	2 } 4	175 生化II	*G
639 5D410	NSE (神経特異エノラーゼ) (4048)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA 法	16.3 以下 ng/mL	2 } 4	142 生化II	同時算定不可 溶血不可 赤血球や血小板中にある NSE が影響を与える恐れ がありますので、採血後、 血清分離は1時間以内に実 施して下さい。
239 5C025	α_1 -酸性糖蛋白 (α_1 -AGP) (4246)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ネフェロメトリー法	M 45 ~ 98 F 39 ~ 86 mg/dL	4 } 6		*4
480 5D520	PIVKA II 定量 (4357)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	40 未満 mAU/mL	2 } 4	131 生化II	急速凝固管のご使用は お避け下さい。

腫瘍マーカー



青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、47～48頁をご参照下さい。

腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

腫瘍関連抗原

2619 5C124	I CTP (I型コラーゲンCテロペプチド) (4110)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	RIA・2抗体法	(骨転移マーカーの カットオフ値として) 4.5 未満 ng/mL	4 5	170 ※1 生化II	動物検体受付不可 ※2 *E
728 3B222	TRACP-5b 定量 (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ) (4012)	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	EIA 法	表 1 参照 mU/dL	2 4	156 生化II	※2、※3
2724 5C123	NTx (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) (4903)	尿 3.0 (午前第2尿)	C-2 冷蔵	EIA 法	表 3 参照 nmol BCE/mmol CRE	2 5	156 生化II	*G
2710 5C146	デオキシピリジノリン (DPD) (5907)	尿 3.0 (午前第2尿)	C-2 冷蔵	EIA 法	M 2.1 ~ 5.4 F 2.8 ~ 7.6 骨粗鬆症薬剤治療の指標 骨折リスクカットオフ値 7.6 骨量低下カットオフ値 5.9 骨代謝回転の低下 2.8 未満 nM/mMcr	2 5	191 生化II	※2、※4 *G

注1 NTx 値は夜間に高く午後に低値を示すことが報告されています。治療効果のモニター等、同一患者での比較を行う場合には第1回目と同時刻に採取して下さい。

※1 悪性腫瘍特異物質治療管理料としてののみ保険請求が認められます。

※2 乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「口」を算定する。

※3 代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。又、治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。本検査をNTx、オステオカルシン、又はデオキシピリジノリン(尿)を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。

※4 原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、又、薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。TRACP-5bとNTx、オステオカルシン又はデオキシピリジノリン(尿)を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。

(表1) TRACP-5b定量基準値

単位: mU/dL

男性	170~590
女性(YAM)	120~420

YAM: 若年成人平均値

女性の基準値は、健常閉経前女性(30~44歳)が相当します。なお、閉経後女性にも適用されます。

(表2) NTx《血清》基準値・判定基準

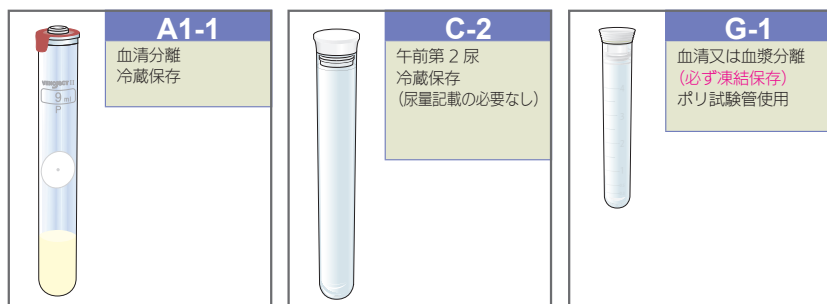
単位: nmol BCE/L

男性	9.5~17.7
女性(閉経前)	7.5~16.5
女性(閉経後)	10.7~24.0
骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折リスク カットオフ値 16.5 骨量低下 カットオフ値 13.6

(表3) NTx《尿》基準値・判定基準

単位: nmol BCE/mmol CRE

男性	13.0~66.2
女性(閉経前)	9.3~54.3
女性(閉経後)	14.3~89.0
骨吸収亢進の指標	55以上
副甲状腺摘出術の適応	200以上
悪性腫瘍の骨転移の指標	100以上
骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折リスク カットオフ値 54.3 骨量低下 カットオフ値 35.3



実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1.	3項目以上5項目以下の場合	内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合	内分泌 623点
3.	8項目以上の場合	内分泌 900点

腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所 要 日 数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	------------------	------------	--------

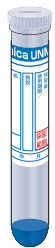
腫瘍関連抗原

4448 5D560	抗 p53 抗体 (4702)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	1.30 以下 U/mL	3 5	163 生化II	※2 *G
2168 5J095	インターロイキン 2 受容体 (IL-2R) (4379)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	156.6 ~ 474.5 U/mL	2 4	438 生化II	※3 *G

※ 1 尿沈渣顕微鏡検査により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。なお、尿中NMP22定量については、尿路上皮癌の診断が確定した後にを行った場合であっても、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。

※ 2 食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月 1 回に限り算定できる。

※ 3 非ホジキンリンパ腫、ATL 又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。又、非ホジキンリンパ腫又は ATL であることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。



フ

1. 自然排出の随時尿を用い、カテーテルによる採取は行わないで下さい。尿採取にあたりガラス製及び金属製の容器は使用しないで下さい。
2. 膀胱鏡検査実施後、又はカテーテル施行後、5 日以内の尿は用いないで下さい。
3. 肉眼的血尿検体は正誤差を生じますので、使用しないで下さい。
4. 採取した尿をすみやかに遠心し、その上清を専用容器に移し混和して下さい。(冷蔵保存)

青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、47 ~ 48 頁をご参照下さい。

腫瘍マーカー

腫瘍マーカー検査の保険点数の算定について (留意事項)

検体検査実施料

- (1) 腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは原則として、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。但し、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。
 - ア 急性及び慢性肺炎の診断及び経過観察のためにエラストラーゼ1を行った場合
 - イ 肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、 α -フェトプロテイン(AFP)又はPIVKA-II半定量又は定量を行った場合(月1回に限る。)
 - ウ 子宮内膜癌の診断又は治療効果判定を目的としてCA125を行った場合(診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。)
 - エ 家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原(CEA)を行った場合
- (2) 尿中BTAは、膀胱癌であると既に確定診断がされた患者に対して、膀胱癌再発の診断のために行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「イ」を算定する。
- (3) 前立腺特異抗原(PSA)は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。但し、前立腺特異抗原(PSA)の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を上限として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- (4) 核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)又は定量(尿)
 - ア 核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)又は定性(尿)は、尿沈渣(鏡検法)により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
 - イ 核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)又は定性(尿)については、尿路上皮癌の診断が確定した後にを行った場合であっても、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。
- (5) 核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)又は定性(尿)を同時に実施した場合は、いずれか一方の所定点数を算定する。
- (6) 遊離型PSA比(PSA F/T比)は、診療及び他の検査(PSA等)の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
- (7) 抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。
- (8) I型コラーゲン-C-テロペプチド(I CTP)、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)又はデオキシピリジノリン(DPD)(尿)は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。
- (9) シアリルLe^x抗原(CSLEX)
 - ア シアリルLe^x抗原(CSLEX)は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。
 - イ シアリルLe^x抗原(CSLEX)とCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- (10) サイトケラチン19フラグメント(シフラ)は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。
- (11) ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)を神経特異エノラーゼ(NSE)と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- (12) α -フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)は、電気泳動法及び抗体親和性転写法又はLBA法による。

- (13) 癌胎児性抗原(CEA)定性又は半定量(乳頭分泌液)は、乳頭異常分泌患者に対して非腫瘍性乳癌を強く疑って、乳頭分泌液中のCEAを測定した場合に算定する。
- (14) 可溶性インターロイキン-2レセプター受容体(sIL-2R)は、非ホジキンリンパ腫、ATLの診断の目的で測定した場合に算定できる。又、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。
- (15) 「注2」に係る規定は、本区分に掲げる血液を検体とする検査と癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)、半定量(乳頭分泌液)を同一日に行った場合にも、適用する。

悪性腫瘍特異物質治療管理料

- (1) 悪性腫瘍特異物質治療管理料は、悪性腫瘍であると既に確定診断がされた患者について、腫瘍マーカー検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り算定する。
- (2) 悪性腫瘍特異物質治療管理料には、腫瘍マーカー検査、当該検査に係る採血及び当該検査の結果に基づく治療管理に係る費用が含まれるものであり、1月のうち2回以上腫瘍マーカー検査を行っても、それに係る費用は別に算定できない。
- (3) 腫瘍マーカー検査の結果及び治療計画の要点を診療録に記載する。
- (4) 「注3」に規定する初回月加算は、適切な治療管理を行うために多項目の腫瘍マーカー検査を行うことが予想される初回月に限って算定する。但し、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する当該初回月の前月において、区分番号「D009」腫瘍マーカーを算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。
- (5) 区分番号「D009」腫瘍マーカーにおいて、併算定が制限されている項目を同一月に併せて実施した場合には、1項目とみなして、本管理料を算定する。
- (6) 当該月に悪性腫瘍特異物質以外の検査(本通知の腫瘍マーカーの項に規定する例外規定を含む。)を行った場合は、本管理料とは別に、検査に係る判断料を算定できる。
- (7) 特殊な腫瘍マーカー検査及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内議し、最も近似する腫瘍マーカー検査及び治療管理として準用が通知された算定方法により算定する。

腫瘍マーカー検査の保険点数の算定について (実施料と管理料)

検査項目	検体検査実施料		悪性腫瘍特異物質 治療管理料	
	点数	項目数	点数	項目数
尿中 BTA ※ 1	(80点)		220点	
癌胎児性抗原(CEA)	102点	2項目 230点 3項目 290点 4項目以上 396点	1項目 360点 2項目以上 400点	150点 初回月加算
α-フェトプロテイン(AFP)	104点			
組織ポリペプチド抗原(TPA)	110点			
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)				
DUPAN-2	118点			
NCC-ST-439				
CA15-3				
エラスターゼ 1	126点			
前立腺特異抗原(PSA)	127点			
CA19-9				
P I VKA- II 半定量	139点			
P I VKA- II 定量				
CA72-4	146点			
SPan-1				
シアリルTn抗原(STN)				
神経特異エノラーゼ(NSE)	144点			
CA125				
塩基性フェトプロテイン(BFP)	150点			
核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿) ※ 2	147点			
核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿) ※ 2				
シアリルLe ^x -i 抗原(SLX)	148点			
遊離型PSA比(PSA F/T比)	154点			
抗p53抗体	163点			
BCA225	162点			
サイトケラチン19フラグメント(シフラ)	162点			
シアリルLe ^x 抗原(CSLEX)	164点			
I型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP) ※ 1	170点			
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	175点			
CA54/61	184点			
癌関連ガラクトース転移酵素(GAT)				
CA602	190点			
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)				
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	194点			
ヒト精巣上体蛋白4(HE4)	200点			
可溶性メソテリン関連ペプチド	220点			
癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液)	305点			
癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液)				
HER2蛋白 ※1	320点			
可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)	438点			
I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx) ※1				
デオキシピリジノリン(DPD)(尿) ※1				
TRACP-5b定量 ※1				

※ 1 悪性腫瘍特異物質治療管理料としてのみ算定 ※ 2 検体検査実施料としてのみ算定

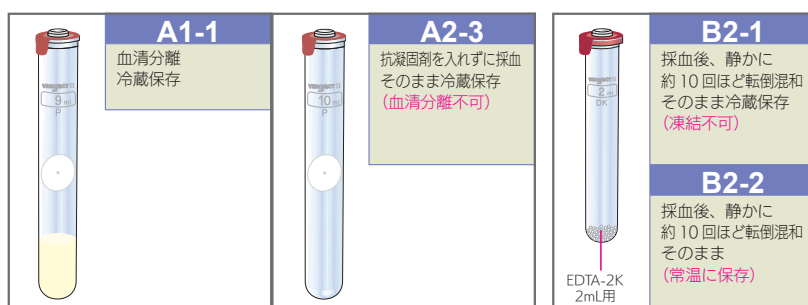
免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
310 5H010	ABO 血液型 (2017)	全血 2.0	B2-1 冷蔵	マイクロプレート法 又は、試験管法		2 4 ※	24 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。 ※不規則抗体と同時依頼の 場合は不規則抗体の結果 と同時(1~2日)にご報 告致します。
311 5H020	Rh (D) 血液型 (2018)	全血 2.0	B2-1 冷蔵	マイクロプレート法 又は、試験管法		2 4 ※	24 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。 ※不規則抗体と同時依頼の 場合は不規則抗体の結果 と同時(1~2日)にご報 告致します。
1402 5H025	Rh-Hr 式血液型 (2047)	全血 2.0	B2-1 冷蔵	試験管法		1 2	148 免疫	凍結不可 CcDEe因子 同一検体による検査の場合 は因子の種類及び数に係ら ず、所定点数を算定する。
320 5H121	直接クームス試験 (2022)	全血 2.0	B2-2 常温	カラム凝集法 又は、試験管法 (直接抗グロブリン法)	(-)	1 2	34 免疫	緊急 凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。
321 5H122	間接クームス試験 (2023)	全血 4.0	A2-3 冷蔵	カラム凝集法 (間接抗グロブリン法)	(-)	1 2	47 免疫	
2054 5H122	クームス定量試験 (2024)	全血 4.0	A2-3 冷蔵	カラム凝集法 ※1 (間接抗グロブリン法)	1 倍未満	2 4		凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。 抗凝固剤使用不可
319 5H180	不規則抗体 (2025)	全血 10.0	A2-3 冷蔵	カラム凝集法 ※1 (間接抗グロブリン法、 フイン法)	(-)	1 2	159 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。 抗凝固剤使用不可 ※2
647 5G520	抗血小板抗体 (2027)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	MPHA 法	(-)	5 8	261 免疫	

※1 精査を必要とする場合は、試験管法も実施いたします。

※2 手術に際して輸血が行われた場合は、不規則抗体又は、輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。輸血歴、妊娠歴があり、胸部手術、心・
脈管手術、腹部手術、子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮付属器悪性腫瘍手術(両側)、帝王切開術、子宮外妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。
診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴又は妊娠歴がある旨を記載する。

*4



免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

免疫血液学的検査

1098 5G525	<div style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px;">予約検査</div> 血小板関連 IgG (PA-IgG) (2223)	全血 7.5	<div style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px;">モ</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px;">冷蔵</div>	EIA 法	46 以下 ng/10 ⁷ cells	3 } 5	190 免疫	凍結不可 休日の前日は受付できません。 ※1 ※2 *4
8548 5G530	HIT 抗体 (血小板第 4 因子・ヘパリン複合体抗体) (7750)	血漿 0.5	<div style="background-color: #000080; color: white; padding: 2px;">D-1</div> <div style="background-color: #000080; color: white; padding: 2px;">↓</div> <div style="background-color: #000080; color: white; padding: 2px;">G-1</div> <div style="background-color: #000080; color: white; padding: 2px;">凍結</div>	ラテックス凝集法	1.0 未満 U/mL	4 } 6	390 免疫	HIT抗体(IgG、A及びM)を 測定しています。グロブリン クラス別での報告ではあ りません。 ※3 *1

※1 必ず採血当日にご依頼下さい。血小板数が3万/μL 以下の場合は、10mL 以上ご提出下さい。

※2 特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。

※3 ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。

D-1



血液を正確に 1.8mL 入れ静かに約 10 回ほど転倒混和
(血漿分離)
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

3.2%
クエン酸ナトリウム0.2mL

G-1



血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

モ




採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)
(注) 末梢血の血小板が 3 万/μL 以下の場合は、専用容器を 2 本使用し必ず 10mL 以上採血して下さい。

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

感染症血清反応

302 5E074	梅毒定性	RPR 法 (3463)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法 及び凝集法	(-)	1 2	15 免疫	梅毒血清反応(STS)定性
303 5E075		TP 抗体 (3004)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法 及び PA 法				
305 5E079		FTA-ABS (3009)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	FA 法				
307 5E074	梅毒半定量	RPR 法 (3470)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法 及び凝集法	1 倍未満	1 2	34 免疫	梅毒血清反応(STS)半定量
309 5E075		TP 抗体 (3007)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法 及び PA 法	80 倍未満			
1417 5E079		FTA-ABS (3027)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	FA 法	20 倍未満			
22 5E035	抗ストレプトリジン O 定量 (ASO) (1058)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	160 以下 IU/mL	1 2	15 免疫		
312 5E106	マイコプラズマ抗体 半定量	(4041)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	PA 法	40 倍未満	2 4	32 免疫	
316 (6006) 5E106		(4047)	血清 0.2 又は 髄液 0.2	A1-1 又は X-2 冷蔵	CF 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	5 7	32 免疫	*E

	A1-1 血清分離 冷蔵保存		G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用		X-2 必要量採取 冷蔵保存
	A1-3 採血後血清分離まで (必ず保温) 血清分離 冷蔵保存				

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所 要 日 数	実施料 判断料	備 考
感染症血清反応								
48 5E105	寒冷凝集反応 (1060)	血清 0.2	A1-3 冷蔵 51頁参照	HA 法	64 倍未満	2 } 3	11 免疫	採血後、すみやかに血清分離 血清分離まで保温
323 (6023) 5E026	オーム病クラミジア抗体 (7034)	血清 0.2 又は 髄液 0.2	A1-1 又は X-2 冷蔵	CF 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	5 } 7	79 免疫	*E
7256 5E031	クラミドフィラ (クラミジア) ・ ニューモニエ IgG 抗体 (7361)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	(-) 表1参照	3 } 6	70 免疫	※1 *G
7259 5E032	クラミドフィラ (クラミジア) ・ ニューモニエ IgA 抗体 (7722)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	(-) 表2参照	3 } 6	75 免疫	※1 *G
7262 5E033	クラミドフィラ (クラミジア) ・ ニューモニエ IgM 抗体 (7878)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	(-) 0.5 未満 表3参照	3 } 6	152 免疫	※1 *G
991 5E154	トリコスポロン・アサヒ抗体 (4674)	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	Antigen-captured ELISA 法	0.15 未満 表4参照	9 } 16	822 免疫	※2 *S
1445 5E069	MAC 抗体 (7607)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	ELISA 法	判定 (-) 抗体濃度 0.7 未満 U/mL	5 } 10	116 免疫	*1

- ※1 クラミドフィラ・ニューモニエ IgM 抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエ IgG 抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエ IgA 抗体と併せて実施した場合は、主たるもの 1 つに限り算定する。
- ※2 夏型過敏性肺炎の鑑別診断を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班による「過敏性肺炎の診断の手引と診断基準」により、夏型過敏性肺炎が疑われる患者とする。

(表1) クラミドフィラ(クラミジア)
ニューモニエIgG抗体 判定基準値

判定【IgG】	EIU値
陰性(-)	30未満
判定保留(±)	30~45
陽性(+)	46以上

(表2) クラミドフィラ(クラミジア)
ニューモニエIgA抗体 判定基準値

判定【IgA】	EIU値
陰性(-)	8未満
判定保留(±)	8~12
陽性(+)	13以上

(表3) クラミドフィラ(クラミジア)
ニューモニエIgM抗体 判定基準

判定【IgM】	S/CO値
陰性(-)	0.5未満
判定保留(±)	0.5~1.1
陽性(+)	1.2以上

※EIU (Enzyme Immunounits) 単位

(表4) トリコスポロン・アサヒ抗体判定基準

判定	CAI (Corrected Absorbance Index)
陰性	0.15未満
判定保留	0.15~0.30未満
陽性	0.30以上

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

感染症血清反応

385 5E156	トキソプラズマ IgG 抗体 (4278)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	7.5 未満 表 1 参照 IU/mL	2 ~ 4	93 免疫	
387 5E157	トキソプラズマ IgM 抗体 (4279)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	0.8 未満 表 2 参照 S/CO	2 ~ 4	95 免疫	
2224 5E054	百日咳菌抗体 (4766)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	PT-IgG :10 未満 FHA-IgG:10 未満 図 1 参照 EU/mL	2 ~ 4	257 免疫	*G
679 5E020	クラミジアトラコマチス IgG・IgA 抗体 (7151)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	IgG (-) IgA (-) 表 3、4 参照 cut off index	2 ~ 4	200 免疫	*1 *G

※1 クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患（骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等）の診断に際し、IgG 抗体価又は IgA 抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM 抗体価を測定した場合に算定する。なお、IgG 抗体価、IgA 抗体価及び IgM 抗体価のうち 2 項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

(表1) トキソプラズマIgG抗体判定基準

IU/mL	判定
7.5未満	陰性
7.5以上~10.4	判定保留
10.5以上	陽性

(表2) トキソプラズマIgM抗体判定基準

S/CO	判定
0.8未満	陰性
0.8~0.9	判定保留
1.0以上	陽性

(表3) クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体判定基準

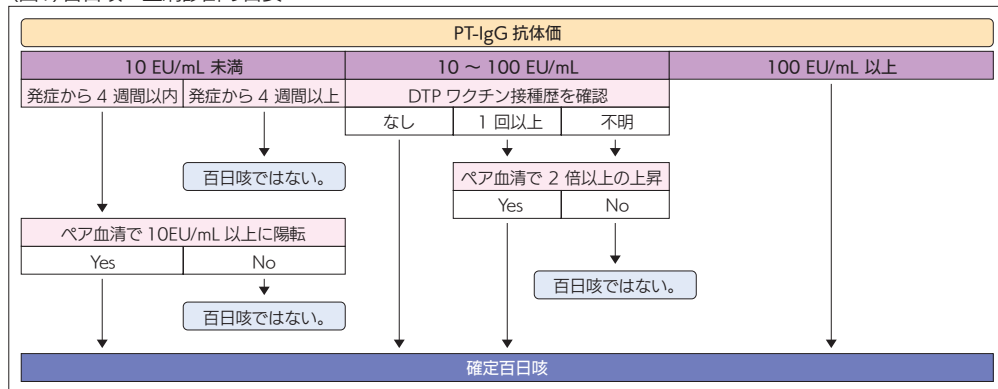
判定	cut off index
(-)	0.90未満
(±)	0.90~1.09*
(+)	1.10以上

(表4) クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体判定の解釈

IgG	IgA	判定の解釈
(+)	(+)	クラミジア感染の疑いがある
(-)	(+)	クラミジア感染の疑いがある
(+)	(-)	クラミジア感染の既応あるいは感染の疑いがある
(-)	(-)	抗体陰性

*再度、7~10日後に新しく採血した血清により再検査するなど注意して判定して下さい。

(図1) 百日咳・血清診断の目安



免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

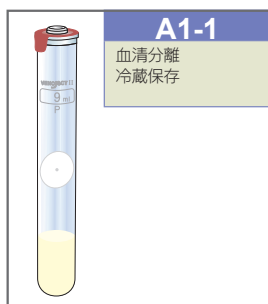
感染症血清反応

2717 5E128	ツツガ虫 Gilliam	IgG 抗体 (4716)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	5 ~ 8	203 免疫
2718 5E129		IgM 抗体 (4717)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	5 ~ 8	
2715 5E125	ツツガ虫 Kato	IgG 抗体 (4718)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	5 ~ 8	203 免疫
2716 5E126		IgM 抗体 (4719)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	5 ~ 8	
2713 5E122	ツツガ虫 Karp	IgG 抗体 (4720)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	5 ~ 8	203 免疫
2714 5E123		IgM 抗体 (4721)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	5 ~ 8	

各株ごとに算定する。
ツツガムシ抗体半定量

*E

免疫学



免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

感染症血清反応

4926 5E064	ヘリコバクター・ピロリ 抗体/国内株 (4921)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	10.0 未満 (-) U/mL	2 ~ 4	80 免疫	※1 *G
(1425) 5E065	ヘリコバクター・ピロリ IgG 抗体/国内株 (4176)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	10.0 未満 (-) U/mL	3 ~ 5	80 免疫	※1 *G
7102 3B347	胃がんリスク層別化検査 (ABC 分類) (1494)	血清 0.7	A1-1 冷蔵	ペプシノゲン I・II (PG I・II) ラテックス凝 集比濁法 ヘリコバクター・ピロ リ IgG 抗体/国内株: EIA 法	(陽性判定基準) ・ペプシノゲン: PG I 値が 70.0ng/mL 以下 且つ PG I/II 比が 3.0 以下 ・H.ピロリ抗体: 3.0U/ mL 以上 表 1 参照	3 ~ 5		
7103 3B347	胃がんリスク層別化検査 (ABC 分類) (除菌歴あり) (1495)							
3B347	胃がんリスク層別化検査 (ABC分類) [LA法] (1496)	血清 0.7	A1-1 冷蔵	ペプシノゲン I・II (PG I・II) ラテックス凝 集比濁法 ヘリコバクター・ピロリ 抗体/国内株: ラテッ クス凝集比濁法	(陽性判定基準) ・ペプシノゲン: PG I 値が 70.0ng/mL 以下 且つ PG I/II 比が 3.0 以下 ・H.ピロリ抗体: 10.0U/mL 以上 表 2 参照	5 ~ 7		[ピロリ菌の除菌治療前] ペプシノゲン・H.ピロリ抗 体の検査結果と ABC 分類 (A~D 群) をご報告いたし ます。
3B347	胃がんリスク層別化検査 (ABC分類) (除菌歴あり) [LA法] (1482)							[ピロリ菌の除菌治療後] 除菌治療を受けた方は、除 菌判定結果に関わらず、E 群 (除菌群) としてご報告い たします。

※1 当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取り扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取り扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行うこと。

◇胃がんリスク層別化(ABC分類) [LA法]について

既存の胃がんリスク層別化検査(ABC分類)で検査しているヘリコバクター・ピロリ抗体(ヘリコバクター・ピロリ IgG 抗体/国内株)につきましては、現感染や既感染が混在する陰性高値が問題とされておりました。本検査は、その従来からの問題点を無視できるとして認定NPO法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構で推奨されている試薬を使用する、より精度の高い検査です。(使用試薬: H.ピロリ-ラテックス「生研」)

(表1) 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の基準

		H.ピロリ抗体検査 (※1)	
		(-)	(+)
		3.0U/mL 未満	3.0U/mL 以上 10.0U/mL 未満 (※2) 10.0U/mL 以上
ペプシノゲン 検査	(-)	A 群	B 群
	(+)	D 群	C 群

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)は、AからD群まで分類して報告します。但し、既にピロリ菌の除菌治療を受けた方につきましてはE群(除菌群)として報告します。

※1 「未感染」と「現感染」を診断する臨床診断と異なり、ABC分類ではリスクの低い「未感染」とリスクがある「過去感染と現感染」を診断するため、基準値が異なります。

※2 除菌する場合は、必ず尿素呼吸試験、便中H.ピロリ抗原測定などの検査を実施し、存在診断を行って下さい。

(表2) 胃がんリスク層別化検査(ABC分類) [LA法]の基準

		H.ピロリ抗体検査 4926(4921)	
		10.0U/mL 未満	10.0U/mL 以上
		(-)	(+)
ペプシノゲン 検査 1083(4675)	(-)	A 群	B 群
	(+)	D 群	C 群

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)は、AからD群まで分類して報告します。但し、既にピロリ菌の除菌治療を受けた方につきましてはE群(除菌群)として報告します。

※E群は除菌により胃ガンになるリスクは低くなりますが、除菌後も内視鏡検査等による経過観察が必要です。

【ABC分類結果の解釈】

A 群: 概ね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往がある方が含まれます。一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。

B 群: 少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意し、内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。尚、H.ピロリ抗体の検査結果が3.0~10.0U/mlの場合、除菌治療の前に他の検査で存在診断を実施することが必要です。

C 群: 萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられますので、定期的の内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

D 群: 萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがありますので、ピロリ菌感染診断をお勧めします。必ず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてください。

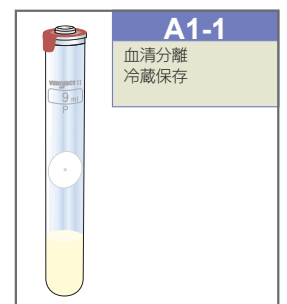
E 群: ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群として定期的の内視鏡検査を受けましょう。除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありません。除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

B、C、D群の順にリスクが高くなります。

【胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の注意事項】

《この検査に適さない方》

- ・ピロリ菌の除菌治療を受けた方
- ・明らかな上部消化器症状のある方
- ・上部消化器疾患治療中の方
- ・プロトンポンプ阻害剤服用中の方
- ・胃切除後の方
- ・腎不全の方



免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

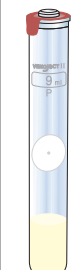

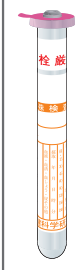

感染症血清反応

4193 5C215	プロカルシトニン定量 (PCT) (5778)	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	CLIA 法	0.05 未満 ng/mL	2 ~ 4	276 生化 I	敗血症(細菌性) 鑑別診断の カットオフ値: 0.50ng/mL 未満 重症度判定の カットオフ値: 2.00ng/mL 以上 ※1
1103 5E046	エンドトキシン (5490)	全血 2.0	Y2 冷蔵	比濁時間分析法	1.0 以下 pg/mL	4 ~ 6	229 免疫	凍結不可 検体は無菌的に採取し採取 容器をご提出下さい。 必ず指定容器をご使用下さい。 *E
8561 5E151	(1→3) -β-D- グルカン (5247)	全血 3.0	Y 冷蔵	発色合成基質法	20.0 以下 pg/mL	3 ~ 5	195 免疫	凍結不可 深在性真菌感染症が疑われる患者に 対する治療法の選択又は、治療効果 の判定に使用した場合に算定する。 ※2 *G
下欄 参照 5E048	透析液エンドトキシン	透析液 4.0	ヤ2 冷蔵	発色合成基質法	EU/mL	3 ~ 5		材料ごとの項目コードでご 依頼下さい。 *G

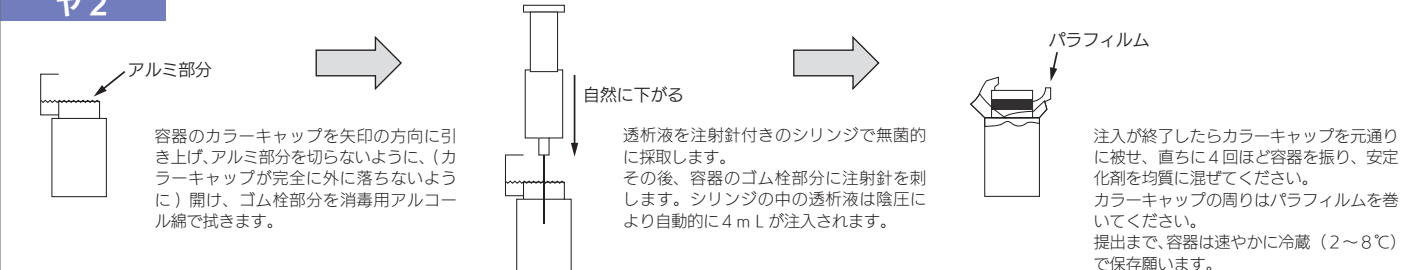
※1 プロカルシトニン (PCT) 定量又は半定量は、敗血症 (細菌性) を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。但し、エンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 (1→3) - β - D - グルカンをカンジダ抗原半定量、クリプトコックス抗原定性、アスペルギルス抗原と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

材料種類	項目コード (グループコード)	項目名称
A 液	5547 (5547)	透析液エンドトキシン A 液
B 液	5548 (5548)	透析液エンドトキシン B 液
RO 水	5549 (5549)	透析液エンドトキシン RO 水
調整液	5550 (5550)	透析液エンドトキシン 調整液
その他	5551 (5551)	透析液エンドトキシン その他

 <p>A1 血清分離</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>	 <p>Y 採血部位をよく消毒して専用真空採血 管に直接採血。採血後直ちにゆっくり 5～6回転倒混和して下さい。 汚染を避けて冷蔵保存。 (必ず採血当日に御依頼下さい。)</p>	 <p>Y2 無菌的に採取して下 さい。</p>
--	---	---	--

ヤ2



アルミ部分

容器のカラーキャップを矢印の方向に引き上げ、アルミ部分を切らないように、(カラーキャップが完全に外に落ちないように) 開け、ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。

自然に下がる

透析液を注射針付きのシリンジで無菌的に採取します。その後、容器のゴム栓部分に注射針を刺します。シリンジの中の透析液は陰圧により自動的に4 mL が注入されます。

パラフィルム

注入が終了したらカラーキャップを元通りに被せ、直ちに4回ほど容器を振り、安定化剤を均質に混ぜてください。カラーキャップの周りにはパラフィルムを巻いてください。提出まで、容器は速やかに冷蔵 (2～8℃) で保存願います。

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

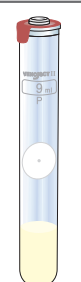
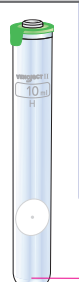

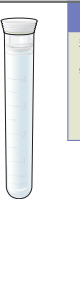
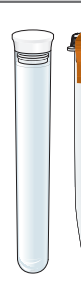
抗原検査

2521 5E142	カンジダ・マンナン抗原 (4885)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	EIA 法	0.05 未満	4 〜 7	134 免疫	カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定する。 ※1 ※2 *E
2520 5E140	クリプトコッカス抗原定性 (4538)	血清 0.8 又は 髄液 0.8	A1-1 又は X-2 冷蔵	ラテックス凝集反応	(-)	4 〜 6	169 免疫	※1 *E
2416 5E148	アスペルギルス抗原 (4788)	血清 0.7	A1-1 冷蔵	EIA (ELISA) 法	Cut off index 判定 0.5 未満 (-) 0.5 以上 (+)	4 〜 6	157 免疫	下記、注意事項をご参照下さい。 侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合に算定する。 ※1 *E

※1 (1 → 3) - β-D-グルカンをカンジダ抗原半定量、クリプトコッカス抗原定性、アスペルギルス抗原と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 ※2 高値傾向を示す恐れがありますので、フィブリン析出時の除去に竹串を使用しないでください。

【アスペルギルス抗原の結果判定に関する注意事項】

- 侵襲性アスペルギルス症の診断は、本品の判定結果のみではなく、臨床症状や培養検査、病理学的検査、画像診断などの結果を加味し、総合的に行って下さい。
- 陽性を判定された場合には、再度採血を行った検体にて再測定を実施することをお勧めします。
- 陰性と判定された場合でも、侵襲性アスペルギルス症の可能性は否定できません。検体中の抗原濃度が、本品で検出できる濃度に達していなかった可能性もあります。感染が疑われる場合には、再測定を実施することをお勧めします。
- 慢性肉芽腫症 (CGD) や Job 症候群の患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低かったとの報告があります。
- 抗真菌薬の投与を受けている患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低くなる場合があります。
- 臨床症状がなく陽性と判定された場合、次の状況が考えられます。
 - ①感染初期に、臨床症状や画像所見等よりも先に、アスペルギルス抗原 (ガラクトマンナン) が陽性を示すことがあります。
 - ②幼児で、臨床症状を示さない陽性が報告されています。実際に血中にアスペルギルス抗原が存在した場合がありますが、ほとんどは、偽陽性と考えられています。
 - ③ガラクトマンナンは豆、種子、牛乳等に多く含まれており、食物繊維としても種々の食物に添加されています。また、わが国では多くの食品 (味噌、醤油など) でコウジカビ (アスペルギルス属) を利用しています。乳幼児や消化管粘膜に損傷のある患者では食物の影響により陽性を示す可能性があるとの報告がありますので、注意して診断して下さい。
 - ④海外で、ピペラシリン / タゾバクタムの合剤及びアモキシシリンの投与により、本品の測定結果が陽性を示したという報告があります。したがって、上記薬剤で治療されている患者においては判定の際に注意が必要です。
 - ⑤ペニシリウム属等の菌種では抗ガラクトマンナン (ラット) モノクローナル抗体との交差反応性が認められます。
- 本製品はグレーゾーンを設定していないので、カットオフインデックス値 (0.5) 近辺の結果の場合は、侵襲性アスペルギルス症の他の臨床症状、他の臨床検査結果及び画像診断結果も参照の上、注意深く総合的に判断して下さい。
- 自己免疫疾患患者の血清では、非特異的反応が起こりうるので測定結果に基づく診断は他の検査結果や臨床症状等を加味して総合的に判断して下さい。

	A1-1 血清分離 冷蔵保存		F-6 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和。必ず常温保存		FL 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和。そのまま冷蔵保存		G-6 蓄尿又は部分尿 必要量提出、凍結保存 (尿量記載の必要なし) (必ず凍結保存)		X-2 必要量採取 冷蔵保存 X-5 必要量採取 (必ず凍結保存)
---	-----------------------------	---	---	---	--	--	--	---	--

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
1747 5E041	肺炎球菌莢膜 抗原定性	《尿》 (5976)	尿 1.0 G-6 凍結	イムノクロマト法	(-)	2 4	188 免疫	肺炎球菌莢膜抗原定性(尿・ 髄液)は、免疫クロマト法 により実施した場合に限り 算定できる。
		《髄液》 (5988)	髄液 1.0 X-5 凍結	イムノクロマト法	(-)	2 4	188 免疫	
2409 5E056	尿中レジオネラ抗原定性 (4964)	尿 1.0	G-6 凍結	イムノクロマト法	(-)	2 4	205 免疫	症状や所見からレジオネラ 症が疑われる患者に対して 実施した場合に限り1回を 限度として算定する。 *G
2591 6B620	結核菌 DNA [PCR] (TB-PCR) (7374)	喀痰 1.0 ~2.0	ワ 冷蔵	リアルタイム PCR 法	(-)	3 5	410 微生物	緊急 結核患者の退院の可否を判 断する目的で、患者の病状 を踏まえ頻回に行われる場 合においても算定できる。 *G
2698 6B621	MAC DNA [PCR] (マイコバクテリウム・アビウム 及びイントラセルラー核酸検出) (7375)	喀痰 1.0 ~2.0	ワ 冷蔵	リアルタイム PCR 法	アビウム (-) イントラセルラー (-)	3 5	421 微生物	他の検査により結核菌が陰 性であることが確認され た場合のみに算定できる。 なお、抗酸菌同定検査と同 時算定不可。 *G
7527 5E301	曜日指定 予約検査 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能 (T-SPOT. TB) (67527)	全血 6.0 注1	F-6 常温 (18~25℃) (32時間以内)	ELISPOT 法	(-)	3 4	594 免疫	予約検査。休日の前日は受 付できません。凍結不可・ 開封厳禁。 *1
7619 5E301	曜日指定 予約検査 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能 (QFT プラス) (7026)	全血 6.0 注1	FL 冷蔵	ELISA 法	(-)	3 7	593 免疫	依頼に際しては、「採血時 間」をご記入下さい。 T-SPOT.TB、QFTプ ラ ス の判定基準は70頁をご参 照下さい。 ※1 *G

注1 他項目との重複しないよう単独検体で提出して下さい。

※1 診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。



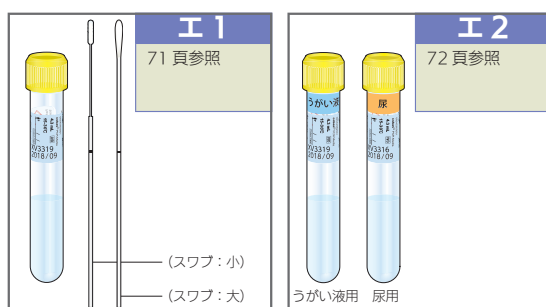
免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

抗原検査

3762 5E021	(7388)	尿 (初尿) 4.5~6.3	エ2 冷蔵					同時算定不可
3765 5E021	クラミジア・トラコマチス DNA (PCR) (7728)	うがい液 4.5~6.3	エ2 冷蔵	リアルタイム PCR 法	(-)	2 4	188 微生物	
3759 5E021	(7380)	子宮頸部 擦過細胞	エ1 冷蔵					
3763 6B610	(7389)	尿 (初尿) 4.5~6.3	エ2 冷蔵					
3766 6B610	淋菌 DNA [PCR] (7729)	うがい液 4.5~6.3	エ2 冷蔵	リアルタイム PCR 法	(-)	2 4	198 微生物	細菌培養同定と同時算定不可 ※1
3760 6B610	(7387)	子宮頸部 擦過細胞	エ1 冷蔵					
3764 6B615	(7507)	尿 (初尿) 4.5~6.3	エ2 冷蔵					
3767 6B615	淋菌/クラミジア・トラコマチス 同時測定 DNA (PCR) (7732)	うがい液 4.5~6.3	エ2 冷蔵	リアルタイム PCR 法	(-)	2 4	262 微生物	クラミジア・トラコマチス 抗原、細菌培養同定検査淋 菌及びクラミジアによる感 染を疑って実施するもの、 淋菌核酸同定検査 (淋菌 PCR、淋菌SDA) 又はクラ ミジア・トラコマチス核酸 同定検査 (クラミジア・トラ コマチスPCR、クラミジア・ トラコマチスSDA) を併せ て実施した場合は、主たる もののみ算定する。 ※2 ※3
3761 6B615	(7504)	子宮頸部 擦過細胞	エ1 冷蔵					

- ※1 淋菌核酸同定検査 (淋菌 PCR・淋菌 SDA) は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。但し、男子尿を含み女子尿を含まない。なお、SDA法においては咽頭からの検体も算定できる。
- ※2 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、クラミジア・トラコマチス感染症もしくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査によっては感染因子の鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。
- ※3 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体によるものである。但し、男子尿は含み、女子尿は含まない。



免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
抗原検査								
7735 6B643	腔トリコモナス/ マイコプラズマジェニタリウム 同時測定 DNA (PCR) (7372)	尿 (初尿) 4.5~6.3 注1	Ⅰ2 冷蔵	リアルタイムPCR法	(-)	2 ~ 4	347 微生物	
7738 6B643		腔擦過物 及び 子宮頸部 擦過細胞 (7381) 注1	Ⅰ1 冷蔵					

注1 他の検査と重複しないよう、単独検体で提出してください。

※ 尿検体の場合、最後の排尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認してください。

※ 腔トリコモナス核酸及びマイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出は、リアルタイムPCR法により、腔トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性又は実施できないもの若しくはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して治療法選択のために実施した場合及び腔トリコモナス感染症又はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して治療効果判定のために実施した場合に、本区分の「10」HPV核酸検出の所定点数を準用して算定する。

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

抗原検査

2738 5E068	糞便中ヘリコバクター・ ピロリ抗原定性 (4909)	糞便	✕ 冷蔵	EIA 法	(-)	3 ~ 5	142 免疫	※1 *G
---------------	----------------------------------	----	---------	-------	-----	-------------	-----------	-------

尿素呼気試験

1070 6Z100	尿素呼気試験 (UBT) (コービット) (5723)	呼気 前・後 (各 1 個)	UB 常温	IR 法 (赤外分光分析)	2.5 未満 △%	4 ~ 6	70 微生物	服用前および服用 20 分 後の呼気をそれぞれ採取し、 ペアで提出して下さい。 ※1 *C
---------------	--------------------------------------	----------------------	----------	------------------	------------------	-------------	-----------	--

UB



検査当日の 注意事項

空腹時に実施する検査ですので、午前中の検査の場合は朝食をとらずにお越し下さい。午後に検査の場合は、昼食をとらずにお越し下さい。

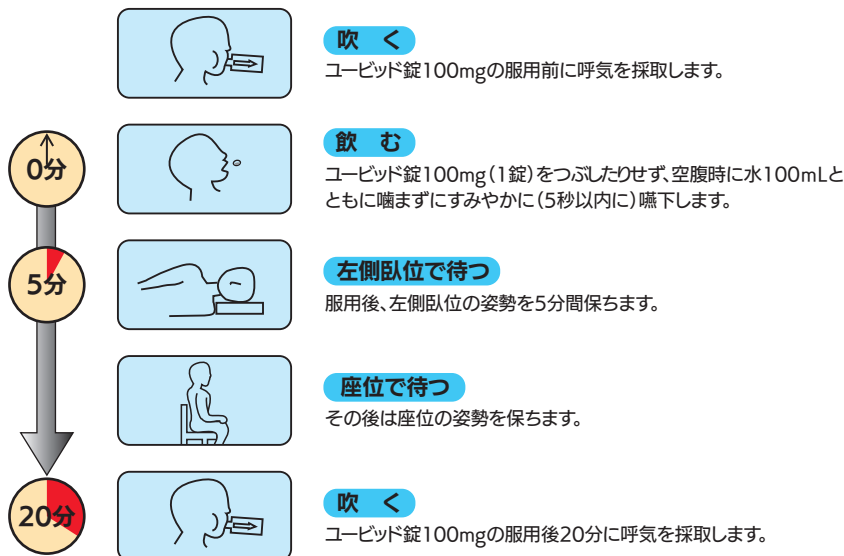
※呼気採取方法のポイント

- 1) 呼気採取バックを口にあて、(鼻から)息を吸って、5~10秒程度息を止めて下さい。
- 2) その後呼気採取バックにゆっくりと息を入れて下さい。(バックには肺の中の息を入れて下さい)
- 3) 息止めが苦しい場合は2~3回に分けて入れても大丈夫です。

※呼気を採取する前に、呼気バックに“施設名”、“患者名”などの所定の内容を記入し、“服用前”又は“服用後”のいずれかにチェックを入れて下さい。

※呼気の採取後に記入するとバックを傷つける恐れがあります。又、記入にはペン先の鋭利でないものをご利用下さい。

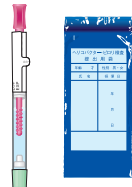
※呼気を採取したバックには必ずしっかりとキャップをして下さい。



※1 当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取り扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取り扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行うこと。

✕

提出日の当日又は前日に、下記のように大便を採って、なるべく早く提出して下さい。



容器の白ラベルを途中まではがし、図のように広げて、氏名・日付等を記入し、元のとおり巻き付けて下さい。



便器(水ため部以外の場所)にトイレトイレットペーパーを敷くなどし、その上に排便して下さい。



採便棒先端の溝すべりが便でうまるように、便の表面をこすり取って下さい。



採便棒を容器にもどして、根元までねじ込んで下さい。

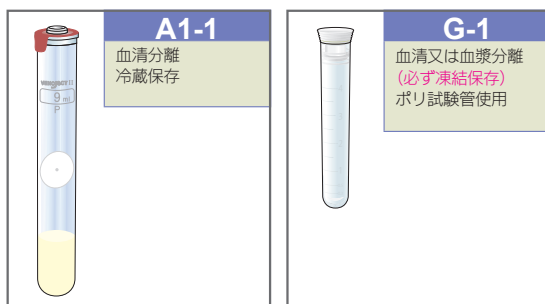
免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

リウマトイド因子・RA関連検査

971 5G160	リウマトイド因子 (RF)	定性 (1057)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA 法	(-)	1 2	
21 5G160		定量 (1145)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA 法	15 以下 IU/mL	1 2	30 免疫 ※1、※2
1186 5G167	抗 CCP 抗体定量 (抗シトルリン化ペプチド抗体) (4750)		血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	4.5 未満 U/mL	2 4	193 免疫 ※3、※4
1325 5G161	IgG 型リウマトイド因子 (IgG-RF) (4581)		血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	2.0 未満	2 7	198 免疫 ※1、※4 *G
2701 5G166	抗ガラクトース欠損 IgG 抗体 (CA・RF) (4579)		血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	6.0 未満 AU/mL	5 7	111 免疫 ※1、※2、※4 *F
2730 3B503	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ -3) (4116)		血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	M 35.2 ~ 123.8 F 16.1 ~ 56.8 ng/mL	2 3	116 免疫 ※1、※4
1311 5G635	モノクローナル RF 結合 免疫複合体 (mRF-IC) (4448)		血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	EIA 法	4.2 未満 μg/mL	4 10	194 免疫 ※1、※4 *E

- ※ 1 リウマトイド因子定量、MMP -3、抗ガラクトース欠損 IgG 抗体、モノクローナル RF 結合免疫複合体、IgG 型リウマトイド因子のうち 3 項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの 2 つに限り算定する。
- ※ 2 抗ガラクトース欠損 IgG 抗体と RF 定量を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- ※ 3 以下のいずれかの場合に算定できる。
- (イ) 関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として 1 回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3 月に 1 回に限り算定できる。なお、当該検査を 2 回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
 - (ロ) (イ) とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者 1 人につき原則として 1 回に限り算定する。ただし、当該検査結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、3 月に 1 回に限り算定できる。なお、当該検査を 2 回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
- ※ 4 抗シトルリン化ペプチド抗体、IgG 型リウマトイド因子、モノクローナル RF 結合免疫複合体、抗ガラクトース欠損 IgG 抗体及びマトリックスメタロプロテイナーゼ -3 (MMP-3) のうち 2 項目以上を併せて実施した場合、主たるもの 1 つに限り算定する。



免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

甲状腺関連自己抗体検査

1071 5G290	抗サイログロブリン抗体 (抗 Tg 抗体) (5538)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	4.11 未満 IU/mL	2 ~ 4	136 免疫	
1448 5G285	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗 TPO 抗体) (5541)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	5.61 未満 IU/mL	2 ~ 4	138 免疫	*1
110 5G310	TSHレセプター抗体(第3世代) (5783)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	3.10 未満 IU/L	2 ~ 4	214 免疫	同時算定不可
7389 5G300	TSAb (甲状腺刺激抗体) (5294)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	バイオアッセイ法	110 未満 %	5 ~ 6	330 免疫	<ul style="list-style-type: none"> 溶血は低値の影響があります。 血清以外の材料は培養系に影響を与えるため検査不可となります。 防腐剤などの添加物使用の場合も検査不可となります。 *E

自己抗体検査

176 5G010	抗核抗体半定量 (ANA) (4969)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	蛍光抗体法 (FA 法)	40 倍 未満 (-)	2 ~ 4	102 免疫	*2 *G
2532 5G087	抗 RNA ポリメラーゼIII抗体 (4807)	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	index 28 未満 判定 (-) 28 以上 50 未満 (+/-) 50 以上 (+)	4 ~ 7	170 免疫	*3、*4 *4
2581 5G090	抗セントロメア抗体 (4627)	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	10.0 未満 U/mL	4 ~ 8	174 免疫	抗セントロメア抗体定量 *5 *4
178 5G020	抗 DNA 抗体定量 (4075)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	RIA・硫酸法	6.0 以下 IU/mL	4 ~ 5	159 免疫	動物検体不可 *E

*1 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体を抗甲状腺マイクロソーム抗体半定量と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

*2 抗核抗体半定量の報告対象

抗核抗体	HOMOGENEOUS	SPECKLED	NUCLEOLAR	PERIPHERAL
CENTROMERE	GRANULAR	細胞周期関連型	核膜型	CYTOPLASM

*CYTOPLASMにつきましては、(-)または(+)のご報告となります。


*3 びまん性強皮症の確定診断を目的として行った場合に、1回を限度として算定できる。

*4 びまん性強皮症の確定診断の際、陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、又、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。

*5 原発性胆汁性肝硬変又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合のみ算定できる。


A1-1

血清分離
冷蔵保存



G-1

血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



免疫学の検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
自己抗体検査								
1125 5G026	抗 ss-DNA-IgG 抗体定量 (4366)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	25 以下 AU/mL	4 ┌ 7	159 免疫	*4
1123 5G036	抗 ds-DNA-IgG 抗体定量 (4368)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	12 以下 IU/mL	4 ┌ 7		*4
1126 5G028	抗 ss-DNA-IgM 抗体 (4367)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	17 未満 U/mL	4 ┌ 11		*4
1124 5G038	抗 ds-DNA-IgM 抗体 (4369)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	6 未満 U/mL	4 ┌ 11		*4
377 5G066	抗 RNP 抗体定量 (4689)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満 10.0 以上	判定 (-) 5 (+)	144 免疫	*G
137 5G065	抗 Sm 抗体定量 (4667)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満 10.0 以上	判定 (-) 5 (+)	147 免疫	*G
3334 5G076	抗 SS-A/Ro 抗体定量 (4661)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満 10.0 以上	判定 (-) 5 (+)	161 免疫	*G
3335 5G077	抗 SS-B/La 抗体定量 (4664)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満 10.0 以上	判定 (-) 5 (+)	157 免疫	*G
136 5G085	抗 Scl-70 抗体定量 (4692)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満 10.0 以上	判定 (-) 5 (+)	157 免疫	*G
3260 5G120	抗 Jo-1 抗体定量 (4883)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	10.0 未満 U/mL	3 ┌ 5	140 免疫	*G

免疫学

実施料について(自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

- 2項目
自己抗体 320点
- 3項目以上
自己抗体 490点

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

自己抗体検査

144 5G385	抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗 AChR 抗体) (4240)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	RIA 法	0.2 以下 (-) 0.3 ~ 0.5 (+/-) 0.6 以上 (+) nmol/L	5 9	775 免疫	※1、※2 *4
7616 5G821	抗アクアポリン 4 抗体 (7616)	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	3.0 未満 (-) U/mL	4 10	1000 免疫	※3 *4
1142 5G386	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (抗 MuSK 抗体) (4266)	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	RIA 法	0.02 未満 nmol/L	5 11	1000 免疫	※2、※4 *E
129 5G504	抗カルジオリピン-β ₂ -グリコ プロテイン 1 複合体抗体 (抗 CL-β ₂ GP 1 抗体) (4711)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	ELISA 法	3.5 未満 U/mL	5 7	223 免疫	※5 *E
7438 5G508	抗カルジオリピン IgG 抗体 (EIA) (4038)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	12.3 以下 U/mL	4 7	226 免疫	※5 *E
7439 5G510	抗カルジオリピン IgM 抗体 (EIA) (4039)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	20.8 以下 U/mL	4 7	226 免疫	※5、※6 *E
2721 5G501	ループスアンチコア グラント (LA) (2091)	乏血小板 血漿 0.7	D-3 ↓ G-1 凍結 下記参照	希釈ラッセル蛇毒 試験 (DRVVT) 法	下表参照	2 4	265 免疫	抗リン脂質抗体症候群の診 断を目的として行った場合 に限って算定する。 *G
3360 5G502	(2436)	乏血小板 血漿 1.0	D-3 ↓ G-1 凍結 下記参照	リン脂質中和法	1.16 以下	4 6		

- ※1 重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。
- ※2 抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗 AChR 抗体) と抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※3 視神経脊髄炎の診断 (治療効果判定を除く) を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。但し、この場合、前回の検査実施日及びその結果並びに検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ※4 重症筋無力症の診断 (治療効果判定を除く) を目的として測定した場合に算定できる。抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗 AChR 抗体) を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※5 抗カルジオリピン β₂ グリコプロテイン 1 複合体抗体と抗カルジオリピン IgG 抗体、抗カルジオリピン IgM 抗体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※6 抗カルジオリピン IgM 抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、一連の治療につき 2 回に限り算定する。

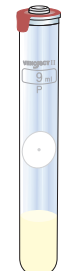

ループスアンチコアグラント (DRVVT法) 結果の判定

T1 / T2	判 定
1.3以上	(+)
1.1以上 1.3未満	(+/-)
1.2未満	(-)

本試薬は凝固カスケードをバイパスして、第X因子を直接活性化するラッセル蛇毒を用い凝固時間を測定する試薬1と試薬2に過剰なリン脂質を加えた試薬2の凝固時間を測定し、凝固時間の比を求めてLAを検出します。

試薬1 (蛇毒) の凝固時間 (T1)

試薬2 (蛇毒+リン脂質) の凝固時間 (T2)

 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>	 <p>D-3</p> <p>血液を正確に 1.8mL 入れ転倒混和後、すみやかに室温にて 1,500G 以上 15 分間遠心後、上清の表面よりやや下の部分を 1.0mL 採取し、凍結保存にてご提出下さい。血小板の混入は測定結果に影響しますので注意して下さい。 ※遠心機回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r = ローター半径 (cm) n = 回転数 (rpm) ※遠心機回転数については巻末「容器一覧参照」</p>
--	---	---

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所 要 日 数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	------------------	------------	--------

自己抗体検査

2519 5G551	PR3-ANCA (C-ANCA、抗好中球細胞質) プロティナーゼ3抗体 (4558)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	3.5 未満 U/mL	3 5	252 免疫	*G
2518 5G552	MPO-ANCA (P-ANCA、抗好中球細胞質) ミエロペルオキシダーゼ抗体 (4384)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	3.5 未満 U/mL	3 5	251 免疫	急性進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合において算定する。 *G
4346 5G396	抗デスマグレイン1抗体 (抗 Dsg1 抗体) (4907)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	20.0 未満 U/mL	3 5	300 免疫	*1 *G
4349 5G397	抗デスマグレイン3抗体 (抗 Dsg3 抗体) (4908)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	20.0 未満 U/mL	3 5	270 免疫	*2 *G
4341 5G398	抗 BP180 抗体 (抗 BP180NC16a 抗体) (4945)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	9.0 未満 U/mL	3 5	270 免疫	*3 *G
2607 5G395	抗皮膚抗体 (4432)	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	IFA 法	10 倍 未満 (-)	7 11		上皮基底膜抗体・ 上皮細胞間質抗体 *5
992 5G420	抗糸球体基底膜抗体 (抗 GBM 抗体) (4381)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	3.0 未満 U/mL	3 5	262 免疫	抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する *G
7571 5G440	精子不働化抗体 (4544)	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	不働化法	判定 : (-) 不働化値 : 1.40 以下 (SIV 値) SI ₅₀ : 1.0 未満	5 10		*E
5717	ロイシンリッチα2 グリコプロテイン (LRG) (5717)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	16.0 未満 ug/mL	4 7	268 生化 I	*4 *E

- ※ 1 ア ELISA 法又は CLEIA 法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省 難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
イ 落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスマグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※ 2 ア ELISA 法又は CLEIA 法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省 難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
イ 尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスマグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ※ 3 ELISA 法又は CLEIA 法により、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。
- ※ 4 診療報酬算定について
ア LRG を潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として測定する場合は、3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由および検査結果を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
イ 潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として、カルプロテクチン(糞便)または「[D313] 大腸内視鏡検査」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

実施料について(自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

- 2項目
自己抗体 320点
- 3項目以上
自己抗体 490点

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

肝・胃関連自己抗体検査

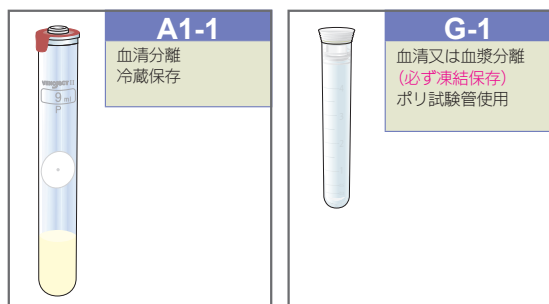
2735 5G555	抗 LKM1 抗体 (4115)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	ELISA 法	index 17 未満 17 ~ 49 50 以上	判定 (-) (+-) (+)	4 } 10	215 免疫	※1 *4
264 5G175	抗ミトコンドリア抗体 (AMA) (4125)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	20 倍 未満		4 } 6	181 免疫	*E
213 5G176	抗ミトコンドリア M2 抗体 (AMA-M2) (4399)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	7.0 未満	Index値	3 } 5	189 免疫	*G
375 5G180	抗平滑筋抗体 (4126)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	20 倍 未満		4 } 6		*E
1082 5G185	抗胃壁細胞抗体 (4297)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA 法	10 倍 未満		4 } 6		*E

糖尿病関連自己抗体検査

7387 5G360	インスリン抗体 (5431)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	RIA 法	0.4 未満	U/mL	6 } 9	107 免疫	動物検体受付不可 *E
2523 5G340	抗 GAD 抗体 (抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体) (5376)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	ELISA 法	5.0 未満	U/mL	2 } 4	134 生化II	すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。 *G
5957 5G342	抗 IA-2 抗体 (5945)	血清 0.6	A1-1 冷蔵	ELISA 法	0.6 未満	U/mL	5 } 11	213 生化II	※2 *4

※1 ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、且つ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性である旨を記載すること。

※2 すでに糖尿病の診断が確定し、抗 GAD 抗体（抗グルタミン酸カルボキシラーゼ抗体）の結果、陰性が確認された患者に対し、1 型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。算定に当たっては、抗 GAD 抗体の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。



免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
105 5A010	IgG (4015)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA 法	870 ~ 1700 mg/dL	1 2	38 免疫	
1483 5A056	IgG2 (4999)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	免疫比濁法	239 ~ 838 mg/dL	4 7	239 免疫	*1
7967 5A058	IgG4 (4298)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA 法	11 ~ 121 mg/dL	3 6	377 免疫	*G
106 5A015	IgA (4016)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA 法	110 ~ 410 mg/dL	1 2	38 免疫	
107 5A020	IgM (4017)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA 法	35 ~ 220 mg/dL	1 2	38 免疫	

補体関連物質

168 5B023	C ₃ (β ₁ C/β ₁ A グロブリン) (4021)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA 法	65 ~ 135 mg/dL	2 3	70 免疫	
169 5B024	C ₄ (β ₁ E グロブリン) (4022)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA 法	13 ~ 35 mg/dL	2 3	70 免疫	
1081 5B040	C1q (4025)	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	ネフェロメトリー法	8.8 ~ 15.3 mg/dL	4 10		*4
74 5B010	血清補体価 (CH ₅₀) (4031)	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	Mayer 変法	30.0 ~ 46.0 CH ₅₀ /mL	2 3	38 免疫	

※ 1 原発性免疫不全等を疑う場合に算定する。

実施料について(自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

- 2項目
1. 自己抗体 320点
- 3項目以上
2. 自己抗体 490点

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

血漿蛋白免疫学的検査

970 5C070	C 反応性 蛋白 (CRP)	定性 (1056)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	(-)	1 2	16 免疫	併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
20 5C070		定量 (1158)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	0.30 以下 mg/dL	1 2	16 免疫	
2525 5C080	血清アミロイド A 蛋白 (SAA)	(1719)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	3.0 以下 mg/L	2 4	47 免疫	*G
250 5A160	クリオグロブリン定性	(4127)	血清 0.5	A1-3 冷蔵 70頁参照	寒冷沈殿法	(-)	3 5	42 免疫	血清分離まで保温
173 5C060	トランスフェリン (T f)	(4023)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA 法	M 190 ~ 300 F 200 ~ 340 mg/dL	2 4	60 免疫	*G
8593 5A141	遊離 L 鎖 K / λ 比 (FLC)	(4575)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA 法	κ 鎖 3.3 ~ 19.4 λ 鎖 5.7 ~ 26.3 mg/L κ / λ 比 0.26 ~ 1.65	4 5	388 免疫	*1 *1
1102 5A135	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による定性)	(1697)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	免疫電気泳動法	検出せず	6 9	170 免疫	*2、*3、*4
1079 5A135	免疫電気泳動 (免疫固定法による M 蛋白同定)	(1691)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	免疫固定電気泳動法	検出せず	5 7	218 免疫	*1
1080 5A145	尿中免疫電気泳動 (免疫固定法によるペンス・ジョーンズ蛋白 (BJP) 同定)	(1692)	尿 5.0	C-3 冷蔵	免疫固定電気泳動法	検出せず	5 7	201 免疫	*4 *1
170 5C020	α ₁ - アンチトリプシン	(2225)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ネフエロメトリー法	94 ~ 150 mg/dL	4 7	80 血液	*1

- *1 免疫グロブリン L 鎖 κ / λ 比と免疫電気泳動法 (抗ヒト全血清による定性) 又は免疫電気泳動法 (免疫固定法による M 蛋白同定) を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- *2 免疫電気泳動法 (抗ヒト全血清による定性) 及び免疫電気泳動法 (免疫固定法による M 蛋白同定) については、同一検体につき一回に限り算定する。
- *3 同一検体について免疫電気泳動法 (抗ヒト全血清による定性) 及び免疫電気泳動法 (免疫固定法による M 蛋白同定) を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。
- *4 泳動後の判読のため、年齢・性別・臨床診断名あるいは臨床症状・その他参考データ等を明記してください。ペンス・ジョーンズ蛋白同定には早朝尿が望ましいです。検査結果は「検出せず」もしくは「M 蛋白を検出」の場合、その M 蛋白の種類も併せて報告いたします。

結核菌特異的インターフェロン- γ 産生能 (T-SPOT, TB、QFTプラス) の判定基準

● T-SPOT, TB の判定基準

判定基準	
パネルA (ESAT-6) とパネルB (CFP-10) のスポット数	
(+)	両方又は一方が8以上
判定保留	両方又は一方の最大値が5 ~ 7
(-)	両方が4以下
判定不可	陰性コントロールのスポット数が10を超える場合 陽性コントロールのスポット数が20未満の場合

○報告対象は判定、パネルA、パネルBとなります。

判定：(+)、(-)、判定保留、判定不可

パネルA：スポット数(整数)

パネルB：スポット数(整数)

※判定保留、判定不可の場合には、再度、採血して再提出することを推奨いたします。

● QFT プラスの判定基準

Nil値 (IU/mL)	TB1値 (IU/mL)	TB2値 (IU/mL)	Mitogen値 (IU/mL)	判定	解釈
8.0以下	0.35以上かつ Nil値の25%以上	不問	不問	(+)	結核感染を疑う
	不問	0.35以上かつ Nil値の25%以上			
	0.35未満、あるいは0.35以上かつ Nil値の25%未満		0.5以上	(-)	結核感染していない
8.0を超える	不問		0.5未満	判定不可	結核感染の有無について判定できない

○報告対象は、判定、Nil値、TB1値、

TB2値、Mitogen値となります。


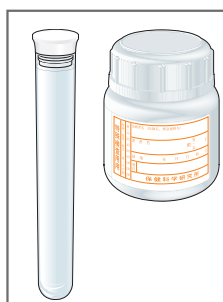
判定：(+)、(-)、判定不可

Nil値：測定値

TB1値：測定値

TB2値：測定値

Mitogen値：測定値

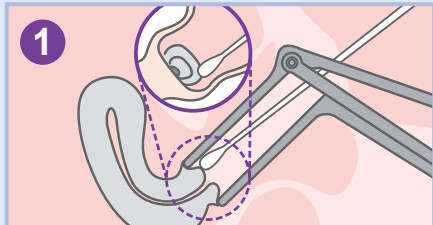
	A1-1 血清分離 冷蔵保存		C-3 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)
	A1-3 採血後血清分離まで (必ず保温) 血清分離 冷蔵保存		

免疫学的検査

淋菌/クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕の検体採取方法と保存方法

子宮頸管擦過細胞

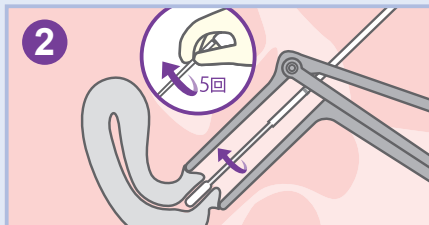
使用容器： **E1**



子宮頸部の粘液除去

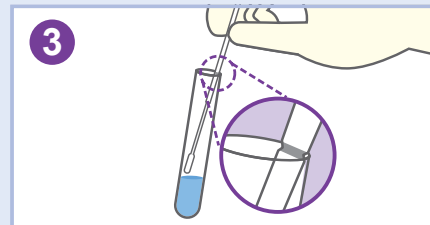
スワブ検体採取セット付属の粘液除去用ドライスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を充分拭い取ります。

注意 粘液を拭ったスワブは廃棄します。



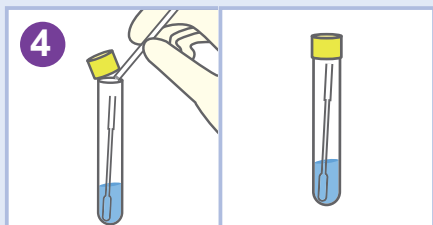
子宮頸部検体の採取

付属されている検体採取用フロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。(回し過ぎないでください。)スワブを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意して下さい。



子宮頸部検体の保存

専用容器のキャップを開けます。採取したフロックスワブを専用容器に入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。



専用容器の縁を利用して、キャップで黒い線をはさむようにして折ります。専用容器のキャップをしっかり閉めます。

注意 手元に残った折られた柄は廃棄して下さい。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないで下さい。

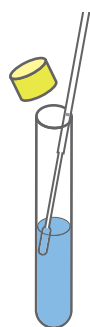
検体採取上の注意

- スワブ検体採取セット付属の検体採取スワブ以外は使用しないで下さい。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 粘液を十分除いてから検体を採取して下さい。
- 専用容器には検体を採取したスワブのみ入れて下さい。スワブを保存した専用容器は2~30℃で12ヶ月安定です。

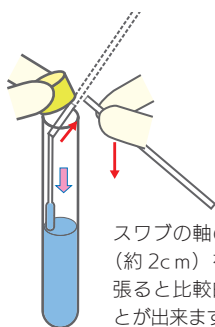
一般的な注意

- 子宮頸管検体を採取する前にスワブを専用容器に浸さないで下さい。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意下さい。
- 検体を採取したスワブは速やかに専用容器に入れて下さい。
- 専用容器は絶対に凍結させないで下さい。

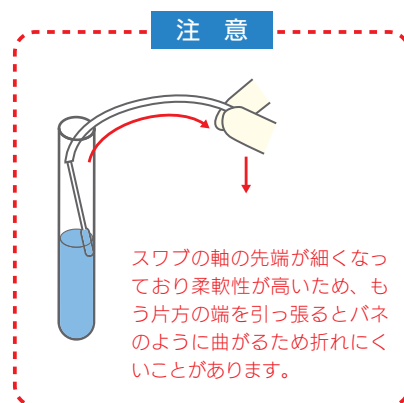
フロックスワブを上手に折る方法



黄色いキャップとチューブの縁でスワブの黒い線を挟むようにしてセットします。



スワブの軸のチューブの近く(約2cm)をつまみ下に引っ張ると比較的きれいに折ることが出来ます。



注意

スワブの軸の先端が細くなっており柔軟性が高いため、もう片方の端を引っ張るとバネのように曲がるため折れにくいことがあります。

*折り目線の辺りが汚染されてキャップで押さえることが困難な場合には折り目線を出るだけ固定し鋭角に曲げると折りやすくなります。

尿

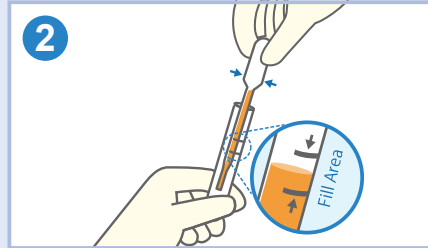
使用容器： **E2**



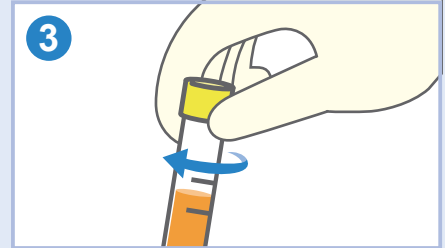
尿検体の採取

滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿を専用容器に移します。

注意 初尿は採取後2～30℃で24時間以内に専用容器に移して下さい。

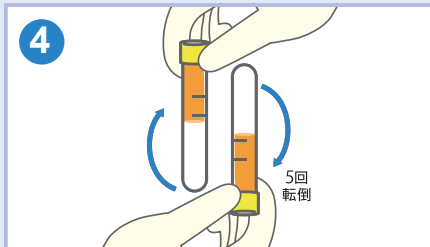


専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えて下さい。



尿検体の保存

専用容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。



専用容器を5回転倒混和させて下さい。

検体採取上の注意

- 初尿は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えて下さい。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 初尿は2～30℃で24時間以内に専用容器に移して下さい。
- 尿検体を保存した専用容器は2～30℃で12ヶ月安定です。

一般的な注意

- 女性の尿を採取する前は消毒しないで下さい。
- 月経中の患者からは尿検体を採取しないで下さい。
- 最後の排尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認して下さい。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意下さい。
- 専用容器は絶対に凍結させないで下さい。

うがい液

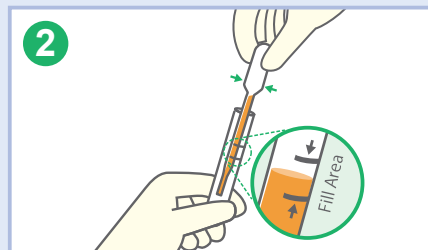
使用容器： **E2**



うがいの仕方

生理食塩水(日局方など)をコップに15～20m L入れて下さい。生理食塩水15～20m Lを口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよく「ガラガラ」とうがいをを行います。

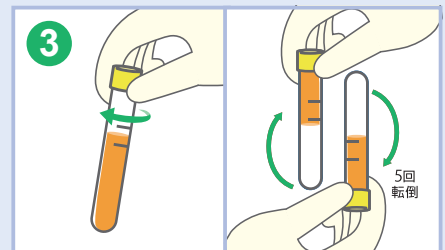
注意 口に含んで吐き出した液とうがい容器に残した液を合わせて「うがい液」とします。



検体輸送液への懸濁

「うがい液」全量をうがい用容器に回収し、スポイトで専用容器(尿・うがい用)に必要量添加します。

注意 「うがい液」は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えて下さい。



検体容器の保管

専用容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。専用容器を5回転倒混和させて下さい。

検体採取上の注意

- うがい液は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えて下さい。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- うがい液検体を保存した専用容器は2～30℃で12ヶ月安定です。
- うがい液を専用容器に入れない場合は2～8℃で輸送して下さい。採取から10日以内に専用容器に入れて下さい。

一般的な注意

- 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けて下さい。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意下さい。
- 専用容器は絶対に凍結させないで下さい。

アレルギー

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

アレルギー関連検査

109 5A090	IgE (4019)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	FEIA 法	1歳未満 20 以下 1~3歳 30 以下 4~6歳 110 以下 7歳以上 170 以下 IU/mL	2 ~ 4	100 免疫	
() 5A100	IgE シングルアレルゲン ()	血清 0.4 ※1	A1-1 冷蔵	FEIA 法	0.35 未満 U _A /mL	2 ~ 4	各110 ※2 免疫	判定基準は表1、2 参照 アレルゲン種類 75頁参照
() 5A100	IgE マルチアレルゲン ()	血清 0.4 ※1	A1-1 冷蔵	FEIA 法	0.35 未満 U _A /mL	2 ~ 4	各110 ※2 免疫	判定基準は表1参照 アレルゲン種類 76頁参照
6621 5A100	View アレルギー 39 (3921)	血清 1.0	A1-1 冷蔵	FEIA 法	0.27 未満 index値	2 ~ 4	1430 免疫	判定基準は表3参照 Viewアレルギー 39に 含まれるアレルゲン種類 76頁参照
1696 5A100	アトピー鑑別試験 (4483)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	FEIA 法	(-)	2 ~ 4	194 免疫	アトピー鑑別に含まれる アレルゲン種類 76頁参照
4200 5J228	TARC (Th2 ケモカイン) (4943)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	小児(6~12ヶ月) : 1367 未満 小児(1~2歳) : 998 未満 小児(2歳以上) : 743 未満 成人 : 450 未満 pg/mL	2 ~ 5	179 ※3 免疫	重症度判定の目安は表4 参照

*G

※1 アレルゲン検査において、多項目を同時にご依頼の場合、下記算出式に基づいた必要量をおよその目安としてご提出下さい。

$$\text{アレルゲン必要量算出式} = [0.3 + (0.1 \times \text{依頼項目数})] \text{ mL}$$

※2 特異的 IgE 1430 点を限度として算定する。

※3 TARC は、血清中の TARC 量を測定する場合に月一回に限り算定できる。

(表1) IgE シングルアレルゲン・マルチアレルゲン 判定基準

U _A /mL	0.35 未満	0.35~0.69	0.70~3.49	3.50~17.49	17.50~49.99	50.00~99.99	100 以上
クラス	0	1	2	3	4	5	6
判定	陰性	疑陽性	陽性				

U_A/mL : WHO の標準品 (U/mL) 検定。A はアレルゲン特異性を意味する。

(表2) Ara h 2 (ピーナッツ由来) 判定基準

U _A /mL	0.35 未満	0.35 ~ 3.99	4.00 以上
判定	陰性	疑陽性	陽性

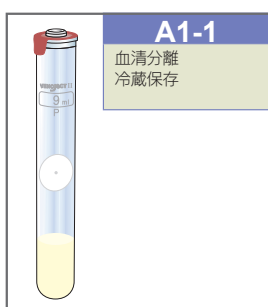
Ara h 2 (ピーナッツ由来) は、他の IgE シングルアレルゲンと異なり、判定基準にクラス設定はありません。判定フローは 76 頁参照
(IgE シングルアレルゲン ピーナッツ陽性者が対象となります)

(表3) View アレルギー 39 判定基準

index 値	0.27 未満	0.27 以上 ~ 0.50 未満	0.50 以上 ~ 1.80 未満	1.80 以上 ~ 7.05 未満	7.05 以上 ~ 17.35 未満	17.35 以上 ~ 29.31 未満	29.31 以上
クラス	0	1	2	3	4	5	6
判定	陰性	疑陽性	陽性				

(表4) アトピー性皮膚炎の重症度判定の目安

	TARC 測定値	アトピー性皮膚炎の重症度の目安
成人	700 pg/mL 未満	軽症
	700 pg/mL 以上	中等症以上
小児 (2歳以上)	760 pg/mL 未満	軽症
	760 pg/mL 以上	中等症以上



アレルギー

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

IgE特異的アレルギー(疾患別セット)

5A100	13 アレルギー セット	鼻炎・喘息・結膜炎 (474)	血清各 1.4 ※ 1	A1-1 冷蔵	FEIA 法	表1参照	2 ~ 4	1430 免疫	アレルギー種類 表5参照
5A100		小児アレルギー (475)							
5A100		アトピー性皮膚炎 (成人) (476)							
5A100		食物アレルギー (477)							
5A100		花粉症 (478)							
5A100		成人食物アレルギー (493)							
5A100	10 アレルギー セット	鼻炎・喘息・結膜炎 (466)	血清各 1.0 ※ 1	A1-1 冷蔵	FEIA 法	表1参照	2 ~ 4	1100 免疫	アレルギー種類 表5参照
5A100		小児アレルギー (467)							
5A100		アトピー性皮膚炎 (成人) (468)							
5A100		食物アレルギー (469)							
5A100		花粉症 (470)							

※ 1 検体量が記載量に満たない場合、全アレルギーの検査ができないことがあります。

(表 5) IgE 特異的アレルギー (疾患別セット) の対象アレルギー一覧

セット名称	鼻炎・喘息・結膜炎	小児アレルギー	アトピー性皮膚炎(成人)	食物アレルギー	花粉症	成人食物アレルギー	
セット構成 アレルギー一覧	13 アレルギー セット	10 アレルギー セット	ハウスダスト 1 ヤケヒョウヒダニ スギ 動物上皮 ※ 1 卵白 ミルク 小麦 (食餌) ソバ ピーナッツ エビ ソバ 動物上皮 ※ 1 カビ ※ 1, ※ 2	ハウスダスト 1 ヤケヒョウヒダニ スギ ガ 小麦 (食餌) ピーナッツ エビ ソバ 動物上皮 ※ 1 カビ ※ 1, ※ 2	卵白 オボムコイド ミルク 小麦 (食餌) ソバ ピーナッツ エビ カニ イクラ 大豆	スギ ヒノキ ハンノキ (属) シラカンバ (属) コナラ (属) カモガヤ ギョウギシバ フタクサ ヨモギ カナムグラ	小麦 (食餌) ω-5 グリアジン エビ カニ サバ アニサキス ソバ キウイ Gly m 4 ハンノキ (属)
			ヨモギ ユスリカ (成虫) ゴキブリ	カンジダ マラセチア (属) アスペルギルス アルテルナリア	クルミ バナナ キウイ	ハルガヤ オオアワガエリ アキノキリンソウ	スギ カモガヤ ヤケヒョウヒダニ

※ 1 マルチアレルギーを使用
※ 2 13セットでは対象外です。

疾患と年齢の組み合わせにより推奨する IgE 特異的アレルギー疾患別セット

年齢	年齢	年齢	年齢
疾患名	乳幼児 (0歳~就学前)	学童 (小学~中学)	成人
鼻炎・結膜炎	鼻炎・喘息・結膜炎 10、13 セット		
気管支喘息	鼻炎・喘息・結膜炎 10、13 セット		
アトピー性皮膚炎	小児アレルギー 10、13 セット	アトピー性皮膚炎(成人) 10、13 セット	
食物アレルギー	食物アレルギー 10、13 セット		成人食物アレルギー 13 セット
花粉症	花粉症 10、13 セット		

IgE アレルゲン一覧表

● シングルアレルゲン ※ ()内数字はグループコードです

NO.	略号コード	アレルゲン名
House dust(室内塵)		
941	h1	ハウスダスト1 (4080)
942	h2	ハウスダスト2 (4081)
Mites(ダニ)		
943	d1	ヤケヒョウヒダニ (4078)
944	d2	コナヒョウヒダニ (4079)
1572	d70	アシフトコナダニ (4202)
1573	d71	サヤアシコナダニ (4203)
1574	d72	ケナガコナダニ (4204)
Epithelia(動物上皮)		
945	e1	ネコ皮膚 (4085)
1549	e3	ウマ皮膚 (4215)
1550	e4	ウシ皮膚 (4216)
1551	e5	イヌ皮膚 (4217)
1552	e6	モルモット上皮 (4218)
1554	e70	ガチョウ羽毛 (4220)
1555	e77	セキセイインコのふん (4227)
1556	e78	セキセイインコの羽毛 (4228)
1633	e80	ヤギ上皮 (4230)
1557	e81	羊上皮 (4231)
1558	e82	家兎上皮 (4232)
1559	e83	豚上皮 (4233)
1560	e84	ハムスター上皮 (4234)
1561	e85	ニワトリ羽毛 (4235)
1562	e86	アヒル羽毛 (4244)
1637	e87	ラット (4247)
1636	e88	マウス (4248)
Insects(昆虫)		
1566	i1	ミツバチ (4206)
1567	i3	スズメバチ (4207)
1568	i4	アシナガバチ (4208)
1569	i6	ゴキブリ (4209)
1571	i7	ユスリカ(成虫) (4226)
1654	i8	ガ (4514)
1570	i71	ヤブカ(属) (4210)
Moulds and Yeasts(真菌(カビ)/細菌)		
1547	m1	ペニシリウム (4135)
956	m2	クラドスポリウム (4082)
957	m3	アスペルギルス (4083)
1548	m4	ムコール (4347)
961	m5	カンジダ (4089)
958	m6	アルテルナリア (4084)
1626	m8	ヘルミントスポリウム (4349)
1673	m80	エンテロトキシン A(SEA) (4222)
1674	m81	エンテロトキシン B(SEB) (4223)
1667	m205	トリコフィトン (4211)
1688	m218	Asp f1(アスペルギルス由来) (4658)
699	m227	マラセチア(属) (4652)
Parasites(寄生虫)		
1563	p1	カイチュウ (4212)
1644	p4	アニサキス (4527)

NO.	略号コード	アレルゲン名
Occupational(職業性)		
6496	k72	オオバコ種子 (4507)
6497	k75	イソシアネート TDI (4508)
6498	k76	イソシアネート MDI (4509)
6499	k77	イソシアネート HDI (4510)
6500	k78	エチレンオキシド (4511)
6501	k79	無水フタル酸 (4512)
6600	k80	ホルマリン (4638)
1670	k82	ラテックス (4635)
1685	k220	Hev b 6.02 (4655)
Trees(樹木花粉)		
1529	t1	カエデ(属) (4250)
1530	t2	ハンノキ(属) (4316)
955	t3	シラカンパ(属) (4096)
1532	t5	ブナ(属) (4256)
1533	t6	ビャクシン(属) (4257)
1534	t7	コナラ(属) (4269)
1535	t8	ニレ(属) (4270)
1536	t9	オリーブ (4271)
1537	t10	クルミ(属) (4272)
1539	t12	ヤナギ(属) (4274)
1546	t16	マツ(属) (4310)
963	t17	スギ (4134)
1543	t19	アカシア(属) (4285)
1641	t24	ヒノキ (4517)
1545	t70	クワ(属) (4288)
Weeds(雑草花粉)		
952	w1	ブタクサ (4136)
1513	w2	ブタクサモドキ (4289)
953	w3	オオブタクサ (4095)
1515	w5	ニガヨモギ (4294)
954	w6	ヨモギ (4094)
1516	w7	フランスギク (4295)
1517	w8	タンポポ(属) (4302)
1518	w9	ヘラオオバコ (4303)
1519	w10	シロザ (4305)
1521	w12	アキノキリンソウ (4313)
1527	w18	ヒメスイバ (4314)
1524	w20	イラクサ(属) (4317)
1648	w22	カナムグラ (4528)
Grasses(イネ科植物花粉)		
947	g1	ハルガヤ (4090)
948	g2	ギョウギシバ (4091)
949	g3	カモガヤ (4130)
1501	g4	ヒロハウシノケサ (4318)
4502	g5	ホソムギ (4320)
950	g6	オオアワガエリ (4093)
1503	g7	アシ (4321)
951	g8	ナガハグサ (4092)
1504	g9	コヌカグサ(属) (4323)
1506	g10	セイバンモロコシ (4324)
1511	g15	小麦(属) (4341)
1512	g16	オオスズメノテッポウ (4342)
1508	g17	スズメノヒエ (4346)

NO.	略号コード	アレルゲン名
Foods(食餌性アレルゲン)		
959	f1	卵白 (4132)
960	f2	ミルク (4133)
1576	f3	タラ (4077)
964	f4	小麦 (4287)
1580	f5	ライ麦 (4087)
1581	f6	大麦 (4100)
1582	f7	オート麦 (4101)
1583	f8	トウモロコシ (4392)
1586	f9	米 (4284)
1597	f10	ゴマ (4386)
965	f11	ソバ (4292)
1584	f12	エンドウ (4102)
1577	f13	ピーナッツ (4319)
966	f14	大豆 (4249)
1616	f15	インゲン (4113)
1579	f17	ハシバミ (4120)
1585	f18	ブラジルナッツ (4121)
1578	f20	アーモンド (4123)
962	f23	カニ (4374)
967	f24	エビ (4371)
1587	f25	トマト (4377)
1591	f26	豚肉 (4301)
1600	f27	牛肉 (4395)
1588	f31	ニンジン (4389)
1589	f33	オレンジ (4401)
1592	f35	ジャガイモ (4398)
1593	f36	ココナッツ (4144)
1594	f37	ムラサキイガイ (4148)
1590	f40	マグロ (4325)
1596	f41	サケ (4307)
1595	f44	イチゴ (4167)
1601	f45	ビール酵母 (4168)
1598	f47	ニンニク (4383)
1599	f48	タマネギ (4380)
1602	f49	リンゴ (4169)
1662	f50	サバ (4516)
1655	f51	タケノコ (4518)
1656	f54	サツマイモ (4519)
1657	f55	キビ (4520)
1658	f56	アワ (4521)
1660	f58	イカ (4523)
1661	f59	タコ (4524)
1663	f60	アジ (4515)
1664	f61	イワシ (4525)
1603	f75	卵黄 (4304)
1604	f76	α-ラクトアルブミン (4171)
1605	f77	β-ラクトグロブリン (4172)
1606	f78	カゼイン (4190)
1619	f79	グルテン (4191)
1607	f80	ロブスター (4192)
1608	f81	チーズ (4193)
1621	f82	モールドチーズ (4501)
1609	f83	鶏肉 (4322)
1610	f84	キウイ (4194)
1611	f85	セロリ (4195)
1612	f86	パセリ (4196)

NO.	略号コード	アレルゲン名
1613	f87	メロン (4197)
1614	f88	羊肉 (4198)
1615	f89	マスタード (4199)
1620	f90	麦芽 (4200)
1618	f91	マンゴ (4201)
6559	f92	バナナ (4502)
6560	f93	カカオ (4503)
6561	f94	洋ナシ (4504)
6562	f95	モモ (4505)
6563	f96	アボカド (4506)
1680	f97	ヤマイモ (4646)
698	f202	カシューナッツ (4651)
1677	f207	アサリ (4641)
6565	f209	グレープフルーツ (4631)
6566	f214	ホウレンソウ (4632)
6567	f225	カボチャ (4633)
968	f233	オボムコイド (4224)
6568	f254	カレイ (4634)
1681	f256	クルミ (4644)
1678	f290	カキ(貝) (4642)
1682	f329	スイカ (4645)
1679	f338	ホタテ (4643)
1675	f349	イクラ (4639)
1676	f350	たらこ (4640)
1684	f353	Gly m 4 (4654)
697	f416	ω-5 グリアジン (4650)
1683	f423	Ara h 2 (4653)
1686	f441	Jug r 1(クルミ由来) (4656)
1687	f443	Ana o 3(カシューナッツ由来) (4657)
Drugs(薬物)		
6507	c73	ヒトインスリン (4513)
6599	c74	ゼラチン (4221)
Other(その他)		
6571	o1	綿 (4637)

アレルギー

IgE アレルゲン一覧表

● マルチアレルゲン ※ ()内数字はグループコードです

NO.	略号	項目名	内容
1731	g × 5	イネ科花粉 (4020)	主なイネ科植物の花粉5種混合 ハルガヤ(g1)、ギョウギシバ(g2)、カモガヤ(g3)、オオアワガエリ(g6)、アシ(g7)
1732	w × 5	雑草花粉 (4029)	主なキク科植物の花粉5種混合 フタクサ(w1)、ヨモギ(w6)、フランスギク(w7)、タンポポ属(w8)、アキノキリンソウ(w12)
1733	e × 2	動物上皮 (4067)	強力なアレルゲンといわれる動物のフケ5種混合 ネコ皮膚(e1)、イヌ皮膚(e5)、モルモット上皮(e6)、ラット(e87)、マウス(e88)
1734	m × 2	カビ (4070)	日常生活での区別が困難で交差性も少ないとされるカビ6種混合 ペニシリウム(m1)、クラドスポリウム(m2)、アスペルギルス(m3)、カンジダ(m5)、アルテルナリア(m6)、ヘルミントスポリウム(m8)
1736	f × 5	食物 (4064)	幼児の代表的食物アレルゲン5種混合 卵白(f1)、ミルク(f2)、小麦(f4)、ピーナッツ(f13)、大豆(f14)
1735	f × 6	穀物 (4065)	三大アレルゲン(卵白、ミルク、大豆)に次いで注目されている穀物5種混合 小麦(f4)、トウモロコシ(f8)、米(f9)、ゴマ(f10)、ソバ(f11)

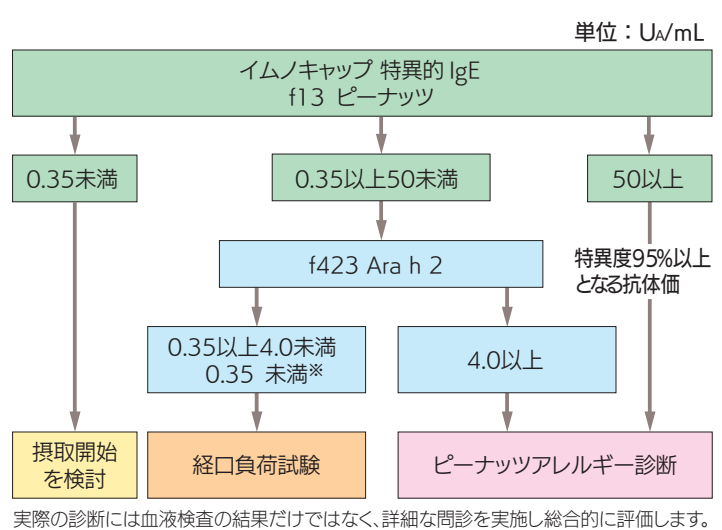
● アトピー鑑別試験

含まれるアレルゲン
ヤケヒョウヒダニ
コナヒョウヒダニ
ネコの皮膚
イヌの皮膚
ギョウギシバ
カモガヤ
フタクサ
ヨモギ
シラカンバ(属)
スギ
カンジダ
アルテルナリア

● View アレルギー 39 に含まれるアレルゲン 一覧

室内塵	ハウスダスト1	食餌性	エビ
ダニ	ヤケヒョウヒダニ		カニ
樹木花粉	スギ		ミルク
	ヒノキ		卵白
	ハンノキ(属)		オボムコイド
	シラカンバ(属)		ピーナッツ
イネ科花粉	カモガヤ		小麦
	オオアワガエリ		米
雑草花粉	フタクサ		大豆
	ヨモギ		ソバ
動物上皮	ネコ皮膚		ゴマ
	イヌ皮膚		サバ
真菌<カビ>	カンジダ		マグロ
	アスペルギルス		サケ
	アルテルナリア		牛肉
	マラセチア(属)		鶏肉
			豚肉
昆虫	ガ		キウイ
	ゴキブリ		リンゴ
職業性	ラテックス		バナナ

● ピーナッツアレルギー判定フロー (目安)



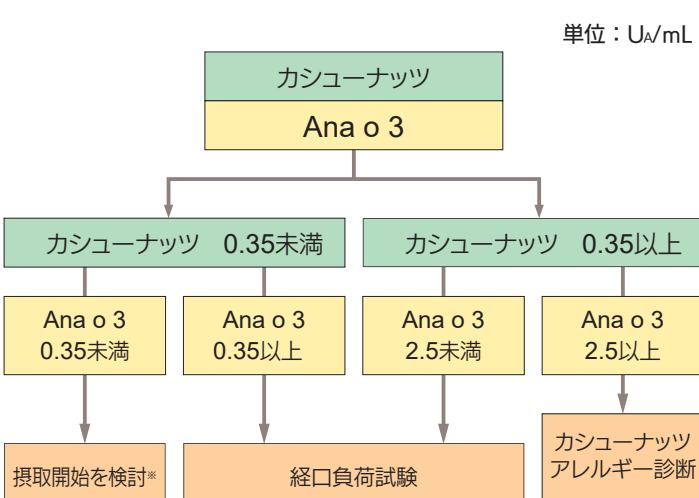
実際の診断には血液検査の結果だけではなく、詳細な問診を実施し総合的に評価します。

※ピーナッツアレルギーでも f423 Ara h 2 陰性となる場合があります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

アレルギー

● カシューナッツアレルギー判定フロー (目安)

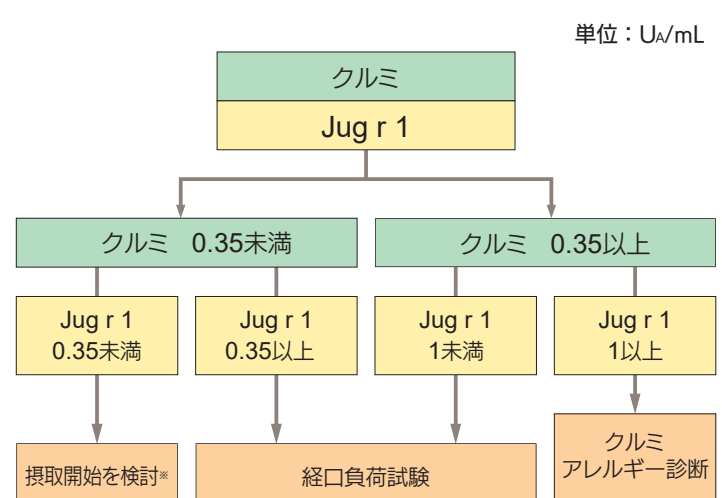


※大多数は摂取可能ですが、まれに症状を誘発するケースもあります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

Thermo Scientific™ イムノキャップ™ 特異的 IgE および Thermo Scientific™ イムノキャップ™ アレルゲンコンポーネントによる検査値からの目安です。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

● クルミアレルギー判定フロー (目安)



※大多数は摂取可能ですが、まれに症状を誘発するケースもあります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

※実際の診断には血液検査の結果だけでなく、詳細な問診を実施し総合的に評価します。Thermo Scientific™ イムノキャップ™ 特異的 IgE および Thermo Scientific™ イムノキャップ™ アレルゲンコンポーネントによる検査値からの目安です。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

B型肝炎ウイルス関連検査

25 5F016	HBs 抗原定性 (4003)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	RPHA 法	(-)	2 3	29 免疫	注1	
63185 5F016	HBs 抗体定性 (4004)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	PHA 法	(-)	2 4	32 免疫		
59 5F016	HBs 抗体半定量 (4035)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	PHA 法	8 倍 未満	2 4	32 免疫		
61 5F016	HBs 抗原 (4001)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	0.05 未満 (-) IU/mL	1 2	88 免疫	注1 ※1	
62 5F016	HBs 抗体 (4002)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	10.0 未満 (-) mIU/mL	1 2	88 免疫	10.0mIU/mLはHBVワクチンの再接種基準のためのカットオフ値です(最小防御抗体価)。 ※1	
63 5F019	HBe 抗原 (4006)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値 1.00 未満 1.00 以上	判定 (-) (+)	1 2	98 免疫	
64 5F019	HBe 抗体 (4007)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA 法	Inhibition% 50.0 未満 50.0 以上	判定 (-) (+)	1 2	98 免疫	
65 5F018	HBc 抗体 (4005)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値 1.00 未満 1.00 以上	判定 (-) (+)	1 2	130 免疫	※1
118 5F018	HBc-IgM 抗体 (4236)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値 1.00 未満 1.00 以上	判定 (-) (+)	1 2	146 免疫	同時算定不可

注1 【HBV 感染の診断】 B型肝炎ウイルス (HBV) 感染の診断は、他の免疫測定法等と同じく、本製品による陽性又は陰性の検査結果のみにより行わず、HBc 抗体測定、HBV-DNA 定量検査等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断して下さい。特に下記の場合は使用方法にご留意下さい。

- 健康診断時のスクリーニング検査
できるだけ検出感度の高い EIA 法/化学発光法などを用いた検出試薬を使用し、イムノクロマト法や凝集法で検出感度の低い検出試薬の使用にあたっては、十分にご留意下さい。
- 緊急検査
緊急対応として実施される迅速・簡便な検出試薬において陰性と判定された場合でも、必要に応じてさらに検出感度の高い検出試薬で再検査をすることをお勧めします。
- B型肝炎と診断された患者の経過観察検査
EIA 法/化学発光法、凝集法、イムノクロマト法等いずれの方法を用いた検出試薬でも使用できますが、陰性化した場合はより検出感度の高い方法で確認することをお勧めします。

(注) HBV 感染直後はウイルス量が極めて少なく、どのような高感度の検出試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期は「ウィンドウ (空白) 期間」と呼ばれており、ウィンドウ期間に採取された血液では、HBs 抗原は必ず検出されるとは限りません。

【性能】 RPHA 法 最小検出感度 5.0IU/mL CLIA 法感度 0.05 IU/mL 以下

※1 免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前に HBs 抗原、HBs 抗体及び HBc 抗体半定量・定量を同時に測定した場合は、患者 1 人につきそれぞれ 1 回に限り算定できる。

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

B型肝炎ウイルス関連検査

4453 5F015	HBV-DNA 定量 (リアルタイム PCR 法) (4740)	全血 5.0 注1	力 凍結 下記参照	リアルタイム PCR 法	表1 参照 Log IU/mL	3 5	256 微生物	※5 *G
7641 5F018	高感度 HBc 関連 抗原定量 (4941)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	2.1 未満 Log U/mL	4 5	252 免疫	※1 *E
8529 5F015	HBV ゲノタイプ (判定) (4729)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	EIA 法	型	4 10	330 免疫	注2 ※2 *E
8524 5F037	HBV プレコア変異及び コアプロモーター変異遺伝子同定検査 (HBV-DNA PC・CP) (4925)	全血 2.0 注1	力 凍結 下記参照	PCR ミニシーケンス法 /特異プローブ法	(-) ※3	5 8	450 微生物	※4 *E

A型肝炎ウイルス関連検査

66 5F350	HA-IgG 抗体 (4485)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値 1.00 未満 1.00 以上 判定 (-) (+)	1 2	146 免疫	同時算定不可
140 5F350	HA-IgM 抗体 (4097)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値 0.80 未満 0.80 ~ 1.20 1.21 以上 判定 (-) (±) (+)	1 2	146 免疫	

注1 他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

注2 報告形式：A、B、C、Dまたは「検出されず」HBs抗原量が少なく、型判定が不可能な場合に「検出されず」とご報告いたします。国内ではまれな遺伝子型E、F、G、Hの検体における測定結果は検証されていません。

※1 HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBcAgを測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、HBV核酸定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 HBVゲノタイプ（判定）は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回で算定できる。

※3 HBVDNA検出結果、プレコア変異型及び比率、コアプロモーター変異型についてご報告します。低ウイルス量（概ね2,000コピー/mL未満）の検体では、試薬の特性上、安定した判定結果を得られない場合があります。

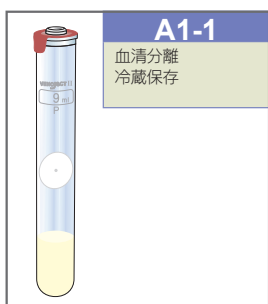
※4 B型肝炎急性患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に限り、患者1人につき1回算定できる。B型肝炎慢性患者に対しては、経過観察中にALT異常値などにより肝炎増悪が疑われ、且つ、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できる。なお、本検査実施以降は、肝炎ウイルス関連検査のうちB型肝炎に関する検査（但し、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の治療効果判定に用いる検査を除く）は、算定できない。

※5 B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。

(表1) HBV-DNA定量(リアルタイムPCR法)の判定(単位: Log IU/mL)

	測定結果	判定
定量値	1.0~9.1以上	陽 性
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.0未満	陽 性*
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.0未満	陰 性
増幅反応シグナル	(-)	

*測定下限値が1.0未満であっても、増幅反応シグナルが(+)の場合はウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。



実施料について (肝炎)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

- 3項目
肝炎 290点
- 4項目
肝炎 360点
- 5項目以上の場合
肝炎 425点

免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
1317 5F360	HCV 抗体 (4541)	血清 0.6	A1-1 冷蔵	LPIA 法 及び CLEIA 法	cut off index 判定 ~ 0.9 (-) 1.0 ~ (+)	1 ~ 2	102 免疫	*1
7540 5F360	HCV コア抗原 (4997)	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA 法	3.0 未満 fmol/L	2 ~ 4	102 免疫	*G
2404 5F360	HCV 群別 (4743)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	群判定 表 1 参照	2 ~ 7	215 免疫	C型肝炎の診断が確定した患者に対し、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。 *G
4446 5F360	HCV-RNA 定量 (リアルタイム PCR 法) (7001)	全血 5.0 注1	カ 凍結 下記参照	リアルタイム PCR 法	表 2 参照 Log IU/mL	3 ~ 5	412 微生物	急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。
1340 5F360	ジェノタイプHCV-RNA-PCR (7903)	全血 2.0 注1	カ 凍結 下記参照	RT-PCR 法	I型 (1a) (-) II型 (1b) (-) III型 (2a) (-) IV型 (2b) (-) V型 (3a) (-)	4 ~ 7		*G

注1 他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

*1 [重要な基本的注意] C型肝炎ウイルス (HCV) 感染の診断は抗体検査による検査結果のみで行わず、HCV-RNA 測定等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断して下さい。

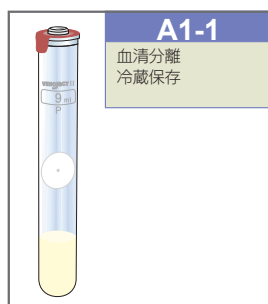
(表1) HCV群別の判定と意義

判 定	意 義
グループ1	PCR法における I 型、II 型、に相当します。
グループ2	PCR法における III 型、IV 型、に相当します。
判定 保留	両グループの重複感染、あるいは過去の異なった時期にそれぞれのグループのウイルスに感染した可能性等が考えられます。どちらか一方のウイルスが排除されている可能性を否定しきれないので判定は保留とします。 (両グループの抗体が陽性)
判定 不能	本検査試薬に用いている抗原に対する抗体が存在しないため、本法によってウイルスのグループ判定を行うことはできません。 (両グループの抗体が陰性)

(表2) HCV-RNA定量(リアルタイムPCR法)の判定(単位: Log IU/mL)

	測 定 結 果	判 定
定量値	1.2 ~ 8.1 以上	陽 性
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.2 未満	陽 性*
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.2 未満	陰 性
増幅反応シグナル	(-)	

* 測定結果が 1.2 未満であっても、増幅反応シグナルが (+) の場合はウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。



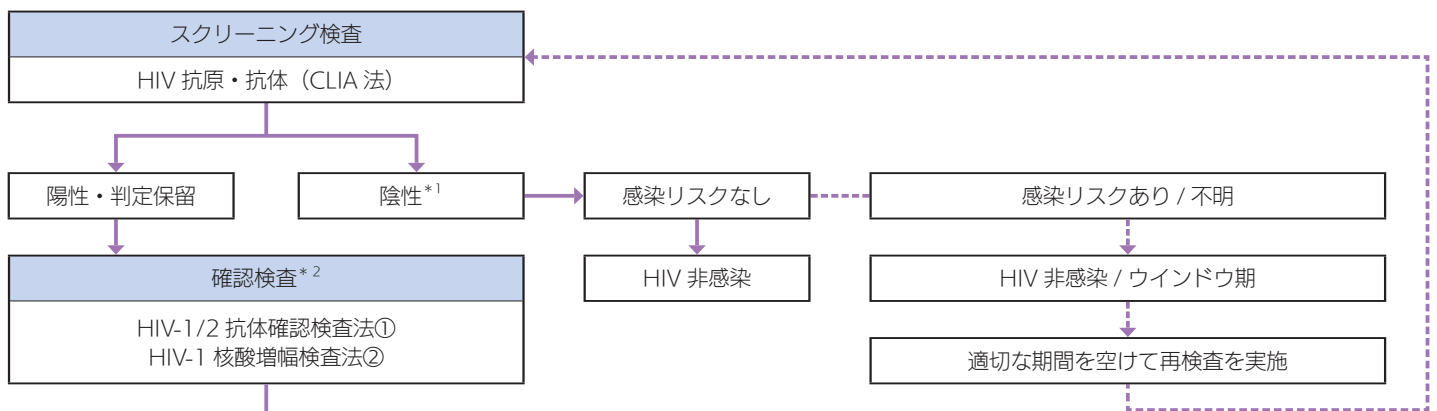
免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
990 5F560	HIV 抗原・抗体 (4057)	血清 0.6	A1-1 冷蔵 注1	CLIA 法	(-) 図1 参照	2 4	127 免疫	HIVスクリーニング検査 診療報酬請求の項目名称は 「HIV-1、2 抗原・抗体同時 測定定量」としての算定となり ます。
7300 5F560	HIV-1/2 抗体 確認検査 (4562)	血清 0.2	A1-1 冷蔵 注1	イムノクロマト法	(-)	4 8	660 免疫	*G
4451 5F500	HIV-1RNA 定量 (リアルタイム PCR 法) (4737)	血漿 2.1	ホ 冷蔵 注1	リアルタイム PCR 法	2.0 × 10 ¹ 未満 且つ 増幅反応シグナル(-) コピー /mL	5 6	520 微生物	*1

注1 HIV 関連検査は、他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

※1 HIV 感染者の経過観察に用いた場合又は HIV-1 抗体価又は HIV-1、2 抗体価が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。本検査と HIV-1 抗体 (ウエスタンブロット法) を併せて実施した場合は、それぞれを加算することができる。

(図1) HIV 検査フローチャート・判定



①HIV-1/2抗体確認検査法			総合判定(可能性も含む)		②HIV-1核酸増幅検査法
HIV-1	HIV-2	判定	検出(定量下限値未満含む) 【陽性】	検出せず 【陰性】	
陽性	陽性	HIV感染者	HIV-1およびHIV-2重複感染者	HIV-1感染者(低ウイルス量感染または治療中患者)、HIV-2感染者	
	判定保留	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1感染者(低ウイルス量感染または治療中患者)	
	陰性	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1感染者(低ウイルス量感染または治療中患者)	
判定保留	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染者およびHIV-2重複感染者	HIV-2感染者	
	判定保留	HIV判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-1/2判定保留(2週間後再検査)	
	陰性	HIV-1判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-1判定保留(HIV-1抗体偽反応) < 2週間後再検査 >	
陰性	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染者およびHIV-2重複感染者	HIV-2感染者	
	判定保留	HIV-2判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-2判定保留(HIV-1抗体偽反応) < 2週間後再検査 >	
	陰性	HIV陰性	急性HIV-1感染者	HIV非感染(リスクなし)またはHIV判定保留2週間後再検査(リスクあり)	

*1 感染が強く疑われる場合、または急性感染を疑う症状がある場合は、数週間後に採血し再検査をすることをお勧めします。

*2 HIV-1/2抗体確認試験では感染初期において(-)となることがあるため、HIV-1RNA定量(リアルタイムPCR法)との同時依頼をお勧めします。

《留意事項》

① スクリーニング検査は、非特異反応によって偽陽性を呈することがあります。スクリーニング検査が陽性の場合、必ず確認検査を実施して下さい。

② スクリーニング検査が陽性でWB法(HIV-1抗体)が陰性又は判定保留の場合、感染初期あるいはHIV-2感染の可能性もあります。

③ HIV-2抗体はHIV-1抗体との交差反応により、偽陽性を呈する場合があります。HIV-2抗体陽性あるいは判定保留時には、結果の解釈にご留意下さい。

④ HIV-1RNA定量は、血中ウイルスが微量の場合、検出感度以下(定量下限値以下)且つ増幅反応シグナルが検出されない場合があります。

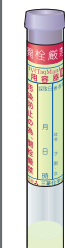
HIV-1RNA定量(リアルタイムPCR法)の測定範囲
2.0 × 10¹ ~ 1.0 × 10⁷ コピー /mL

※ 測定結果が定量下限値以下であっても、増幅反応シグナルが検出の場合は、ウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。

ホ

指定の採血量(8mL)を採取後、4~5回静かに転倒混和して下さい。

遠心機にて遠心(1,200G ± 400G、20分)したのち冷蔵保存して下さい。
(凍結厳禁)



分離剤入り

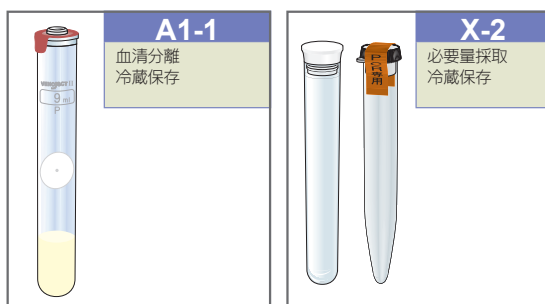
免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

ウイルス抗体検査（CF）

324 5F190 6001	単純ヘルペス (HSV)	(7035)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CF法	5 ~ 7	79 免疫	*E				
		(7113)	髄液 0.5	X1 冷蔵					4 倍未満	1 倍未満		
325 5F193 6002	水痘・帯状ヘルペス (VZV)	(7036)	血清 0.3	A1-1 冷蔵					4 倍未満			
		(7117)	髄液 0.5	X1 冷蔵					1 倍未満			
326 5F194 6009	サイトメガロ (CMV)	(7037)	血清 0.3	A1-1 冷蔵					4 倍未満			
		(7118)	髄液 0.5	X1 冷蔵					1 倍未満			
322 5F432 6003	ムンプス	(7040)	血清 0.3	A1-1 冷蔵					4 倍未満			
		(7119)	髄液 0.5	X1 冷蔵					1 倍未満			
328(6010) 5F150	アデノ	(7041)	血清各 0.3 又は 髄液各 0.5	A1-1 又は X-2 冷蔵					血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	5 ~ 7	79 免疫	*E
329(6007) 5F400 330(6008) 5F410	インフルエンザ	A 型 (7058)										
		B 型 (7059)										
336(6011) 5F430	RS	(7042)										
337(6367) 5F385	日本脳炎	(7043)										
348(6018) 5F289	コクサッキー A 群	9 型 (7045)										
		1 型 (7046)										
342(6013) 5F302	2 型 (7047)											
343(6014) 5F303	コクサッキー B 群	3 型 (7048)										
344(6015) 5F304		4 型 (7049)										
345(6016) 5F305		5 型 (7050)										
346(6017) 5F306		6 型 (7051)										

(注) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。
又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

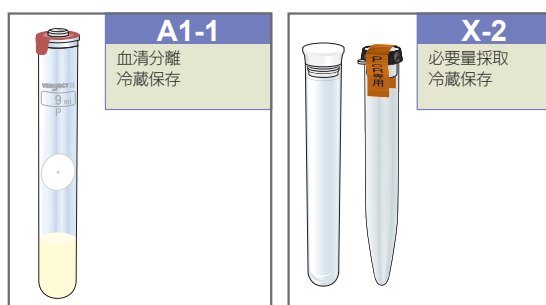


ウイルス

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
ウイルス抗体検査（HI）								
7741 5F432	ムンプス (7270)	血清 0.2 又は 髄液 0.4	A1-1 冷蔵	HI 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	5 〜 8	79 免疫	*E
314 5F395	風疹 (7038)	血清 0.2	A1-1 冷蔵		血清 8 倍未満	2 〜 3	79 免疫	
357(6376) 5F400	インフル エンザ	A 型 (H ₁ N ₁) (H ₃ N ₂) (7224)	A1-1 又は X-2 冷蔵		血清 10 倍未満 髄液 10 倍未満	5 〜 7	79 免疫	
358(6372) 5F410		B 型 (山形系統) (ピクトリア系統) (7227)					79 免疫	
332 5F421	パラインフル エンザ	1 型 (7061)	A1-1 冷蔵		血清 10 倍未満	5 〜 8	79 免疫	
333 5F422		2 型 (7062)					79 免疫	
334 5F423		3 型 (7063)					79 免疫	
2417(6368) 5F385	日本脳炎 (JaGAr 株) (7222)	血清 0.2 又は 髄液 0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	血清 10 倍未満 髄液 10 倍未満	6 〜 12	79 免疫	*E	

- (注) (1) ウイルス感染症の診断は原則として急性期(発病初期)と回復期(2~3週間後)の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。
 (2) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。



免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考	
ウイルス中和抗体検査（NT）									
1356(6099) 5F191	単純ヘルペス (HSV)	1型 (7110)	血清各 0.3 又は 髄液各 0.3	A1-1 又は X-2 冷蔵 NT法		9 ┌ 13	79 免疫		
1357(6100) 5F192		2型 (7111)							
1359(6098) 5F432	ムンプス	(7147)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.2			9 ┌ 15	79 免疫		
910(6128) 5F151	アデノ	1型 (7196)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.5			血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	10 ┌ 16		79 免疫
911(6129) 5F152		2型 (7197)							
912(6130) 5F153		3型 (7198)							
913(6131) 5F154		4型 (7199)							
914(6132) 5F155		5型 (7200)							
915(6133) 5F156		6型 (7201)							
916(6134) 5F157		7型 (7202)							
917(6135) 5F158		8型 (7203)							
918(6136) 5F161	11型 (7204)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.5				10 ┌ 16			
919(6137) 5F169	19型 (7205)								
() 5F171	21型 (7441)						血清各 0.2 又は 髄液各 0.4		血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満
2418 5F177	37型 (7731)								
1358(6096) 5F430	RS	(7215)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.2			9 ┌ 15	79 免疫		
1360(6097) 5F431	麻疹	(7214)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.2	9 ┌ 15	79 免疫	*E			

ウイルス

(注) (1) ウイルス感染症の診断は原則として急性期(発病初期)と回復期(2~3週間後)の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。

(2) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
ウイルス中和抗体検査 (NT)								
1347(6104) 5F282	コクサッキー A 群	2 型 (7402)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.2	NT 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	10 ~ 16	79 免疫	
1347(6104) 5F283		3 型 (7403)						
1365(6281) 5F284		4 型 (7209)						
1367(6282) 5F285		5 型 (7404)						
1368(6283) 5F286		6 型 (7210)						
901(6106) 5F287		7 型 (7211)						
902(6107) 5F289		9 型 (7212)						
1366(6108) 5F290		10 型 (7213)						
903(6109) 5F296	16 型 (7120)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.3				9 ~ 15	79 免疫	* 4
904(6110) 5F301	コクサッキー B 群	1 型 (7121)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.2	NT 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	10 ~ 16	79 免疫	
905(6111) 5F302		2 型 (7122)						
906(6112) 5F303		3 型 (7123)						
907(6113) 5F304		4 型 (7124)						
908(6114) 5F305		5 型 (7125)						
909(6115) 5F306		6 型 (7126)						
920(6116) 5F311	エコー	1 型 (7176)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.2	NT 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	10 ~ 16	79 免疫	
921(6117) 5F313		3 型 (7177)						
922(6118) 5F314		4 型 (7178)						
923(6140) 5F315		5 型 (7179)						

ウイルス

A1-1
又は
X-2
冷蔵

(注) (1) ウイルス感染症の診断は原則として急性期(発病初期)と回復期(2~3週間後)の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。
 (2) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
ウイルス中和抗体検査（NT）								
924(6119) 5F316	エコー	6型 (7180)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.2	A1-1 又は X-2 冷蔵	NT 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	79 免疫	
925(6120) 5F317		7型 (7181)						
926(6121) 5F319		9型 (7182)						
927(6284) 5F321		11型 (7183)						
928(6285) 5F322		12型 (7184)						
929(6122) 5F323		13型 (7185)						
930(6286) 5F324		14型 (7186)						
931(6123) 5F326		16型 (7187)						
932(6124) 5F327		17型 (7188)						
933(6125) 5F328		18型 (7189)						
934(6287) 5F329		19型 (7190)						
935(6288) 5F331		21型 (7191)						
936(6289) 5F332		22型 (7192)						
937(6290) 5F334		24型 (7193)						
938(6126) 5F335		25型 (7194)						
939(6127) 5F340		30型 (7195)						
355(6138) 5F270	エンテロ	70型 (7136)						
356(6139) 5F271		71型 (7137)						

ウイルス

*E

(注) (1) ウイルス感染症の診断は原則として急性期(発病初期)と回復期(2~3週間後)の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。
 (2) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
ウイルス抗体検査 (FA)								
366 5F202	抗 VCA IgG 抗体 (7065)	血清各 0.3	A1-1 冷蔵	FA 法	血清 10 倍未満	5 6	200 免疫	* 1
368 5F202	抗 VCA IgM 抗体 (7067)							
369 5F203	抗 EA-DR IgG 抗体 (7068)							
379 5F204	抗 EBNA 抗体 (7070)							
367 5F202	抗 VCA IgA 抗体 (7066)							
370(6084) 5F203	抗 EA-DR IgA 抗体 (7069)							
1345(6280) 5F203	抗 EA-DR IgM 抗体 (7074)	* E						

ウイルス抗体検査 (EIA)								
351 5F203	抗 EA IgG 抗体 (7895)	血清各 0.5	A1-1 冷蔵	EIA 法	抗体指数 0.5 未満 0.5 ~ 0.9 1.0 以上	判定 (-) (±) (+)	5 7	200 免疫
354 5F204	抗 EBNA IgG 抗体 (7896)							
353 5F202	抗 VCA IgG 抗体 (7897)							
352 5F202	抗 VCA IgM 抗体 (7898)							
2412 5F011	ヒトパルボ B19	血清各 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	表 1 参照	3 6	200 免疫	* G
2413 5F011								IgM 抗体 (7250)

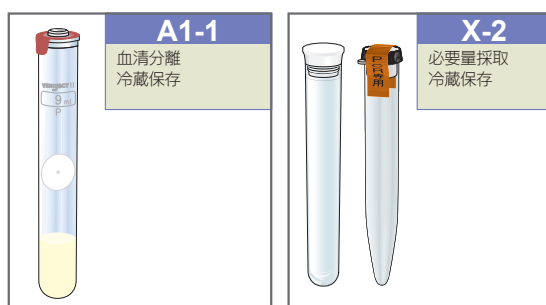
(注) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度とする。ウイルス抗体価と併せて実施した場合は、いずれか一方の点数を算定する。

(表1)ヒトパルボB19 IgG・IgM 抗体判定基準

判 定	指 数
(-)	0.80未満
(+-)	0.80~0.99
(+)	1.00以上

【ヒトパルボB19 IgG・IgM抗体判定上の留意事項】

- IgM型抗体検出とIgG型抗体検出を併用することにより、ヒトパルボB19感染においてどの時期にあるのか(未感染であるのか、最近の感染であるのか、過去における感染であるのか)を判定することができます。一般的にIgM型抗体とIgG型抗体共に陰性の場合はヒトパルボB19未感染でありIgM型抗体が陽性の場合は、IgG型抗体の判定結果を問わず、ヒトパルボB19の最近の感染であると考えられます。IgM型抗体が陰性で、IgG型抗体が陽性の場合は、過去における感染の可能性が高いと考えられます。
- 判定保留となった場合、1~2週間後に再度採血するか、又はPCR法などの他の方法及び臨床症状などから総合的に判定を行って下さい。



免疫学的検査 (ウイルス)

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

ウイルス抗体検査 (EIA)

7531 5F395	風疹 IgG 抗体 [CLEIA] (7022)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	抗体価 (IU/mL) 判定 10 未満 (-) 10 ~ 15 (±) 15 以上 (+)	2 5	200 免疫	*G
7654	風疹 IgG 抗体 (7654)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	表 2 参照	3 5	200 免疫	
386 5F395		IgM 抗体 (7238)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法			
8575 5F431	風疹ウイルス IgG 抗体 (CLEIA) クーポン (7100)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	20 未満 IU/mL	2 7		基準値はワクチン接種の対 象となる抗体価を記載して おりません。 *G
7657	麻疹 IgG 抗体 (7657)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	表 2 参照	3 5	200 免疫	
1378 5F431		IgM 抗体 (7142)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法			
1316(6063) 5F190	単純ヘルペス (HSV)	IgG 抗体 (7139)	血清各 0.2 又は 髄液各 0.4 冷蔵	A1-1又は X-2 冷蔵	EIA 法	3 6	200 免疫	
1321 5F190		IgM 抗体 (7241)						
1375 5F193	水痘・ 帯状ヘルペス (VZV)	IgG 抗体 (7140)	血清各 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	2 4	200 免疫	
1376 5F193		IgM 抗体 (7244)						
7902 5F194	サイト メガロ ウイルス (CMV)	IgG 抗体 (7902)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	2 4	200 免疫	
7999 5F194		IgM 抗体 (7999)						
1323 5F432	ムンプス IgG 抗体 (7116)	血清各 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	表 2 参照	2 4	200 免疫	
1312 5F432								

(注) 検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度とする。ウイルス抗体価と併せて実施した場合は、いずれか一方の点数を算定する。

(表2) ウイルス抗体検査(EIA)判定基準

血清	IgG	判定	EIA値	髄液	IgG	判定	EIA値
		(-)	2.0 未満			(-)	0.20 未満
	(+)	2.0~3.9	(+)	0.20~0.39			
	(+)	4.0 以上	(+)	0.40 以上			
血清	IgM	判定	抗体指数	IgM	判定	S/CO	
		(-)	0.80 未満		(-)	0.85 未満	
		(+)	0.80~1.20		(+)	0.85~0.99	
		(+)	1.21 以上		(+)	1.00 以上	

(表3) サイトメガロウイルス IgG・IgM 抗体判定基準

血清	IgG	判定	AU/mL	IgM	判定	S/CO
		(-)	6.0 未満		(-)	0.85 未満
	(+)	6.0 以上	(+)	0.85~0.99		
	(+)	6.0 以上	(+)	1.00 以上		

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

ウイルス分離・同定

1379 6B655	ウイルス分離 (7031)	下記参照	ト 下記参照	細胞変性効果、血球吸着現象、赤血球凝集反応		6 23		分離、同定検査は以下の細胞を使用しています。 PHfb(ヒト繊維芽細胞)、HEp-2(ヒト喉頭癌細胞)、Vero(ミドリザル腎細胞)、MA104(アカゲザル腎細胞)、RD-18S(ヒト横紋筋腫細胞)、MDCK(イヌ腎細胞)、B95a(マーマセットB細胞)、AGMK(アフリカミドリザル腎細胞)、A549(ヒト肺癌細胞)、Caco-2(ヒト結腸腺癌細胞) *4
1380 6B705	ウイルス同定 (7032)	下記参照	ト 下記参照	標準抗血清による中和反応・免疫蛍光抗体法・赤血球凝集抑制反応		15 31		

〈検査材料〉

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出下さい。

臨床症状	分離可能ウイルス	主要検査材料
上気道感染症	ライノ、パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、鼻分泌液
	アデノ、コクサッキー、エコー	咽頭ぬぐい液、糞便
下気道感染症	インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノ、RS、サイトメガロ	咽頭ぬぐい液、喀痰、気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹、風疹	咽頭ぬぐい液
	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、糞便
水疱性発疹症	単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	水疱内容
	コクサッキー、エンテロ71	水疱内容、咽頭ぬぐい液、糞便
中枢神経系疾患	エコー、コクサッキー、ポリオ	咽頭ぬぐい液、髄液、糞便
	水痘・帯状ヘルペス、ムンプス	咽頭ぬぐい液、髄液
先天性異常	サイトメガロ、風疹	咽頭ぬぐい液、尿、髄液
	単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	水疱内容
嘔吐下痢症	エコー、コクサッキー、アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ、単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	結膜ぬぐい液

〈検体採取及び保存方法〉

検査材料	培養細胞試験管に採取する場合	患部ぬぐい液等	糞便	尿・液状検体等
患部ぬぐい液・水疱内容 糞便など	滅菌綿棒でぬぐい、右記の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存して下さい。	<p>管壁でよく擦ります 綿棒は抜き取って下さい きちんとキャップを締めて冷蔵保存し提出して下さい</p>	<p>表面を転がします 数回突き刺します</p>	<p>きちんとキャップを締めて冷蔵保存し提出して下さい</p>
尿・髄液・胸水・鼻汁など	右記の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存して下さい。			<p>液状検体(尿等)は、ウイルス専用保存液と等量混合して下さい。 検体量が保存液より少ない場合、保存液は捨てず、そのままご提出可能な量の検体を入れて下さい。</p>
組 織	組織小片(5mm角程度)をウイルス専用保存液に入れ冷蔵保存して下さい。			

<p>E-1 採血後静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p>	<p>T 91 頁参照</p>	<p>U 91 頁参照</p>	<p>イ 新鮮糞便を小指頭大 容器に取りしっかり フタを閉める</p>	<p>ト ウイルス分離・同 定検査専用容器</p>
--	----------------------------	----------------------------	--	--

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

抗原検査

391 5F190	単純ヘルペスウイルス (HSV) 抗原 (7033)	患部細胞	U 凍結	FA 法	(-)	2 ~ 4	180 免疫	1型2型同定 ヘルペスウイルスの型別確 認を行った場合算定できる。 *G
2675 5F193	水痘帯状ヘルペス (VZV) 抗原 (7019)	患部細胞	T 凍結	FA 法	(-)	2 ~ 4	227 免疫	*G
7790 5F630	ノロウイルス抗原定性 (7790)	糞便 0.5g	I 凍結	イムノクロマト法	(-)	2 ~ 4	150 免疫	※1 *G

※1 ノロウイルス抗原定性は、以下のいずれかに該当する患者について、当該ウイルス感染症が疑われる場合に算定する。

- ア 3歳未満の患者
- イ 65歳以上の患者
- ウ 悪性腫瘍の診断が確定している患者
- エ 臓器移植後の患者
- オ 抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、又は免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

抗原検査

8543 5F101	HPV-DNA 検出 (高リスク) (7405)	子宮頸部 擦過細胞	キ 冷蔵	ハイブリッドキャブ チャー法	index 1.00 未満 (-)	3 6	347 微生物	※1、※2、※3 *G
3340 5F101	HPV-DNA 簡易ジェノタイプ (16型、18型その他ハイリスクグループ) (7611)	子宮頸部 擦過細胞	W4 冷蔵 注1	リアルタイム PCR 法	16 型 (-) 18 型 (-) その他 ハイリスクグループ (-)	3 6	347 微生物	※1、※2、※3 血液が混入していると、デー タに影響を及ぼす場合があり ますので、ご注意ください。
7581 5F101	HPV-DNA ジェノタイプ (ハイリスク 13 種) (7581)	子宮頸部 擦過細胞	W4 冷蔵 注1	PCR-rSSO 法	(-)	4 12	2000 微生物	※2、※4、※5 *G
7541 5F100	HPV-DNA 型別 (7541)	子宮頸部 擦過細胞	W4 冷蔵 注1	PCR-rSSO 法	(-)	4 12		*G

※1 予め行われた細胞診の結果、ペセサダ分類上 ASC-US（意義不明異型扁平上皮）と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。

※2 HPV 核酸検出の施設基準を届け出ている保健医療機関のみ算定できる。

※3 HPV 核酸検出と HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

※4 予め行われた組織診断の結果、CIN1 又は CIN2 と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型 HPV のそれぞれの有無を確認した場合に算定する。

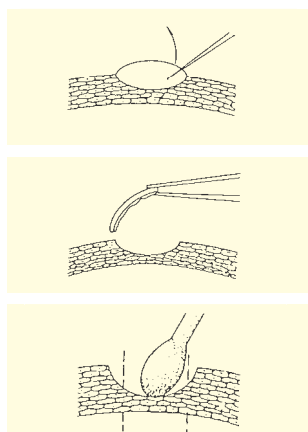
※5 予め行われた組織診断の結果及び組織診断の実施日、及び当該検査によって選択した治療法を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。又、同一の患者について、当該検査を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日、及び前回選択した治療（その後通常の検診となった場合はその旨）を上記に併せて記載する。

注1 コンタミネーションの影響がより大きい為、検体採取にあたっては取り扱いにご注意下さい。又、他項目との重複依頼は避けて下さい。

(表1) HPV-DNA検出対象HPV型一覧

項目コード (グループコード)	検査項目	検出対象HPV型	備 考
8543 (7405)	HPV-DNA検出(高リスク)	16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型 の高 リスク型HPVを検出します。	型別判定はできません。
3340 (7611)	HPV-DNA簡易ジェノタイプ (16型、18型、その他ハイリスク)	16、18及び、その他高リスク型(31、33、35、39、45、51、52、 56、58、59、66、68)のHPVを検出します。	16、18型については型別判定を行いま す。その他高リスクは型別判定で はありません。
7581 (7581)	HPV-DNAジェノタイプ (ハイリスク13種)	16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型 の HPVを検出します。	型別判定を実施し、 検出された型のみをご報告します。
7541 (7541)	HPV-DNA型別	6、11、16、18、26、31、33、35、39、42、44、45、51、52、53、 54、55、56、58、59、61、62、66、68、70、71、73、82、84、 90およびCP6108型のHPVを検出致します。	型別判定を実施し、検出された型のみを ご報告します。なお、下線のあるHPV型 は陽性と判定してご報告します。

単純ヘルペスウイルス抗原・水痘帯状ヘルペス抗原 検体採取保存方法



なるべく早期の水疱病巣から検体を採取して下さい。
水疱内溶液は検体として不適当です。

① 水疱がある場合は、滅菌針を用いて上部の皮膚をはがし、水疱内溶液を除去して病巣基底部を露出させます。

② ポリエステル綿棒を精製水で軽く湿らせます。病巣基底部全面を強くぬぐいます。

- ・ウイルス感染細胞は病巣基底部の細胞を採取する必要があります。

- ・患者が痛いという位強くぬぐうことが大切です。

- ・膿が出ている場合は、清潔な綿棒でまず膿をぬぐい去った後、別の綿棒で細胞を擦過して下さい。

③ 採取した検体（擦過細胞）を、無蛍光スライドガラス T 又は U のウェル内に円を描くように、綿棒を回転させながら塗抹します。

この時、こすったりせず軽く叩くように塗抹して下さい。

④ 綿棒を捨てる前に検体がウェル内に均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていればウェルが不透明

に見えます。透明に見える部分があればそこに綿棒をあてて再び塗抹します。

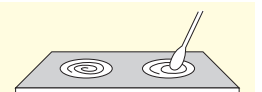
⑤ そのままよく風乾します。

完全に乾燥させないと後の処理の途中で、検体がはがれ落ちる原因となります。

⑥ アセトンで固定します。

無蛍光スライドガラスの検体を塗抹した面を上にし水平に置き、検体の上にな約 0.5mL のアセトンを滴下し、アセトンを蒸発させます。

⑦ 提出容器に納め、凍結保存して下さい。



免疫学的検査（ウイルス）

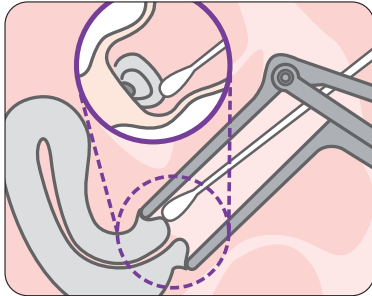
HPV検体採取方法

キ

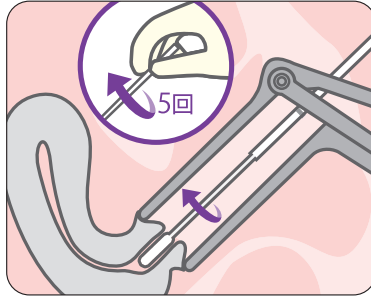


採取方法 妊娠中の女性へは、ブラシタイプのご使用は避けて綿棒タイプをご使用下さい。

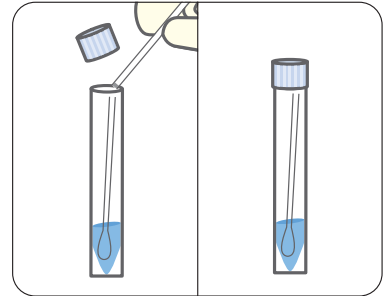
1 綿棒タイプを用いての検体採取と保存方法



① 1本目のサンプラー（綿棒）を用いて子宮口と周辺の子宮腔部の過剰な粘液を取り除きます。

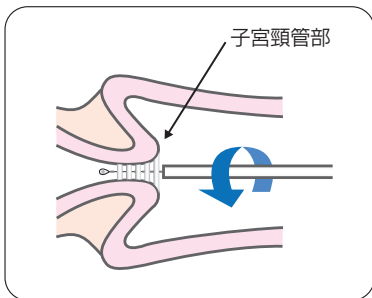


② 2本目のサンプラー（綿棒）を用いて子宮頸管内に挿入し、5回、交互に180度回転させ、擦過物を採取します。細胞変化領域が見られる場合はその部分をしっかりとこすって採取します。（膈粘膜との接触は避けて下さい。）

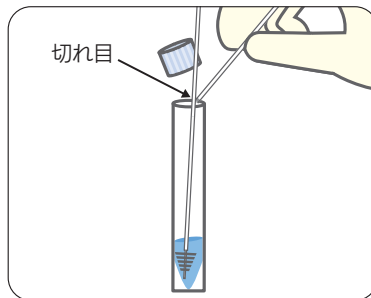


③ 検体を採取したサンプラー（綿棒）を輸送用チューブに入れサンプラーの軸を切れ目の入った所で折って、しっかりとキャップします。採取した検体は2～8℃で保存して下さい。

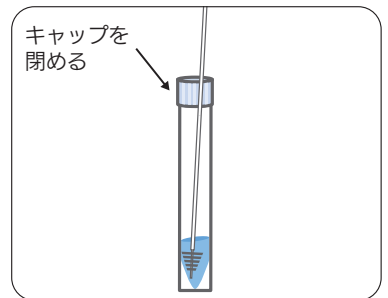
2 ブラシタイプを用いての検体採取と保存方法



① 綿棒等を用いて子宮口と周辺の子宮腔部の過剰な粘膜を取り除く。サンプラー（ブラシ）を子宮頸管に1～1.5cm位挿入し、3回、反時計回りに回転させ擦過物を採取します。



② 検体を採取したサンプラー（ブラシ）を輸送用チューブに入れ、サンプラーの軸を切れ目の入ったところで折ります。

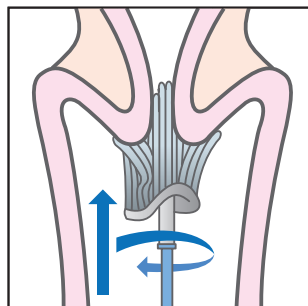


③ しっかりとキャップをします。採取した検体は2～8℃で保存して下さい。

【注意】

- ・妊娠中の女性への使用は避けて下さい。
- ・検体採取時に、ブラシの軸が大きく曲がるほど強く押し付けたり、擦過したりすると切れ目の位置で折れる可能性がありますので、注意して下さい。
- ・子宮頸部細胞診を実施する場合には、「HPV-DNA 検出（高リスク）」用の検体より前に採取して下さい。コルポスコピーを実施する場合には、「HPV-DNA 検出（高リスク）」用の検体を採取後に実施して下さい。

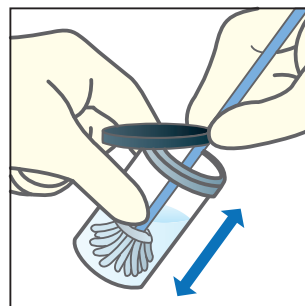
W4 液状検体細胞診（LBC）シンプレックス



① 綿棒等以外の採取器具（ブラシ、スパーテル）を用い検体を採取します。
 （注） HPV 検査と細胞診を提出される場合、採取した細胞を先にスライドガラスに塗抹します。

（注意）

妊婦より検体を採取する場合は安全性を考慮してブラシ等の採取器具の使用は避け、安全性の高い綿棒を使用して下さい。但し、綿棒では適切な細胞量が採取できないこともあるため取り直しが必要になることもあります。綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので十分にご注意下さい。



② ブラシを容器に入れ、容器の底で毛先が広がるように10回程度押し付けます。さらに、強くかき回して、採取した細胞を洗い落とします。



③ ブラシを取り出して廃棄し、しっかりと蓋をして検体を冷蔵保存にて提出して下さい。
 （注） ブラシの先端は容器に残さないで下さい。

ウイルス

血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

血液形態・機能検査

402 2A010	白血球数 (WBC) (2001)	全血 2.0	B-1 冷蔵	フローサイトメトリー法	M F 3900 ~ 9800 3500 ~ 9100 /μL	1 2	21 血液	緊急 (対象: WBC、 RBC、Hb、PLT)
401 2A020	赤血球数 (RBC) (2002)	全血 2.0	B-1 冷蔵	電気抵抗法	M F 427 ~ 570 376 ~ 500 ×10 ⁴ /μL	1 2		
403 2A030	ヘモグロビン (Hb) (血色素量) (2003)	全血 2.0	B-1 冷蔵	SLS-ヘモグロビン法	M F 13.5 ~ 17.6 11.3 ~ 15.2 g/dL	1 2		
404 2A040	ヘマトクリット (Ht) (2004)	全血 2.0	B-1 冷蔵	赤血球パルス波 高値検出法	M F 39.8 ~ 51.8 33.4 ~ 44.9 %	1 2		
405 2A060	MCV (平均赤血球容積) (2103)	全血 2.0	B-1 冷蔵	計算法	M F 83 ~ 102 79 ~ 100 fL	1 2		
406 2A070	MCH (平均赤血球血色素量) (2104)	全血 2.0	B-1 冷蔵	計算法	M F 28.0 ~ 34.6 26.3 ~ 34.3 pg	1 2		
407 2A080	MCHC (平均赤血球血色素濃度) (2105)	全血 2.0	B-1 冷蔵	計算法	M F 31.6 ~ 36.6 30.7 ~ 36.6 %	1 2		
408 2A050	血小板数 (PLT) (2005)	全血 2.0	B-1 冷蔵	電気抵抗法	13.0 ~ 36.9 ×10 ⁴ /μL	1 2		
409 2A160	白血球像 (2174)	全血 2.0	B-1 冷蔵	自動機械法	下記参照 %	1 2	15 血液	緊急 (対象: 白血球像) 精査は鏡検法により実施致 します。※1、2 凍結不可 標本による受託も可能です。 ※3
410 2A160	赤血球像 (2175)	全血 2.0	B-1 冷蔵	鏡検法	赤芽球 (-) 大小不同 (-) 多染性 (-) 奇形 (-)	1 2	15 血液	

※1 次の場合、鏡検法による精査分類の上好中球を桿状核球と分葉核球に分けてご報告します。

①血液疾患加療中の患者、又はその疑いのある患者で特別に指示のある場合、②芽球、異型リンパ球の出現。③好中球左方移動、④有核赤血球の出現、⑤血球計算値に異常が認められたとき、又は百分率が基準値を大きく超えた場合。

※2 白血球像の結果における(+)の報告表現は、百分率：1.0%未満を示します。

※3 好酸球数及び末梢血液像(白血球像、赤血球像)を同時に行った場合は、主たる検査の点数のみを算定する。

白血球像基準値(単位：%)

細胞の種類	基準値
好塩基球 (Baso)	0.0 ~ 3.0
好酸球 (Eosino)	0.0 ~ 10.0
好中球 (Neutro)	35.0 ~ 73.0
※1 桿状核球 (Stab)	0.0 ~ 18.0
分葉核球 (Seg)	27.0 ~ 72.0
リンパ球 (Lympho)	20.0 ~ 51.0
単球 (Mono)	2.0 ~ 12.0

血液学的検査

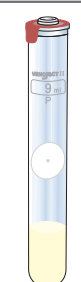
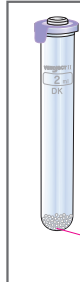
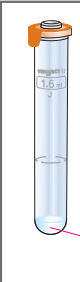

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

血液形態・機能検査

414 2A110	網赤血球数 (2009)	全血 2.0	B-1 冷蔵	フローサイトメトリー法 及び Brecher 法	2 ~ 27 %	1 2	12 血液	凍結不可
472 2A090	好酸球数 (2010)	全血 2.0	B-1 冷蔵	白血球数及び 白血球像による計算法	70 ~ 450 /μL	1 2	17 血液	凍結不可 ※3
412 2Z030	全血比重 (GB) (2037)	全血 2.0	B-1 冷蔵	間接法 (Phillips らの方法)	M 1.055 ~ 1.063 F 1.052 ~ 1.060	1 2		凍結不可
411 2Z010	赤血球沈降速度 (ESR) (2100)	全血 1.6	P 冷蔵	Westergren 法	M 2 ~ 10 F 3 ~ 15 mm/h	1 2	(9) 血液	凍結不可 当該保険医療機関内で検査 を行った場合に算定する。
232 3H045	浸透圧 (1183)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	氷点降下法	275 ~ 290 mOsm/kgH ₂ O	2 4	15 血液	緊急
2528 2A400	マラリア原虫 (2043)	全血 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	(-)	2 3	40 血液	凍結不可 標本による受託も可能です。 血中微生物
2557 2A410	フィラリア原虫 (2044)	全血 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	(-)	2 3	40 血液	凍結不可 標本による受託も可能です。 血中微生物
1978 2A170	骨髓像 (2008)	骨髓塗抹 標本 (未固定) 2 ~ 3 枚 注1	X2 常温	鏡検法 (May-Giemsa 染色)		7 11	788 血液	診断に特殊染色が必要とさ れる場合、追加検査推奨の 連絡をさせていただきます。 *G

注1 骨髓像検体提出注意事項 塗抹後できるだけ早く乾燥させて下さい。メイギムザ染色をしますので未固定の状態でお送り下さい。特にペルオキシダーゼ染色は、メタノールなどの固定後は染色できませんので未固定の状態でお送り下さい。

※3 好酸球数及び末梢血液像(白血球像、赤血球像)を同時に行った場合は、主たる検査の点数のみを算定する。

 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>B-1 採血後、静かに 約 10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p> <p>EDTA-2K 2mL用</p>	 <p>P 血液 1.6mL を入れ 静かに約 10 回ほど 転倒混和そのまま 冷蔵保存 (特に新鮮血が 必要 (凍結不可))</p> <p>3.8%クエン酸 ナトリウム0.4mL</p>	 <p>X2 常温保存</p>
---	--	--	--

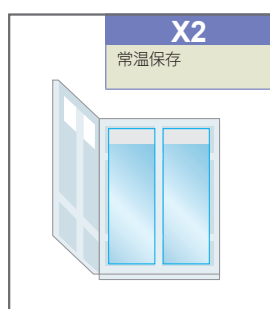
血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

血液形態・機能検査

2499 2A180	骨髄像特殊染色	曜日指定 アルカリホスファターゼ染色 (ALP 染色) (2229)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	朝長法	陽性率 陽性指数	% }	4 7	血液	休日の前日は受付できません。 骨髄像の場合加算40点 ※1
		曜日指定 PAS 染色 (2332)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	Schiff 法	陽性率	%	4 7	血液	
		曜日指定 ペルオキシダーゼ染色 (2230)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	ICSH 標準法 (改良法)	陽性率	%	4 7	血液	
		曜日指定 エステラーゼ染色 (2254)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	二重染色法 (α-NB・NAS-D 法)	α-NB AS-D α-NB+AS-D NaF 阻止率	% % % %	4 7	血液	
		曜日指定 鉄染色 (2278)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	ベルリン青反応	ジデロプラスト : 20~50	%	4 7	血液	
427 2A180	血液特殊染色	曜日指定 アルカリホスファターゼ染色 (ALP 染色) (2177)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	朝長法	陽性率 陽性指数	M 60.5~99.5 F 67.5~99.5 % M 170~335 F 189~367	3 6	血液	休日の前日は受付できません。 末梢血液像の場合加算27点
		曜日指定 PAS 染色 (2299)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	Schiff 法	陽性率	%	3 6	血液	
		曜日指定 ペルオキシダーゼ染色 (2180)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	ICSH 標準法 (改良法)	陽性率	%	3 6	血液	
		曜日指定 エステラーゼ染色 (2060)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	二重染色法 (α-NB・NAS-D 法)	α-NB AS-D α-NB+AS-D NaF 阻止率	% % % %	3 6	血液	
		曜日指定 鉄染色 (2279)	骨髄塗抹 標本 (未固定) 3枚	X2 常温	ベルリン青反応	ジデロサイト : 0~3	%	3 6	血液	

※1 骨髄像と同時依頼された場合、所要日数は6~10日となります。



血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

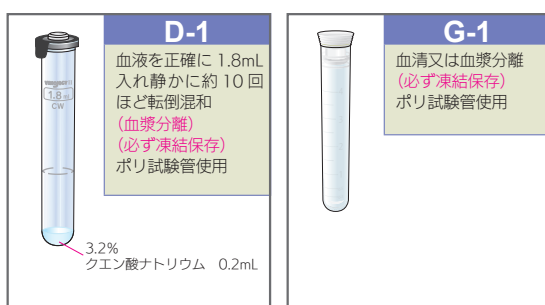
凝固系一般検査

417 2B030	プロトロンビン時間 (PT) (2029)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	Quick 変法	PT INR 値 0.88 ~ 1.17 PT 活性 66.0 ~ 127.6 % PT 時間 9.4 ~ 12.2 秒 ※1	1 } 2	18 血液	緊急
421 2B020	活性化部分トロンボ プラスチン時間 (APTT) (2030)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	エラジン酸活性化法	24.0 ~ 34.0 秒	1 } 2	29 血液	緊急

凝固因子関連検査

419 2B100	フィブリノゲン定量 (Fib) (2033)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	トロンビン時間法	160 ~ 410 mg/dL	1 } 2	23 血液	緊急
481 2B350	第II因子 (2404)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70 ~ 120 %	2 } 7	223 血液	*G
482 2B370	第V因子 (2405)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70 ~ 120 %	2 } 7	223 血液	*G
483 2B380	第VII因子 (2406)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70 ~ 120 %	2 } 7	223 血液	*G
484 2B390	第VIII因子 (2407)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70 ~ 150 %	2 } 7	223 血液	*G

※1 PT時間(秒)：健常者参考値です。PT時間は試薬の力価により若干の変動があります。



実施料について(出血・凝固)

一回に採取した血液を用いて
青色で表記されている検査を
3項目以上行った場合

1. 3項目又は4項目の場合
出血・凝固 530点
2. 5項目以上
出血・凝固 722点

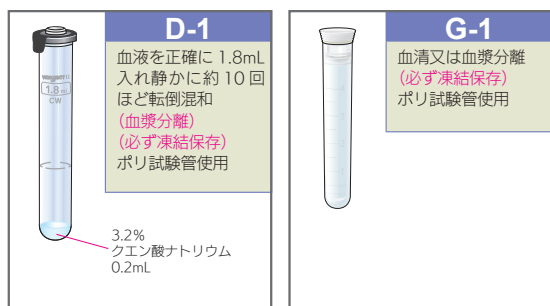
血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
485 2B400	第ⅠX因子 (2408)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70 ~ 120 %	2 ↓ 7	223 血液	*G
486 2B410	第X因子 (2409)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70 ~ 120 %	2 ↓ 7	223 血液	*G
487 2B420	第XI因子 (2410)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70 ~ 120 %	2 ↓ 7	223 血液	*G
488 2B430	第XII因子 (2397)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70 ~ 150 %	2 ↓ 7	223 血液	*G
489 2B440	第XIII因子 (2257)	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	63 ~ 131 %	2 ↓ 5	223 血液	*G
1476 2B450	フォン・ウィルブランド 因子抗原 定量 (v.W 因子抗原 定量) (2256)	血漿 0.2	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	50 ~ 155 %	4 ↓ 6	147 血液	*4
476 2B480	フォン・ウィルブランド 因子活性 (v.W 因子活性) (リストセチンコファクター) (2052)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	固定血小板凝集法	60 ~ 170 %	4 ↓ 6	126 血液	*4
2634 2B495	ADAMTS13 活性 (2709)	血漿 0.2	D-1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	0.10 以上 (10% 以上) ※1 IU/mL	5 ↓ 7	400 血液	※2 *1
2157 2B496	ADAMTS13 インヒビター定量 (2707)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	0.5 未満 B,U/mL	5 ↓ 7	1000 血液	※3 *1

※1 測定値が0.10IU/mL未満(10%未満)の場合は、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)と判定されます。
TTP判定基準 健常者参考値:0.78IU/mL(78%以上)

※2 他に原因を認めない血小板減少を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的とした測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。又、血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※3 ADAMTS13活性の著減を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。又、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。



血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
459 2B460	第Ⅷ因子インヒビター (第Ⅷ因子 -INH) (2222)	血漿 1.0	D-1 ↓ G-1 凍結	Bethesda 法	1.0 未満 B.U/mL	4 } 6	144 血液	測定1回につき算定する。 *4
460 2B470	第Ⅸ因子インヒビター (第Ⅸ因子 -INH) (2070)	血漿 1.0	D-1 ↓ G-1 凍結	Bethesda 法	1.0 未満 B.U/mL	4 } 6	144 血液	測定1回につき算定する。 *4
447 2B260	プラスミノゲン抗原 (2394)	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	9.1 ~ 14.5 mg/dL	4 } 5	100 血液	*E
448 2B260	プラスミノゲン活性 (2395)	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	合成基質法	80 ~ 130 %	4 } 5	100 血液	*E
468 2B270	アンチプラスミン (プラスミンインヒビター) (2295)	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	77 ~ 120 %	2 } 4	128 血液	*G
471 2B200	アンチトロンビン活性 (AT- III) (2035)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	75 ~ 135 %	1 } 2	70 血液	
424 2B120	フィブリン・フィブリノゲン 分解産物 (血漿 FDP) (2034)	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	5.0 以下 μg/mL	1 } 2	80 血液	緊急
469 2B110	可溶性フィブリンモノマー 複合体 (SFMC) (2051)	血漿 0.2	D-1 ↓ G-1 凍結	凝集反応	(-)	2 } 4	93 血液	*G
1136 2B140	D ダイマー (2049)	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	1.0 以下 μg/mL	1 } 2	127 血液	緊急
1134 2B280	プラスミンインヒビター・ プラスミン複合体 (PIC) (2067)	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	0.8 以下 μg/mL	2 } 5	150 血液	*G

実施料について(出血・凝固)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

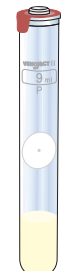
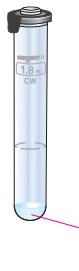
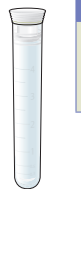
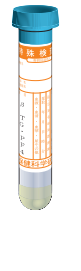
- 3項目又は4項目の場合
1. 出血・凝固 530点
- 5項目以上
2. 出血・凝固 722点

血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

凝固・線溶系検査

1135 2B210	トロンビン・アンチトロンビン 複合体 (TAT) (2498)	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	3.0 以下 ng/mL	2 ↓ 3	171 血液	主たるもののみ算定する。 *G
1016 2B700	プロテイン C 活性 (2400)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	70 ~ 140 %	4 ↓ 5	227 血液	*G
1114 2B700	プロテイン C (抗原量) (2039)	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	69 ~ 144 %	2 ↓ 5	226 血液	*G
8597 2B711	プロテイン S (遊離型抗原量) (2041)	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	M F 50 ~ 131 49 ~ 133 %	4 ↓ 6	154 血液	*4
1115 2B710	プロテイン S (抗原量) (2045)	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	EIA 法	65 ~ 135 %	4 ↓ 8	154 血液	*E
1116 2B710	プロテイン S 活性 (2068)	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	M F 67 ~ 164 56 ~ 126 %	4 ↓ 6	154 血液	*4
2068 2B310	プラスミノゲンアクチベーター インヒビター 1 (PAI-1) (2042)	血漿 0.4	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	50.0 以下 ng/mL	2 ↓ 4	240 血液	測定対象は総PAI-1 (tPA・ PAI-1複合体及び活性型、 潜在型PAI-1)です。 *G
1430 2B730	トロンボモジュリン (TM) (2414)	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	12.1 ~ 24.9 U/mL	4 ↓ 7	204 血液	膠原病の診断もしくは経過 観察又は、DICもしくはそ れに引き続いて起こるMOF 観察のために測定した場合 に限り算定できる。 *1
2505 5B045	C1 インアクチベーター活性 (C1 エステラーゼインヒビター活性) (4445)	血漿 0.3	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	70 ~ 130 %	4 ↓ 6	253 免疫	*E

 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>D-1 血液を正確に 1.8mL 入れ静かに約 10 回 ほど転倒混和 (血漿分離) (必ず凍結保存) ポリ試験管使用 3.2% クエン酸ナトリウム 0.2mL</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>	 <p>R 次頁参照</p>
--	---	---	---

血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

血小板機能検査

462 2B620	血小板第4因子 (PF4) (2413)	血漿 0.3	R ↓ G-1 下図参照 凍結	EIA法	20 以下 ng/mL	4 ↓ 11	173 血液	*4
464 2B600	β-トロンボグロブリン (β-TG) (2412)	血漿 0.3	R ↓ G-1 下図参照 凍結	EIA法	50 以下 ng/mL	4 ↓ 11	171 血液	*4

〔β-TG、PF-4の採取方法及び注意事項〕

		この操作を2分以内に行う																															
採取方法	できるだけ20ゲージ(19~23ゲージでも可)の針を用いたポリスチレン注射器で血液2.7mL採取する。 (採血に当たって、専用容器[R]を使用する。)	予め専用容器[R]を冷却しておく。次に専用容器のフタを開け血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2~3回反転混和する。	専用容器をすみやかに砕氷と水の入ったラックに入れる。	砕氷水に15~30分間放置後、採取血液を2,000Gで30分間、2~4℃で遠心分離する。(下表は、2,000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示す。)	上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで各0.3mL検体容器へ採取する。検体は必ず凍結保存する。(一ヶ月安定)																												
注意事項	真空採血管、カテーテル及び他の方法は使用しない。又、脈血帯も使用しない。10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取する。	指定の専用容器以外は使用しない。専用容器は振とうさせない。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにする。角氷は使用しない。	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離する。 換算表 <table border="1"> <thead> <tr> <th>半径 (cm)</th> <th>回転数 (rpm)</th> <th>半径 (cm)</th> <th>回転数 (rpm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10</td><td>4,200</td><td>22</td><td>2,800</td></tr> <tr><td>12</td><td>3,800</td><td>24</td><td>2,700</td></tr> <tr><td>14</td><td>3,500</td><td>26</td><td>2,600</td></tr> <tr><td>16</td><td>3,300</td><td>28</td><td>2,500</td></tr> <tr><td>18</td><td>3,100</td><td>30</td><td>2,400</td></tr> <tr><td>20</td><td>3,000</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)	10	4,200	22	2,800	12	3,800	24	2,700	14	3,500	26	2,600	16	3,300	28	2,500	18	3,100	30	2,400	20	3,000			血餅に近い部分からの採取は絶対に避ける。
半径 (cm)	回転数 (rpm)	半径 (cm)	回転数 (rpm)																														
10	4,200	22	2,800																														
12	3,800	24	2,700																														
14	3,500	26	2,600																														
16	3,300	28	2,500																														
18	3,100	30	2,400																														
20	3,000																																

実施料について(出血・凝固)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

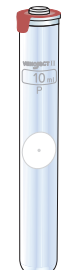
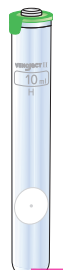

- 3項目又は4項目の場合
出血・凝固 530点
- 5項目以上
出血・凝固 722点

薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
654 3L175	フェノバルビタール (5050)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA 法	10.0 ~ 40.0 μg/mL	1 2	※	緊急 フェノバル フェノバルビタール
655 3L185	フェニトイン (5051)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA 法	10.0 ~ 20.0 μg/mL	1 2	※	緊急 アレピアチン ヒダントール
656 3L115	カルバマゼピン (5052)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA 法	4.0 ~ 12.0 μg/mL	1 2	※	緊急 カルバマゼピン テグレートール
657 3L190	プリミドン (5121)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA 法	5 ~ 12 μg/mL	2 4	※	緊急 プリミドン *G
658 3L195	バルプロ酸 (5054)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA 法	50.0 ~ 100.0 μg/mL	1 2	※	緊急 セレニカR、デパケン、 バルプロ酸ナトリウム、 パレリン
985 3L135	エトスクシミド (5096)	血清 0.5	A2-1 冷蔵	EIA 法	40.0 ~ 100.0 μg/mL	4 10	※	緊急 エピレオプチマル ザロンチン *E
2572 3L205	トリメタジオン (5122)	血清 0.5	A2 ↓ G-1 凍結	LC-MS/MS 法	300 ~ 500 μg/mL	6 12	※	ミノアレ *1
987 3L125	クロナゼパム (5120)	血清 1.1	A2-1 冷蔵	HPLC 法	20 ~ 70 ng/mL	3 5	※	ランドセン リボトリール *G
1145 3L950	アセタゾラミド (5100)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	HPLC 法	μg/mL	5 11	※	ダイアモックス *4
1146 3L200	スルチアム (5532)	血清 1.2	A2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	μg/mL	7 14	※	オスポロット *4

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は108頁をご参照下さい。

 <p>A2-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>F-2 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 血漿分離 冷蔵保存</p> <p>ヘパリン 5mL 又は 10mL 用</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p> <p>G-2 血清又は血漿分離 冷蔵保存 (ゴム栓不可) ポリ試験管使用</p>
--	--	---

薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
抗てんかん剤								
1044 3L210	ゾニサミド (5371)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	10 ~ 30 μg/mL	1 2	※	エクセگران ゾニサミド
984 3L165	ニトラゼパム (5099)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	20 ~ 200 ng/mL	5 7	※	ニトラゼパム ネルボン ベンザリン *4
983 3L130	ジアゼパム (5670)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	HPLC 法	Trough 600 ~ 1000 ※ 1 ng/mL	5 8	※	ジアゼパム ジアパックス セルシン セレナミン ホリゾン *4
2007 3L145	クロバザム (5909)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	※ 2 ng/mL	5 7	※	マイスタン *4
8386 3L220	ラモトリギン (5847)	血漿 0.3	F-2 ↓ G-2 冷蔵	LC-MS/MS 法	2.5 ~ 15 μg/mL	5 7	※	ラミクタール *4
730 3L215	ガバペンチン (5982)	血漿 0.3	F-2 ↓ G-2 冷蔵	LC-MS/MS 法	μg/mL	5 7	※	ガバペン *4
8588 3L225	トピラマート (5674)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	Trough 5 ~ 20 μg/mL	5 6	※	トピナ トピラマート *1
8394 3L230	レベチラセタム (5673)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS 法	Trough 12 ~ 46 μg/mL	5 6	※	イーケブラ *1
精神神経用剤								
653 3L320	炭酸リチウム (5239)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	原子吸光法	0.60 ~ 1.20 mEq/L	2 4	※	緊急 炭酸リチウム リーマス *G
986 3L300	ハロペリドール (5128)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	3 ~ 17 注1 ng/mL	1 2	※	セレネース ネオペリドール ハロステン ハロペリドール ハロマンس
2527 3L302	ブロムペリドール (5527)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	有効治療濃度参考値 4.0 ~ 14.3 注1 ng/mL	1 2	※	インプロメン ブロムペリドール

精神神経用剤

653 3L320	炭酸リチウム (5239)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	原子吸光法	0.60 ~ 1.20 mEq/L	2 4	※	緊急 炭酸リチウム リーマス *G
986 3L300	ハロペリドール (5128)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	3 ~ 17 注1 ng/mL	1 2	※	セレネース ネオペリドール ハロステン ハロペリドール ハロマンス
2527 3L302	ブロムペリドール (5527)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	有効治療濃度参考値 4.0 ~ 14.3 注1 ng/mL	1 2	※	インプロメン ブロムペリドール

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は108頁をご参照下さい。

注1 ハロペリドールとブロムペリドールを併用している患者検体では、免疫学的交差反応のため正確な濃度は測定できません。

※1 N-デスメチルジアゼパムの濃度も同時にご報告いたします。

※2 代謝産物のデスメチルクロバザムの濃度も同時にご報告いたします。

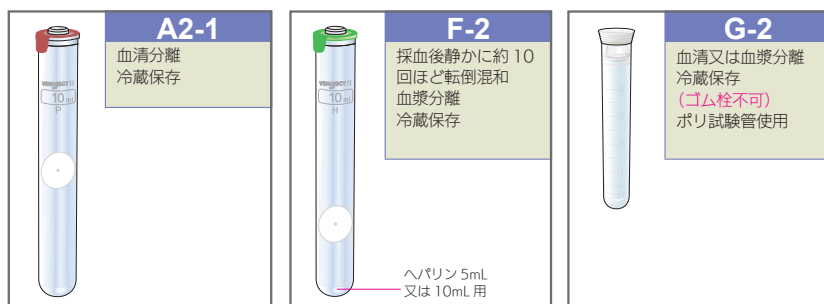
※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、
107頁をご参照下さい。

薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
抗炎症、リウマチ剤								
976 3M205	サリチル酸 (5101)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	酵素法	(抗炎症剤として) 100 ~ 250 μg/mL	4 ~ 6	※	緊急 アスピリン サルソニン ハフトロン ヘパルス *4
強心剤								
651 3L765	ジゴキシン (5049)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	0.8 ~ 2.0 ng/mL	1 ~ 2	※	緊急 ジゴキシン ジゴシン ジゴシンエリキシル
不整脈用剤								
2529 3L897	プロパフェノン (5457)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	ng/mL	5 ~ 7	※	プロノン プロパフェノン塩酸塩 *4
2512 3L896	塩酸ピルジカイニド (5556)	血清 0.5	A2-1 冷蔵	HPLC 法	Peak 0.2 ~ 0.9 μg/mL	3 ~ 6	※	サンリズム ピルジカイニド塩酸塩 *G
2530 3L898	シベンゾリン (5175)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	Trough 70 ~ 250 ng/mL	5 ~ 7	※	シベノール シベンゾリンコハク酸塩 *4
988 3L890	プロカインアミド (5448)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	HEIA 法	4 ~ 8 μg/mL	4 ~ 6	※	緊急 アミサリン *1

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は108頁をご参照下さい。



薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
不整脈用剤								
981 3L895	プロプラノロール (5469)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	HPLC 法	50 ~ 100 ng/mL	6 19		インデラル プロプラノロール塩酸塩 *4
980 3L900	キニジン (5080)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	KIMS 法	2.0 ~ 6.0 μg/mL	4 10	※	硫酸キニジン *4
978 3L875	リドカイン (5370)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	EIA 法	1.2 ~ 5.0 μg/mL	4 6	※	緊急 オリベス キシロカイン リドカイン *4
989 3L865	ジソピラミド (5449)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA 法	2 ~ 5 μg/mL	2 4	※	ジソピラミド ジソピラン リスモダン *G
1111 3L855	アプリンジン (5491)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	0.25 ~ 1.25 μg/mL	5 7	※	アスペノン アプリンジン塩酸塩 *4
2511 3L880	メキシレチン (5464)	血清 0.5	A2-1 冷蔵	HPLC 法	0.5 ~ 2.0 μg/mL	3 8	※	チルミメール メキシチール メキシレチン塩酸塩 *G
1420 3L905	フレカイニド (5375)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS 法	200 ~ 1000 ng/mL	5 7	※	タンボコール フレカイニド酢酸塩 *4
2728 3L899	ピルメノール (5767)	血漿 1.3	F-2 ↓ G-2 冷蔵	HPLC 法	400.0 以上 ng/mL	5 11	※	ピメノール *4
2726 3L800	アミオダロン (5770)	血漿 0.3	F-2 ↓ G-2 冷蔵	LC-MS/MS 法	ng/mL	5 7	※	アミオダロン塩酸塩 アンカロン *4
6343 3L802	ペプリジル (5849)	血漿 0.3	F-2 ↓ G-2 冷蔵	LC-MS/MS 法	250 ~ 800 ng/mL	5 7	※	ペプリコール *4

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は108頁をご参照下さい。

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、
107頁をご参照下さい。

薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------------------	----------	------------	----

解熱鎮痛剤消炎剤

977 3L005	アセトアミノフェン (5466)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA 法	中毒域 200.1 以上 (4 時間) 100.1 以上 (8 時間) 50.1 以上 (12 時間) μg/mL	4 ~ 10	180 生化 I	アセトアミノフェン、 アセリオ、カロナール、 コカール、ピレチノール 同一の患者につき1月以内に 2回以上行った場合は、 第1回目の測定を行ったと きに1回に限り算定する。 *4
--------------	---------------------	--------	------------	-------	---	--------------	-------------	---

抗悪性腫瘍剤

975 3M725	メトトレキサート (5467)	血清 0.5	A2-1 冷蔵	EIA 法	危険限界濃度 24 時間値 10 以上 48 時間値 1 以上 72 時間値 0.1 以上 μmol/L	4 ~ 6	※	緊急 メトトレキサート *4
3514 3M750	イマチニブ (5787)	血漿 0.3	E-4 ↓ G-2 冷蔵	LC-MS/MS 法	ng/mL	5 ~ 8	※	イマチニブ グリベック *1

抗生物質

648 3M606	ゲンタマイシン (5102)	血清 0.4	A2 ↓ G-1 凍結	EIA 法	Peak 15 ~ 20 Trough 1 未満 μg/mL	4 ~ 6	※	エルタシン ゲンタシン ゲンタマイシン硫酸塩 抗菌薬TDM2016に準拠 ※1 *4
649 3M602	トブラマイシン (5452)	血清 0.4	A2 ↓ G-1 凍結	EIA 法	Peak 15 ~ 20 Trough 1 未満 μg/mL	4 ~ 6	※	トブラシン 抗菌薬TDM2016に準拠 ※1 *4
650 3M601	アミカシン (5098)	血清 0.4	A2 ↓ G-1 凍結	KIMS 法	Peak 50 ~ 60 Trough 4 未満 μg/mL	4 ~ 6	※	アミカシン硫酸塩 アミカマイシン 抗菌薬TDM2016に準拠 ※1 *4
1039 3M613	アルベカシン (5555)	血清 0.3	A2 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集比濁法	Peak 15 ~ 20 Trough 1 ~ 2 未満 μg/mL	4 ~ 6	※	アルベカシン硫酸塩 ハバカシン *4

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

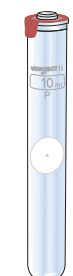
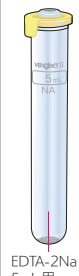


採血時刻は108頁をご参照下さい。

※1 グラム陰性菌感染症に対する標準治療における目標値(μg/mL)

最小発育阻止濃度 (MIC)	8 μg/mL (重症)		≤ 4 μg/mL (軽・中等度)	
アミカシン	50~60 (ピーク)	4未満 (トラフ)	41~49 (ピーク)	4未満 (トラフ)
最小発育阻止濃度 (MIC)	2 μg/mL (重症)		≤ 1 μg/mL (軽・中等度)	
ゲンタマイシン	15~20 (ピーク)	1未満 (トラフ)	8~10 (ピーク)	1未満 (トラフ)
トブラマイシン				

基準値は重症における目標値を基準値(治療濃度範囲)として設定いたしました。


抗菌薬TDMガイドライン2016より改変

 <p>A2-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>E-1 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p> <p>E-2 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、 必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用</p> <p>EDTA-2Na 5mL 用</p>	 <p>G-1 血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用</p>	 <p>G-2 血清又は血漿分離 冷蔵保存 (ゴム栓不可) ポリ試験管使用</p>
---	---	---	---

薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要 日数	実施料 判断料	備考
抗生物質								
1014 3M530	バンコマイシン (5531)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA 法	Trough 10.0 ~ 15.0 μg/mL	1 2	※	緊急 バンコマイシン塩酸塩 抗菌薬TDM2016に準拠
2702 3M532	テイコプラニン (5478)	血清 0.3	A2-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	Trough 15 ~ 30 μg/mL	4 6	※	緊急 タゴシッド テイコプラニン 重症感染症は10~20μg/ mLを保って下さい。 抗菌薬TDM2016に準拠 *4
免疫抑制剤								
974 3M805	シクロスポリン (5465)	全血 1.0	S 凍結	CLIA 法	ng/mL	2 4	※	サンディミュン シクロスポリン ネオラル 必ず単独検体で提出して下 さい。 *G
2725 3M810	タクロリムス (5256)	全血 1.0	S 凍結	CLIA 法	ng/mL	2 4	※	グラセプター タクロリムス プログラフ 必ず単独検体で提出して下 さい。 *G
3536 3M815	エベロリムス (5989)	全血 1.0	E-1 冷蔵	ECLIA 法	免疫抑制剤としてシクロスポリ ンと併用した場合の Trough 3 ~ 8 抗悪性腫瘍剤として使用した 場合の Trough 5~15 ng/mL	4 5	※	アフィニートール サーティカン シロリムス投与歴がある患者 検体は検査不可 *1
6991 3M816	ミコフェノール酸 (5991)	血漿 0.5	E-4 ↓ G-2 冷蔵	EIA 法	μg/mL	4 7	※	セルセプト ミコフェノール酸モフェチル *4
その他								
659 3M070	テオフィリン (気管支拡張剤) (5087)	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA 法	10.0 ~ 20.0 μg/mL	1 2	※	緊急 スロービッド、チルミン、 テオドール、テオフィリン、 テオロング、テルパンス、 ユニコン、ユニフィル

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。
採血時刻は108頁をご参照下さい。



S

採血後静かに
約10回ほど
転倒混和
そのまま
(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結
他の項目との同時依
頼はできません。

EDTA-2K
2mL用

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、
107頁をご参照下さい。

薬物

薬物検査

[特定薬剤治療管理料]

薬剤名		1~3カ月	4カ月以降	初回月加算点	備考	薬剤名		1~3カ月	4カ月以降	初回月加算点	備考						
ジギタリス製剤	ジゴキシシン	470	235		心疾患患者 急速飽和を行った場合、1回に限り算定740 初回月加算同時算定不可	ハロペリドール製剤・プロムペリドール製剤	ハロペリドール	470	235		統合失調症の患者						
		プロムペリドール															
抗てんかん剤	フェノバルビタール	470	470	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	てんかん患者 複数薬剤測定の場合、2回に限り算定470 てんかん重積状態の患者に抗てんかん剤の注射等を行った場合、1回に限り算定740 初回月加算同時算定不可	リチウム製剤	炭酸リチウム	470	235	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	躁うつ病の患者						
	フェニトイン					バルプロ酸製剤	バルプロ酸	470	470		躁うつ病又は躁病の患者						
	カルバマゼピン					バルプロ酸ナトリウム・カルバマゼピン	カルバマゼピン										
	プリミドン							バルプロ酸	470	235	片頭痛の患者						
	バルプロ酸					バルプロ酸	470	235	臓器移植を行った月から3カ月2740	臓器移植を受けた患者であって臓器移植における拒否反応の抑制を目的として免疫抑制剤を投与しているもの							
	エトスクシמיד					免疫抑制剤	シクロスポリン	470			470	※1					
	トリメタジオン					シクロスポリン	タクロリムス		※2								
	クロナゼパム					シクロスポリン	エベロリムス	470	235	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	若年性関節リウマチ、リウマチ熱又は慢性関節リウマチの患者						
	アセタゾラミド					シクロスポリン	タクロリムス										
	スルチアム					サリチル酸系製剤	サリチル酸	470	235	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	数日間以上投与している入院中の患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回算定						
	ゾニサミド					抗生物質	ゲンタマイシン	470	235			悪性腫瘍の患者					
	ニトラゼパム						トブラマイシン			470	235		イマチニブを投与しているもの				
	ジアゼパム					アルベカシン	470	235	結節性硬化症の患者								
	クロバザム					パンコマイシン				470	235						
ラモトリギン	テイコプラニン	470	235														
ガバペンチン	抗悪性腫瘍剤			メトトレキサート	470	235											
トピラマート	イマチニブ	470	235														
レベチラセタム	エベロリムス			470	235												
テオフィリン製剤	テオフィリン	470	235			気管支喘息、喘息性(様)気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作の患者											
不整脈剤	プロパフェノン	470	235	不整脈の患者	プロパフェノン	塩酸ピルジカイニド	シベンゾリン	プロカインアミド	キニジン	リドカイン	ジソピラミド	アプリンジン	メキシレチン	フレカイニド	ピルメノール	アミオダロン	ペブリジル

※1 ベーチェット病の患者であって活動性・難治性眼症状を有するもの又はその他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る。）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。）、ネフローゼ症候群の患者若しくは川崎病の急性期の患者

※2 全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎（多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る。）の患者

[主な薬物の採血時刻]

検査項目	採血時刻
抗てんかん剤	
フェノバルビタール	投与直前(トラフ)
フェニトイン	経口：投与直前(トラフ) 静注：投与後2～4時間
カルバマゼピン	投与直前(トラフ)
プリミドン	投与直前(トラフ)
バルプロ酸	投与直前(トラフ)
エトスクシミド	投与直前(トラフ)
トリメタジオン	投与直前(トラフ)
クロナゼパム	投与直前(トラフ)
アセタゾラミド	－
ゾニサミド	投与直前(トラフ)
ニトラゼパム	投与直前(トラフ) 但し、抗てんかん剤として用いる場合
ジアゼパム	投与直前(トラフ) 但し、抗てんかん剤として用いる場合
ラモトリギン	次回投与直前(トラフ)
レベチラセタム	投与直前(トラフ)
精神神経用剤	
炭酸リチウム	早朝投与前(トラフ)
ハロペリドール	投与直前(トラフ)
プロムペリドール	投与直前(トラフ)
抗炎症、リウマチ剤	
サリチル酸	投与直前(トラフ)
強心剤	
ジゴキシン	経口：投与後6時間～投与直前(トラフ) 静注：投与後4時間～投与直前(トラフ)
不整脈用剤	
プロパフェノン	－
塩酸ピルジカイニド	投与直前(トラフ)又は 経口：投与後1～2時間(ピーク)
シベンゾリン	朝投与直前(トラフ)
プロカインアミド	投与直前(トラフ)
プロプラノロール	投与直前(トラフ)
キニジン	投与直前(トラフ)

検査項目	採血時刻
不整脈用剤	
リドカイン	静注：投与後2時間 点滴静注：6～12時間
ジソピラミド	投与直前(トラフ)
アプリンジン	経口：投与直前(トラフ) 投与後2～4時間(ピーク) 静注：投与直前(トラフ)
メキシレチン	投与直前(トラフ)
フレカイニド	投与直前(トラフ)
ピルメノール	随時
アミオダロン	投与直前(トラフ)
解熱鎮痛剤消炎剤	
アセトアミノフェン	－
抗悪性腫瘍剤	
メトトレキサート	メトトレキサート・ロイコボリン救援療法時 24, 48, 72時間
エベロリムス(アフィニトール)	投与直前(トラフ)
抗生物質	
ゲンタマイシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分 後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
トブラマイシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分 後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
アミカシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分 後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
アルベカシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分 後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
バンコマイシン	点滴静注後1～2時間(ピーク) 投与直前(トラフ)
テイコブラニン	投与前30分以内(トラフ)
免疫抑制剤	
シクロスポリン	投与直前(トラフ)
タクロリムス	投与直前(トラフ)
エベロリムス(サーティカン)	投与直前(トラフ)
その他	
テオフィリン (気管支拡張剤)	投与直前(トラフ) (副作用：ピーク)

【採血時刻について】

○維持投与量の調整のために行う場合の採血時刻を示します。

○中毒症状を疑う場合は随時測定を実施する必要があります。

一般検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	-----

尿中一般物質定性、半定量検査

516 1A030	比重 (6001)	尿 10.0	C-3 冷蔵	屈折計法又は 試験紙法	1.005 ~ 1.030	1 2	(26)	緊急 (対象: 糖定性、 ケトン体定性 (新生児のみ)) 当該保険医療機関内で検査 を行った場合に算定する。
517 1A035	pH (6002)			試験紙法	5.0 ~ 8.0	1 2		
512 1A010	蛋白定性 (6005)			試験紙法	(-)	1 2		
511 1A020	糖定性 (6007)			試験紙法	(-)	1 2		
513 1A040	ウロビリノーゲン定性 (6003)			試験紙法	(+-)	1 2		
515 1A055	ビリルビン定性 (6009)			試験紙法	(-)	1 2		
518 1A060	ケトン体 (アセトン体) 定性 (6010)			試験紙法	(-)	1 2		
519 1A100	潜血反応 (6011)			試験紙法	(-)	1 2		
3188 1A075	白血球定性 (6083)			試験紙法	(-)	1 2		
3189 1A080	亜硝酸塩 (6078)			試験紙法	(-)	1 2		

尿中特殊物質定性定量検査

521 1A015	蛋白定量 (6006)	蓄尿 3.0 又は 尿 3.0	C-1 又は C-3 冷蔵	ピロガロールレッド法	蓄尿 20 ~ 120 mg/day 随時尿 10 以下 mg/dL	1 2	7 尿・便	
1742 1A015	蛋白定量クレアチニン換算値 (尿蛋白/クレアチニン比) (6498)	尿 3.0	C-3 冷蔵	計算法	0.11 以下 g/g・CRE	1 2	7 尿・便	蛋白定量と尿中クレアチニンも同時報告。 CKDの重症度分類 (2012) による判定基準は検査案内24頁参照。 ※1
566 4E060	VMA 定性 (6016)	尿 3.0	C-3 冷蔵	佐藤法	(-)	1 2	9 尿・便	
576 1A110	ベンスジョーンズ蛋白定性 (6017)	尿 5.0	C-3 冷蔵	Putnum 法	(-)	1 2		
549 3J040	コプロポルフィリン定性 (5069)	尿 5.0	I-1 避光 冷蔵	HPLC 法	(-)	5 8		*4

※ 1 蛋白定量と尿中クレアチニンも同時に測定しますので、報告書上に表記される実施料 (点数) は 18 点になります。

 <p>C-1 冷所に 24 時間蓄尿 混和、必要量提出 冷蔵保存 (尿量明記)</p>	 <p>G-6 蓄尿又は部分尿 必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量記載の必要なし)</p>	 <p>I-1 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (避光保存)</p>	<p>I-2 冷所に 24 時間蓄尿 尿量測定、混和 必要量提出 冷蔵保存 (避光保存) (尿量明記)</p>	 <p>Q 尿 2mL を入れ静かに 10 回ほど転倒混和 (上清分離) 凍結保存 ポリ試験管使用 (ヘパリン使用者は その旨明記) 抗プラスミン剤入り</p>
--	--	---	--	---

一般検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
尿中特殊物質定性定量検査								
520 1A025	糖定量 (6008)	蓄尿 3.0 又は 尿 3.0	C-1 又は C-3 冷蔵	ブドウ糖脱水素酵素法	蓄尿 0.040 ~ 0.085 g/day 随時尿 0.020 以下 g/dL	1 2	9 尿・便	
296 3H045	浸透圧 (1184)	尿 3.0	C-3 冷蔵	氷点降下法	50 ~ 1300 mOsm/kgH ₂ O	2 4	16 尿・便	
545 3B330	NAG (6018)	尿 5.0	C-3 冷蔵	MPT-NAG 法	11.5 以下 U/L	1 2	41 尿・便	
575 2B120	線維素分解産物 (尿中 FDP) (2119)	尿 2.0 ↓ 上清 0.5	Q ↓ G-6 凍結	LPIA 法	100 以下 ng/mL	4 8	72 尿・便	*4
573 3J075	δ - アミノレブリン酸 (δ - ALA) (5067)	蓄尿 1.0	I-2 遮光 冷蔵	HPLC 法	2.0 以下 mg/day	3 6	106 尿・便	17 頁参照 *G
1269 3J065	ポルフォビリノーゲン定量 (5068)	蓄尿 3.0	I 遮光 凍結	比色法 (M・G 変法)	2.0 以下 mg/day	7 13	186 尿・便	*E
1282 3J050	ウロポルフィリン定量 (5071)	尿 2.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	36 以下 μg/g・クレアチニン	5 8	105 尿・便	*4
580 3J040	コプロポルフィリン定量 (5299)	尿 2.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	170 以下 μg/g・クレアチニン	5 8	131 尿・便	*4
298 3A015	尿中アルブミン定量 (5902)	蓄尿 1.0	C-1 冷蔵	TIA 法	30.0 未満 mg/day	1 2	99 尿・便	尿中トランスフェリン、尿中アルブミン定量及び尿中IV型コラーゲンは、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
294 3A015		尿 1.0	C-3 冷蔵		27.0 未満 mg/g・クレアチニン			

一般

一般検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	-----

尿中特殊物質定性定量検査

2723 5C134	尿中IV型コラーゲン (5357)	尿 5.0 (起床第1)	コ 冷蔵	EIA 法	30 歳代 4.0 以下 40 歳以上 4.9 以下 (随時尿参考値 7.3 以下) μg/g・クレアチニン	5 11	184 尿・便	尿中トランスフェリン、尿中アルブミン定量及び尿中IV型コラーゲンは、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。 *E
1277 5C060	尿中トランスフェリン (5924)	蓄尿 1.0 又は 尿 1.0	C-1 又は C-3 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	蓄 尿 0.6 以下 mg/day 随時尿 1.0 以下 mg/g・クレアチニン	2 4	98 尿・便	*G
5162 5C100	L-FABP (L 型脂脂肪酸結合蛋白) (5162)	尿 2.0	C-7 冷蔵	CLEIA 法	(クレアチニン換算値) 8.4 以下 μg/gCr	4 6	210 尿・便	・凍結及び、他項目との重複依頼はできません。 ・酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。 ・室温保存ではデータに影響が認められるため、すみやかに冷蔵にして提出して下さい。 ※1 *4

尿沈渣顕微鏡検査



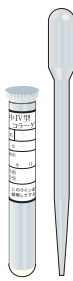
531 1B105	尿沈渣 (尿沈渣顕微鏡検査) (6020)	尿 10.0	C-7 冷蔵	鏡検査	赤血球 4 以下 /HPF 白血球 4 以下 /HPF	1 2	(27) 尿・便	凍結不可 当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。細菌顕微鏡検査と同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
3780 1A105	尿沈渣 (尿沈渣顕微鏡検査) (染色した場合) (6085)	尿 10.0	C-7 冷蔵					

注 尿中細菌顕微鏡検査は細菌の項に準ずる

糞便検査

591 1B010	虫卵検査	虫卵 (塗抹) (6025)	糞便 拇指頭大	イ 冷蔵	直接塗抹法	(-)	2 4	20 尿・便	(検出可能な主要虫卵) 回虫卵、広節裂頭条虫卵、鞭虫卵など *G
593 1B015		虫卵 (集卵) (6037)	糞便 拇指頭大	イ 冷蔵	浮遊法	(-)	2 4	15 尿・便	(検出可能な主要虫卵) 鉤虫卵など *G
607 1B015				イ 冷蔵	沈殿法	(-)	2 4		(検出可能な主要虫卵) 肝吸虫卵、横川吸虫卵など *G

※ 1 原則として 3 月に 1 回に限り算定する。但し、医学的な必要からそれ以上算定する場合においては、その詳細な利用を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

	C-1 冷所に 24 時間蓄尿 必要量提出、冷 湿和、必要量提出 冷蔵保存 (尿量明記)	C-3 蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷 蔵保存 (尿量記 載の必要なし)	C-7 冷蔵保存 (凍結不可)		イ 新鮮糞便を拇 指頭大容器に 取りしっかり フタを閉める		コ 1. 安静就寝後の起 床第1尿を検体 として下さい。 2. 採取後すみやか に専用容器に移 し、添加剤が溶 けるまで湿和後、 冷蔵保存して下 さい。 3. 他項目との重複 依頼は避けて下 さい。
---	--	---	------------------------------	---	--	---	--

一般検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------


糞便検査

1041 1B020	虫体検出 (6032)	※1	※2	目視及び鏡検法	(-)	2 7	23 尿・便	(虫体) 鑑別した上でご報告します。 (虫体の存在が疑われる材料) 有無を確認し虫体が認められ た場合、鑑別してご報告します。*G				
2433 1日法 3601 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血LA) 定性 (6036) (6120)	糞便 専用容器	□ 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	(-)	2 4	37 尿・便					
3668 1日法 3669 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血LA) 定量 (6090) (6117)								100 以下 (-) ng/mL	2 4	41 尿・便	
4201 1日法 4202 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血金コロイド) 定性 (6521) (6522)								(-)			
4206 1日法 4207 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血金コロイド) 定量 (6526) (6527)	100 未満 (-) ng/mL	2 4	41 尿・便								
4215 1日法 4216 2日法 1B042	ヘモグロビン・トランスフェリン (Hb・Tf) 定性 (6532) (6533)	判定 (-) Hb (-) Tf (-)				2 4	56 尿・便					
4227 1日法 4228 2日法 1B042	ヘモグロビン・トランスフェリン (Hb・Tf) 定量 (6544) (6545)								判定 (-) Hb 100 未満 (-) Tf 50 未満 (-) ng/mL	2 4	56 尿・便	

※1 虫体又は虫体の存在が疑われる材料をご提出下さい。

※2 虫体の場合、10%ホルマリン又は70%アルコールにて固定して、虫体の大きさにあうサイズの容器でご提出下さい。虫体の存在が疑われる材料の場合、その材料に適合した容器をご使用下さい。

※3 1本の採便容器でヘモグロビンとトランスフェリンの測定が可能です。

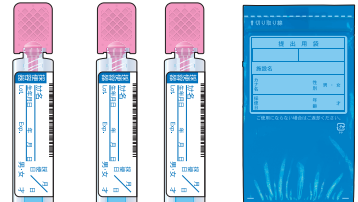


□

- 専用容器のラベルに必要事項を記入して下さい。
- キャップを引き抜きキャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取して下さい。
- キャップを容器に差し込みしっかりと閉めて下さい。

(容器内の液を捨てないで採取して下さい)

冷蔵保存



ヒ

- 採便スティックを回し、容器より抜く。
- 採便スティックの溝が埋まる程度に便の表面をまんべんなくこすり取る。(取りすぎ、少なすぎは不可)
- 容器に採便スティックを1回で差し込み、しっかりと閉める。

一般検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

精液一般検査


1224	量 (6497)	精液全量	X-3 常温		(参考基準) 2.0 以上 ※ 1 mL	1 2	70 尿・便	118頁参照
	pH (6497)			試験紙法	(参考基準) 7.2 以上 ※ 1	1 2		
	精子濃度 (6497)			鏡検法	(参考基準) 20 × 10 ⁶ 以上 ※ 1 /mL	1 2		
	奇形精子率 (6497)			鏡検法	(参考基準) 15 以下 ※ 1 %	1 2		
	運動率 (6497)			鏡検法	(参考基準) 50 以上 ※ 1 %	1 2		

髄液一般検査

8134 5A150	オリゴクローナルバンド 〔等電点電気泳動法〕 (4529)	血清 1.0 及び 髄液 1.0	G-2 又は X-2 冷蔵	等電点電気泳動法	検出せず	12 16	522 尿・便	他項目との重複依頼は避け て下さい。 多発性硬化症の診断の目的 で行った場合に算定する。 *4
7568 5G410	ミエリン塩基性蛋白 (MBP) (4585)	髄液 0.5	G 凍結	EIA 法	102.0 以下 pg/mL	5 8	570 尿・便	多発性硬化症の診断の目的 で行った場合に算定する。 *E

※ 1 射精後 2 時間以内に検査した場合の基準となります。

一般

	G 汎用容器	X-1 必要量採取 冷蔵保存 (凍結不可)	X-3 必要量採取 常温保存 (凍結不可)
	G-2 血清又は血漿分離 冷蔵保存 (ゴム栓不可) ポリ試験管使用	X-2 必要量採取 冷蔵保存	

実施料について(生化 I)

一回に採取した血液を用いて
青色で表記されている検査を
5項目以上行った場合

- 5項目以上7項目以下の場合
生化 I 93点
- 8項目又は9項目の場合
生化 I 99点
- 10項目以上の場合
生化 I 109点

一般検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考	
髄液一般検査									
1207 1C020	比重 (6044)	髄液 5.0	X-1 冷蔵	屈折計法	1.005 ~ 1.007	1 2	62 尿・便	凍結不可	
1208 1C025	pH (6045)			PHメーター法	7.4 ~ 7.6	1 2			
1204 1C045	ノンネアペルト反応 (6046)			ノンネアペルト法	(-)	1 2			
1205 1C040	パンディ反応 (6047)			パンディ法	(-) ~ (1+)	1 2			
1209 1C030	細胞数 (6048)			鏡検法	5 以下 /μL	1 2			
1206 1C050	トリプトファン反応 (6055)			里見変法	(-)	1 2			
1210 1C035	細胞種類 (6073)			鏡検法	単核球 多核球 その他 %	1 2			
1201 1C010	蛋白定量 (6050)			ピロガロールレッド法	10 ~ 40 mg/dL	1 2			11 生化I
1202 1C015	糖定量 (6051)			酵素法	50 ~ 75 mg/dL	1 2			11 生化I
1259 3H010	ナトリウム (Na) (6052)			電極法	130 ~ 150 mEq/L	1 2			11 生化I
1203 3H020	クロール (Cl) (6054)	電極法	120 ~ 125 mEq/L	1 2					
1260 3H015	カリウム (K) (6053)	電極法	2.5 ~ 3.5 mEq/L	1 2	11 生化I				

一般

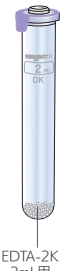
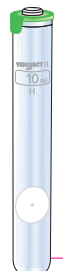

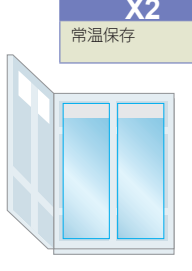
一般検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

その他の穿刺液・採取液検査

6317	ムチン塊形成試験 (6038)	関節液 5.0	X-1 冷蔵	酢酸加反応	正常 (3 +)	1 2		
4387 1Z050	ルンベルグ反応 (6039)	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	硝酸沈降反応		1 2		
1232 1Z035	リバルタ反応 (6041)	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	酢酸沈殿法		1 2		
1231 1Z020	比重 (6040)	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	屈折計法		1 2		
6310	pH (6088)	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	PH メーター法		1 2		
1234 1Z045	沈渣 (6043)	穿刺液 5.0	X-1 冷蔵	鏡検法		1 2	/HPF	
6321 1Z030	細胞種類 (6086)	穿刺液 5.0	F-5 冷蔵	ライト染色鏡検		1 2	%	凍結不可
6318 1Z025	細胞数 (6087)	穿刺液 5.0	F-5 冷蔵	鏡検法		1 2	/ μ L	

関節水腫を有する患者であって、結晶性関節炎が疑われる者に対して実施した場合、一連につき1回に限り算定する。なお、排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

 <p>B-1 採血後、静かに 約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p> <p>EDTA-2K 2mL用</p>	 <p>F-5 採血後静かに約10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)</p> <p>ヘパリン5mL用 又は10mL用</p>	 <p>X-1 必要量採取 冷蔵保存 (凍結不可)</p>	 <p>X2 常温保存</p>
--	---	---	--

一般検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
その他の穿刺液・採取液検査								
1233 1Z010	蛋白定量 (6042)	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	屈折計法	g/dL	1 2	11 生化I	
1256 1Z015	糖定量 (6089)	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	ブドウ糖脱水素酵素法	mg/dL	1 2	11 生化I	
3399 1Z505	関節液結晶 (6107)	関節液 1.0	X-1 冷蔵	鏡検法	ピロリン酸 Ca (-) 尿酸 Na (-)	1 2	50 尿・便	
2252 1Z025	有核細胞数 (2152)	骨髓液 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	100,000 ~ 250,000 /μL	1 3		凍結不可 *G
2253 1Z025	巨核細胞数 (2053)	骨髓液 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	50 ~ 150 /μL	1 3		*G
1017 2A300	鼻汁中好酸球 (6063)	鼻汁 塗抹標本	X2 常温	ライト染色	(-)	2 4	15 血液	脱脂スライドガラス使用
2543 2A090	喀痰中好酸球 (6067)	喀痰 塗抹標本	X2 常温	ライト染色	(-)	2 4	15 血液	脱脂スライドガラス使用

実施料について(生化I)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

- 5項目以上7項目以下の場合
1. 生化I 93点
- 8項目又は9項目の場合
2. 生化I 99点
- 10項目以上の場合
3. 生化I 109点

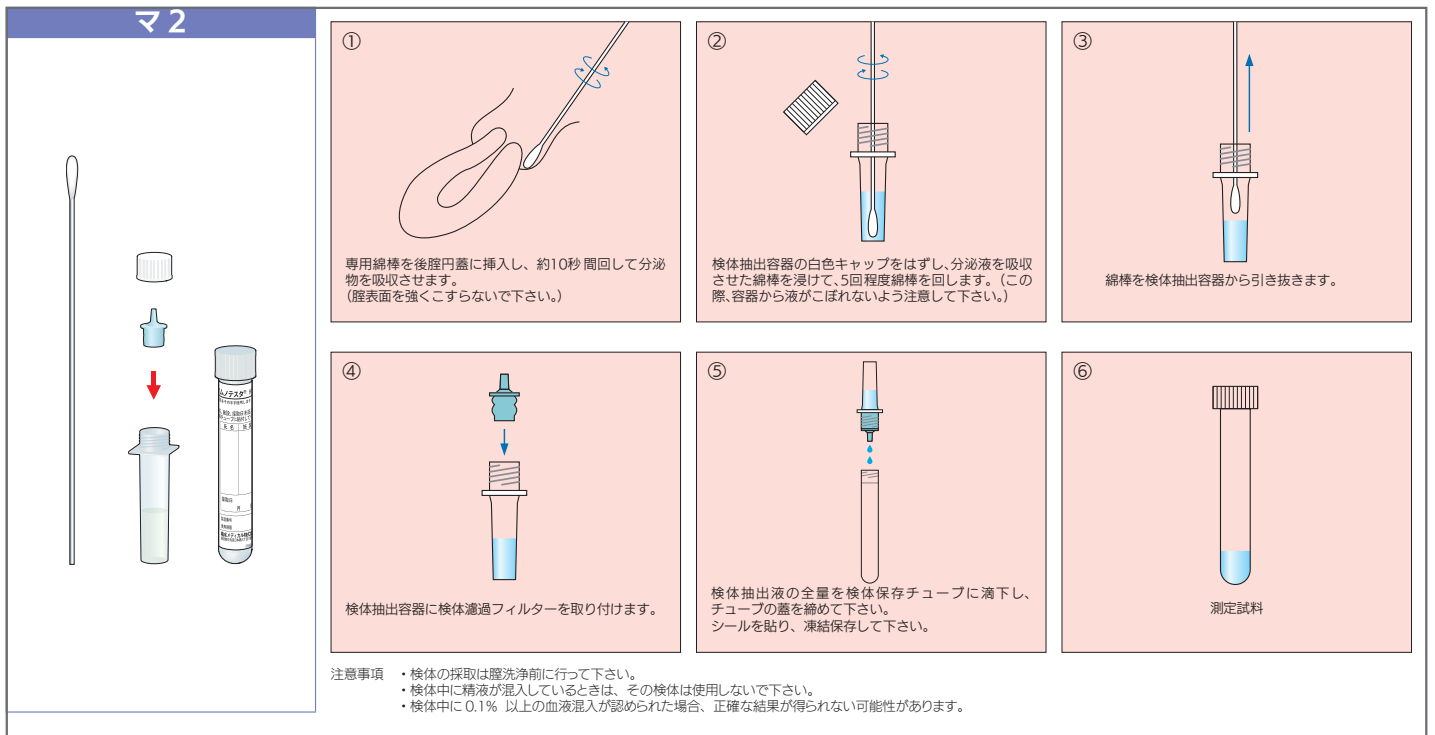
一般検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

その他の穿刺液・採取液検査

2633 5C111	癌胎児性フィブロネクチン 定性 (頸管腔分泌液) (5174)	腔分泌液	マ2 凍結	EIA 法	(-)	4 ~ 6	204 免疫	破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊婦満22週以上満33週未満の者を対象とした場合のみ算定する。 *1
2616 3B200	顆粒球エラスターゼ (子宮頸管粘液) (5372)	子宮頸管 粘液	テ 凍結	ラテックス凝集 比濁法	1.6 以下 μg/mL	4 ~ 5	116 尿・便	絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合算定する。 *E

マ2



- ① 専用綿棒を後腔円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。(腔表面を強くこすらないで下さい。)
- ② 検体抽出容器の白色キャップをはずし、分泌物を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意して下さい。)
- ③ 綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。
- ④ 検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。
- ⑤ 検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて下さい。シールを貼り、凍結保存して下さい。
- ⑥ 測定試料

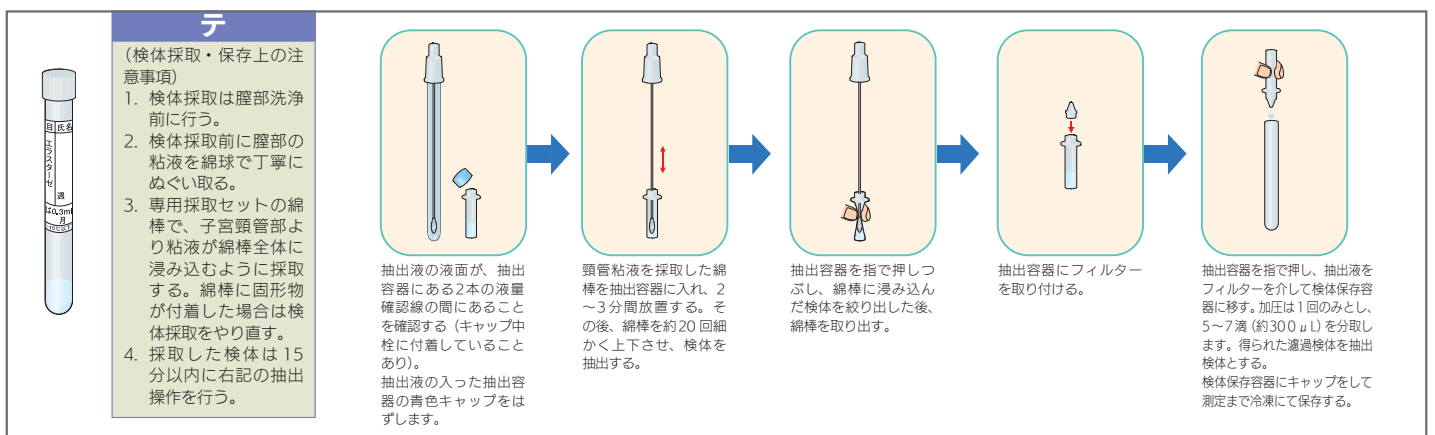
注意事項

- ・検体の採取は産洗浄前に行ってください。
- ・検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないで下さい。
- ・検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

テ

(検体採取・保存上の注意事項)

1. 検体採取は産部洗浄前に行う。
2. 検体採取前に産部の粘液を綿球で丁寧にぬぐい取る。
3. 専用採取セットの綿棒で、子宮頸管部より粘液が綿棒全体に浸み込むように採取する。綿棒に固形物が付着した場合は検体採取をやり直す。
4. 採取した検体は15分以内に右記の抽出操作を行う。



- 抽出液の液面が、抽出容器にある2本の液量確認線の間にあることを確認する(キャップ中に付着していることあり)。抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。
- 頸管粘液を採取した綿棒を抽出容器に入れ、2~3分間放置する。その後、綿棒を約20回細かく上下させ、検体を抽出する。
- 抽出容器を指で押しつぶし、綿棒に浸み込んだ検体を絞り出した後、綿棒を取り出す。
- 抽出容器にフィルターを取り付ける。
- 抽出容器を指で押し、抽出液をフィルターを介して検体保存容器に移す。加圧は1回のみとし、5~7滴(約300μL)を分取します。得られた濾過検体を抽出検体とする。検体保存容器にキャップをして測定まで冷凍にて保存する。

一般検査検体の採取方法と注意事項

虫卵検査

- 虫卵（塗抹）、（集卵）検査では、拇指頭大の自然排泄便を糞便検査汎用容器（イ）に入れて下さい。
採集後は冷蔵保存して下さい。

便潜血検査：ヘモグロビン（潜血 LA）

- 1) 専用容器のラベルに必要事項を記入し、キャップを引き抜いて下さい。
- 2) キャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり、先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取して下さい。
- 3) キャップを容器に差し込みしっかり閉めて下さい。
(容器内の液を捨てないで下さい。)
- 4) 採集後は冷蔵保存して下さい。

1) キャップを回して、②引き抜く

ラベルに氏名等を記入
(採便した日時も記入)

2) 採便スティックで便の表面をまんべんなくこする。
溝 (先端の溝に埋まる程度)

3) 差し込んで、キャップを強く押す

パチンと音がするまで

※1回差し込んだら、抜かないこと
1本が1日分です。

4) 1日目 2日目
青字ラベル 赤字ラベル

提出用袋に入れ提出

採便後は冷暗所で保存

精液一般検査

- 1) 4～5日の禁欲後、陰茎を洗浄し、マスターベーションによって精液を清潔な乾いた密封容器に採取して、室温で保存して下さい。
- 2) 採取に当たっては、コンドームやティッシュペーパーを用いて採取しないで下さい。
- 3) 射精後、2時間以上経過した検体での検査は不適です。

便潜血検査：ヘモグロビン（潜血金コロイド） ヘモグロビン・トランスフェリン

- 1) 採便スティックを回し、容器より抜く。
- 2) 採便スティックの溝が埋まる程度に便の表面をまんべんなくこすり取る。
(取り過ぎ、少なすぎは不可)
- 3) 容器に採便スティックを1回で差し込み、しっかり閉める。
(容器内の液を捨てないで下さい。)
- 4) 採集後は冷蔵保存して下さい。

1) キャップを回して引き抜く

ラベルに氏名等を記入
(採便した日時も記入)

2) 採便スティックで便の表面をまんべんなくこする。
採る量 (溝が埋まるくらい)

3) 1回で差し込みます

4) 1日目 2日目
ピンク色 ピンク色

提出用袋に入れ提出

採便後は冷暗所で保存

髄液一般検査

- 1) 髄液一般検査は抗凝固剤が入っていない滅菌容器に採取し、提出まで冷蔵保存して下さい。
(ヘパリンは、細胞数算定時にサムソン液と反応し、微粒子が生じて検査の障害になります)
- 2) 細胞数・細胞種類検査時には変性や崩壊の影響を避けるため、緊急検査でのご依頼をお勧めします。

その他の穿刺液・採取液検査

- 1) その他の穿刺液・採取液は滅菌容器に採取し、冷蔵保存して下さい。
血液が混入している場合は、抗凝固剤(クエン酸 Na、EDTA、又はヘパリンなど)を加えて下さい。
- 2) 関節液は抗凝固剤が入っていない滅菌容器を使用して下さい。
抗凝固剤の EDTA を加えた場合はピロリン酸 Ca 結晶が溶解することがあります。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

血液疾患 染色体検査

● G-Banding (Myeloid系)

7099	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 曜日指定 予約検査 </div> MDS(骨髄異形成症候群) (7099)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		9 } 15	2553 + 397 血液	*4
7103	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 曜日指定 予約検査 </div> MPN(骨髄増殖性腫瘍) (7103)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		9 } 15	2553 + 397 血液	*4
7104	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 曜日指定 予約検査 </div> AML(急性骨髄性白血病) (7104)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		9 } 15	2553 + 397 血液	*4
7106	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 曜日指定 予約検査 </div> その他 (7106)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		9 } 15	2553 + 397 血液	*4

● G-Banding (Lymphoid系)

7276	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 曜日指定 予約検査 </div> ALL(急性リンパ性白血病) (7276)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		9 } 15	2553 + 397 血液	*4
7277	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 曜日指定 予約検査 </div> CLL(慢性リンパ性白血病) (7277)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		9 } 15	2553 + 397 血液	*4
7278	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 曜日指定 予約検査 </div> ML(悪性リンパ腫) (7278)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		9 } 15	2553 + 397 血液	*4
7279	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 曜日指定 予約検査 </div> MM/PL(多発性骨髄腫/形質細胞性白血病) (7279)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		9 } 15	2553 + 397 血液	*4
7280	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 曜日指定 予約検査 </div> その他 (7280)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		9 } 15	2553 + 397 血液	*4

▼ご依頼時の注意点

- ・受託可能日は(血液、骨髄液共に)月～金曜日です。なお、検体は採取後、当日中にご提出ください。
- ・該当する疾患名にてご依頼ください。判定に時間を要する場合は、所要日数が20日を超えることがあります。

○血液疾患染色体検査(G-Banding)留意事項

1. G-bandingの判定には、性別情報が必要なため、性別を必ず依頼書にご記入ください。
2. 骨髄染色体検査には有核細胞1000万個(1×10^7 個)が必要です。この量を充分満たすように骨髄液を無菌的に採取してください。
3. ステロイド系薬剤、アルキル化薬剤、および代謝拮抗薬剤の投与中は染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。
4. 末梢血液でご依頼の際、血中に幼若細胞(blast)の出現がみられない場合、また寛解期患者の血液では染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。無菌的に採取し、よく混和させ冷蔵保存してください。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
2043 8B395	曜日指定 予約検査 BCR-ABL1 t(9;22) 転座 (7300)	全血 5.0	F-5 冷蔵	interphase-FISH 法		8 11	2477 遺伝子	凍結不可 左記の項目以外をご希望の場合は 担当営業員までご相談下さい。
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					
1428 8B455	曜日指定 予約検査 PML-RARA t(15;17) 転座 (7299)	全血 5.0	F-5 冷蔵			7 10		
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					
1427 8B385	曜日指定 予約検査 RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21) 転座 (7821)	全血 5.0	F-5 冷蔵			8 11		
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					
7575 8B475	曜日指定 予約検査 TP53 del(17) 短腕欠失 (7575)	全血 5.0	F-5 冷蔵			8 11		
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					
7595 8B344	曜日指定 予約検査 IGH-FGFR3 t(4;14) 転座 (7595)	全血 5.0	F-5 冷蔵			8 11		
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					
7594 8B445	曜日指定 予約検査 IGH-MAF t(14;16) 転座 (7594)	全血 5.0	F-5 冷蔵		8 11			
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					
8328 8B414	曜日指定 予約検査 IGH-CCND1 t(11;14) 転座 (7865)	全血 5.0	F-5 冷蔵		8 11			
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					
7423 8B384	曜日指定 予約検査 IGH-MYC t(8;14) 転座 (7423)	全血 5.0	F-5 冷蔵		8 11			
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					
7597 8B434	曜日指定 予約検査 D13S319 del(13) 長腕欠失 (7597)	全血 5.0	F-5 冷蔵		8 11			
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					
7667 8B317	曜日指定 予約検査 CKS1B 1q21 増幅 (7667)	全血 5.0	F-5 冷蔵		8 11			
		骨髓液 1.0	H1 冷蔵					

休日の前日は受付できません。上記項目に関しましては、依頼票に臨床診断名および臨床所見等をご記入下さい。

※1 その他検体材料で提出される場合は、事前に担当営業員までご相談下さい。

FISH法 対象となる主な疾患

BCR-ABL1 t(9;22) 転座	t(9;22) (q34;q11.2) を有するCML、ALL、AML
PML-RARA t(15;17) 転座	t(15;17) (q22;q21) を有するAML
RUNX1-RUNX1T1 (AML1-MTG8) t(8;21) 転座	t(8;21) (q22;q22) を有するAML

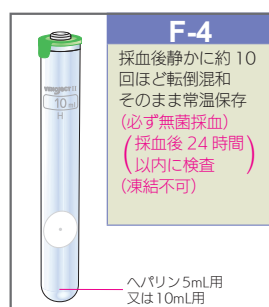
*4

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
細胞表面マーカー								
2092 51021	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgG (7012)	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～3 %	5 7	155 免疫	※1
2093 51022	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgA (7013)	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～3 %	5 7		
2094 51023	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgM (7014)	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	3～12 %	5 7		
2095 51024	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgD (7094)	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～10 %	5 7		
2096 51025	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) K (7015)	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	3～8 %	5 7		
2097 51026	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) L (7016)	全血 1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～5 %	5 7		
2051 51020	曜日指定 予約検査 T細胞・B細胞百分率 (CD3、CD19) (7007)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	T細胞 (CD3) 66～89 B細胞 (CD19) 4～13 %	4 6	193 免疫	※1
7391 51070 51082	曜日指定 予約検査 T細胞サブセット (CD4、CD8) (7391)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD4: 25.0～54.0 CD8: 23.0～56.0 CD4/CD8: 0.40～2.30 %	4 6	190 免疫	*4

※1 細胞性免疫検査のご依頼について

1. 検体は常温で保存して下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。休日の前日は受付できません。
3. 検体は採取後、当日中にご提出下さい。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血して下さい。



染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

細胞表面マーカー

()	曜日指定 予約検査 モノクローナル抗体による リンパ球表面マーカーの自動解析 ()	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	下表参照	4 } 6		※1 実施項目一覧は下表を ご参照下さい。 *4
-----	---	--------	---	-------------	------	-------------	--	-----------------------------------

●モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析

	コードNO. (グループ)	CDnumber	基準値(%)	特異性		コードNO. (グループ)	CDnumber	基準値(%)	特異性
T細胞	2101 (7090)	CD1a	1.0以下	胸腺皮質細胞	特殊細胞	2108 (7093)	CD10	1.0 以下	common-ALL・好中球
	2102 (7083)	CD2	71.0~91.0	汎T細胞・Eロゼット形成細胞		2114 (7089)	CD16	6.0~39.0	NK細胞(Fcγレセプター)
	2103 (7080)	CD3	58.0~84.0	成熟T細胞		2121 (7087)	CD38	18.0~59.0	活性化および増殖細胞
	2104 (7081)	CD4	25.0~54.0	インデューサー /ヘルパー T細胞		2124 (7091)	CD57	4.0~45.0	NK細胞・サブレッサー T細胞の一部
	2105 (7314)	CD5	60.0~90.0	汎T細胞・一部のB細胞		2126 (7097)	HLA-DR	11.0~46.0	B細胞・活性化T細胞(HLA-DR抗原)
	2106 (7340)	CD7	72.0~90.0	汎T細胞					
	2107 (7082)	CD8	23.0~56.0	サブレッサー /サイトトキックT細胞					
	2119 (7098)	CD25	8.0~34.0	IL-2レセプター / p55Tac					
	B細胞	2115 (7096)	CD19	5.0~24.0	汎B細胞				
2116 (7092)		CD20	3.0~20.0	汎B細胞					
2117 (7088)		CD21	3.0~18.0	C3d/EBVレセプター・成熟B細胞					
骨髄細胞	2109 (7084)	CD11b	18.0~49.0	NK細胞・サブレッサー T細胞の一部					
	2111 (7315)	CD13	9.0以下	単球・顆粒球・骨髄細胞					
	2112 (7316)	CD14	5.0以下	単球					
	2120 (7317)	CD33	5.0以下	未熟顆粒球・APL・AML					

1)免疫調節のパラメーター
 CD4/CD8比は免疫調節機能の指標として有用性が認められています。
 CD4とCD8を同一検体で同時に依頼された場合はCD4/CD8比も報告させていただきます。

※1 細胞性免疫検査のご依頼について

1. 検体は常温で保存して下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。休日の前日は受付できません。
3. 検体は採取後、当日中にご提出下さい。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血して下さい。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

細胞表面マーカー

()	<div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">予約検査</div> Two-color解析による リンパ球表面マーカー検査 ()	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査一覧参照	5 7 %		※1 実施項目一覧は「Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査一覧」をご参照下さい。 *4
-----	--	--------	-----------	-------------	--------------------------------	-------------	--	---

● Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査一覧

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
2143 51701	<div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">予約検査</div> CD4 / CD29 (7303)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD4-CD29+ 22.0~59.0 CD4-CD29- 12.0~38.0 CD4+CD29- 9.0~34.0 CD4+CD29+ 11.0~26.0	5 7	185 免疫	※1 *4
2142 51700	<div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">予約検査</div> CD4 / CD45RA (7308)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD4-CD45RA+ 30.0~57.0 CD4-CD45RA- 5.0~23.0 CD4+CD45RA- 15.0~34.0 CD4+CD45RA+ 9.0~37.0	5 7	185 免疫	※1 *4
2147 51721	<div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">予約検査</div> CD57 / CD16 (7260)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD57-CD16+ 1.0~15.0 CD57-CD16- 49.0~87.0 CD57+CD16- 2.0~40.0 CD57+CD16+ 2.0~27.0	5 7	185 免疫	※1 *4
2144 51710	<div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">予約検査</div> CD11b / CD8 (7321)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD11b-CD8+ 11.0~40.0 CD11b-CD8- 29.0~64.0 CD11b+CD8- 8.0~32.0 CD11b+CD8+ 6.0~27.0 Bright 20.0以下 Dull 3.0~17.0以下	5 7	185 免疫	※1 *4
2651 51706	<div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">予約検査</div> HLA-DR / CD4 (7326)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	HLA-DR+CD4- 8.0~37.0 HLA-DR-CD4- 24.0~61.0 HLA-DR-CD4+ 22.0~51.0 HLA-DR+CD4+ 1.0~12.0	5 7	185 免疫	※1 *4
2652 51707	<div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 2px; border-radius: 3px;">予約検査</div> HLA-DR / CD8 (7331)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	HLA-DR-CD8+ 15.0~49.0 HLA-DR-CD8- 28.0~62.0 HLA-DR+CD8- 6.0~25.0 HLA-DR+CD8+ 2.0~27.0	5 7	185 免疫	※1 *4

※1 細胞性免疫検査のご依頼について

1. 検体は常温で保存して下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。休日の前日は受付できません。
3. 検体は採取後、当日中にご提出下さい。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血して下さい。



染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

細胞表面マーカー

7742 5D596	曜日指定 予約検査	全血 5.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	陰性	5 ~ 7	10000 血液	休日の前日は受付できません。 検体は採取後、当日中にご提出 下さい。 ※1、※2 ※3
	CCR4 タンパク [FCM] (7742)							

細胞表面マーカーセット検査

2060	曜日指定 予約検査	骨髓液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-4 常温	フローサイトメトリー法		5 ~ 7	1940 血液	休日の前日は受付できません。 検体は採取後、当日中にご提出 下さい。 リンパ球の少ない患者の場合、 採血量を増やして下さい。
	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA) CD45 ゲーティング (7107)							
2061	曜日指定 予約検査	リンパ節 又は 全血 5.0	H2 冷蔵 又は F-4 常温	フローサイトメトリー法		5 ~ 7		実施項目は下記の一覧表を ご参照下さい。

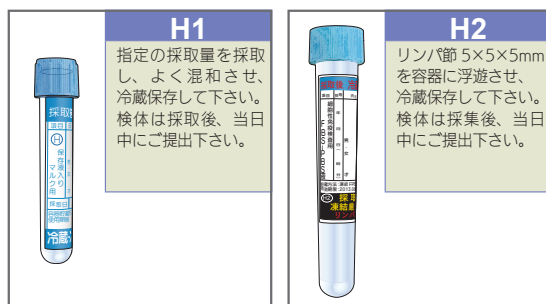
- ※1 「ボテリジオ（一般名：モガムリズマブ）」を投与された検体で実施した際には、正しい結果が得られないことがありますので、ご注意下さい。本検査結果は、臨床症状や他の検査結果などを考慮して総合的に判断して下さい。
- ※2 CCR4 タンパク (FCM) の注意事項
モガムリズマブ (遺伝子組換え) の適応を判定するための補助に用います。ATL (Adult T-cell leukemia-lymphoma、成人T細胞白血病リンパ腫) の診断や治療効果の確認を目的とした使用については有効性が確認されていないので、そのような目的で使用しないで下さい。(試薬添付文書より)
- ※3 CCR4 蛋白 [FCM] 及び CCR4 蛋白 [IHC] を同一の目的で行った場合には、原則としていずれか一方のみを算定する。但し、医学的な必要性がある場合には、併せて実施した場合であっても、いずれの点数も算定できる。なお、この場合においては、診療報酬明細書の摘要欄にその理由及び医学的な必要性を記載すること。

【CCR4 タンパク [FCM]、白血病・リンパ腫、悪性リンパ腫解析検査 CD45 ゲーティングのご依頼について】

・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。

●造血器悪性腫瘍細胞検査 セット内容一覧

NO.	検査項目 (グループコード)	セット内容
2060	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA) CD45 ゲーティング (7107)	CD1, CD2, CD3, CD4, CD5, CD7, CD8, CD10, CD13, CD14, CD19, CD20, CD33, CD34, CD41, CD56, GP-A, 抗HLA-DR
2061	悪性リンパ腫解析検査 (MLA) CD45 ゲーティング (7109)	CD2, CD3, CD4, CD5, CD7, CD8, CD10, CD11c, CD16, CD19, CD20, CD23, CD25, CD30, CD34, CD56, κ-chain, λ-chain



染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

HLA・移植関連検査

7298 5K160	曜日指定 予約検査 MLC (リンパ球混合培養) (7025)	(受給者) 全血 20.0 (提供者) 全血 10.0 (非血縁者) 全血 10.0	F-4 常温	³ H-サイミジン取り込み能		11 13		休日の前日は受付できません。 予約検査となりますので、 採血前に必ず担当営業員に ご連絡下さい。 *4
2029	曜日指定 予約検査 HLA-A, B (血清対応型タイピング) (7223)	全血 2.0	E-6 冷蔵	PCR-rSSO 法		5 7		凍結不可 休日の前日は受付できません。 予約検査となりますので、 採血前に必ず担当営業員に ご連絡下さい。 続柄・臨床診断名・投与薬剤 名・輸血歴・移植歴は必ず 明記して下さい。 HLA検査2項目以上同時依 頼の場合は全血2.0mLで検 査可能です。 検体採取にあたっては取り 扱いにご注意下さい。 ※1、※2、※3、※4
7379	曜日指定 予約検査 HLA-DR (血清対応型タイピング) (7379)	全血 2.0	E-6 冷蔵	PCR-rSSO 法		5 7		
2047 5K116	曜日指定 予約検査 HLA-A (DNA タイピング) (7531)	全血 2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT 法		8 9		
2048 5K117	曜日指定 予約検査 HLA-B (DNA タイピング) (7532)	全血 2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT 法		8 9		
2049 5K118	曜日指定 予約検査 HLA-C (DNA タイピング) (7259)	全血 2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT 法		8 9		
2086 5K121	曜日指定 予約検査 HLA-DPB1 (DNA タイピング) (7808)	全血 2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT 法		8 9		
2085 5K120	曜日指定 予約検査 HLA-DRB1 (DNA タイピング) (7806)	全血 2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT 法		8 9		
2087 5K130	曜日指定 予約検査 HLA-DQB1 (DNA タイピング) (7807)	全血 2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT 法		8 9	*4	

※1 HLA-A、B、C、DPB1、DRB1、DQB1 (DNA タイピング) 検査は、必要に応じて PCR-SSP 法、PCR-rSSO 法も併用させていただきます。

※2 必ず専用容器にて規定量を採血して下さい。やむを得ず規定量に満たない場合は、陰圧を解除して下さい。

※3 HLA DNA タイピングの種類について
 下記日本組織適合性学会のホームページにて最新情報をご確認下さい。
<http://jshi.umin.ac.jp/databank/index.html>

※4 HLA・移植関連検査の検体について
 1. 検体は冷蔵で保存し、凍結保存は避けて下さい。
 2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。
 3. 続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記して下さい。
 4. 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
 5. 必ず専用容器にて規定量を採血して下さい。やむを得ず規定量に満たない場合は、蓋を開けて陰圧を解除して下さい。ただし、MLC (リンパ球混合培養) と同時依頼の場合は、無菌であることが重要となりますので必ず規定量を採血して下さい。
 6. 移植後のHLAタイピングをご依頼の場合は、レシピエントとドナーのアリルが混在し判定できない場合がありますのであらかじめご了承下さい。

〔ご注意〕

移植後のHLAタイピングをご依頼の場合は、移植前のHLAの結果と提供者のHLAの結果を必ず依頼書にご記入下さい。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

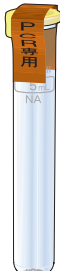
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
2055 51010	<div style="background-color: #e0f2f1; padding: 2px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #e0f2f1; padding: 2px;">予約検査</div> PHAによるリンパ球幼若化検査 (7008)	全血 5.0	F-4 常温	³ H-サイミジン取り込み能	PHA+ 20500 ~ 56800 CONTROL 127 ~ 456 cpm	9 10	345 免疫	休日の前日は受付できません。 検体は採血後、当日中にご提出下さい。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やして下さい。
2056 51011	<div style="background-color: #e0f2f1; padding: 2px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #e0f2f1; padding: 2px;">予約検査</div> Con-Aによるリンパ球幼若化検査 (7009)	全血 5.0	F-4 常温	³ H-サイミジン取り込み能	Con-A+ 20300 ~ 65700 CONTROL 127 ~ 456 cpm	9 10	345 免疫	*1 *4
2071 2079 51014	<div style="background-color: #e0f2f1; padding: 2px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #e0f2f1; padding: 2px;">予約検査</div> 薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST) (7027)	1薬剤 全血 12.0	F-4 常温	³ H-サイミジン取り込み能	陰性	10 13	イ1薬剤 345 ロ2薬剤 425 ハ3薬剤 以上 515 免疫	休日の前日は受付できません。 1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。 血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。(原則として皮内反応注射薬は検査できません。) ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は、すべての採血管にNK細胞活性用の専用容器を使用してください。 *1 *4
2163 51900	<div style="background-color: #e0f2f1; padding: 2px;">曜日指定</div> <div style="background-color: #e0f2f1; padding: 2px;">予約検査</div> NK細胞活性 (7718)	全血 5.0	NK 冷蔵	⁵¹ Cr 遊離法	(参考値) 18 ~ 40 %	4 8		予約検査 休日の前日は受付できません。 検体は採血後、当日中にご提出下さい。 *4

※1 リンパ球刺激試験 (DLST) (一連につき) は、Con-A、PHA 又は薬疹の被疑医薬品によるものである。

【薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST) のご依頼について】

- ※1. 1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
- ※2. 1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
- ※3. 目安として白血球数が3000mm³以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。
- ※4. 2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。
- ※5. 血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。
錠剤(1錠)、カプセル(1カプセル)、粉末(1回投与量程度1包)、リキッドタイプの飲み薬(0.5mL程度)、注射薬(1バイアル【アンプル】)。
皮内反作用テストアンプルは微量のため検査できません。
- ※6. ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は、すべての採血管にNK細胞活性用の専用容器を使用してください。
- ※7. 「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条及び「覚せい剤取締法」第三章及び別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。
- ※8. ご依頼の際は、麻薬、覚せい剤が含まれていないことをご確認いただき、依頼書等へご署名をお願いいたします。
ご署名のない場合は、受領致しかねます。

検体は採取後、当日中にご提出ください。
その他、ご不明点については、担当営業員までご連絡ください。




E-6
採血後静かに約10回ほど転倒混和
PCR専用ラベルでキャップに封をし、そのまま冷蔵保存(開栓不可)



F-4
採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま常温保存(必ず無菌採血)
(採血後24時間以内)に検査(凍結不可)

ヘパリン5mL用
又は10mL用



NK
よく混和させ冷蔵保存して下さい。検体は採取後、当日中にご提出下さい。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

癌関連遺伝子検査

4297 8C051	EGFR 遺伝子変異解析 〔リアルタイム PCR 法〕 (7570)	未染スライド 5～10 枚 下記参照	X2 常温	リアルタイム PCR 法		6 12	2500 遺伝子	他の検査と重複しないよう、 単独検体で提出して下さい。 ※1	*G
4829 8C241	RAS/BRAF 変異解析 (3658)	未染スライド 5～10 枚 下記参照	X2 常温	PCR-rSSO 法		4 9	4000 遺伝子	他の検査と重複しないよう、 単独検体で提出して下さい。	*G

【EGFR遺伝子変異解析の留意事項】

- 未染スライドは、組織のホルマリン固定によりDNAが断片化されているため、固定の種類や固定時間などの条件、保存年数によっては解析不能なことがありますので、予めご了承下さい。
- 材料は予め病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることが必要です。
- スライドの作成は、腫瘍細胞の確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより、連続切片にて作成願います。
- スライドの厚さは、DNA抽出用として10μmを5～10枚を提出して下さい。

※1 肺癌および大腸癌における本検査については、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った場合、患者1人につき1回に限り算定する。但し、肺癌における本検査については、再発や増悪により、2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できる。なお、当該検査を算定するに当たっては、その目的、結果及び選択した治療法を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

【EGFR遺伝子変異解析《血漿》／〔リアルタイムPCR法〕により検出可能な変異のタイプ】

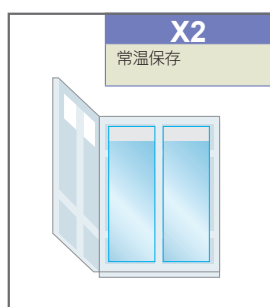
EGFR遺伝子のエクソン18～21の42タイプの変異※の検出が可能です。

エクソン18	頻度	エクソン19	頻度	エクソン19	頻度	エクソン19	頻度	エクソン20	頻度	エクソン21	頻度
G719A ⁶²³⁹	1.0%	Del ⁶²²³	17.0%	Del ¹²³⁸⁷	0.2%	Del ¹³⁵⁵⁰	<0.1%	T790M ⁹²⁴⁰	5.7%	L858R ⁹²²⁴	41.3%
G719S ⁹²³²	0.5%	Del ⁶²²⁵	8.0%	Del ⁶²¹⁰	0.1%	Del ¹²³⁸⁶	<0.1%	S768I ⁶²⁴¹	0.6%	L858R ¹²⁴²⁹	<0.1%
G719C ⁹²⁵³	0.8%	Del ¹²³⁷⁰	2.7%	Del ²⁴⁰³⁸	0.1%	Del ¹³⁵⁵²	<0.1%	Ins ¹²³⁷⁶	0.2%	L861Q ⁹²¹³	1.5%
		Del ¹²³⁸²	1.6%	Del ¹³⁵⁵⁶	<0.1%	Del ¹²³⁸⁵	<0.1%	Ins ¹³⁴²⁸	0.3%		
		Del ¹²³⁶⁹	0.9%	Del ¹²⁴²²	<0.1%	Del ¹²⁴¹⁶	0.1%	Ins ¹²³⁷⁸	<0.1%		
		Del ¹²³⁸⁴	1.1%	Del ⁶²²⁰	0.1%	Del ¹⁸⁴²⁷	<0.1%	Ins ¹²³⁷⁷	0.2%		
		Del ⁶²⁵⁵	0.7%	Del ¹³⁵⁵¹	<0.1%	Del ¹³⁵⁵¹	<0.1%	Ins ¹³⁵⁵⁸	<0.1%		
		Del ¹²³⁸³	0.5%	Del ¹²³⁶⁷	<0.1%	Del ²³⁵⁷¹	0.1%				
		Del ¹²⁶⁷⁸	0.4%	Del ¹²⁴¹⁹	<0.1%	Del ¹²⁴⁰³	<0.1%				
		Del ⁶²¹⁸	0.3%	Del ¹²⁷²⁸	0.1%						
		Del ⁶²⁵⁴	0.5%								

※ COSMIC v73,20150730

【RAS/BRAF変異解析のご依頼時の留意事項】

- 未染スライドの厚さは、DNA抽出用として10μm厚で5～10枚を提出して下さい。
- 材料は予め病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることが必要です。
- スライドの作成は、腫瘍細胞の確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより、連続切片にて作成願います。
- 未染スライドは組織のホルマリン固定により、DNAが断片化されているため、固定時間などの条件や保存年数によっては解析不能なことがありますので、予めご了承下さい。



染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

癌関連遺伝子検査

6399 8C986	倫理指針対象 マイクロサテライト不安定性検査 (HNPCC・リンチ症候群) (3669)	未染スライド 5～10枚 又は 腫瘍組織 50 mg	X2 常温 又は X-5 凍結	マルチプレックス PCR- フラグメント解析		7 14	2100 遺伝子	
6406 8C986	マイクロサテライト不安定性 (MSI) 検査 (CDX) (3676)	未染スライド 5～10枚 又は 腫瘍組織 50 mg	X2 常温 又は X-5 凍結	マルチプレックス PCR- フラグメント解析		7 14	2500 遺伝子	*G

【ご依頼時の注意事項】

1. 病理報告書(腫瘍細胞が認められていること)のコピーを添付して下さい。
2. 新鮮凍結腫瘍組織で提出の場合、腫瘍部の割合が50%以上の組織をご提出下さい。又、未染スライドで提出の場合、腫瘍部の割合が50%未満の場合には腫瘍部位をマーキングしたHE染色スライドを添付してご提出下さい。
3. 尚、測定の結果、腫瘍部位のみの解析では判定できないパターンが認められた場合には、正常部位検体(正常部FFPE切片あるいは全血EDTA-2Na採血管3mL)の追加提出をお願いすることがあります。その場合、所要日数も延長になりますことを予めご了承下さい。
4. 未染スライドは、固定状態(固定液の種類、固定時間、保存状態)によっては、DNAが断片化してPCR増幅不良となり解析不可能となる場合があります。
5. 総合判定は、5種類のマーカー (BAT25、BAT26、NR21、NR24、MONO27) について解析して行います。
6. 「マイクロサテライト不安定性検査(HNPCC・リンチ症候群)」のご依頼には、「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。尚、ご報告は別紙報告書(親展)になります。
7. 「マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(CDX)」のご依頼には、汎用の依頼書(総合依頼書4など)をご利用下さい。

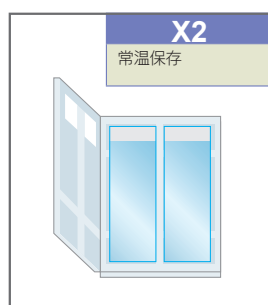
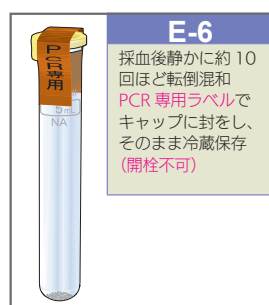
○マイクロサテライト不安定性検査の留意事項

本検査実施に当たっては、「家族性非ポリポーシス大腸癌*におけるマイクロサテライト不安定性検査の実施についての見解と要望」(日本家族性腫瘍学会)より、「被験者に対して事前に遺伝性腫瘍の可能性について十分説明を行い、検査結果陽性の場合、家族性非ポリポーシス大腸癌における遺伝カウンセリング及び原因遺伝子の遺伝子検査が受けられる機会を提供する。また自施設で実施が困難な場合においては、対応可能な施設を紹介する等の配慮が必要と考えられる」とされております。

*家族性非ポリポーシス大腸癌：一般に遺伝性非ポリポーシス(性)大腸癌(Hereditary Nonpolyposis Colorectal Cancer : HNPCC)あるいはリンチ症候群等の病名で呼ばれる常染色体優性遺伝性疾患。

薬剤関連遺伝子検査

7462 8C933	UGT1A1 遺伝子多型解析 (7462)	全血 2.0	E-6 冷蔵	Quenching Probe (QP) 法		4 8	2004 遺伝子	*G
---------------	--------------------------	--------	-----------	---------------------------	--	--------	-------------	----



微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	------	------------	------	-----	----------	------------	----

塗抹鏡検

5001 6A010	細菌顕微鏡検査 (8003)	一般細菌	喀出痰、尿/他	冷蔵 ※	グラム染色	1 3	64 微生物	※1、※2、※3	*G	
		クリプトコッカス	髄液		墨汁染色			陰性	※1、※2、※3	*G
		真菌	皮膚、爪、毛、落屑		KOH法			陰性	対象：糸状菌 (滅菌スピッツにて提出して下さい) ※1、2、3	*G
		疥癬虫	皮膚							対象：疥癬虫(ヒゼンダニ) (滅菌スピッツにて提出して下さい) ※1、2、3

培養検査

5210 6B010	口腔・気道・呼吸器からの検体 (8004)	喀出痰、咽頭ぬぐい液/他	冷蔵 ※ ※5 ※6	培養同定	3 7	180 微生物	緊急 血液・髄液・穿刺液など無菌的部位由来の検体からの菌検出時 1~3類感染症原因菌及び、感染対策として重要且つ緊急性が高い菌種などの検出時にすみやかにご報告いたします。 ※4	*G
5210 6B010	消化管からの検体 (8005)	糞便、胆汁、胃粘膜/他				200 微生物		
5210 6B010	泌尿器・生殖器からの検体 (8006)	尿、尿道分泌物、膈分泌物/他				190 微生物		
5210 6B010	血液・穿刺液 (8007)	血液、腹水/他				225 微生物		
5210 6B010	その他の部位からの検体 (8008)	褥瘡、耳漏/他				180 微生物		

特殊培養

5270 6B010	嫌気培養 (8010)		冷蔵 ※	嫌気培養		3 14	加算 122 微生物	※4	*G
275 6B050	MRSA 培養 (8216)		冷蔵 ※	CLSI 準拠		3 7	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。	
175	百日咳菌培養 (8217)	鼻咽腔/他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	6 10	微生物		*G

※138頁参照

- ※1 同一検体について当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
- ※2 染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。
- ※3 当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ※4 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なる部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみを所定点数を算定する。但し、血液を2か所以上から採取した場合に限り、血液又は穿刺液を2回算定できる。この場合、嫌気培養の加算は2回算定できる。
- ※5 血液は血液培養ボトルで提出して下さい。
- ※6 血液培養ボトルは常温で保存して下さい。

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	------	------------	------	-----	----------	------------	----

特殊培養

276 6B405	マイコプラズマ培養 (8018)	喀出痰、咽頭ぬぐい液、 ／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	2 W	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。	
170	ジフテリア菌培養 (8218)	咽頭ぬぐい液、鼻粘膜 ／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3 7	微生物		
193 6B940	レジオネラ培養 (8219)	喀出痰、胸水／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	7 14	微生物		
208	エルシニア培養 (8220)	糞便／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3 7	微生物		
537	クロストリジoides・ディフィシル(嫌気培養) (8010)	糞便／他	冷蔵 ※	嫌気培養、同定		3 14	加算 122 微生物		※4
207	カンピロバクター培養 (8223)	糞便／他	冷蔵 ※	微好気培養、同定	陰性	3 7	微生物		採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
169 6B575	ヘリコバクター・ピロリ培養 (8222)	胃粘膜 十二指腸粘膜	冷蔵 ※	微好気培養、同定	陰性	5 8	200 微生物		ヘリコバクターにて提出して下さい。 ※4
189 6B080	髄膜炎菌培養 (8224)	髄液、咽頭ぬぐい液 ／他	※	CO ₂ 培養、同定	陰性	3 7	微生物		採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
5100	淋菌培養 (8225)	尿道分泌物、 子宮頸管粘液／他	※	CO ₂ 培養、同定	陰性	3 7	微生物		採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。 グラム染色も同時にご依頼されることをお勧め致します。
199 6B072	B群連鎖球菌 (GBS) 培養 (8229)	膈分泌物、尿道分泌物	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3 7	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。	

真菌培養

5110 6B105	酵母様真菌培養 (8210)		冷蔵 ※	培養同定		3 7	微生物	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
5110 6B105	糸状菌培養 (8211)	皮膚、爪、毛、落屑 ／他	冷蔵 ※	培養同定		13 19	微生物	
263 6B105	クリプトコッカス培養 (8212)	髄液／他	冷蔵 ※	培養同定		3 10	微生物	

※138頁参照

微生物学

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	------	------------	------	-----	----------	------------	----

原虫・アメーバ

5120 6B505	トリコモナス培養 (8021)	腔分泌物 尿道分泌物、尿/他	保温 ※	培養同定	陰性	4 〜 7	190 微生物	トリコモナス培地にて提出して下さい。 *G
1B080	赤痢アメーバ (8060)	生鮮便・肝膿瘍	備考	鏡検	陰性	2 〜 4	64 微生物	10%ホルマリンで固定した検体とホルマリンで固定していない検体の両方を提出して下さい。 *G

免疫学的細菌検査

206 6B830	大腸菌血清型別 (8099)	糞便/他	冷蔵 ※	血清抗体法		3 〜 7	175 微生物	依頼が無くても、腸管出血性大腸菌〔ペロ毒素産生性大腸菌〕が検出された場合実施します。 ※1 *G
5E115	大腸菌ベロトキシン 〔RPLA〕 (8098)	糞便/他	冷蔵 ※	RPLA	VT1 (-) VT2 (-)	3 〜 7	184 微生物	培養同定の結果、「大腸菌血清型別」が陽性となった大腸菌が検出された場合、実施します。「大腸菌血清型別」と併せて依頼して下さい。 ※2、※3、※4 *G
5920 5E115	大腸菌ベロトキシン 〔ELISA〕 (8273)	糞便 1.0g	冷蔵 ※	ELISA 法	陰性	2 〜 3	184 微生物	糞便より直接検査します。採便容器にて提出して下さい。 ※2、※4、※5 *G
5910 5E110	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原 (トキシンA・B) (8045)	糞便 1.0g	冷蔵 ※	イムノクロマト法	陰性	2 〜 4	80 免疫	糞便より直接検査します。採便容器にて提出して下さい。 *G

※138頁参照

- ※1 細菌培養同定検査により大腸菌が確認された後、血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。
- ※2 大腸菌血清型別の結果より病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。
- ※3 大腸菌血清型別の結果、ベロトキシン産生の報告が多い血清型(O157、O26、O111)の検出時、及びベロトキシン産生を疑う所見があった場合、ベロトキシンの検査を実施いたします。(加算)
- ※4 腸管出血性大腸菌を認めた場合、すみやかにご報告いたします。
- ※5 細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、細菌培養同定検査を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	------	------------	------	-----	----------	------------	--------

薬剤感受性検査

5391 6C010	1 菌種 (8351)	(菌株)		ディスク拡散法 微量液体希釈法		3 ~ 7	185 微生	CLSI準拠 対象薬剤 140頁参照
5392 6C010	2 菌種 (8352)						240 微生	
5393 6C010	3 菌種 (8353)						310 微生	
6C025	ヘリコバクター・ピロリ 感受性検査 (8369)		E-test		8 ~ 15	185 微生	アモキシシリン、クラリスロ マイシンの2薬剤を実施しま す。	*G

●報告形態

表示方法	結果の解釈 (CLSI準拠)
S	Susceptible：感受性 「感受性」との判定には、当該感染部位の治療として推奨されている用法でその抗菌薬を使用した場合に、通常到達可能な濃度で菌株の発育を阻止できるという意味が含まれます。
I	Intermediate：中間 「中間」との判定には、通常到達可能な血中・組織内濃度に近いMICで、その効果が感受性の菌株よりは低いと思われる菌株が含まれます。 「中間」に分類されれば、抗菌薬が生理的に濃縮される部位（尿中のキノロン系薬やβ-ラクタム系薬など）や通常よりも多い用量で使用することのできる抗菌薬（β-ラクタム系薬など）で、臨床的效果が得られることを意味します。この分類には「緩衝域」も含まれます。それによって、特に薬理効果と副作用の間の範囲が狭い抗菌薬には、管理しきれない技術的要因により解釈に重大な影響がおよぶことを防ぐことが可能なはずですが。
R	Resistant：耐性 耐性株は、通常の投与スケジュールでその抗菌薬が通常到達し得る体内濃度において増殖を阻止されません。そして、MIC または阻止円直径がこの範囲に入っているものは、特定の耐性メカニズムを有すると考えられます（β-ラクタマーゼなど）。また、耐性と判定されたものに対する臨床効果は治療研究において明確にされていません。
N	No Data：弊社規程 被検菌に対し、化学構造的に抗菌スペクトルが及ばない、又は抗菌作用を有しないなどの根拠により、臨床的な効果を期待しえない場合に表示します。
MIC値	MIC値：最小発育阻止濃度 (Minimum Inhibitory Concentration) 抗菌薬の2倍連続希釈されている培地に菌を接種し培養した場合、低濃度から高濃度に向かって観察したときに菌の発育が最初に阻止された濃度

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	------	------------	------	-----	----------	------------	----

抗酸菌検査

5300 6A205	抗酸菌塗抹鏡検 チールネルゼン染色 (8049)	喀出痰/他	冷蔵 ※	チールネルゼン染色	(-) 表 1 参照	1 ~ 3	64 微生物	緊急 スクリーニングには蛍光染色(集菌塗抹法)を依頼して下さい。陽性時には至急連絡します。 ※1、※4
6A205	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(直接塗抹法) (8050)			蛍光染色 直接塗抹法			50 微生物	
5320 6A206	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(集菌塗抹法) (8034)			蛍光染色 直接塗抹法			85 微生物	
5340 6B305	抗酸菌分離培養検査 2 (8048)	喀出痰/他	冷蔵 ※	小川培地	(-) 表 2 参照	8 W	209 微生物	緊急 4週で中間報告、8週で最終報告します。報告書のお届けは培養時間に加え、1週間程度要します。 ※2、※3、※4
6B305	抗酸菌分離培養検査 1 (8061)			液体培地 (酵素感受性蛍光センサー法)			(-) 表 3 参照	6 W

※138頁参照

- ※1 同一検体について当該検査と尿沈渣(鏡検法)又は尿沈渣(フローサイトメトリー法)を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
- ※2 検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。
- ※3 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
- ※4 結核が疑われる場合は、連続した3日間の喀痰採取をお勧めいたします。

(表1) 抗酸菌塗抹鏡検(蛍光染色、チールネルゼン染色)結果記載法

記載法	検出菌数		備考 (相当するガフキー号数)
	蛍光染色(200倍)	チールネルゼン染色(1,000倍)	
(-)	0/30 視野	0/300 視野	G0
(+-)	1 ~ 2/30 視野	1 ~ 2/300 視野	G1
(1+)	1 ~ 19/10 視野	1 ~ 9/100 視野	G2
(2+)	>20/10 視野	>10/100 視野	G5
(3+)	>100/1 視野	>10/1 視野	G9

(表2) 抗酸菌分離培養検査 2(小川培地)結果記載法

記載法	集落数に関する所見	集落数
(-)	集落を認めない	0
(1+) 実数	集落が200未満	1 ~ 199
(2+)	大多数の集落は個々に分離しているが、一部融合	200 ~ 499 *
(3+)	初期には分離しているが、発育に伴いほとんどが融合	500 ~ 1,999 *
(4+)	融合 集落が極めて多く、培地全体を覆う	2,000以上

(表3) 抗酸菌分離培養検査 1(液体培地)結果記載法

記載法	集落数
(+)	陽性
(-)	陰性

* 定量的な実験結果より導かれた推定値であり、実際は所見の記述を参考に大きめに区分します。

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備 考
抗酸菌検査								
6B325	結核菌群抗原定性 (8056)	菌株 (専用輸送容器)	常温 ※	免疫クロマトグラフィー法		2 ~ 4	291 微生物	判定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果等と合わせて担当医師が総合的に判断して下さい。 *G
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養 陽性後 2 ~ 4		
5360 6B315	抗酸菌同定〔質量分析法〕 (8085)	菌株 (専用輸送容器)	常温 ※	質量分析法 (MALDI-TOF-MS: マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析法)		2 ~ 8	361 微生物	緊急 結核菌群が検出された場合は、すみやかにご報告いたします。 ※5、※7 *G
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養 陽性後 2 ~ 8		
6C105	抗酸菌薬剤感受性検査 (8054)	菌株 (専用輸送容器)	常温 ※	一濃度比率法	表 4 参照	4 ~ 8 W	400 微生物	緊急 薬剤指定がない場合は、10剤について検査します。 ① SM ⑤ KM ⑨ PAS ② INH ⑥ EVM ⑩ LVFX ③ RFP ⑦ TH ④ EB ⑧ CS ※6、※7 *G
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養 陽性後 4 ~ 8 W		

抗酸菌検査を菌株でご依頼される場合は、必ず専用輸送容器をご使用下さい(容器は担当営業員にお申し付け下さい)。

※138頁参照

※ 5 当該検査は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の症状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

※ 6 当該検査は、直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。

※ 7 菌の発育状況により、延長する場合があります。

(表4) 抗酸菌薬剤感受性検査 結果記載法

記載法	判定
S	感受性
R	耐性

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	------	------------	------	-----	----------	------------	--------

衛生（検便検査）

6B831	赤痢菌・サルモネラ (8650)	糞便	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3 ~ 7		3類感染症原因菌が検出された場合、すみやかにご報告いたします。 ※1、※2、※3
	赤痢菌・サルモネラ・ビブリオ (8650)							
	赤痢菌・サルモネラ・EHEC O157 (8650) (8671)							
	赤痢菌・サルモネラ・ビブリオ・EHEC O157 (8650) (8671)							
	EHEC O157 (8670)							
	腸管出血性大腸菌 (8673)							

*G

衛生（保菌検査）

6B050	MRSA (8612)	鼻腔、咽頭ぬぐい液 / 他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3 ~ 7	MBL産生菌、CRE、MDRP、MDRA、VREが検出された場合は、すみやかにご報告いたします。 ※4、※5、※6
	緑膿菌 (8613)	鼻腔、咽頭ぬぐい液 / 他					
8614	ESBL (基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ) 産生菌	糞便 1.0g / 他					
8615	MBL (メタロβ-ラクタマーゼ) 産生菌	糞便 1.0g / 他					
8616	CRE (カルバペネム耐性腸内細菌科)	糞便 1.0g / 他					
8617	MDRP (多剤耐性緑膿菌)	糞便 1.0g / 他					
8618	MDRA (多剤耐性アシネトバクター)	喀出痰、尿 / 他					
8619	VRE (バンコマイシン耐性腸球菌)	糞便 1.0g / 他					

*G

※138頁参照

※1 衛生(検便検査)は、衛生・環境検査依頼票にて、ご依頼をして下さい。

※2 食品関連従事者等に対する検便検査です。

※3 目的とされる菌種だけを検査し、その陽性、陰性を報告します。チフス菌、パラチフス菌、コレラ菌、黄色ブドウ球菌、カンピロバクターの検査をご依頼される場合は、別途依頼書にマークして下さい。この項目以外の検査をご希望される場合は、担当営業員にお申し付け下さい。









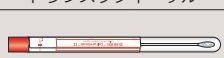

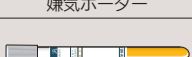




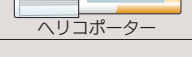
※4 衛生(検便検査)は、衛生・環境検査依頼票にて、ご依頼をして下さい。

※5 医療従事者、諸施設入所時に対する保菌検査です。

※6 目的とされる菌種だけを検査し、その陽性、陰性を報告します。

微生物学的検査

微生物・輸送培地・輸送容器一覧

容器	材料	喀出痰	咽頭拭い液	鼻腔・鼻粘膜	舌苔	気管支洗浄液	副鼻腔	上顎洞	糞便	腸洗浄液	胃液・肝臓	尿	膿分泌物	尿道分泌物	精液・月経血	生殖器膿	腹水・関節液	動脈血・静脈血	髄液	膿・非菌性膿	耳漏	皮膚	その他	期間 容器・培地	保存可能 (使用期)	輸送条件 検体採取時	その他 注意事項	
	喀痰用容器	●				●		●																3年	冷蔵	冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送して下さい。	
	滅菌スピッツ(スクリュウキャップ)					●		●	●	●	●				●		●		●			●		3年	冷蔵	冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送して下さい。	
	採便容器								●															3年	冷蔵	冷蔵		
	キャリープレート								●															1年 常温	冷蔵	冷蔵		
	シードスワブ1号								●	●														容器に記載 常温	冷蔵	冷蔵		
	シードスワブ2号	●	●										●	●	●	●						●		容器に記載 常温	冷蔵	冷蔵		
	トランスワブ	●	●	●	●								●	●	●	●							●	●	容器に記載 5~25℃	冷蔵	冷蔵	
	トランスワブネーザル			●				●						●		●							●		容器に記載 5~25℃	冷蔵	冷蔵	
	カルチャースワブEZ																						●		容器に記載 常温	冷蔵	冷蔵	
	嫌気ポーター	●					●	●	●								●	●		●	●		●	1年 常温	冷蔵	冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送して下さい。142頁参照	
	HK半流動培地																							6ヶ月 常温	保温 常温	保温 常温		
	FA Plusボトル(好気)																		●					ボトルに記載 常温遮光	常温	常温	敗血症の疑いのある患者で、抗菌薬の投与前に使用して下さい。通常、好気・嫌気の2本1組で使用して下さい。検体10mL(最大接種量)を無菌的に注入し、常温にて提出して下さい。なお、最大接種量を超えると結果に影響をおよぼすことがあります。	
	FN Plusボトル(嫌気)																		●					ボトルに記載 常温遮光	常温	常温	敗血症の疑いのある患者で、抗菌薬の投与前に使用して下さい。通常、好気・嫌気の2本1組で使用して下さい。検体10mL(最大接種量)を無菌的に注入し、常温にて提出して下さい。なお、最大接種量を超えると結果に影響をおよぼすことがあります。	
	PF Plusボトル(小児用)																		●					ボトルに記載 常温遮光	常温	常温	小児など採血量4mLまでの少量検体の場合は、PFボトルを使用し、4mL(最大接種量)を無菌的に注入し、常温にて提出して下さい。	
	ヘリコポーター																						胃生検	容器に記載 冷蔵	冷蔵	冷蔵	ヘリコバクター専用の輸送培地です。生検材料を培地の表面より0.5~1.5cmの深さまで入れ提出して下さい。	
	トリコモナス培地											●	●	●										3ヶ月 冷蔵	保温	保温	尿道分泌物や膿分泌物はそのまま、尿は遠心後の沈渣物を培地深部に接種して下さい。	

※上記以外の培地、容器についてはお問い合わせ下さい。シャーレ、その他の指定外の容器での採取はご遠慮下さい。

微生物学的検査

薬剤感受性検査

● 依頼方法

一般細菌感受性検査	細菌感染の現状から複数菌感染(混合感染)の場合、判断が困難な事例が多く、基本的に3菌種にご依頼して頂くのが最良と思われます。依頼菌種数より検出菌数が超過した場合、弊社にて検査実施菌種を選択し、依頼菌種数内で実施します。
指定(院内)薬剤セット	グラム陰性桿菌(腸内細菌科)、ブドウ糖非発酵菌(緑膿菌を含む)、ブドウ球菌、連鎖球菌、腸球菌、グラム陽性菌(前述の3菌種を除く)、ヘモフィルス、カンピロバクター、嫌気性菌、グラム陰性双球菌(淋菌を含む)に分けて、ご指定の薬剤をセット登録(最大19セット)し、検査を実施いたします。登録薬剤につきましては、営業担当にお尋ね下さい。
弊社薬剤セット	指定(院内)薬剤セットの登録が無い場合は、下記の保健科学研究所薬剤セットにて実施いたします。

● 検査方法

ディスク拡散法	寒天培地に菌液を塗布し、感受性ディスクをその培地表面に配置し、培養します。培養後、感受性ディスクの周囲に形成される阻止円を計測し、判定する方法です。
微量液体希釈法	あらかじめ、規格された濃度に調整された抗菌薬と、液体培地(ミューラーヒントン)を分注したマイクロプレートに、被検菌液を接種し培養します。培養後、抗菌薬による菌の発育阻止状態(どの濃度で発育を阻止しているか)により、判定する方法です。
Etest®	被検菌を塗布した寒天培地上にストリップを接地し、培養後に阻止帯とストリップの交差した目盛を判読し、MIC(最小発育阻止濃度)を判定する方法です。(ヘリコバクター・ピロリ感受性検査のみ実施)

● 保健科学研究所薬剤セット内容

系統名	ペニシリン系					セフェム系					カルバペネム系		マクロライド系		リンコマイシン系		キノロン系		テトラサイクリン系		アミノグリコシド系		グリコペプチド系		その他	
	PC	ABPC	PIPC	SBT/ABPC	TAZ/PIPC	CEZ	CAZ	CTX	CTR	CFD	CFM	LMOX	IPM	MEPM	E	CAM	CLDM	CPF	LVFX	MINO	GM	AMK	ABK	VCM	FOM	
グラム陰性桿菌 (腸内細菌科)	※1	○	○		○	○	○	○			○	○	○					○	○	○	○	○				○
ブドウ糖非発酵菌 (緑膿菌含む)	※1		○		○	○	○	○		○			○	○				○	○	○	○	○				
ブドウ球菌	※1	○	○	○		○				○	○		○		○		○	○	○	○	○		○	○		
連鎖球菌	※1	○	○			○		○	○	○			○	○	○		○		○	○					○	
腸球菌	※1	○	○										○		○				○	○					○	
グラム陽性菌 (上記の3菌種を除く)	※1	○	○			○		○		○	○		○		○			○	○	○	○	○			○	
ヘモフィルス	※1		○	○				○	○	○	○		○	○		○		○	○	○						
カンピロバクター	※2		○												○	○		○	○	○						○
嫌気性菌	※2		○	○				○			○	○	○				○									
グラム陰性双球菌 (淋菌含む)	※2	○	○					○								○		○	○	○						

※1 カテゴリー (S: 感受性、I: 中間、R: 耐性、N: No Data)に加え、MIC値(最小発育阻止濃度; Minimum Inhibitory Concentration)を併記して報告いたします。

※2 カテゴリー (S: 感受性、I: 中間、R: 耐性、N: No Data)のみ報告いたします。

薬剤感受性検査

感受性薬剤一覧

コード	略号	抗菌薬名
ペニシリン		
1001	PC	ペニシリン
1111	MPIPC	オキサシリン
1201	ABPC	アンピシリン
1202	AMPC	アモキシシリン
1401	PIPC	ピペラシリン
1501	CVA/AMPC	クラバン酸/ アモキシシリン
1511	SBT/ABPC	スルバクタム/ アンピシリン
1521	TAZ/PIPC	タゾバクタム/ ピペラシリン
セフェム		
2101	CET	セファロチン
2103	CEZ	セファゾリン
2151	CEX	セファレキシン
2152	CCL	セファクロル
2201	CXM	セフロキシム
2202	CTM	セフォチアム
2251	CMZ	セフメタゾール

コード	略号	抗菌薬名
2302	CPZ	セフォペラゾン
2303	CZX	セフチゾキシム
2304	CMX	セフメノキシム
2311	CAZ	セフトアジジム
2312	CTX	セフォタキシム
2313	CTRX	セフトリアキソン
2331	CFTM	セフテラム
2332	CFDN	セフジニル
2336	CDTR	セフジトレン
2337	CPDX	セフボドキシム
2353	CMNX	セフミノクス
2361	FMOX	フロモキセフ
2362	LMOX	ラタモキセフ
2371	SBT/CPZ	スルバクタム/セフォペラゾン
2401	CPR	セフピロム
2402	CFPM	セフェピム
2403	CZOP	セフォゾプラン
2405	CFPN	セフカペン
2406	CFIX	セフィキシム
モノバクタム		
4001	AZT	アズトレオナム
ペネム		
4101	FRPM	ファロペネム

コード	略号	抗菌薬名
カルバペネム		
3001	IPM	イミペネム
3003	MEPM	メロペネム
3004	BIPM	ビアペネム
3005	DRPM	ドリペネム
3006	TBPM	テビペネム
マクロライド		
5001	EM	エリスロマイシン
5002	CAM	クラリスロマイシン
5003	RXM	ロキシスロマイシン
5101	JM	ジョサマイシン
5201	AZM	アジスロマイシン
リンコマイシン		
5901	LCM	リンコマイシン
5902	CLDM	クリンダマイシン
キノロン		
6001	NA	ナリジクス酸
6003	CINX	シノキサシン
6102	LFLX	ロメフロキサシン
6103	NFLX	ノルフロキサシン
6104	OFLX	オフロキサシン
6105	CPFx	シプロフロキサシン
6106	TFLX	トスフロキサシン
6109	LVFX	レボフロキサシン
6111	ERFX	エンロフロキサシン
6112	GFLX	ガチフロキサシン
6113	PZFX	バズフロキサシン
6114	PUFX	ブルリフロキサシン
6115	MFLX	モキシフロキサシン
6116	GRNX	ガレノキサシン
6117	STFX	シタフロキサシン

コード	略号	抗菌薬名
テトラサイクリン		
7001	TC	テトラサイクリン
7003	DOXY	ドキシサイクリン
7004	MINO	ミノサイクリン
アミノグリコシド		
8001	SM	ストレプトマイシン
8101	KM	カナマイシン
8103	TOB	トブラマイシン
8104	DKB	ジベカシン
8105	AMK	アミカシン
8106	ABK	アルベカシン
8201	GM	ゲンタマイシン
8205	ISP	イセバマイシン
その他		
9101	CL	コリスチン
9102	PLB	ポリミキシン-B
9201	VCM	バンコマイシン
9202	TEIC	テイコブラニン
9301	CP	クロラムフェニコール
9401	ST	SMX/TMP
9501	FOM	ホスホマイシン
9601	MUP	ムピロシン
9602	RFP	リファンピシン
9604	LZD	リネゾリド
9607	DAP	ダプトマイシン

微生物学的検査

検体採取にあたっての注意事項

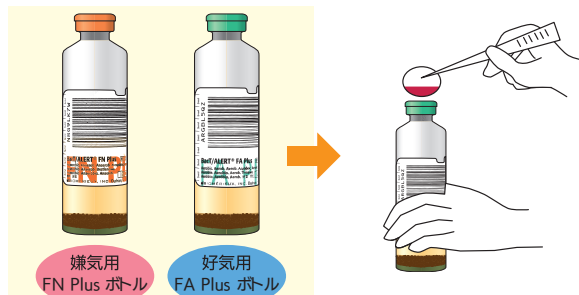
- 原則として抗菌薬投与前に採取して下さい。投与後の採取の場合、24時間以上経過または次回投与前に採取して下さい。
- 細菌学検査の場合は特に雑菌の混入を避けるため、採取器具、検体容器とも必ず滅菌されたものをご使用下さい。
- 血液や穿刺液の採取にあたっては採取部位を十分消毒し、常在菌が混入しないようにご配慮下さい。(下記をご参照下さい)
- 材料、検査項目等により所定の容器をご使用下さい。
- 喀痰の採取にあたっては、口腔内常在菌による汚染を防ぐため、2〜3回うがいしてから、できるだけ唾液・鼻粘膜の混入を避けるようにして喀痰を採取して下さい。

- 便の採取にあたっては、急性期の排出便を数ヶ所採取し、1g程度採取して下さい。
- 容器・採取後の保存方法の詳細は、142頁の輸送培地・輸送容器一覧をご参照下さい。但し、以下の菌種においては採取容器によって保存条件が異なるのでご注意下さい。

- * *Neisseria gonorrhoeae* (淋菌)
- Neisseria meningitidis* (髄膜炎菌)
- スワブ類の場合 - 冷蔵保存
- その他の容器の場合 - 保温 又は 常温保存

血液培養のための採血方法

①準備

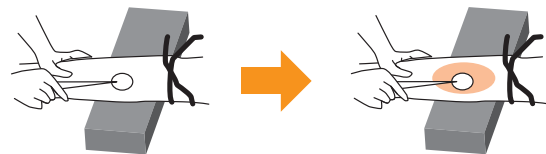


嫌気用 FN Plus ボトル
好気用 FA Plus ボトル

確実に原因菌を検出するために、血液培養では好気用と嫌気用のボトルを1本ずつ(2本=1セット)を用意します。

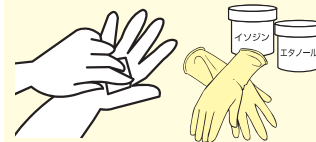
採血の10〜20分前から病室のドアを閉め、空調機を止めます。ボトルのゴム栓を10%ポピドンヨード液(イソジン®)または70%エタノールで消毒します。

②消毒



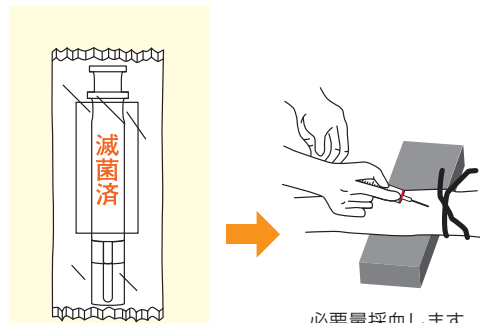
70%エタノールで穿刺箇所を30秒ほど消毒します。

10%ポピドンヨード液(イソジン®)に浸した滅菌綿球で穿刺箇所を中心に、同心円ないし渦巻状に広範囲に塗布し、自然乾燥します。ポピドンヨードに過敏な場合は70%エタノールで消毒します。



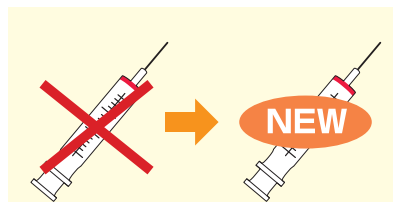
消毒した皮膚には触れないようにします。又、採血施行者は手指を消毒するか、滅菌手袋を着用します。

③採血・ボトルへの接種

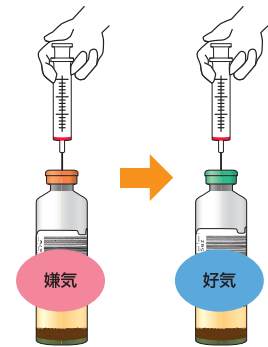


滅菌ディスポーザブルの注射器を使用します。

必要量採血します。

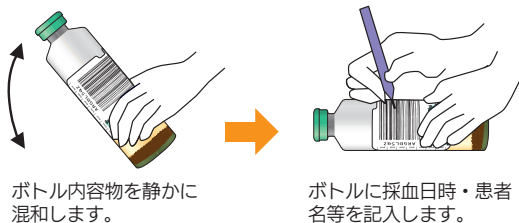


血管の穿刺に失敗した場合、注射器ごと新しいものに替えて下さい。**針刺し事故には充分気をつけて下さい。**採血後、ボトルに血液を接種する前に注射針が汚染されないように注意して下さい。



用意した2本のボトルに等量の血液を接種します。**各ボトルに10mL接種します。**(嫌気⇒好気の順)

④接種後



ボトル内容を静かに混和します。

ボトルに採血日時・患者名等を記入します。



採血後のボトルはすぐご提出下さい。

ご注意

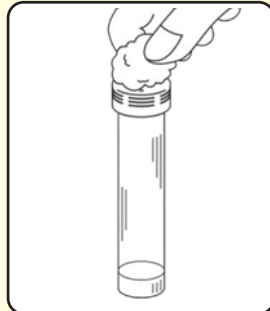
- ボトルへの最大接種量は**好気・嫌気ボトルは10mL、小児用ボトルは4mL**です。血液接種量が多い程、検出率が向上するという報告がありますので、最大接種量を接種するよう推奨しています。但し、それを超えると結果に影響を及ぼすことがありますのでご注意下さい。
- ボトルをすぐに提出できない場合は、常温で保存し、なるべく早く提出して下さい。
- バーコードラベルには、上から記載やラベルを貼付しないでください。
- CUMITECH1B blood culture IIIを参考にしています。

* 正確に安全に嫌気性菌を輸送・保管するために、検体の採取は下記の手順に従い十分注意して行って下さい。

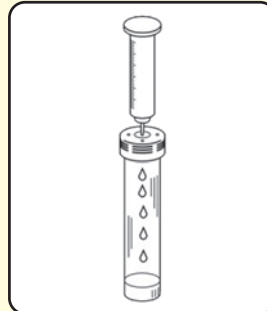
A

ゴム栓を外さない場合

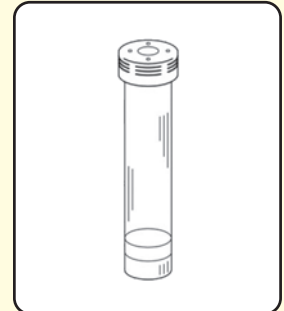
注射器による方法
(胸水、腹水、尿、
穿刺液など)



消毒用アルコール綿などを用いてゴム栓の刺通部を消毒して下さい。



注射針を刺通部に刺し検体を注入して下さい。

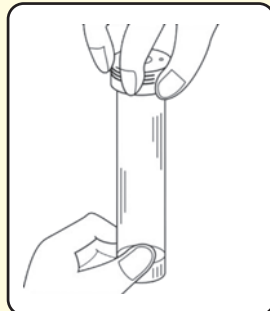


すみやかに輸送するか、冷蔵庫に保管して下さい。

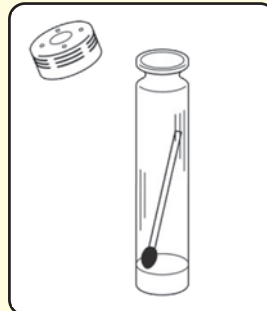
B

ゴム栓を外す場合

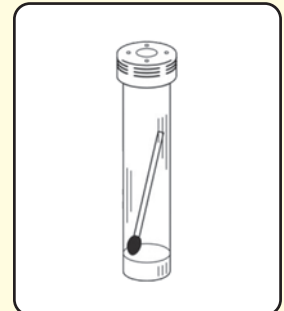
綿棒などによる方法
(便、膿、組織片
など)



容器を立てたままの状態できちんと注意深くゴム栓を外して下さい。



ゴム栓を外し、すみやかに検体を入れ、ゴム栓を閉めて下さい。この時、傾けないように注意して下さい。



すみやかに輸送するか、冷蔵庫に保管して下さい。

注意事項

- インジケーター付き寒天の表面に通常、凝固水が溜まりますが、菌の輸送・保管には支障ありません。
- 検体採取後数分経過すると、僅かに着色する場合がありますが、使用に差し支えありません。
- ゴム栓を外す時は、ゴム栓に付着した検体が飛散するおそれがあるため、ゆっくり外して下さい。
- 輸送する場合は、極力立てた状態で行って下さい。
- 本品は輸送・保管容器のため、培養には使用できません。

微生物学的検査

●細菌顕微鏡検査（一般細菌 グラム染色）結果記載法

報告様式

細菌の染色性	細胞所見	菌量または細胞数
グラム陰性桿菌	白血球	陰性
グラム陰性双球菌	上皮細胞	1+
グラム陽性桿菌	/	2+
グラム陽性球菌		3+
酵母様真菌		4+

菌量等の表現

表現	細菌数(鏡検倍率×1000)	細胞数(鏡検倍率×100)
陰性	認めず	認めず
1+	1視野あたり <1	1視野あたり <1
2+	1視野あたり 1~5	1視野あたり 1~9
3+	1視野あたり 6~30	1視野あたり 10~25
4+	1視野あたり >30	1視野あたり >25

●培養検査結果記載法

培地に発育した菌量の表現

表現	培地発育状態
陰性	コロニーの形成が認められなかった場合
1+	コロニーの培地に占める割合が、1/3未満の場合
2+	コロニーの培地に占める割合が、およそ1/3以上~2/3未満の場合
3+	コロニーの培地に占める割合が、およそ2/3以上の場合
4+	コロニーの形成が培地、全面に及んでいる場合

※血液培養検査、ヘリコバクター・ピロリ培養の場合、菌量の表現を行いません。

●喀出痰の品質評価

Miller & Jones の分類(肉眼的)

分類	性状
M1	唾液、完全な粘性痰
M2	粘性痰の中に少量の膿性痰を含む
P1	膿性部分が1/3以下の痰
◎P2	膿性部分が1/3 ~ 2/3の痰
◎P3	膿性痰が2/3以上の痰

◎が最も検査に適した検体と評価されます。

Geckler の分類(顕微鏡的)

分類	細胞数/1視野(100倍)	
	白血球(好中球)	扁平上皮細胞
1	<10	>25
2	10 ~ 25	>25
○3	>25	>25
◎4	>25	10 ~ 25
◎5	>25	<10
6	<25	<25

微生物学的検査

● 口腔・気道・呼吸器からの検体

①

検査材料	喀出痰	咽頭拭い液	鼻腔	気管支洗浄液	鼻汁	気管内採痰	腫瘍	
主な検出可能菌種	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌) <i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌) <i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌) <i>Acinetobacter baumannii</i>	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)	<i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌) <i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (肺炎桿菌) <i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科) <i>Pasteurella multocida</i> <i>Neisseria meningitidis</i> (髄膜炎菌) <i>Haemophilus influenzae</i> (インフルエンザ菌)
*追加必要菌	<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌) <i>Mycoplasma</i> spp.	<i>Bordetella parapertussis</i> (ノパラ百日咳菌) 酵母様真菌	<i>Bordetella parapertussis</i> (ノパラ百日咳菌) 酵母様真菌	<i>Bordetella parapertussis</i> (ノパラ百日咳菌) 酵母様真菌	<i>Bordetella parapertussis</i> (ノパラ百日咳菌) 酵母様真菌	<i>Corynebacterium diphtheriae</i> (ジフテリア菌) 糸状菌	<i>Legionella pneumophila</i> (レジオネラ) 嫌気性菌	
常在菌	Compromised hostにマークがない検体(一般細菌・抗酸菌検査依頼票、C.臨床症状) <i>α-Streptococcus</i> <i>Corynebacterium</i> spp. (ジフテリア菌以外) <i>Moraxella</i> spp. (カタル球菌を除く)							
	<i>Neisseria</i> spp. (淋菌、髄膜炎菌を除く)		<i>Micrococcus</i> spp.		<i>Bacillus</i> spp. (セレウス菌を除く)			
	coagulase negative <i>Staphylococcus</i> (菌量1+以下の場合)				<i>Lactobacillus</i> spp. 他 口腔内常在菌			
	Compromised hostにマークがある検体(一般細菌・抗酸菌検査依頼票、C.臨床症状) <i>α-Streptococcus</i> <i>Neisseria</i> spp. (淋菌、髄膜炎菌を除く)							
	<i>Micrococcus</i> spp.		<i>Bacillus</i> spp. (非病原性)					
注意事項	※Compromised hostで有るか否かが不明のときは、Compromised hostにマークがない検体として判断させていただきます。 ※原則的に常在菌として設定された菌叢が検出された場合、菌名の報告は致しません。報告形態は下記の通りです。 「常在菌叢(菌量)」 ※嫌気性菌の感染を疑う場合、嫌気培養(加算)の依頼をし、嫌気ポーターで提出して下さい。							

②

検査材料	副鼻腔
主な検出可能菌種	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌) <i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Pasteurella multocida</i>
	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Acinetobacter baumannii</i> 嫌気性菌
	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)
	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)
	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)
	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)
	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)
	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌)
*追加必要菌	<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌) <i>Mycoplasma</i> spp.
	<i>Bordetella parapertussis</i> (ノパラ百日咳菌) 酵母様真菌
	<i>Bordetella parapertussis</i> (ノパラ百日咳菌) 酵母様真菌
	<i>Corynebacterium diphtheriae</i> (ジフテリア菌) 糸状菌
	<i>Corynebacterium diphtheriae</i> (ジフテリア菌) 糸状菌
	<i>Legionella pneumophila</i> (レジオネラ)
常在菌	上気道常在菌の混入を避けて採取された検体や膿瘍から検出された菌は起炎菌の可能性が疑われるものとして取扱います。
注意事項	嫌気培養も実施いたします。(加算)

検体採取・依頼に関する注意事項

※喀出痰は2~3回うがいをし、口腔内を清潔にして、常在菌の混入を避けて採取して下さい。

※上気道からの検体採取は、老廃物や常在菌の混入を避け、病巣部より採取して下さい。

※鼻腔は鼻腔内を清潔にしてから、採取して下さい。

※検体は通常冷蔵保存(2~8℃)とし、乾燥を避けて提出して下さい。(淋菌、髄膜炎菌が疑われる生検体の保存は保温または室温として下さい。但し、スワブ類で採取された場合の保存は、冷蔵して下さい。)

* 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

微生物学的検査

●消化管からの検体

①

検査材料	固形便			
主な検出可能菌種	<i>Shigella</i> spp. (赤痢菌)	<i>Salmonella</i> serovar Typhi (チフス菌)	<i>Salmonella</i> serovar Paratyphi A (パラチフス菌)	<i>Salmonella</i> spp.
	腸管出血性大腸菌	<i>Vibrio parahaemolyticus</i> (腸炎ビブリオ)	<i>Vibrio cholerae</i> (コレラ菌)	<i>Vibrio</i> spp.
	<i>Aeromonas</i> spp.	<i>Plesiomonas shigelloides</i>	<i>Edwardsiella tarda</i>	<i>Yersinia</i> spp.
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)	<i>Bacillus cereus</i> (セレウス菌)	
*追加必要菌	<i>Clostridium perfringens</i> (ウェルシュ菌) 酵母様真菌	<i>Clostridioides difficile</i> (ディフィシル菌) 糸状菌	<i>Campylobacter</i> spp.	<i>Yersinia</i> spp.
注意事項	食中毒菌検索、海外渡航歴の有にマークがある場合は、カンピロバクター培養を実施いたしますので、 <i>Campylobacter</i> spp.は検出可能菌種となります。			

②

検査材料	下痢便 血便			
主な検出可能菌種	<i>Shigella</i> spp. (赤痢菌)	<i>Salmonella</i> serovar Typhi (チフス菌)	<i>Salmonella</i> serovar Paratyphi A (パラチフス菌)	<i>Salmonella</i> spp.
	腸管出血性大腸菌	<i>Vibrio parahaemolyticus</i> (腸炎ビブリオ)	<i>Vibrio cholerae</i> (コレラ菌)	<i>Vibrio</i> spp.
	<i>Aeromonas</i> spp.	<i>Plesiomonas shigelloides</i>	<i>Campylobacter</i> spp.	<i>Edwardsiella tarda</i>
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)	<i>Bacillus cereus</i> (セレウス菌)	<i>Klebsiella oxytoca</i>
*追加必要菌	<i>Clostridium perfringens</i> (ウェルシュ菌) 糸状菌	<i>Clostridioides difficile</i> (ディフィシル菌)	<i>Yersinia</i> spp.	酵母様真菌

③

検査材料	胃液 胆汁			
主な検出可能菌種	<i>Salmonella</i> serovar Typhi (チフス菌)	<i>Salmonella</i> serovar Paratyphi A (パラチフス菌)	<i>Salmonella</i> spp.	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科)
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)	<i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌)	<i>Streptococcus</i> spp. (連鎖球菌)
*追加必要菌	<i>Clostridium perfringens</i> (ウェルシュ菌) 酵母様真菌	<i>Clostridioides difficile</i> (ディフィシル菌) 糸状菌	<i>Campylobacter</i> spp. 嫌気性菌	<i>Yersinia</i> spp.

④

検査材料	胆汁 肝膿瘍			
主な検出可能菌種	<i>Salmonella</i> serovar Typhi (チフス菌)	<i>Salmonella</i> serovar Paratyphi A (パラチフス菌)	<i>Salmonella</i> spp.	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科)
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)	<i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌)	<i>Streptococcus</i> spp. (連鎖球菌)
	嫌気性菌			
*追加必要菌	<i>Clostridium perfringens</i> (ウェルシュ菌) 酵母様真菌	<i>Clostridioides difficile</i> (ディフィシル菌) 糸状菌	<i>Campylobacter</i> spp.	<i>Yersinia</i> spp.

報告

※検体が①②の場合、通常下痢原因菌とされている菌のみの報告とし、常在菌の報告はいたしません。常在菌のみが検出された場合は、報告書には「下痢原因菌は認められませんでした。」とコメントいたします。

検体採取・依頼に関する注意事項

※検便検査(食品関連従業者)の依頼は、必ず「衛生・環境検査依頼票」にてご依頼して下さい。

※家族に下痢原因菌の保菌者がいる場合や下痢原因菌が前回検出された場合は、検出された旨と検出菌名をコメント欄に明記して下さい。

※特に臨床症状が腸管出血性大腸菌、下痢原性大腸菌を疑う場合、および前回検出された場合にはコメント欄に明記するとともに大腸菌血清型別を依頼して下さい。

※細菌性の感染性腸炎では、急性期の新鮮な糞便を採取して下さい。

※嫌気性菌の感染を疑う場合、嫌気培養(加算)の依頼をし、嫌気ポーターで提出して下さい。

検体①②での嫌気培養は *Clostridium perfringens* (ウェルシュ菌) または *Clostridioides difficile* (ディフィシル菌) のいずれかを必ず選択してください。

* 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

微生物学的検査

● 泌尿器・生殖器からの検体

①

検査材料	尿 カテーテル尿			
主な検出可能菌種	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌)	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科)	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Pseudomonadaceae</i> (シユードモナス科)
	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌)	<i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌)	<i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)
	<i>Staphylococcus saprophyticus</i>			
*追加必要菌	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> (淋菌)	酵母様真菌	糸状菌	嫌気性菌

②

検査材料	膣分泌物 子宮頸管粘液 尿道分泌物 羊水 カテーテル(膀胱・尿道)			
主な検出可能菌種	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌)	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科)	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Pseudomonadaceae</i> (シユードモナス科)
	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌)	<i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)	<i>Staphylococcus saprophyticus</i>
	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> (淋菌)	<i>Neisseria meningitidis</i> (髄膜炎菌)	<i>Lactobacillus</i> spp.	<i>Gardnerella vaginalis</i>
	<i>Haemophilus influenzae</i> (インフルエンザ菌)			
*追加必要菌	<i>Mycoplasma</i> spp.	酵母様真菌	糸状菌	嫌気性菌

③

検査材料	膿瘍(生殖器)			
主な検出可能菌種	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌)	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科)	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Pseudomonadaceae</i> (シユードモナス科)
	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌)	<i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)	<i>Staphylococcus saprophyticus</i>
	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> (淋菌)	<i>Neisseria meningitidis</i> (髄膜炎菌)	<i>Gardnerella vaginalis</i>	<i>Haemophilus influenzae</i> (インフルエンザ菌)
	嫌気性菌			
*追加必要菌	酵母様真菌	糸状菌		
注意事項	嫌気培養を実施いたします。(加算)			

報告

※検体①の場合、尿定量培養を実施します。但し、スワブで提出された場合や尿沈渣物の場合は、定量培養は実施しません。

検体採取・依頼に関する注意事項

※尿道口、外陰部には、皮膚常在菌が生息しており、これらが混入しないように採取して下さい。

* 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

微生物学的検査

●血液・穿刺液

①培養ボトル

検査材料	動脈血 静脈血			
主な検出可能菌種	<i>Salmonella serovar Typhi</i> (チフス菌)	<i>Salmonella serovar Paratyphi A</i> (パラチフス菌)	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌)	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科)
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科)	<i>Vibrio vulnificus</i>	<i>Campylobacter</i> spp.
	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌)	<i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌)	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌)	<i>Streptococcus</i> spp. (連鎖球菌)
	<i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)	<i>Listeria monocytogenes</i> (リステリア)	<i>Neisseria meningitidis</i> (髄膜炎菌)
	<i>Haemophilus influenzae</i> (インフルエンザ菌)	<i>Bordetella bronchiseptica</i> (気管支敗血症菌)	<i>Elizabethkingia meningoseptica</i>	<i>Candida albicans</i>
	<i>Cryptococcus neoformans</i>	嫌気性菌		
注意事項	①既に抗菌薬が投与されている場合、血中濃度が最も低下する時期(次の投与前)にFA Plus・FN Plusに採取して提出して下さい。 ②細菌塗抹検査を依頼される場合、生検体も一緒に提出して下さい。(培養ボトルでの塗抹検査はできません。) ③嫌気培養も実施いたします(加算) ④血液成分を含まない検査材料については、一部の菌種において発育できない可能性があるため、培養ボトルでの受付はできません。			

②(生検体)

検査材料	胸水 腹水 関節液			
主な検出可能菌種	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌)	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科)	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科)
	<i>Vibrio vulnificus</i>	<i>Haemophilus influenzae</i> (インフルエンザ菌)	<i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌)	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌)
	<i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌)	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌)	<i>Streptococcus</i> spp. (連鎖球菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)
	<i>coagulase negative Staphylococcus</i>	<i>Elizabethkingia meningoseptica</i>	<i>Listeria monocytogenes</i> (リステリア)	<i>Neisseria meningitidis</i> (髄膜炎菌)
	<i>Bordetella bronchiseptica</i> (気管支敗血症菌)	嫌気性菌		
*追加必要菌	<i>Legionella pneumophila</i> (レジオネラ)	酵母様真菌	糸状菌	
注意事項	嫌気培養を実施いたします。(加算) 増菌培養を実施いたします。			

③(生検体)

検査材料	髄液 骨髄液			
主な検出可能菌種	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌)	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科)	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌)	<i>Pseudomonadaceae</i> (シュードモナス科)
	<i>Haemophilus influenzae</i> (インフルエンザ菌)	<i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌)	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌)	<i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌)
	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌)	<i>Streptococcus</i> spp. (連鎖球菌)	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)	<i>coagulase negative Staphylococcus</i>
	<i>Elizabethkingia meningoseptica</i>	<i>Listeria monocytogenes</i> (リステリア)	<i>Neisseria meningitidis</i> (髄膜炎菌)	<i>Bordetella bronchiseptica</i> (気管支敗血症菌)
	嫌気性菌	<i>Candida albicans</i>	<i>Cryptococcus neoformans</i>	
*追加必要菌	<i>Legionella pneumophila</i> (レジオネラ)	<i>Campylobacter</i> spp.		
注意事項	嫌気培養を実施いたします。(加算) 増菌培養を実施いたします。			

* 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

● その他の部位からの検体

①

検査材料	開放性膿	褥瘡	ドレーン排液	カテーテル先端 (IVH・CV)	滲出液
主な検出可能菌種	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pasteurella</i> spp. <i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌) Coagulase Negative <i>Staphylococcus</i>	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌) <i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌)	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌) <i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌)	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌) <i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌) <i>Streptococcus</i> spp. (連鎖球菌)	<i>Pseudomonadaceae</i> (シユードモナス科) <i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌) <i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)
*追加必要菌	酵母様真菌	糸状菌		嫌気性菌	
注意事項	上記検査材料は、嫌気性菌の関与することが多いため、嫌気培養(加算)をご依頼されることをお薦めいたします。 HK半流動培地にて提出された場合、最大1週間まで増菌培養を行います。 検査材料がカテーテル先端の場合、増菌培養を実施いたします。				

②

検査材料	非開放性膿			
主な検出可能菌種	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pasteurella</i> spp. <i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌) Coagulase Negative <i>Staphylococcus</i>	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌) <i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) 嫌気性菌	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌) <i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌) <i>Streptococcus</i> spp. (連鎖球菌)	<i>Pseudomonadaceae</i> (シユードモナス科) <i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌) <i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)
*追加必要菌	酵母様真菌	糸状菌		
注意事項	嫌気培養を実施いたします。(加算)			

③

検査材料	耳漏	眼脂		
主な検出可能菌種	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Pasteurella</i> spp. <i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌) <i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌)	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科) <i>Moraxella catarrhalis</i> (カタル球菌) <i>Streptococcus agalactiae</i> (B群連鎖球菌) Coagulase Negative <i>Staphylococcus</i>	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌) <i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌) <i>Streptococcus pneumoniae</i> (肺炎球菌) <i>Vibrionaceae</i> (ビブリオ科)	<i>Pseudomonadaceae</i> (シユードモナス科) <i>Haemophilus influenzae</i> (インフルエンザ菌) <i>Streptococcus</i> spp. (連鎖球菌)
*追加必要菌	酵母様真菌	糸状菌	嫌気性菌	

④

検査材料	皮膚	爪	毛
主な検出可能菌種	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌) <i>Enterococcus</i> spp. (腸球菌) 酵母様真菌	<i>Enterobacteriaceae</i> (腸内細菌科) <i>Streptococcus pyogenes</i> (A群連鎖球菌) 糸状菌	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> (緑膿菌) <i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌) Coagulase Negative <i>Staphylococcus</i>

* 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

微生物学的検査

感染症法における感染症の分類

感染症 類型	疾 病 名	届出の要否			届出方法			法に基づく入院勧告の可否			就業制限通知の可否		
		患 者	疑似症	無症状病原 体保有者	定点種別	時 期	内 容	患 者	疑似症	無症状病原 体保有者	患 者	疑似症	無症状病原 体保有者
1	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
2	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	○	×	×	○	×	○
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	×
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	○	×	×	○	×	○
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス 属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイル ス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
3	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
4	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ウエストナイル熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	エキノコックス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	キャサナル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ジカウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウ イルス属SFVウイルスであるものに限る。)	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ダニ媒介脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	鳥インフルエンザ (鳥インフルエンザ (H5N1 及 びH7N9)を除く。)	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ペネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ハンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ボツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	野兔病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×	
類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×	
レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×	
レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×	
ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×	

微生物学

微生物学的検査

感染症法における感染症の分類

感染症 類型	疾病名	届出の可否			届出方法			法に基づく入院勧告の可否			就業制限通知の可否		
		患者	疑似症	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容	患者	疑似症	無症状病原体保有者	患者	疑似症	無症状病原体保有者
5	アメーバ赤痢	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	×	×	インフル (※1)	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科 (※2)	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	急性弛緩性麻痺	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	(全数)	7日以内	b2	×	×	×	×	×	×
	細菌性髄膜炎(侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症及び侵襲性肺炎球菌感染症を除く。)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	ジアルジア症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	水痘(入院例に限る。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	先天性風しん症候群	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	梅毒	○	×	○	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	破傷風	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	百日咳	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	風しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	麻しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×
流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×	
流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×	
淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×	
新型インフルエンザ等感染症	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○	
指定 感染症	新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。))であるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	

(届出事項) a: 氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他、(保護者の住所氏名)
 b1: 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診年月日、診断年月日、推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名
 b2: 年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診年月日、診断年月日、推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、最近数年間の主な居住地、国籍
 c1: 年齢、性別
 c2: 年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

※1 インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)の基幹定点の届出については、届出対象は入院したもので、届出内容は入院時の対応を加える。

※2 感染性胃腸炎の基幹定点の届出については、届出対象は病原体がロタウイルスであるもので、届出内容は原因病原体の名称及び検査方法を加える。

厚生労働省ホームページ 感染症法に基づく医師の届出のお願い より引用(2020年6月1日時点)

(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000631585.pdf>)

病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
病理組織顕微鏡検査								
7B010	病理組織検査	10～20% ホルマリン 固定組織	ホルマリン 入り容器 常温	ヘマトキシリン エオジン染色 等		6 10	一臓器 につき 860 病理	免疫組織化学染料、再固定処理、脱脂処理、脱灰処理が必要な場合は所要日数が7～10となります。
	ブロック制作	10～20% ホルマリン固定組織 1×1×1mm以上						
	未染色標本作製	10～20% ホルマリン固定組織 または パラフィンブロック	ホルマリン 入り容器 常温					
	染色標本作製	10～20% ホルマリン固定組織 または パラフィンブロック						特殊なご依頼の場合や未染色標本スライド使用の染色などは事前にお問合せ下さい。
7B020	免疫組織化学染色	10～20% ホルマリン固定組織 10×10×5mm以上	ホルマリン 入り容器 常温	間接法		7 12	860 + 400 病理 ※	『確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者』に対して、標本作製を実施した場合には、1,600点を所定点数に加算する。
		凍結組織	凍結	蛍光抗体法				

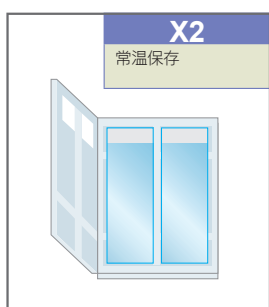
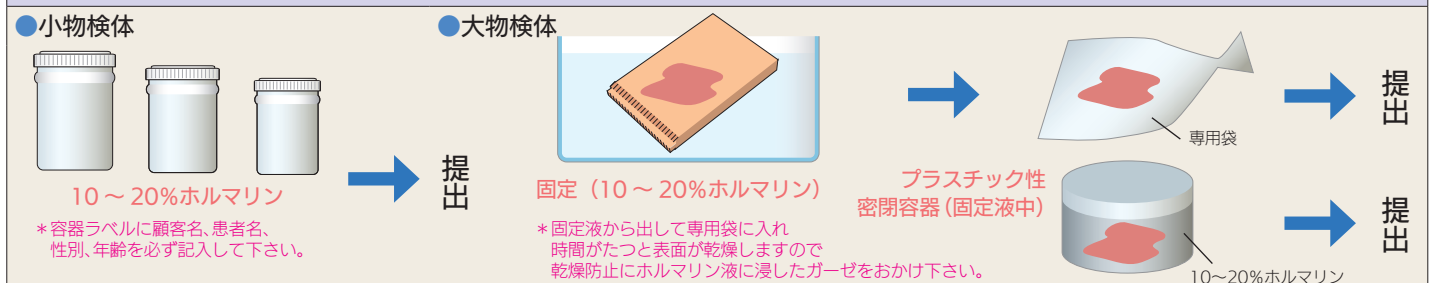
※『確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者』とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍（腺癌、扁平上皮癌）、消化管間質腫瘍（GIST）、慢性胃炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症（天疱瘡、類天疱瘡等）又は悪性黒色腫が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。
※手術材料、脱脂、再固定、脱灰が必要な検体は所要日数が多くなることをご了承ください。

検査材料の提出方法について

病理組織検査のご提出の際はホルマリン固定組織、パラフィンブロック、又は凍結組織をお願いいたします。
※なお、以下に記載します内容は診断を迅速かつ正確に行う為にも重要な事項となりますので、十分にご理解の上ご協力下さい。

- ホルマリン固定組織でのご提出
 - ①抽出した組織を自家融解、乾燥から防ぐ為、直ちに固定液に入れて下さい。
 - ②固定液は、10～20%ホルマリン液を使用し、組織が乾燥しないように十分量を使用して下さい。
 - ③固定容器は、組織の大きさよりもかなり大きめの広口ふたのものを使用して下さい。（生検、小組織容器は当社にて準備しております。）
（容器いっぱいに入れると、固定不良、形状保持不良となり、固定後容器から取り出せなくなります。）
 - ④胃生検材料等の微小検体をご提出の場合は、ろ紙等に貼り付け10～20%ホルマリン液にお入れ下さい。
（なお、複数個ご提出の場合にはナンバーをろ紙に鉛筆で記入するか、採取部位（各ナンバー）毎に容器を分けてご提出下さい。）
 - ⑤臓器の異なる材料は容器を分けてご提出下さい。（1容器に1臓器）
 - ⑥組織を固定したら、日時等（採取年月日、採取時間、固定液の濃度、種類）を必ず依頼票にご記入下さい。

病理組織 *容器にヒビ・亀裂等ないかご確認下さい。又、蓋は確実に閉めてご提出下さい。



病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

腫瘍関連免疫組織検査

4H010	エストロゲンレセプター (8801)	腫瘍組織		酵素抗体法 (IHC 法)	(-)	7 ┌ 10	720 病理	同一月に併せて実施した場合は、180点を主たる病理組織標本作製の所定点数に加算する。
4H015	プロゲステロンレセプター (8802)	腫瘍組織		酵素抗体法 (IHC 法)	(-)	7 ┌ 10	690 病理	
8530 8C053	乳癌 HER2 遺伝子 [FISH] (7991)	未染スライド 4 枚	X2 常温	FISH 法		9 ┌ 13	2700 病理	*1
8571 8C053	胃癌 HER2 遺伝子 [FISH] (7539)	未染スライド 4 枚	X2 常温	FISH 法		9 ┌ 12	2700 病理	

※ 1 抗 HER2 ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として遺伝子増幅標本作製を行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に 1 回を限度として算定する。HER2 タンパクの免疫染色 (免疫抗体法) 病理組織標本作製を併せて行った場合は、3,050 点を算定できる。

【エストロゲンレセプター・プロゲステロンレセプターのご依頼時の留意事項】

- 本検査は病理検査により確定診断がなされた症例について治療の方針を判定するための検査ですので病理組織依頼書に病理診断名・組織型をご記入の上、ご依頼下さい。
- 癌細胞の有無、組織型が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理報告書 (コピー) の添付をお願いいたします (但し、弊社で病理検査を実施している場合は不要です)。なお、諸事情により添付できない場合には、病理診断名、組織型の他、臨床情報等可能な範囲で記載をお願いいたします。
- 検査材料は10%ホルマリン固定液に24~48時間程度の固定を行った組織をパラフィン包埋したブロックです。固定組織、未染色スライド等でのご依頼は、予めご相談下さい。

【乳癌・胃癌 H E R 2 遺伝子 [FISH] のご依頼時の留意事項】

- ご依頼時に「病理報告書のコピーを添付」又は、「依頼書に診断名を記入」の上、ご依頼下さい。
- 推奨固定液は10%中性緩衝ホルマリンです。推奨固定時間は乳癌6~72時間 (6時間未満の検体は避ける)、胃癌6~72時間 (生検検体は大きさに準ずるが6時間以上が望ましい) です。
- 標本はシランなどのコーティングスライドを使用して、37℃恒温槽で乾燥させて下さい。なお、薄切後長時間放置 (薄切から6週間以上) された未染色スライド、浸潤癌が含まれないもの、厚い組織切片などは適しません。
- 過去の種々の条件で作成された標本でFISH法検査をする場合、必ずしも全ての標本でFISH法が可能とは限りません。

病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	--------

腫瘍関連免疫組織検査

673 7B020	HER2/neu タンパク (8031)	腫瘍組織	※1	酵素抗体法 (IHC 法)	表 1・2 参照	6 14	690 病理	
683 7B020	EGFR タンパク (8032)	腫瘍組織	※2	酵素抗体法 (IHC 法)	表 3 参照	6 14	690 病理	

※1 HER2/neuタンパク ご依頼方法

- 検査ご依頼に際しては、必ず所定の「病理検査依頼書」をご使用下さい。
- 先に当社において病理組織検査をご依頼されている場合は保存ブロックで実施します。報告年月日と検体番号を記入してご依頼下さい。

◎HER2/neuタンパク (乳癌の場合)

- 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された転移性乳癌の原発巣または転移巣の腫瘍組織です。
 - 初発乳癌の原発巣ないし転移巣の切開生検・針生検。
 - 再発した転移性乳癌では過去に手術された原発巣の組織標本ないし転移巣の生検/手術標本。
- 推奨固定方法
 - 推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
 - 推奨固定時間：6～72時間(※6時間未満の検体は避ける)
 抗原性保持の点から上記固定方法が推奨されますが、20%で固定する場合や緩衝でなく純水で希釈した10%、20%ホルマリンを用いた場合、わずかに抗原性の低下する可能性はありますが判定に差し支えはないと考えられます。但し、アセトン系、アルコール系固定液は抗原性保持の点から検査不能となります。
- 生検体から実施する場合は、先に通常の病理組織検査を実施の上、悪性所見の場合に実施します。

◎HER2/neuタンパク (胃癌の場合)

- 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された胃、又は胃食道接合部の腺癌です。
- 推奨固定方法
 - 推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
 - 推奨固定時間：切除標本 6～72時間
生検検体 検体の大きさに準ずる(6時間以上が望ましい)
- 生検体から実施する場合は、先に通常の病理組織検査を実施(別途860点)の上、悪性所見(腺癌)の場合に実施します。

※2 EGFRタンパク ご依頼方法

- 検査ご依頼に際しては、必ず所定の「病理検査依頼書」をご使用下さい。
- 先に当社において病理組織検査をご依頼されている場合は保存ブロックで実施します。報告年月日と検体番号を記入してご依頼下さい。
- 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された進行・再発の結腸・直腸癌の手術材料です。(生検材料や、転移組織についてのデータは少なく、検査に適した腫瘍細胞数等から明らかなデータはありません。)
- 推奨固定方法
 - 推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
 - 推奨固定時間：24～48時間以内(手術材料)
 10%中性緩衝ホルマリンの使用が推奨されておりますが、10%又は、20%非緩衝ホルマリン液による固定においても、固定が適切にされていれば、検査対象として使用可能です。

(表1) HER2/neuタンパク (IHC法) 乳癌の判定基準

スコア	染色パターン	判定
3+	強い完全な全周性の膜染色が認められる >10%	陽性
2+	弱/中程度の全周性の膜染色が認められる >10%、	equivocal
1+	かすかな/かろうじて認識できる不完全な膜染色が認められる >10%	陰性
0	染色像が認められない、又は不完全およびかすかな/かろうじて膜染色が認められる ≤ 10%	

(表2) HER2/neuタンパク (IHC法) 乳癌の判定基準

染色強度 スコア	判定	染色パターン	
		(切除検体)	(生検検体)
0	陰性	細胞膜に陽性染色なし、あるいは細胞膜の陽性染色がある癌細胞が一切片に10%未満である	陽性染色なし、あるいは細胞膜の陽性染色がある癌細胞なし
1+	陰性	弱/ほとんど識別できないほどかすかな細胞膜の染色がある癌細胞が一切片に10%以上認められる。癌細胞は細胞膜のみが部分的に染色されている	癌細胞の染色割合に関係なく、弱/ほとんど識別できないほどかすかな細胞膜の陽性染色がある癌細胞クラスターが1つ以上あり。
2+	境界域	弱～中程度の完全な側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色がある癌細胞が一切片の10%以上認められる	癌細胞の染色割合に関係なく、弱～中程度の完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色がある癌細胞クラスターが1つ以上あり。
3+	陽性	強い完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色がある癌細胞が一切片に10%以上認められる。全周性に認められない場合もある	癌細胞の染色割合に関係なく、強い完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色がある癌細胞クラスターが1つ以上あり。

* 生検標本では、5個以上の癌細胞の集塊を癌細胞クラスターと定義します。

(表3) EGFRタンパクの判定基準

判定	定義
陰性	全ての腫瘍細胞において細胞膜への染色が認められない。
陽性	染色態度が連続性か非連続性に係らず、腫瘍細胞の細胞膜に染色が認められる。

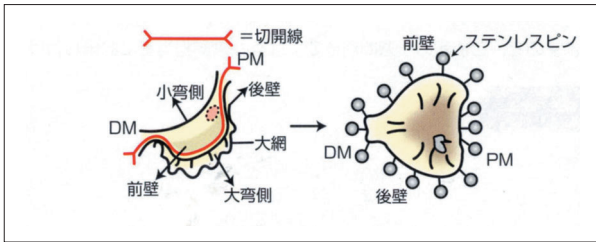
病理組織顕微鏡検査検体提出方法

- 組織は次のように固定し、ご提出下さい。(各臓器の癌取り扱い規約に従っています。)
固定操作の不明点はお問い合わせ下さい。

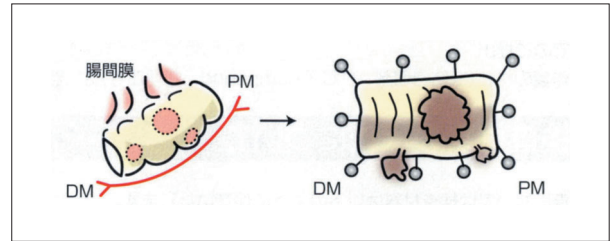
管腔臓器

腫瘍を避けてハサミで切開し、内容物を生食で洗います。
粘膜面を上にして固定板上に引き伸ばし、臓器辺縁をピン（釘）等で貼り付けます。
臓器が浸るように十分量の10～20%ホルマリン液に浸漬させます。

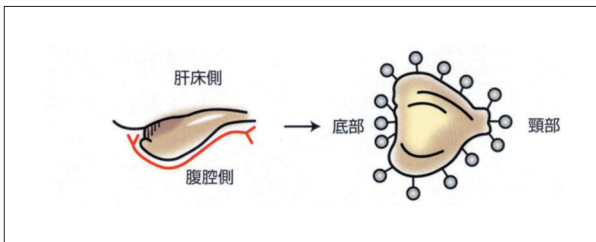
胃：通常は大弯側の大網附着部直前(前壁側)を開いて固定して下さい。但し、病変が大弯線上にある時は小弯線上で開きます。



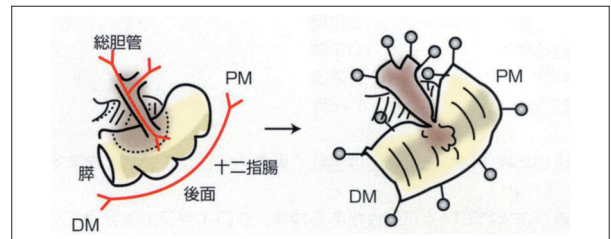
腸：腸間膜とは反対側を開いて固定して下さい。



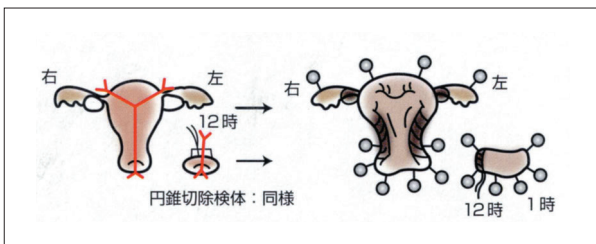
胆嚢：通常は腹腔側を開いて固定して下さい。



膵頭部：十二指腸を後面で開いてから総胆管を開きます。(場合によっては膵管も開きます。)但し、繋がりが判らなくなるようなら、開かず両管からホルマリンを注入して下さい。



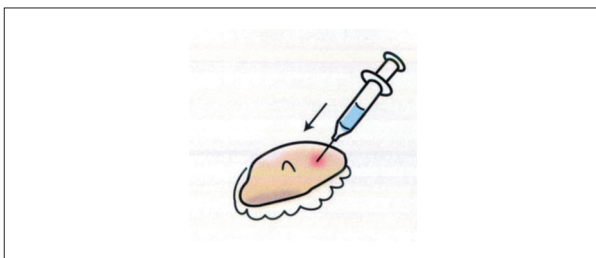
子宮：12時の方向で前壁を体部中央上まで開き、そこから両卵管角に向けてY字に開いて固定して下さい。



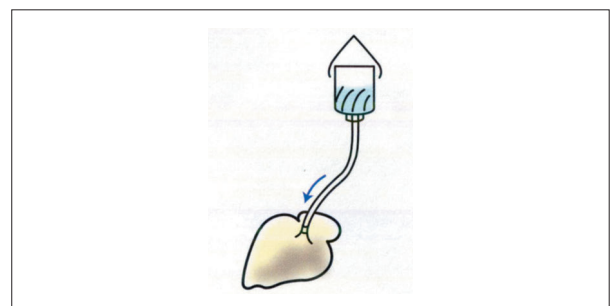
実質臓器

肝・腎：腫瘍を避けて左右にメス等で割を入れ、ホルマリンに浸漬させ固定して下さい。

乳房：注射器で多数箇所ホルマリンを注入し、固定して下さい。(厚みがありますので十分に注入して下さい。)乳房切除は上極に、温存療法は乳頭側にマーキングをお願いします。



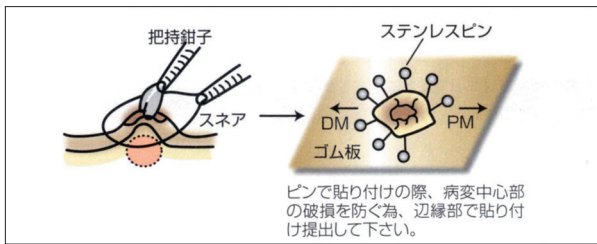
肺：気管支からホルマリンを注入して固定して下さい。VATSなどは細い針の注射器にて肺組織内にホルマリンを注入して固定して下さい。



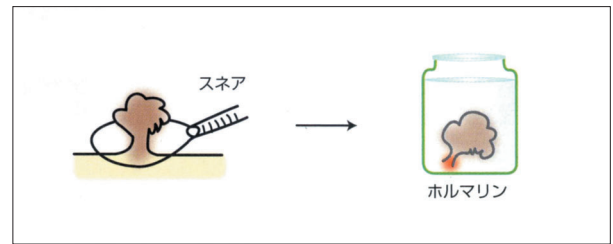
病理学的検査

生検・EMR・ESD・ポリペクトミー

ESD : PM、DMが、判るように記入して下さい。



EMR・ポリペクトミー : 断端が判るようにマークをつけて固定して下さい。



●パラフィンブロックでのご提出

すでに作製済のパラフィンブロックを、破損のないよう柔らかい布等で包み、ビニール袋に入れてご提出下さい。

●凍結組織でのご提出

凍結組織作製の材料（凍結包埋剤＝O.C.T.compound、包埋皿等）は、当社にて準備しておりますので、ご依頼の一週間前までには弊社営業担当者にお申し付け下さい。

検査材料の保管について

病理学的検査においては検査材料は以下のように保管いたします。

【病理組織検査】

病理組織ブロック	10年間
標本	10年間
組織残検体	1年間

【細胞診検査】

スライド標本 陰性	5年間
陽性	10年間
穿刺吸引細胞診標本	10年間
細胞診生検検体	1週間
液状化細胞診検体	1ヶ月

期間が過ぎました検体につきましては当社で廃棄処分させていただきます。

※放射性物質が含まれている可能性がある検体、クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われる検体、又、歯等に関しては検査実施できません。

病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考		
1961 7A020	婦人科細胞診	外陰部 陰断端 子宮腔部 子宮頸部 子宮体部	塗抹標本 (湿固定1枚) 常温	パパニコロウ染色		4 6	150 病理			
		自己採取検体	専用容器 常温						150 病理	
1963 7A010	喀痰集細胞法	喀痰 (3日間蓄痰)	専用容器 常温	パパニコロウ染色 ギムザ染色 PAS 染色		4 6	190 病理	※1		
1962 7A010	一般細胞診	喀痰	塗抹標本 (湿固定2枚) 冷蔵						190 病理	
		尿などの 細胞数の少 ない検体	塗抹標本 (湿固定1枚) 冷蔵						190 病理	血清、細胞成分が多いとき は乾燥固定も1枚追加
		体腔液(胸水・ 腹水)などの 穿刺吸引 液状検体	塗抹標本4枚 (湿固定2枚、 乾燥固定2枚) 冷蔵						190 病理	胆汁などの消化液を生の状態 で提出される場合は、細胞変 性をできるだけ抑えるため、必 ず冷蔵保存にてご提出下さい。 ※1
	擦過物 各種洗浄液 髄液 捺印標本 圧挫標本その他	塗抹標本3枚 (湿固定2枚、 乾燥固定1枚) 冷蔵	190 病理	髄液は検体量が少ない場合 乾燥固定1枚のみ。 ※1						
2098 7A021	婦人科材料 LBC (子宮頸部液状化細胞診) (8146)	子宮頸部	W1 常温	パパニコロウ染色		4 6	150 + 45 ※2 病理			
2099 7A021	婦人科材料 LBC (標本作製のみ) (8147)								2 4	
1990 7A010	一般検体液状化検体細胞診 (初検)	穿刺吸引検体等	専用容器 (LBCPREP) 常温	パパニコロウ染色		4 6	190 病理			
1900 7A010	一般検体液状化検体細胞診 (再検査)	過去に擦過または 穿刺により採取し 固定保存液に回収 した細胞診検体							190 + 85 ※3 病理	

- ※1 「一般細胞診」とは喀痰細胞診、気管支洗浄細胞診、体腔液細胞診、体腔液洗浄細胞診、体腔臓器擦過細胞診及び髄液細胞診等を指す。
- ※2 固定保存液に回収した検体から標本を作製して、診断を行った場合には、婦人科材料等液状化検体細胞診加算として、45点を所定点数に加算する。
- ※3 過去に穿刺し又は採取し、固定保存液に回収した検体から標本を作製して、診断を行った場合には、液状化検体細胞診加算として、所定点数に85点を加算する。液状化検体細胞診加算は、採取と同時に作製された標本に基づいた診断の結果、再検が必要と判断され、固定保存液に回収した検体から再度標本を作製し、診断を行った場合に限り算定できる。採取と同時にを行った場合は算定できない。

細胞診検査の注意事項

- *細胞診検査は、必ずしも確定診断ではありません。検査結果をご提出いただいた標本において下されたもので、病変全体を反映するものではないことをご承知おき下さい。組織検査等による総合的な検査をお勧めします。
- *所要日数はご提出された検査材料の状態や検査結果によって異なることがあります。
- *細胞診専門医の検査が必要な検体は、所要日数が多くなることをご了承下さい。

 <p>婦人科細胞診 (自己採取用) 説明書をご参照下さい。</p>	 <p>喀痰集細胞法用 158頁参照</p>	 <p>W1 液状化細胞診用 (LBC シェアパス) 158頁参照</p>
---	--	---

病理学的検査

細胞診検査検体提出方法

細胞診検査は、原則として塗抹し、湿固定もしくは乾燥固定の未染色スライドでご提出下さい。

又、材料でご提出の際には、専用の滅菌済み容器でご提出下さい。

細菌検査・一般検査等とは別に検体をご提出下さい。

記名はフルネームでお願いします。検体には患者名（フルネーム）とカルテ NO. 等必ず 2 つ以上の識別子をご記入下さい。

●各種材料の塗抹方法

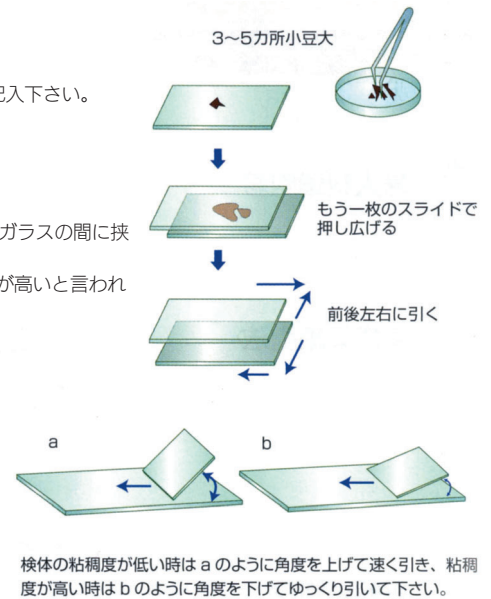
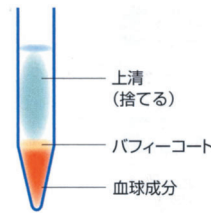
塗抹の仕方は、検査材料の種類・性状によって異なります。下記の要領で塗抹して下さい。

①すり合わせ法：喀痰・蓄痰、又、気管支洗浄液・胆汁などの液状検体で粘稠度の高いもの

- ・膿様・血性・不透明な部分など肉眼的に性状の異なる箇所を少量ずつとり、総量小豆大を 2 枚のスライドガラスの間に挟み前後左右に引いて均等に伸展させます。
- ・喀痰では、扁平上皮癌は血性部・白濁部、腺癌は黒っぽい部分、小細胞癌は漿液性部分に癌細胞を含む確率が高いと言われておりますので、留意して下さい。

②引きガラス法：体腔液（胸・腹水、心嚢液）・尿などの液状検体・洗浄液で粘稠度の低いものなど

- ・尿検体はなるべく細胞成分の多い部分をご提出下さい。
- ・2,500rpm・5分遠心後、専用の引きガラスやカバーガラスで塗抹します。悪性細胞などの有核細胞は引き終わりに集まるので、引き終わり部分をスライド内に確実に取めて下さい。
- ・血液成分の多い検体の場合は、フィブリンの析出を防ぐ為に予め検体量の 1/10 程度の抗凝固剤を加え、遠心後はパフィーコート部分を塗抹して下さい。
- ・検体が多量に採取出来た時はいくつかの試験管に分けて遠心後、パフィーコート部分をまとめて再度遠心します。
- ・検体が髄液の場合は、細胞破壊を防ぐ為 700rpm・5 分間の遠心を行って下さい。



検体の粘稠度が低い時は a のように角度を上げて速く引き、粘稠度が高い時は b のように角度を下げてゆっくり引いて下さい。

③オートスマ法：細胞成分に乏しい液状検体・微量体腔液・尿・髄液・穿刺吸引針の洗浄液・専用の機材を使い、遠心しながら塗抹を行います。

④吹き付け塗抹法（穿刺吸引細胞診）：乳腺・甲状腺・肺・唾液腺・肝・腎・脾・前立腺・リンパ節など

- ・吹き付け・直接塗抹法（採取量が少ない場合）
穿刺針内に吸引された材料をスライドガラス上に勢いよく吹き出し、すみやかに 95%エタノールで固定して下さい。
- ・吹き付け・すり合わせ塗抹法（採取量が多い場合）
穿刺針内に吸引された材料をスライドガラス上に静かに吹き出し、もう 1 枚のスライドガラスで押し伸ばし、反対方向に引いて 2 枚の標本を作製後、すみやかに 95%エタノールで固定して下さい。

⑤捺印法：各種（固定）腫瘍組織・リンパ節など

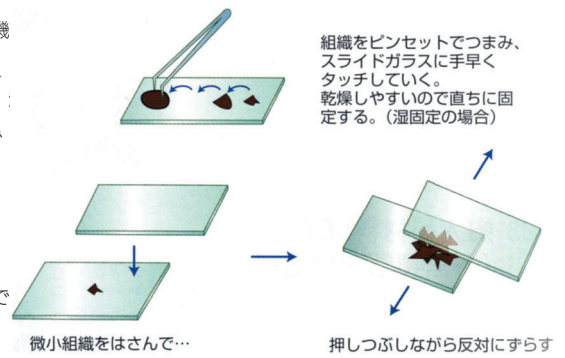
- ・新しく切った断面をスライドガラスに軽く捺印して下さい。なお、転移が疑われる小さなリンパ節では、被膜を含む断面全体を捺印してすみやかに 95%エタノールで固定して下さい。
- ・標本は、可能であれば 3 枚以上作製し、1 枚は乾燥固定して下さい。

⑥圧挫法：脳組織・骨・軟部組織など

- ・小組織塊を 2 枚のスライドガラスで挟み、軽く押しつぶしてすみやかに 95%エタノールで固定して下さい。

⑦擦過材料（ブラシ・ヘラ・綿棒など）の塗抹法：婦人科検体（膣部・頸部・体部）・舌・副鼻腔・気管支など

- ・綿棒ではスライドガラス面を転がすように、ヘラでは軽くなるように塗抹して下さい。又、ブラシはスライドガラスの上で転がすようにして塗抹して下さい。又、気管支ブラシなどでは、ピンセットではじくようにして擦過物を塗抹して下さい。
- ・婦人科細胞診（子宮膣部・頸部）で不適正を出さないためには、綿棒以外の採取器具（ブラシ・サーベックスブラシ等）を推奨いたします。



ブラシ・サーベックスブラシ等



※シードスワブでの検査は出来ません

綿棒



ころがす

ブラシ・鉗子



ピンセットで手早くはじく

●固定法

細胞は、生体を離れた時点から変性を始めますので、検体を採取後直ちに塗抹・固定をする必要があります。固定には湿固定と乾燥固定がありますが、目的の染色に沿った固定を行って下さい。

①湿固定

染色法：パピニコロウ染色

固定液：95%エタノール・コーティング固定剤（スプレー式、滴下式）など

②乾燥固定

染色法：ギムザ染色・PAS 染色

固定法：塗抹後直ちにドライヤー冷風にて急速乾燥させて下さい。（自然乾燥では乾燥ムラが、温風では細胞変性が生じます。）

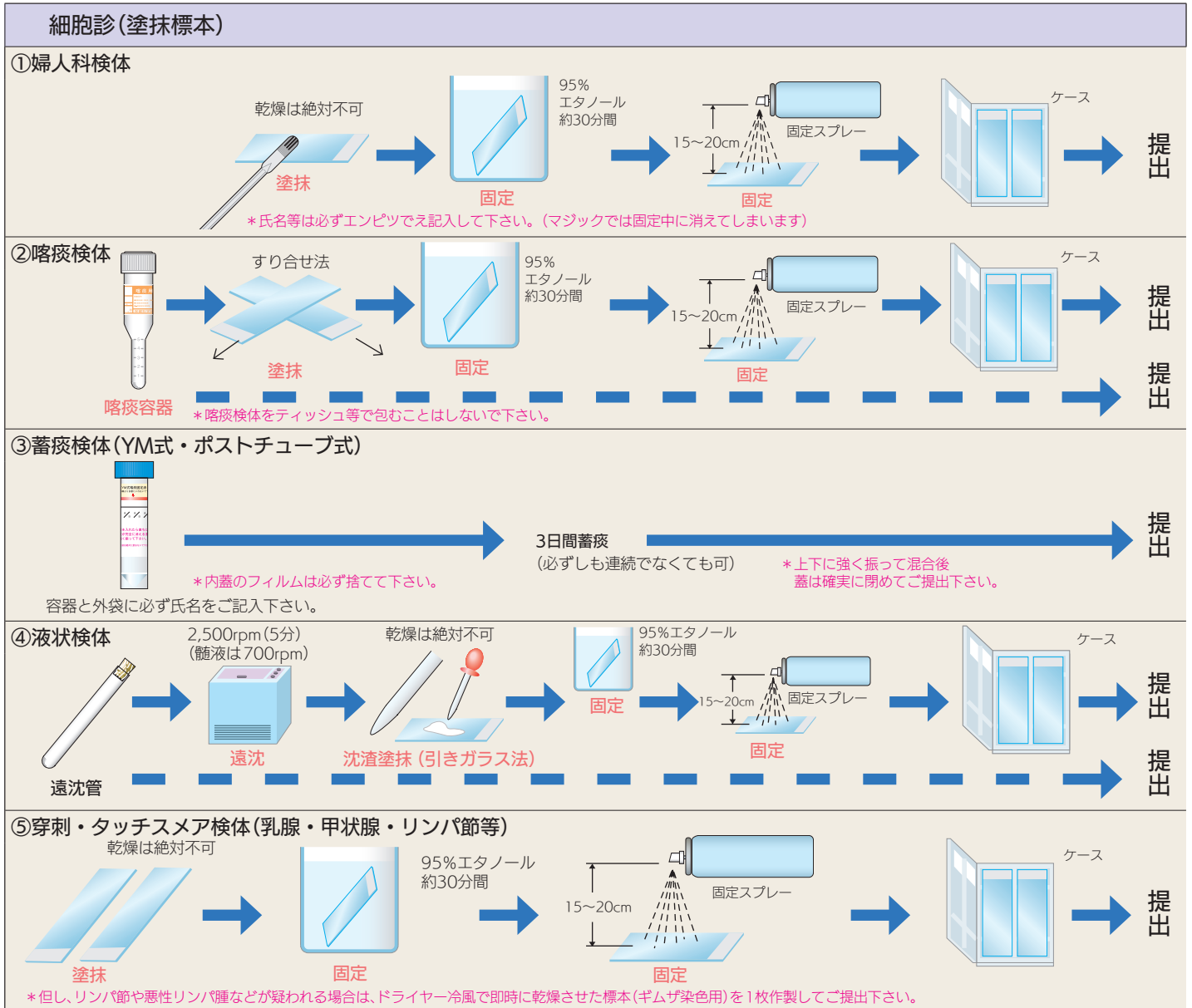
※固定後、カバーガラスをかけないで下さい。

※スライドガラスへの記入方法

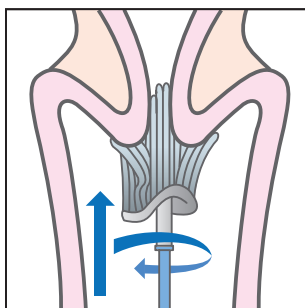
スリガラスの部分に鉛筆で氏名（フルネーム）とカルテ NO. をご記入下さい。（マジック・ラベルは不可）乾燥固定の検体はスライドに乾燥とご記入下さい。

※検体採取から固定までの時間

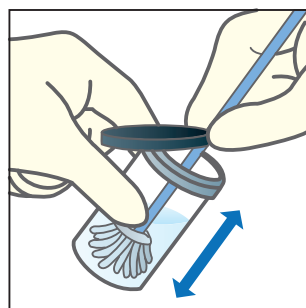
検体	塗抹までの放置時間	湿固定するまでの時間
擦過物：子宮・気管支ほか／分泌物：乳頭分泌物ほか	直ちに	3秒以内
穿刺材料：乳腺・甲状腺ほか／捺印材料：リンパ節などの断面	直ちに	1秒以内
体腔液：胸水・腹水ほか	室温12時間以内（冷蔵庫24時間）	3秒以内
消化管液：胆汁・唾液ほか	冷却採取1時間以内（出来るだけ早く）	3秒以内
尿・気管支洗浄液・髄液	室温1時間以内	3秒以内
喀痰・関節液	室温12時間以内	5秒以内



液状化検体細胞診(子宮頸部)採取方法



採取用のブラシを用いて細胞を採取して下さい。



ブラシを容器に入れブラシの柄を回転させて細胞を保存固定液に浮遊させて下さい。



しっかり蓋をしてご提出下さい。

注) サーベックスブラシは妊娠10週目以降の妊婦には使用できません。
※先端が外れるタイプのブラシをご使用の際は、ブラシを入れてご提出下さい。

その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備考
----------------	-------------------	---------------	---------------------	------	--------	----------	------------	----

肝炎検診

7051	HCV 検診セット (C 型肝炎ウイルス検診) (4086)	血清 0.6 及び 全血 8.0 注1 (同時提出)	A1-1 冷蔵 及び カ 冷蔵 (下記参照)	HCV 抗体の検出: LPIA 法 HCV 抗体検査: CLEIA 法 HCV 核酸増幅検査 :リアルタイム PCR 法	HCV 抗体の検出: (-) HCV 抗体検査: 1.0 未満 cut off index HCV 核酸増幅検査: (-)	2 } 6		※1、※2
------	--------------------------------------	--	---------------------------------	---	--	----------	--	-------

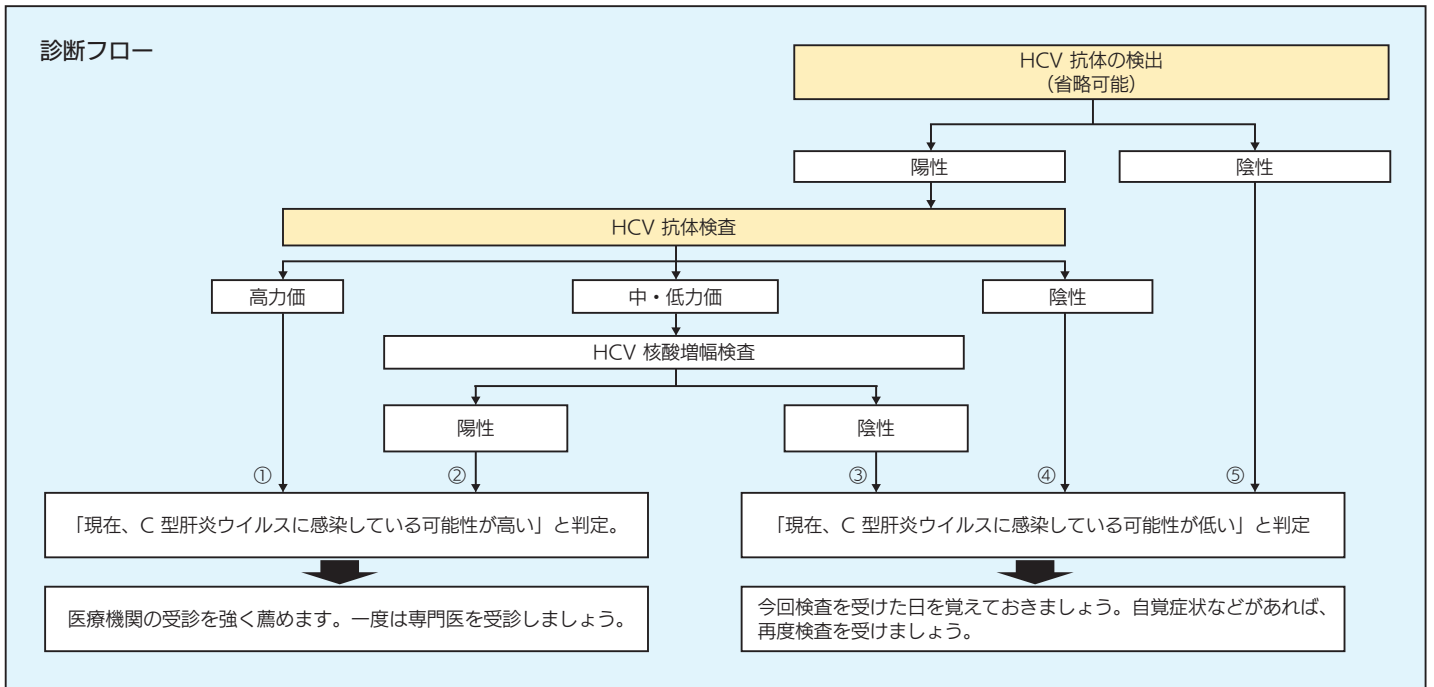
注1 「HCV抗体の検出」、「HCV抗体検査」は一般生化学と同じ採血管を使用できます。「HCV核酸増幅検査」については他の項目と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

※1 「HCV抗体の検出」より検査を開始します。「HCV抗体検査」より開始する検査については、担当営業所へお問い合わせ下さい。

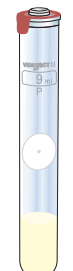
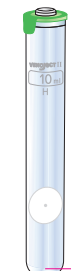
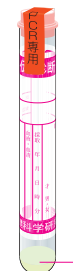
※2 HCV核酸増幅検査は外部委託検査になります。委託先は保健科学研究所「*G」です。

■判定結果 (C 型肝炎ウイルス検診)

- 「現在、C 型肝炎ウイルスに感染している可能性が高い」と判定されました。
判定理由 ①、②
- 「現在、C 型肝炎ウイルスに感染している可能性が低い」と判定されました。
判定理由 ③、④、⑤



健発 0208 第 11 号「健康増進事業に基づく肝炎ウイルス検診等の実施について」の一部改正について (別添 肝炎ウイルス検診実施要領の別紙 3 より)

 <p>A1-1 血清分離 冷蔵保存</p>	 <p>F-3 採血後静かに約 10 回ほど転倒混和し血漿分離 (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用</p> <p>ヘパリン 5mL 用 又は 10mL 用</p>	 <p>カ 直接採血後 4~5 回静かに転倒混和し常温にて 30分~60分放置して下さい。凝固完了を確認後遠心器にて 10~15 分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。</p> <p>分離剤入り 10mL 管</p>
--	---	---

その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
7677	倫理指針対象 予約検査 Y染色体微小欠失 (AZF欠失) (7677)	全血 5.0	E-1 冷蔵	PCR-rSSO法		5 10		*G
3173	脳梗塞リスク評価 (A6C) (7994)	血漿 2.0	F-3 ↓ G-1 凍結	*1	脳梗塞リスク値 高 値：0.80～1.0 境界値：0.44～0.79 低 値：0.0～0.43	10 14	*2	*T

*1 アクロレイン：ELISA法、IL-6：ELISA法、CRP：ラテックス凝集比濁法の3項目の結果を組み合わせ算出いたします。

*2 必ず、専用問診票をご提出下さい(性別、年齢必須)。又、検体は採血当日にご提出下さい。

【倫理指針対象検査について】

○本検査は倫理指針対象の遺伝学的検査となりますので、検査の実施に際しては、医師により被験者に対して検査の目的や方法、限界等について十分説明され、又、必要に応じて遺伝カウンセリングを受けたうえで、被験者の自由意志による同意（インフォームド・コンセント）が得られている必要があります。

○検査のご依頼にあたっては、「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。検査結果は匿名番号にて、ご担当医師宛てに親展扱いの封書でお届けいたします。

○研究検査

通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確ではない項目もあることをご理解のうえ、ご利用いただけますようお願いいたします。

【Y染色体微小欠失（AZF欠失）のご依頼時と結果報告に関する注意点】

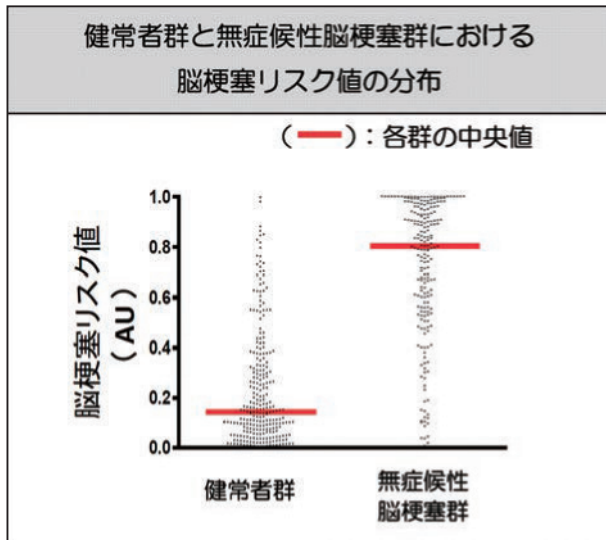
①他項目との重複依頼は避けて下さい。

②本検査はコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取に当たっては取扱いに十分ご注意下さい。

③ご依頼時は弊社「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。検査結果は匿名番号にて、ご担当医師宛てに親展扱いの封書でお届けいたします。

④本検査は倫理指針対象の遺伝学的検査となりますので、検査の実施に際しては、医師により被験者に対して検査の目的や方法、限界等について十分説明され、又、必要に応じて遺伝カウンセリングを受けた上で、被験者の自由意志による同意（インフォームド・コンセント）が得られている必要があります。

●脳梗塞リスク評価（A6C）の結果評価



脳梗塞リスク		健常者群 (%)	無症候性脳梗塞群 (%)
高 値	0.80～1.0	3.0	51.9
境界値	0.44～0.79	13.5	32.2
低 値	0.0～0.43	83.5	15.9

〔注意事項〕

当検査項目は脳梗塞リスクに関する情報を提供するものであり、脳梗塞を診断するものではありません。

E-1

採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)

EDTA-2Na
5mL

G-1

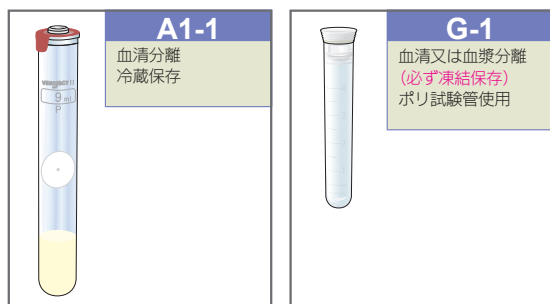
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
自己抗体								
1443 5G335	抗ランゲルハンス島細胞抗体 (ICA) (4411)	血清 2.0	A1 ↓ G-1 凍結	FA 法	1.25 未満 JDFU	13 ~ 20		JDFU : Juvenile Diabetes Foundation Units *8

○研究検査

通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確でない項目もあることをご理解の上、ご利用いただけますようお願いいたします。



その他・研究検査

●抗核抗体染色型と主な自己抗体 ※コード内()表記はグループコードです。

染色型	対応抗原	関連疾患	主な自己抗体	コード	測定法	
Homogeneous 型 (均質型)	DNA	SLE	抗 DNA 抗体 抗 ss-DNA - IgG 抗体 抗 ds-DNA-IgG 抗体 抗 ss-DNA - IgM 抗体 抗 ds-DNA-IgM 抗体	178(4075) 1125(4366) 1123(4368) 1126(4367) 1124(4369)	RIA EIA EIA EIA EIA	
	Histons	SLE, DIL	抗ヒストン抗体	—	未受託	
Peripheral 型 (辺縁型)	DNA	SLE	抗 DNA 抗体 抗 ds-DNA-IgG 抗体 抗 ds-DNA-IgM 抗体	178(4075) 1123(4368) 1124(4369)	RIA EIA EIA	
Speckled 型 (斑紋型)	U1RNP	MCTD, SLE	抗 RNP 抗体 (抗 n-RNP 抗体)	2540(4140) 377(4689)	MO CLEIA	
	U1,U2,U4-6RNP	SLE	抗 Sm 抗体	4340(4141) 137(4667)	MO CLEIA	
	RNA polymerase III 転写終結因子	SjS	抗 SS-B/La 抗体	2740(4143) 3335(4664)	MO CLEIA	
	DNA topoisomerase I	SSc	抗 Scl-70 抗体	4982(4188) 136(4692)	MO CLEIA	
	RNA polymerase III 70k/80kDa DNA-PK regulatory subunit *****	SSc PM-SSc, SLE SLE	抗 RNA ポリメラーゼIII抗体 抗 Ku 抗体 抗 Ki 抗体	2532(4807) — —	ELISA 未受託 未受託	
	細胞周期関連型	DNA polymerase δ 補助因子 *****	SLE SLE	抗 PCNA 抗体 抗 Na 抗体	— —	未受託 未受託
		Nucleolar 型 (核小体型)	7-2/8-2RNP	SSc	抗 Th/To 抗体	—
U3RNP	SSc		抗 U3RNP 抗体	—	未受託	
RNA polymerase III 核小体蛋白複合体	SSc PM-SSc		抗 RNA ポリメラーゼIII抗体 抗 PM-Scl 抗体	2532(4807) —	ELISA 未受託	
Ribosomal P 蛋白	SLE		抗 r-RNP 抗体 (抗リボソーム P 抗体)	—	未受託	
セントロメア型 (Discrete-Speckled 型)	CENP-B(80kD)	CREST, PBC	抗セントロメア抗体	2581(4627)	EIA	
Granular 型	Cajal body 結合蛋白 multiple nuclear dot(100kD)	PBC, SjS	抗 p80 coilin 抗体 抗 Sp-100 抗体	— —	未受託 未受託	
	核膜型	Lamina associated polypeptide 2 核膜孔複合体(gp210) p62 complex	PBC, AIH	抗核膜ラミン(LAP2) 抗体 抗 gp210 抗体 抗 p62 抗体	— — —	未受託 未受託 未受託
Cytoplasmic (細胞質抗体)		Ribosomal P 蛋白	SLE	抗 r-RNP 抗体 (抗リボソーム P 抗体)	—	未受託
		ゴルジ体(golgin-97)	SjS, AIH	抗 golgin-97 抗体※	—	未受託
	Y1-Y5 RNP	SjS, SLE	抗 SS-A/Ro 抗体※	2739(4142) 3334(4661)	MO CLEIA	
	48kDa tRNA 結合蛋白 *****	SSc	抗 Wa 抗体※	—	未受託	
		CTD	抗 Tu 抗体※	—	未受託	
	Signal recognition particle	PM	抗 SRP 抗体※	—	未受託	
	Histidyl-tRNA synthetase	PW/DM	抗 Jo-1 抗体※	4983(4189) 3260(4883)	MO CLEIA	
	Threonyl-tRNA synthetase	PW/DM	抗 PL-7 抗体※	—	未受託	
	Alanyl-tRNA synthetase	PW/DM, IP	抗 PL-12 抗体※	—	未受託	
	Glycyl-tRNA synthetase	PW/DM, IP	抗 EJ 抗体※	—	未受託	
	Isoleucyl-tRNA synthetase	PW/DM	抗 OJ 抗体※	—	未受託	
	Asparaginyl-tRNA synthetase	PW/DM, IP	抗 KS 抗体※	—	未受託	
M1 ~ M9	PBC	抗ミトコンドリア抗体 抗ミトコンドリア M2 抗体	264(4125) 213(4399)	FA CLEIA		
その他の自己免疫性肝炎 自己抗体	p97/valosin containing protein *****	PBC AIH	抗 p97/VCP 抗体 抗 MM 抗体	— —	未受託 未受託	
	actin	AIH	抗平滑筋抗体	375(4126)	FA	
	CYP II D6	AIH	抗 LKM1 抗体	2735(4115)	EIA	
				—	未受託	

赤字：研究検査（保険適応外）

SLE：全身性エリテマトーデス、DIL：薬剤誘発性ループス、MCTD：混合性結合組織病、SjS：シェーグレン症候群、SSc：強皮症
PM：多発性筋炎、DM：皮膚筋炎、CREST：限局性強皮症、PBC：原発性胆汁性肝硬変、CTD：膠原病
IP：間質性肺炎、AIH：自己免疫性肝炎、RA：関節リウマチ

※：対応抗原は細胞質に局在しますが蛍光抗体法での染色性は弱い

[参考文献]

- 1) (株) 医学生物学研究所：自己免疫疾患の診断基準と治療指針，第5版，2009
- 2) 保健科学グループ：Cefiro 自己免疫疾患 - 病態と治療 -，No.10，2009
- 3) 宮地清光，他：原発性胆汁性肝硬変と自己抗体．日本臨床免疫学会誌 31：47-55，2008

監修：慶進会 慶宮医院 宮地 清光

その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要 日数	実施料 判断料	備 考
感染症遺伝子検査								
2590	結核菌 Nested PCR	《髄液》 (7551)	髄液 1.0 注1 X-5 凍結	Nested PCR 法	(—)	4 { 12		M.Bovis BCGの一部の亜株は検出できない可能性があります。判定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果等と併せて担当医師が総合的に判断して下さい。
2589		《胸水》 (7552)	胸水 1.0 注1 X-5 凍結					

注1 コンタミネーションの影響がより大きい為、検体採取にあたっては取り扱いにご注意下さい。又、他項目との重複依頼は避けて下さい。

○研究検査

- 通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確でない項目もあることをご理解の上、ご利用いただけますようお願いいたします。
- 本検査の結果をもって診断及び、保険請求を行うことはできません。
- 試薬の供給状況の変化等により急遽、受託できない場合もあります。又、多数の検体をご依頼の場合やお急ぎの場合には事前にご相談下さい。

*G

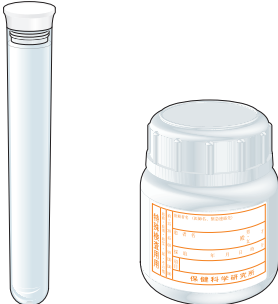


▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。


容 器	記号	保 存 方 法	検 査 項 目
A1 普通採血管(分離剤入り)  <p>添加剤・内容物</p> <p>採血量</p> <p>貯蔵方法 常温</p> <p>有効期限 分離剤入り試験管 1年</p> <p>備 考 血清を分離して凍結する場合はG試験管を使用して下さい。血球を用いる検査及び薬物検査の場合は分離剤入り試験管は使用しないで下さい。</p>	A1-1	血清分離 冷蔵保存	生化学的検査、他
	A1-2	血清分離 冷蔵保存 (凍結不可)	コレステロール分画、レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)、リポ蛋白分画、アポリ蛋白、リポ蛋白(a)、乳酸脱水素酵素(LDH)
	A1-3	採血後血清分離まで (必ず保温) 血清分離 冷蔵保存	寒冷凝集反応、クリオグロブリン
	A1-4	血清分離 常温保存 (凍結不可)	LD アイソザイム
A2 普通採血管(分離剤無し)  <p>添加剤・内容物</p> <p>採血量</p> <p>貯蔵方法 常温</p> <p>有効期限 プレーン試験管 2年</p> <p>備 考 血清分離が必要な場合には、G試験管に移し替えて提出して下さい。</p>	A2-1	血清分離 冷蔵保存	薬物検査、他
	A2-2	そのまま冷蔵保存 (血清分離不可) (凍結不可)	
	A2-3	抗凝固剤を入れずに採血 そのまま冷蔵保存 (血清分離不可)	間接クームス試験、クームス定量試験、不規則抗体
	A2-4	抗凝固剤を入れずに採血 そのまま (常温に保存) (血清分離不可)	交差適合試験
B EDTA-2K採血管  <p>添加剤・内容物 EDTA2K</p> <p>採血量 2mL</p> <p>貯蔵方法 常温</p> <p>有効期限 2年</p> <p>備 考</p>	B-1	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	血液形態・機能検査、有核細胞数、巨核細胞数
	B-2	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま (常温に保存)	

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容 器	記号	保 存 方 法	検 査 項 目
B2 血液型検査専用採血管  <ul style="list-style-type: none"> 添加剤・内容物 EDTA2K 採血量 2mL 貯蔵方法 常温 有効期限 2年 備 考 	B2-1	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	ABO血液型、Rh(D)血液型
	B2-2	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま (常温に保存)	直接クームス試験

C 尿検査用容器	記号	保 存 方 法	検 査 項 目
 <ul style="list-style-type: none"> 添加剤・内容物 採取量・容量 10mL 又は 50mL 貯蔵方法 常温 有効期限 3年 備 考 蓄尿の場合は尿量を明記して下さい。 	C-1	冷所に24時間蓄尿、尿量測定 混和、必要量提出 冷蔵保存 (尿量明記)	尿生化学検査、17-ケトステロイド分画 (17-KS分画)、プレグナンジオール (P2)、プレグナントリオール(P3)
	C-2	午前第2尿 冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)	デオキシピリジノリン(DPD)、NTx(I型 コラーゲン架橋 N-テロペプチド)
	C-3	蓄尿又は部分尿 必要量提出 冷蔵保存 (尿量記載の必要なし)	尿生化学検査、尿水銀(Hg)、他
	C-5	必要量を採取 冷蔵保存 (採尿時間、尿量明記)	クリアランステスト
	C-7	冷蔵保存(凍結不可) 2時間以上保管する場合は、尿100mL に中性ホルマリン0.5mLを加え、冷蔵保 存して下さい。 保存剤種類の明記と、「保存剤入り」のラ ベル貼付又は記入し、単体検体としてご 提出下さい。他検体と共有することはで きません。	尿沈渣
	C-9	6N塩酸20mL(小児5~10mL)を予め 入れた容器に24時間蓄尿、尿量測定、 混和、必要量提出 (尿量明記) (市販の塩酸を水で2倍に希釈する:6N 塩酸)	メタネフリン分画、他

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容 器	記号	保 存 方 法	検 査 項 目																							
D 凝固検査用採血管  <p>添加剤・内容物 3.2%クエン酸ナトリウム 0.2mL</p> <p>採血量 1.8mL</p> <p>貯蔵方法 常温</p> <p>有効期限 1年</p> <p>備 考 血漿を分離して凍結する場合はG試験管を使用して下さい。</p>	D-1	血液を正確に1.8mL入れ静かに約10回ほど転倒混和 (血漿分離) (必ず凍結保存) ポリ試験管使用	出血・凝固検査、ビタミンK分画、第Ⅷ因子様抗原																							
	D-3	血液を正確に1.8mL入れ転倒混和後、すみやかに室温にて1,500G以上15分間遠心後、上清の表面よりやや下の部分を1.0mL採取し、凍結保存にてご提出下さい。血小板の混入は、測定結果に影響しますので注意して下さい。 ※遠心機回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ $r = \text{ローター半径 (cm)}$ $n = \text{回転数 (rpm)}$	ループスアンチコアグラント 遠心力換算一覧表 <table border="1"> <thead> <tr> <th>半径 (cm)</th> <th>1,700G / 回転数 (rpm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>6</td><td>5,000</td></tr> <tr><td>8</td><td>4,400</td></tr> <tr><td>10</td><td>3,900</td></tr> <tr><td>11</td><td>3,700</td></tr> <tr><td>12</td><td>3,600</td></tr> <tr><td>13</td><td>3,400</td></tr> <tr><td>14</td><td>3,300</td></tr> <tr><td>15</td><td>3,200</td></tr> <tr><td>16</td><td>3,100</td></tr> <tr><td>19</td><td>2,800</td></tr> <tr><td>20</td><td>2,800</td></tr> </tbody> </table>	半径 (cm)	1,700G / 回転数 (rpm)	6	5,000	8	4,400	10	3,900	11	3,700	12	3,600	13	3,400	14	3,300	15	3,200	16	3,100	19	2,800	20
半径 (cm)	1,700G / 回転数 (rpm)																									
6	5,000																									
8	4,400																									
10	3,900																									
11	3,700																									
12	3,600																									
13	3,400																									
14	3,300																									
15	3,200																									
16	3,100																									
19	2,800																									
20	2,800																									

E EDTA-2Na採血管  <p>(E-6)</p> <p>添加剤・内容物 EDTA-2Na</p> <p>採血量 2mL 又は 5mL</p> <p>貯蔵方法 常温</p> <p>有効期限 2年</p> <p>備 考</p>	E-1	採血後静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	サイトメガロウイルス抗原(C10、C11) CMV(C10、C11)、PTH-Intact																								
	E-2	採血後静かに約10回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	EDTA 血漿内分泌検査、他																								
	E-3	採血後静かに約10回ほど転倒混和 そのまま(必ず凍結保存) ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結																									
	E-4	採血後静かに約10回ほど転倒混和、血漿分離 冷蔵保存																									
	E-5	採血後静かに約10回ほど転倒混和 低温にて180G 20分間遠心 多血小板血漿を分取し(必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	セロトニン(多血小板血漿) 遠心力換算一覧表 <table border="1"> <thead> <tr> <th>半径 (cm)</th> <th>180G / 回転数 (rpm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>6</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>8</td><td>1,400</td></tr> <tr><td>10</td><td>1,300</td></tr> <tr><td>11</td><td>1,200</td></tr> <tr><td>12</td><td>1,200</td></tr> <tr><td>13</td><td>1,100</td></tr> <tr><td>14</td><td>1,100</td></tr> <tr><td>15</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>16</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>19</td><td>900</td></tr> <tr><td>20</td><td>900</td></tr> </tbody> </table>	半径 (cm)	180G / 回転数 (rpm)	6	1,600	8	1,400	10	1,300	11	1,200	12	1,200	13	1,100	14	1,100	15	1,000	16	1,000	19	900	20	900
	半径 (cm)	180G / 回転数 (rpm)																									
6	1,600																										
8	1,400																										
10	1,300																										
11	1,200																										
12	1,200																										
13	1,100																										
14	1,100																										
15	1,000																										
16	1,000																										
19	900																										
20	900																										
E-6	採血後静かに約10回ほど転倒混和 PCR専用ラベルでキャップに封をし、 そのまま冷蔵保存(開栓不可)	HLA-A, B HLA-DR、他																									

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容 器	記 号	保 存 方 法	検 査 項 目
F ヘパリン採血管 添加剤・内容物 ヘパリンナトリウム 採血量 5mL 又は 10mL 貯蔵方法 常温 有効期限 2 年 備 考 血漿を分離して凍結する場合は G 試験管を使用して下さい。	F-1	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま (必ず凍結保存) (溶血してもよい) ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結	エタノール
	F-2	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、血漿分離 冷蔵保存	ピルメノール、アミオダロン
	F-3	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、血漿分離 (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	リポ蛋白リパーゼ (LPL)、脂肪酸 4 分画、 血漿アミノ酸分画定量
	F-4	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま常温保存 (必ず無菌採血) (凍結不可) (採血後 24 時間以内に検査)	細胞性免疫検査
	F-5	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	ニコチン酸、赤血球コプロポルフィリン、赤血球遊離プロトポルフィリン、鉛 (Pb) 全血、カドミウム (Cd) 全血、クロム (Cr) 全血、水銀 (Hg) 全血、マンガン (Mn) 全血、穿刺液細胞種類、穿刺液細胞数、染色体検査
	F-6	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、必ず常温保存	結核菌特異的インターフェロン - γ 産生能 (T-SPOT.TB)
	F-7	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和し、PCR 専用ラベルでキャップに封をして下さい。そのまま冷蔵保存 (開栓不可)	

容 器	記 号	保 存 方 法	検 査 項 目
G 汎用容器 添加剤・内容物 採取量・容量 貯蔵方法 常温 有効期限 備 考 血漿を分離して凍結する場合は G 試験管を使用して下さい。	G-1	血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用	血清又は血漿凍結項目
	G-2	血清又は血漿分離 冷蔵保存 (ゴム栓不可) ポリ試験管使用	亜鉛 (Zn) 血清
	G-5	冷所に 24 時間蓄尿 尿量測定、混和、 必要量提出 (尿量明記) (必ず凍結保存)	尿アミノ酸分析定量、尿アルドステロン
	G-6	蓄尿又は部分尿 必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量記載の必要なし)	尿生化学検査、尿中レジオネラ抗原定性、他
G-7	トルエン 1 ~ 2mL を加え 冷所に 24 時間蓄尿 尿量測定、混和、 必要量提出 (尿量明記) (必ず凍結保存)	尿サイクリック AMP (c-AMP)	

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容器	記号	保存方法	検査項目
I 尿検査用遮光容器 添加剤・内容物 採取量・容量 10mL 又は 50mL 貯蔵方法 常温 有効期限 2年 備考 蓄尿の場合は尿量を明記して下さい。 	I-1	蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (遮光保存)	総三塩化物、三塩化(トリクロル) 酢酸、マンデル酸、馬尿酸、メチル馬尿酸、N-メチルホルムアミド、2,5-ヘキサジオン、ウロポルフィリン定量、コプロポルフィリン定量
	I-2	冷所に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 冷蔵保存 (遮光保存) (尿量明記)	デルタアミノレブリン酸定量、ポルフォビリノーゲン定量
	I-3	6N 塩酸 20mL(小児 5 ~ 10mL)を予め入れた容器に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量明記) (市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する: 6N 塩酸)	尿カテコールアミン分画、尿 5- ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)、尿ホモバニリン酸 (HVA)、尿パニールマンデル酸 (VMA)

容器	記号	保存方法	検査項目
X 汎用滅菌容器 添加剤・内容物 採取量・容量 10mL 貯蔵方法 常温 有効期限 3年 備考 PCR 法などは PCR 専用ラベルでキャップに封をして下さい。 	X-1	必要量採取 冷蔵保存 (凍結不可)	穿刺液・採取液検査
	X-2	必要量採取 冷蔵保存	オリゴクロナルバンド、ウイルス抗体検査(髄液)など
	X-3	必要量採取 冷蔵保存 (凍結不可)	精液一般検査
	X-4	必要量採取 常温保存	
	X-5	必要量採取 (必ず凍結保存)	髄液カテコールアミン分画、髄液 5- ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)、髄液ホモバニリン酸 (HVA)、髄液パニールマンデル酸 (VMA)

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

H1 細胞性免疫検査用容器(骨髓液)

添加剤・内容物
RPMI-1640、FBS、硫酸カナマイシン、
ノボヘパリン Na、炭酸水素、HEPES

採取量・容量
5mL



貯蔵方法
凍結

有効期限

色が薄いピンクの状態で使用して下さい。(凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります)

検査項目

白血病・リンパ種解析検査 (LLA) CD45 ゲーティング

備考

指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存して下さい。検体は採取後、当日中にご提出下さい。

H2 細胞性免疫検査用容器(リンパ節)

添加剤・内容物

FBS、PBS、
硫酸カナマイシン

採取量・容量

10mL



貯蔵方法
凍結

有効期限

1年

検査項目

悪性リンパ種解析検査 (MLA)
CD45 ゲーティング

備考

リンパ節 5 × 5 × 5mm を容器に浮遊させ、冷蔵保存して下さい。検体は採集後、当日中にご提出下さい。

J 血糖・HbA1c検査専用採血管

添加剤・内容物

フッ化ナトリウム

採血量

2mL

貯蔵方法

常温

有効期限

2年

検査項目

血糖、HbA1c

備考

血液 2mL を入れ静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま 4 ~ 6℃ 保存 (凍結不可)



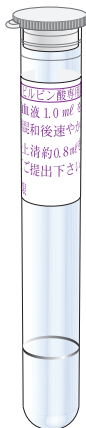
L 乳酸・ピルビン酸検査専用容器

添加剤・内容物

過塩素酸除蛋白液 1.0mL

採取量・容量

1.0mL



貯蔵方法
冷蔵

有効期限

調整後 6 ヶ月

検査項目

乳酸・ピルビン酸

備考

血液を正確に 1.0mL 入れ激しく振とう混和、すみやかに遠心分離し上清を凍結用ポリ試験管 (G) に移し、凍結保存

M アンモニア検査除蛋白専用採血管

添加剤・内容物

タングステン酸ナトリウム

4mL

採血量

1mL



貯蔵方法

常温 (約 15 ~ 25℃)

有効期限

(ラベルに記載)

検査項目

アンモニア

備考

真空採血厳禁
血液を正確に 1mL 入れ十分に振とう混和すみやかに遠心分離後 (上清を直ちに凍結保存) 保存はポリ試験管容器に移すとき、沈殿物が混ざらないよう注意して下さい。

P 血沈検査専用採血管

添加剤・内容物

3.8% クエン酸ナトリウム

0.4mL

採血量

1.6mL

貯蔵方法

常温

有効期限

1年

検査項目

血沈

備考

転倒混和後、冷蔵保存



Q 尿中FDP検査専用採取容器

添加剤・内容物

抗プラスミン剤

採取量・容量

尿 2mL

貯蔵方法

常温

有効期限

1年

検査項目

尿中 FDP

備考

尿 2mL を入れ静かに 10 回ほど転倒混和 (上清分離) 凍結保存ポリ試験管使用 (ヘパリン使用者はその旨明記)



R 血小板第 4 因子・β-トロンボグロブリン検査専用採血管

添加剤・内容物

抗血小板剤

採血量

2.7mL

貯蔵方法

遮光・冷蔵

有効期限

1年

検査項目

血小板第 4 因子、β-トロンボグロブリン

備考

本文 100 頁参照



S EDTA-2K 採血管 凍結用

添加剤・内容物

EDTA-2K

採血量

2.0mL

貯蔵方法

常温

有効期限

1年

検査項目

ビタミン B1 (チアミン)、ビタミン B2 (リボフラビン)、セロニン (全血)、シクロスポリリン、タクロリムス

備考

採血後静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま (必ず凍結保存) ガラス管の場合は、ポリ試験管に移して凍結。他の検査項目との同時依頼はできません。



▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

T 無蛍光スライドグラス(1ウェル)

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
2年

検査項目
水痘带状疱疹抗原 FA 法

備考
91頁参照



U 無蛍光スライドグラス(2ウェル)

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
2年

検査項目
単純ヘルペスウイルス抗原

備考
91頁参照



UB ユービット用呼気採取バック

添加剤・内容物

採取量・容量
呼気 200 ~ 250mL

貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目
尿素呼気試験 (UBT) (ユービット)

備考
61頁参照



W1 液状検体細胞診[LBC]シユアパス

添加剤・内容物
エタノール18-30%、メタノール1-2%、イソプロパノール1~1.8%含有


採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
容器に記載

検査項目
婦人科材料 LBC、HPV-DNA 簡易ジェノタイプ

備考



W4 液状検体細胞診[LBC]シンプレップ

添加剤・内容物
メタノール 55%含有

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1年6ヶ月

検査項目
HPV-DNA ジェノタイプ (ハイリスク13種)、HPV-DNA 型別

備考
ブラシの先端は容器に残さないで下さい。



X2 オブジェクトケース

添加剤・内容物

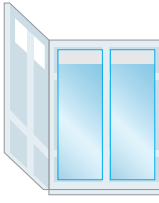
採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目

備考



Y (1→3)-β-D-グルカン検査専用採血管

添加剤・内容物

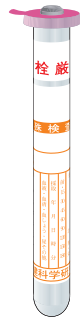
採血量
3mL

貯蔵方法
常温

有効期限
2年

検査項目
(1→3)-β-D-グルカン

備考
採血部位をよく消毒して採血し、栓を開けずに血液を注入
汚染を避けて冷蔵保存



Y2 エンドトキシン検査専用採血管

添加剤・内容物
ヘパリン Na

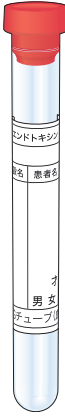
採血量
2mL

貯蔵方法
常温

有効期限
製造後1年

検査項目

備考



Z ビタミンC検査専用容器

添加剤・内容物
0.8N 過塩素酸 0.5mL


採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
1年

検査項目
ビタミンC

備考
採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mLを専用容器「Z」に加え、混和後、遠心分離し、その上清をポリスピッツ(遮光)にてご提出下さい。



▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

イ 糞便検査汎用容器



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法

常温

有効期限

3年

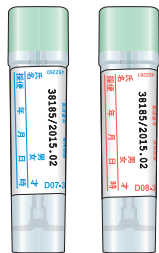
検査項目

糞便一般検査

備考

新鮮糞便を拇指頭大容器に取りしっかりフタを閉める。

ロ 糞便ヘモグロビン(潜血LA)検査専用容器



1日目

2日目

添加剤・内容物

保存液

採取量・容量

貯蔵方法

常温

有効期限

ラベルに記載

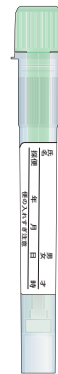
検査項目

糞便ヘモグロビン(潜血LPIA)

備考

1. 専用容器のラベルに必要事項を記入して下さい。
2. キャップを引き抜きキャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取して下さい。
3. キャップを容器に差し込みしっかり閉めて下さい。(容器内の液を捨てないで採取して下さい) (冷蔵保存)

ニ 専用採便容器



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法

冷蔵

有効期限

18ヶ月

検査項目

ノロウイルス抗原(BLEIA)

備考

1. 専用容器のラベルに必要事項を記入して下さい。
2. キャップを回転させて抜き取りキャップに付いている採便棒で便の表面を幅広くこするか、5~6ヶ所を突き刺して先端の溝が埋まるように糞便を採取して下さい。
3. キャップをしっかりと締め、容器を縦に数回強く振って下さい。

ホ HIV-1RNA定量検査用採血管(血漿)



分離剤入り

添加剤・内容物

EDTA-2K

採血量

8mL

貯蔵方法

常温

有効期限

1年

検査項目

HIV-1RNA 定量

備考

指定の採血量(8mL)を採取後、4~5回静かに転倒混和して下さい。
遠心機にて遠心(1,200G ± 400G、20分)したのち冷蔵保存して下さい。(凍結厳禁)
他の項目との重複依頼は受付できません。

ト ウイルス分離・同定検査用培養細胞試験管



添加剤・内容物

ウイルス専用保存液

採取量・容量

貯蔵方法

冷蔵

有効期限

6ヶ月

検査項目

ウイルス分離・同定

備考

本文 89 頁参照

リ 病理組織検査容器



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法

常温

有効期限

検査項目

病理組織・虫体検出

備考

提出物の大きさに合う容器を選択し、指定の固定液で固定して提出して下さい。容器には必ず医薬用外劇物の表示をして提出して下さい。

ヌ 滅菌採水容器



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法

常温

有効期限

容器に表示(製造日より3年)

検査項目

透析液細菌培養

備考

採水方法で影響を受けやすく、不適になる場合があります。
容器に記載されている注意事項をよく読んで、正しく採水して下さい。

ワ PCR検査用滅菌喀痰容器



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法

常温

有効期限

3年

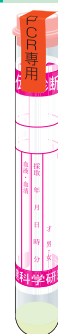
検査項目

TB-PCR、MAC DNA (PCR)

備考

うがいをした後滅菌喀痰容器に痰出し、密栓後PCR専用シールにて封をし、冷蔵保存して下さい。

カ リアルタイムPCR法専用採血管



添加剤・内容物

採血量

8.0mL

貯蔵方法

常温

有効期限

1年

検査項目

HCV-RNA 定量ほか

分離剤入り 10mL 管

備考

直接採血後4~5回静かに転倒混和し常温にて30~60分放置して下さい。
凝固完了を確認後遠心器にて10~15分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。
他の項目との重複依頼は受付できません。

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

カ2 遺伝子検査専用採血管

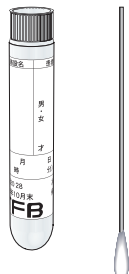


添加剤・内容物
採血量
5.0mL
貯蔵方法
常温
有効期限
1年
検査項目

備考

直接採血後 4～5回静かに転倒混和し常温にて 30～60分放置して下さい。
凝固完了を確認後遠心器にて 10～15分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。
他の項目との重複依頼は受付できません。

タ アデノウイルス抗原検査専用容器



添加剤・内容物
検体希釈液 0.5mL
採取量・容量
貯蔵方法
冷蔵 (2～8℃)
有効期限
製造月日より 11ヶ月
検査項目
アデノウイルス抗原

備考

1. 角膜上皮細胞の場合患眼に必要な表面麻酔剤を点眼して下さい。
2. 綿棒を袋から取り出し、患部をこすり、可能な限り多くの上皮を擦過して下さい。
3. 採取した綿棒をチューブに入れ、中の溶液につけ、よく抽出して下さい。
4. 綿棒の上1cm位のところで、軸をねじ切ってふたをして下さい。
5. チューブは冷蔵で保存して下さい。

ソ アルミニウム検査専用試験管



添加剤・内容物
採取量・容量
貯蔵方法
常温
有効期限
3年
検査項目
アルミニウム
備考

備考

2mL採血そのまま冷蔵保存 (ガラス器具は絶対使用しないで下さい。)

ネ アプロチニン入りEDTA 試験管

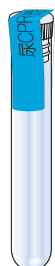


添加剤・内容物
EDTA-2Na・トラジオール (アプロチニン)
採血量
2mL
貯蔵方法
常温
有効期限
製造後 12ヶ月
検査項目

備考

採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用

ナ 尿 C-ペプチド検査専用容器 (尿 C-ペプチド安定化剤使用)



専用安定化剤
添加剤・内容物
採取量・容量
貯蔵方法
常温
有効期限
3年
検査項目
C-ペプチド (尿)

備考

- 予め専用安定化剤を蓄尿容器に一袋全量 (10g/袋 最終濃度約 0.5%) を入れて 24 時間蓄尿を行って下さい。尿量測定、混和、凍結用容器に「尿 CPR 安定化剤入り」のラベルを貼り、必要量提出 (尿量明記) (凍結保存)
- 特長
1. 予めの安定化剤添加により、常温蓄尿が可能
 2. 蓄尿サンプルで他項目の検査依頼は不可

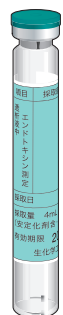
オ 金属分析用容器



添加剤・内容物
採取量・容量
貯蔵方法
冷蔵
有効期限
検査項目
マンガン、ニッケル
備考

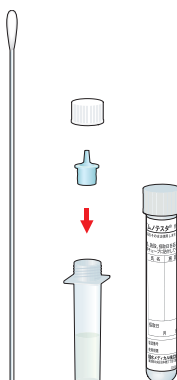
備考

ヤ2 透析液エンドトキシン採取管 (HDチューブ)



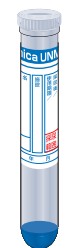
添加剤・内容物
安定化剤
採取量・容量
4mL
貯蔵方法
冷蔵
有効期限
ラベルに記載
検査項目
備考

マ2 癌胎児性フィブロネクチン検査専用容器



添加剤・内容物
保存液
採取量・容量
貯蔵方法
常温
有効期限
1年
検査項目
癌胎児性フィブロネクチン
備考
117頁参照

フ 尿中NMP22検査専用容器



添加剤・内容物
牛血清アルブミン、糖類、抗菌剤、塩類、色素
採取量・容量
貯蔵方法
遮光・常温
有効期限
容器に表示
検査項目
尿中 NMP22
備考
46頁参照

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

コ 尿中Ⅳ型コラーゲン検査専用容器

添加剤・内容物
1.5M Tris-HCl 0.5mL

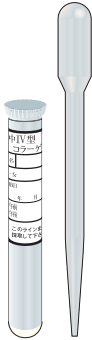
採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

検査項目
尿中Ⅳ型コラーゲン

備考
111 頁参照



エ1 淋菌・クラミジア(PCR)検査擦過細胞専用容器

添加剤・内容物
グアニジン塩酸塩

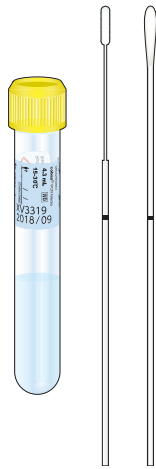
採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
クラミジア・トラコマチス DNA [PCR]、淋菌/クラミジア・トラコマチス DNA [PCR]、淋菌 DNA [PCR]

備考
71 頁参照



エ2 淋菌・クラミジア(PCR)検査尿/うがい液専用容器

添加剤・内容物
グアニジン塩酸塩

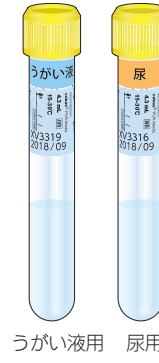
採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
クラミジア・トラコマチス DNA [PCR]、淋菌/クラミジア・トラコマチス DNA [PCR]、淋菌 DNA [PCR]

備考
72 頁参照



テ 顆粒球エラストーゼ検査専用容器

添加剤・内容物
抽出液 (リン酸バッファー)

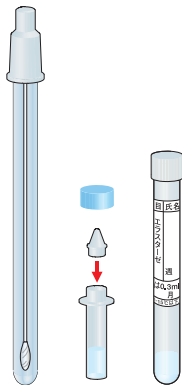
採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
容器に記載

検査項目
子宮頸管粘液顆粒球エラストーゼ

備考
117 頁参照



ア ミオグロビン検査尿専用容器

添加剤・内容物
安定化剤

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

検査項目
ミオグロビン尿

備考
採尿した尿を入れよく混和させ、4～6℃保存



サ EGFR遺伝子変異解析(血漿)検査専用容器

添加剤・内容物

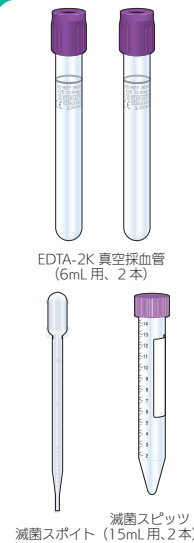
採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目
EGFR 遺伝子変異解析(血漿)

備考



キ HPV DNA 検出(高リスク)検査専用容器

添加剤・内容物

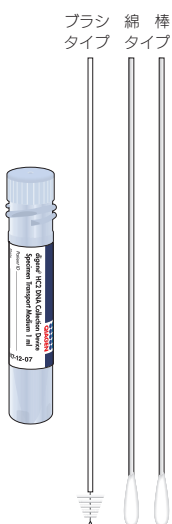
採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

検査項目
HPV DNA 検出 (高リスク)

備考
妊婦中の女性には、ブラシタイプを使用せず、綿棒タイプをご使用下さい。



メ ヘリコバクター・ピロリ抗原検査専用容器

添加剤・内容物

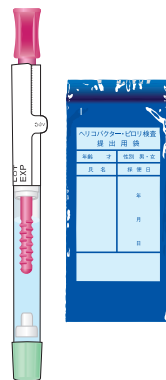
採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

検査項目
ヘリコバクター・ピロリ抗原

備考
61 頁参照



ヒ 糞便ヘモグロビン・トランスフェリン(潜血金コロイド)検査専用容器

添加剤・内容物

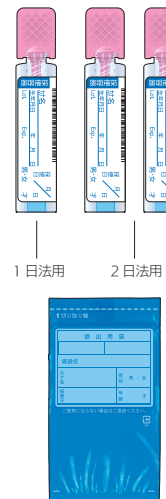
採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
糞便ヘモグロビン・トランスフェリン (潜血金コロイド)

備考
1. 採便スティックを回し、容器より抜く。
2. 採便スティックの溝が埋まる程度に便の表面をまんべんなくこすり取る。(取りすぎ、少なすぎは不可)
3. 容器に採便スティックを1回で差し込み、しっかり開める。



▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

モ 血小板関連 IgG (PA-IgG) 検査専用採血管



添加剤・内容物
ACD-A 保存液入り

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1年
(アルミシート開封後1ヶ月)

検査項目
血小板関連 IgG (PA-IgG)

備考
血液 7.5mL を入れ静かに約 10 回ほど転倒混和し、そのまま冷蔵保存して下さい。(凍結不可)
(注) 末梢血の血小板が 3 万 / μ L 以下の場合は、専用容器を 2 本使用し必ず 10mL 以上採血して下さい。

FL ヘパリンリチウム採血管



添加剤・内容物
ヘパリンリチウム

採取量・容量
6mL

貯蔵方法
常温

有効期限
ラベルに記載

検査項目
結核菌特異的インターフェロン- γ 産生能 (QFT プラス)

備考
採血後、静かに約 10 回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存

NK NK細胞活性専用採血管



添加剤・内容物
保存液 0.7mL

採取量・容量
5mL

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
1年
(アルミシート開封後1ヶ月)

検査項目
NK細胞活性

備考
よく混和させ冷蔵保存して下さい。検体は採取後、当日中にご提出下さい。

検体の安定性

検査項目	期間
生化学的検査	
総蛋白(TP)	凍結 1年間
アルブミン	凍結 1年間
蛋白分画	凍結 1年間
プレアルブミン(トランスサイレチン)	凍結 6週間
フェリチン定量	凍結 2週間
セルロプラスミン(CP)	凍結 1年間
IV型コラーゲン7S	凍結 2週間
α_1 -マイクログロブリン	凍結 1年間
β_2 -マイクログロブリン	凍結 1年間
心筋トロポニンT(TnT)	凍結 3週間
血糖(グルコース)	凍結 1年間
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5-AG)	凍結 1年間
HbA1c	冷蔵 1週間
総コレステロール(T-Cho)	凍結 1年間
LDL-コレステロール(LDL-C)	深凍結 1週間
HDL-コレステロール(HDL-C)	凍結 3週間
中性脂肪(TG)	凍結 1週間
リン脂質(PL)	凍結 1週間
遊離脂肪酸(FFA・NEFA)	凍結 1週間
β -リポ蛋白	凍結 6週間
総胆汁酸(TBA)	凍結 1年間
尿素窒素(UN)	凍結 6週間
クレアチニン	凍結 6週間
シスタチンC	凍結 1週間
クレアチン	凍結 6週間
尿酸(UA)	凍結 6週間
アンモニア	凍結 1週間
総ビリルビン(T-Bil)	凍結 1週間(遮光)
ハプトグロビン	凍結 4週間
赤血球プロポゴルフィリン	冷蔵 1週間(遮光)
AST(GOT)	凍結 4週間
ALT(GPT)	凍結 1週間
アルカリホスファターゼ(ALP)IFCC	凍結 6週間
酸ホスファターゼ(ACP)	凍結 1週間
乳酸脱水素酵素(LD)IFCC	常温 5日間
コリンエステラーゼ(ChE)	凍結 6週間
γ -グルタミールトランスペプチダーゼ(γ -GT)	凍結 6週間
ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	凍結 3週間
アルドラーゼ(ALD)	凍結 2週間
クレアチンキナーゼ(CK)	凍結 1週間
CK-MB	凍結 4日間
アミラーゼ(AMY)	凍結 1年間
リパーゼ	凍結 6週間
アデニンデアミナーゼ(ADA)	凍結 1週間
グアナーゼ(GU)	凍結 10日間
リゾチーム	冷蔵 1週間
アンギオテンシン I 転換酵素(ACE)	凍結 1週間
トリプシン	凍結 6週間
BAP(骨型アルカリホスファターゼ)	深凍結 2週間
totalP1NP(I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	凍結 6週間
LD アイソザイム	室温 5日間
アミラーゼアイソザイム	凍結 1年間
CKアイソザイム	凍結 6週間
乳酸	凍結 1週間
ビルビン酸	凍結 1週間
ナトリウム(Na)	凍結 1年間
クロール(Cl)	凍結 1年間
カリウム(K)	凍結 1年間
カルシウム(Ca)	凍結 1年間
マグネシウム(Mg)	凍結 1年間
無機燐(P)	凍結 1週間
鉄(Fe)	凍結 6週間
総鉄結合能(TIBC)	凍結 6週間
不飽和鉄結合能(UIBC)	凍結 6週間
銅(Cu)	凍結 6週間
亜鉛(Zn)	凍結 1年間
総三塩化物(TTC)	凍結 1週間
三塩化(トリクロル)酢酸(TCA)	凍結 1週間
マンデル酸(MA)	凍結 1週間
馬尿酸(HA)	凍結 1週間
メチル馬尿酸(MHA)	凍結 1週間
δ -アミノレブリン酸定量(δ -ALA)	冷蔵 1週間
N-メチルホルムアミド	凍結 1週間

検査項目	期間
2,5-ヘキサジオン	凍結 1週間
ビタミンA(レチノール)	冷蔵 1週間(遮光)
レチノール結合蛋白(RBP)	凍結 1年間
ビタミンB ₁ (チアミン)	凍結 10日間(遮光)
ビタミンB ₂ (リボフラビン)	冷蔵 1週間(遮光)
ビタミンB ₆	冷蔵 1週間(遮光)
ビタミンB ₁₂	凍結 3週間
葉酸	凍結 1週間
ビタミンC(アスコルビン酸)	凍結 2週間
アミノ酸分析定量(尿)	凍結 3週間
クレアチニンクリアランス	凍結 6週間

内分泌学的検査

成長ホルモン(GH)	凍結 6週間
甲状腺刺激ホルモン(TSH)	凍結 6週間
黄体形成ホルモン(LH)	凍結 6週間
卵胞刺激ホルモン(FSH)	凍結 6週間
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	凍結 45日間
プロラクチン(PRL)	凍結 3週間
トリヨードサイロニン(T ₃)	凍結 6週間
遊離トリヨードサイロニン(F-T ₃)	凍結 1週間
サイロキシン(T ₄)	凍結 6週間
遊離サイロキシン(F-T ₄)	凍結 1週間
サイロキシン結合蛋白(TBG)	凍結 3週間
サイログロブリン(Tg)	凍結 3週間
カルシトニン	凍結 3週間
副甲状腺ホルモン(高感度)(HS-PTH)	凍結 3週間
副甲状腺ホルモン(PTH-Intact)	凍結 6週間
インスリン(IRI)	凍結 6週間
C-ペプチド(CPR)	凍結 3週間
カテコールアミン分画(尿)	凍結 1週間(pH<3)
5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)(尿)	凍結 1週間(pH<3)
ホモバニリン酸(HVA)(尿)	凍結 3週間(遮光)
バニルマンデル酸(VMA)(尿)	凍結 1週間(pH<3)
11-ハイドロキシコルチコステロイド(11-OHCS)	凍結 1週間
コルチゾール	凍結 6週間
アルドステロン(血清、血漿)	凍結 1年間
エストラジオール(E ₂)(血清)	凍結 6週間
プロゲステロン	凍結 1週間
テストステロン(血清)	凍結 2週間
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(血清)	凍結 1年間
セロトニン(全血)	凍結 15日間
レニン活性	凍結 2週間
HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	凍結 2週間
BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	凍結 2週間
NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	凍結 1週間
エリスロポエチン	凍結 10日間
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	凍結 3週間

腫瘍マーカー

α -フェトプロテイン(α -FP)定量	凍結 1年間
癌胎児性抗原(CEA)	凍結 1年間
NCC-ST-439	凍結 1週間
CA19-9	凍結 長期間
CA15-3	凍結 2週間
CA125	凍結 1年間
BCA225	凍結 1週間
SLX(シアリルLe ^x -i)	凍結 2週間
CA72-4	凍結 3週間
シフラ(CYFRA21-1)(サイトケラチン19フラグメント)	凍結 6週間
エラスターゼ1	凍結 6週間
前立腺特異抗原(PSA)	凍結 長期間
NSE(神経特異エノラーゼ)	凍結 2年間
α_1 -酸性糖蛋白(α_1 -AGP)	凍結 1週間
NTX(I型コラーゲンCテロペプチド)(尿)	凍結 1年間
TRACP-5b定量	凍結 1週間
抗p53抗体	凍結 7日間

免疫学的検査

RPR法定量	凍結 1年間
TPHA法定量	凍結 1年間
FTA-ABS法定量	凍結 6週間
抗ストレプトリジンO価	凍結 4週間
マイコプラズマ抗体半定量(PA)	凍結 6週間
百日咳菌抗体	凍結 1週間

検査項目	期間
プロカルシトニン定量(PCT)	凍結 3週間
エンドトキシン	深凍結 1週間
(1 \rightarrow 3)- β -D-グルカン	深凍結 1週間
肺炎球菌莢膜抗原定性(尿)	凍結 2週間
肺炎球菌莢膜抗原定性(髄液)	凍結 1週間
RF(リウマチ因子)定量	凍結 4週間
抗CCP抗体定量	凍結 1週間
抗ガラクトース欠損IgG抗体	凍結 1年間
MMP-3	凍結 1年間
抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体)	凍結 1年間
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	凍結 1週間
TSHレセプター抗体(第3世代)	凍結 1週間
IgG	凍結 1週間
IgA	凍結 1週間
IgM	凍結 1週間
補体蛋白C ₃ (β 1C/ β 1Aグロブリン)	凍結 1週間
補体蛋白C ₄ (β 1Eグロブリン)	凍結 1週間
C1q	凍結 3週間
血清補体価(CH ₅₀)	凍結 2週間
C反応性蛋白定量(CRP定量)	凍結 4週間
トランスフェリン	凍結 1週間
TARC	凍結 1週間
HBs抗原	凍結 1年間
HBs抗体	凍結 1年間

血液学的検査

白血球数(WBC)	冷蔵 1日間
赤血球数(RBC)	冷蔵 1日間
血色素(Hb)	冷蔵 1日間
ヘマトクリット値(Ht)	冷蔵 1日間
血小板数(PLT)	冷蔵 1日間
浸透圧	凍結 1週間
血小板第4因子	凍結 1週間
β -トロンボグロブリン(β -TG)	凍結 1週間

薬物検査

フェニバルビタール	凍結 3週間
フェニトイン	凍結 3週間
カルバマゼピン	凍結 3週間
バルプロ酸	凍結 1週間
クロナゼパム	凍結 3週間
ゾニサミド	凍結 3週間
ニトラゼパム	凍結 3週間
ハロペリドール	凍結 2週間
プロムペリドール	凍結 3週間
ジゴキシン	凍結 6週間
塩酸ビルジサイニド	凍結 6週間
メキシレチン	凍結 6週間
バンコマイシン	凍結 長期間
シクロスポリン(免疫抑制剤)	凍結 長期間
タクロリムス(免疫抑制剤)	凍結 6週間
テオフィリン	凍結 3週間

尿・糞便検査

尿浸透圧	凍結 6週間
蛋白定量	凍結 6週間
尿NAG	凍結 1週間
デルタアミノレブリン酸定量	冷蔵 1週間

BLEIA 法：生物化学発光免疫測定法

Bioluminescent Enzyme Immunoassay

生物発光の一種であるホタルルシフェラーゼ発光を検出原理とした、高感度な検査方法。ホタルルシフェラーゼによる生物発光法は、従来の ELISA 法やイムノクロマト法の化学発光法と比較して感度が数倍から数十倍高く、PCR 法と同等の高感度な方法である。

CF 法：補体結合反応

Complement Fixation Test

抗原抗体複合物に結合し、しかも抗体と協同で溶血反応を引き起こすという補体の性質を応用した抗体価の測定法である。補体の存在下で検体中の抗体に抗原を作用させると、抗原抗体複合物ができ補体はそれに結合してしまう（第 1 相）。続いて抗体の一種である溶血素を結合させたヒツジ赤血球（感作赤血球）を加えても、補体はすでに消費されているため溶血は起こらない（第 2 相）。検体中に抗体がないときは、抗原と補体を作用させても抗原抗体複合物ができないため補体は消費されず、感作赤血球を加えると溶血が起こることになる。すなわち、補体結合反応では溶血が起これば陰性、起こらなければ陽性である。

CLEIA 法：化学発光酵素免疫測定法

Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

抗原抗体反応を利用し、標識物質として酵素を使い、その活性測定に化学発光反応を用いている。原理的には EIA 法と同様であるが、最終段階の酵素反応が呈色反応ではなく化学発光反応である点が異なっている。CLEIA 法の代表的な測定手法としては、磁性粒子に結合した抗体と標識抗体で抗原をサンドイッチする方法である。

CLIA 法：化学発光免疫測定法

Chemiluminescent Immunoassay

免疫反応を使用したイムノアッセイで、標識体にアクリジニウムエステルを用いている。アクリジニウムエステルは、酵素標識法で利用されている酵素に比べて分子が非常に小さく、また量子収率が 0.12 との非常に高いため、このような化学発光物質を標識体として使用することにより、薬物のような低分子からホルモンなどの高分子（タンパク質、核酸、抗体、細胞、ウイルス、ほか）まで測定対象を広げた、より高感度に測定を可能にする方法である。

ELISPOT 法

Enzyme - Linked ImmunoSpot

特定のサイトカインを産生する細胞をスポット（点）として可視化し、サイトカイン産生細胞数を測定する方法。単一細胞レベルで分泌されたサイトカインを検出できる、非常に高感度なイムノアッセイ。

FA 法：蛍光抗体法

Fluorescent Antibody Method

蛍光色素を標識した一次抗体、二次抗体と反応させて、蛍光顕微鏡下で特異的な蛍光を観察する方法である。バックグラウンドが暗黒に近いため、検出感度が他の観察法に比べ高く、抗原量と蛍光量との相関も比較的良好に定量的に優れている。

FISH 法

Fluorescent In Situ Hybridization

蛍光色素標識のクローン化 DNA 断片をプローブとし、標本上の染色体 DNA との分子雑種を形成させることにより、プローブと相補性のある染色体上の特定部位を、蛍光シグナルとして検出する方法。

GC 法：ガスクロマトグラフィー法

Gas Chromatography

適当な充填剤をつめた数メートル以上の細管に気体試料または気化した液体試料を不活性な気体とともに通過させると、充填剤に対する吸着性・溶解性の差異によって各成分ガスの通過速度に差が出る。これを利用して試料の成分ガスを分離し、定性と定量とを行う方法。

HA 法：赤血球凝集反応

Hemagglutination Test

赤血球の表面に存在する抗原と検体中の抗体とを反応させ、抗原抗体反応により起こる赤血球の凝集の有無により抗体を検出する。

HI 法：赤血球凝集抑制反応

Hemagglutination Inhibition Test

ウイルス抗体価測定法の一つ、ある種のウイルス（インフルエンザ、アデノ、ムンプス、麻疹、風疹、日本脳炎など）は赤血球凝集能を有しているが、検体中にそれぞれのウイルスに対する抗体があれば凝集反応は特異的に抑制されるということを用いたものである。一般に補体結合反応（CF）より感度は高く、早期診断に有用であるが、赤血球凝集能を有するウイルスしか検査できず、ウイルスごとに使用する赤血球が異なり煩雑な面もある。

HPLC 法：高速液体クロマトグラフィー法

High Performance Liquid Chromatography

疎水基あるいは陽イオン交換基をもった硬質ゲルや親水基をもったシリカゲルを高密度に充填したカラムと、高圧ポンプで液体の移動相を用い、高速、高精度の分離を可能とした液体クロマトグラフィーで、超微量分析に適している。

IFA 法：間接蛍光抗体法

Indirect Fluorescent Antibody Technique

抗原を固定したスライドガラス上に検体を添加し、抗原・抗体反応（一次反応）をさせる。洗浄後、FITC 標識抗体を添加して反応（二次反応）させ、抗原・抗体・FITC 標識抗体の複合物を形成させる。FITC の蛍光を蛍光顕微鏡で観察する。

LAMP 法：ループ介在等温増幅法

Loop-Mediated Isothermal Amplification

標的遺伝子の 6 つの領域に対して 4 種類のプライマーを設定し、鎖置換反応を利用して一定温度で反応させることを特徴とする。サンプルとなる遺伝子、プライマー、鎖置換型 DNA 合成酵素、基質等を混合し、一定温度（65℃ 付近）で保温することによって反応が進み、検出までの工程を 1 ステップで行うことができる。DNA を 15 分～1 時間で $10^9 \sim 10^{10}$ 倍に増幅することができるため、簡易検出（スクリーニング）に適する。

LA 法：ラテックス凝集比濁法

Latex Agglutination Immunoassay

希薄溶液においてラテックスに抗体（又は抗原）を結合させ、抗原抗体反応を起こさせてその生成物による濁度を吸光度としてとらえ、測定する方法である。現在、白色光を用いる方法（LA 法）と近赤外光を用いる方法（LPIA 法）が実用化されている。このほか、いわゆる免疫比濁法ではないがラテックス粒子を用いた測定法として粒子凝集法（PA 法）や粒子カウンティング法（PAMIA 法）や積分球濁度方式による測定法などが開発されている。

LIA 法：ラインプロット法

Line Immunoassay

抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させたあと、酵素で標識した抗体を 2 次反応させ、抗体の検出を行う方法。反応後に出現するラインの有無および強度により判定する。

LC-MS/MS 法：液体クロマトグラフィー・タンデム質量分析法

Liquid Chromatography - Tandem Mass Spectrometry

液体クロマトグラフ (LC) により分離した分析対象成分を専用のインターフェース (イオン源) を介してイオン化し、生成するイオンを質量分析計 (MS) で分離して特定の質量イオンを解離・フラグメント化させ、それらのイオンを質量分析計で検出する分析方法。

MO 法：二重免疫拡散法

Micro Ouchterlony

ゲル平板内で抗原と抗体を拡散させ、抗原抗体反応が起きると沈降線を生じる。沈降線により抗体を検出同定でき、同一抗原に対する 2 種の抗体の沈降線の形態から、抗体の特異性を知ることが可能。

NT 法：中和反応

Neutrazation Test

ウイルス粒子に抗体が付着すると、そのウイルス粒子の感染性が失われることを利用した抗体の測定法である。既知抗体を用いて分離ウイルスの同定にも利用される。最も特異性が高く、感度もよい血清学的検査法である。多くの場合、培養細胞における細胞変性 (CPE) の有無を指標にして抗体の有無を判定するが、CPE の代わりにプラーク形成を指標にすることもあり、又、培養細胞の代わりに実験動物、発育鶏卵を用いることもある。

PCR 法

Polymerase Chain Reaction

DNA の特定の領域を増幅する技術。DNA を加熱して 2 重鎖から 1 重鎖に解離させ、これを冷却する過程で 2 本の DNA 鎖のそれぞれ特定の領域に相補的なプライマーを結合させる。これを DNA ポリメラーゼの伸長反応でプライマーの下流の DNA 配列を合成させる。これを繰り返すことで特定の DNA 領域を増幅することができる。

PHA 法：受身赤血球凝集反応

Passive Hemagglutination Test

動物赤血球表面に目的とする抗体に対する抗原を感作させた感作赤血球に試料を加えると、試料中の抗体と抗原抗体反応が起こり、赤血球の凝集が認められる。この凝集の有無で抗体の存在を判定する

RIA 法：放射免疫測定法

Radioimmunoassay

抗原抗体反応を利用し、RI (放射性同位元素) を標識物質として微量物質の濃度を測定する方法である。抗体の一定量に対して、RI 標識抗原の一定量と非標識抗原とをインキュベートして競合的に結合させると、標識抗原のうち抗体とくっついた結合型 bound (B) は非標識抗原の量が多くなるほど少なくなり、抗体と結合していない遊離型 free (F) が増える。したがって、予め既知量の非標識抗原を用いて標準曲線 (standard curve) を作成しておけば、未知検体を測定したときの B 又は F の RI カウントより未知の抗原濃度を知ることができる。又、B と F の分離方法として、固相法 (ビーズ法、チューブ法、デイスク法など)、2 抗体法、DCC (dextran coated charcoal) 法、

PEG (polyethyleneglycol) 法、DAPS (double antibody precipitin suspension) 法などがある。なお、RIA における抗体の代わりに、目的とする物質の特異的結合蛋白、たとえば、T4 測定時なら TBG (サイロキシン結合グロブリン) を用いる方法を CPBA (competitive protein binding assay) とよび、抗体の代わりにレセプター (受容体) を用いる方法をラジオレセプターアッセイ (radio receptor assay : RRA) とよぶ。

RPLA 法：逆受身ラテックス凝集反応法

Reversed Passive Latex Agglutination Test

検出目的の抗原に対応する抗体をラテックス粒子に吸着させさせたものと試料を反応させると、試料中の抗体と抗原抗体反応が起こり、ラテックスの凝集が認められる。この凝集の有無で抗体の存在を判定する。

RT-PCR 法

Reverse Transcription Polymerase Chain Reaction

RNA は DNA の様に直接 PCR によって増幅することができない。一度 RNA を逆転写反応によって cDNA (相補的 DNA : complementary DNA) に変換し、これを PCR によって増幅する技術。

SDA 法

Strand Displacement Amplification

DNA を鋳型として、DNA ポリメラーゼと制限酵素を用いて行う核酸増幅法。これらの酵素が等温条件下で反応し、鎖置換型の核酸増幅産物を生じる。目的増幅産物の検出は、2 種類の蛍光物質で修飾したステムループ状のプロンプを用いて、増幅と同時に進行。

TIA 法：免疫比濁法

Turbidimetric Immunoassay

被検検体中の目的物質に対する抗原もしくは抗体を加えると抗原抗体反応による混濁が生じる。この濁度を標準物質により作成された検量線により濃度を求める。

UV 法：紫外吸収スペクトル法

Ultraviolet Absorption Spectrophotometry

試料に紫外単色光を照射し、各波長での吸光度より得られた紫外外部吸収スペクトルを用いて、定性や定量を行う方法、通常 200 ~ 400nm の近紫外線の波長が最もよく用いられる。

WB 法：ウェスタンブロット法

Western Blot Method

電気泳動法により蛋白質混合物を分離し、これらの蛋白質を蛋白質と高い結合能のある膜上に転写する。調べようとする蛋白質に特異抗体 (一次抗体) を反応させたのち、二次抗体を作用させ、結合した二次抗体を検出する方法。二次抗体の検出には、酵素を結合させて基質を発色させる方法や¹²⁵I 標識プロテイン A 等が用いられる。DNA を電気泳動後検出するサザンブロット法、mRNA を検出するノーザンブロット法との類似性から蛋白質を検出する方法をウェスタンブロット法と呼ぶ。

イオン電極法

Ion Electrode Method

目的とするイオンに選択的に反応するイオン選択電極（イオンセンサー）と比較電極とを試料中に挿入して、両電極間に生じる電位差によりイオン濃度を測定する。臨床化学分析では、体液電解質の測定が行われており、これらの測定に用いられている電極は、ナトリウムではガラス電極、カリウムではニュートラルキャリアー含有液膜電極、クロールでは個体膜型電極などである。

酵素法

Enzymatic Method

酵素反応を利用して目的とする物質を定量する方法で、終点測定法（end point assay）と初速度測定法（rate assay）とがある。終点測定法は、酵素反応が平衡状態に達した時点、すなわち単位時間当たりの基質の減少または生成物の増加などを測定する方法である。

酵素免疫測定法

Enzyme Immunoassay(EIA)

Enzym-linked Immunosorbent Assay(ELISA)

Fluorescence Enzymes Immunoassay(FEIA)

Enzyme Multiplied Immunoassay Technique(EMIT)

抗原抗体反応を利用し、酵素を標識物質として目的とする物質を測定する方法または発蛍性の基質を用いる EIA 法（FEIA 法）で、酵素によって分解される基質又は生成物より酵素活性を測り、間接的に測定値を求めるものであり、原理的には競合反応を用いる方法と用いない方法とがある。前者では、抗体の一定量に対して酵素標識抗原の一定量と未知検体中の非標識抗原とを競合させた後、抗原抗体結合物の酵素活性を測り、既知濃度の標準抗原を用いて、得られた標準曲線から非標準抗原濃度を求める。後者では固相化抗体に未知検体中の抗原を結合させ、さらに酵素標識抗体を結合させてその酵素活性を測ったり、酵素標識抗体に検体中の抗原を結合させ、余分の標識抗体を除去した後に酵素活性を測る方法などがある。

電気泳動法

Electrophoresis

溶液中で荷電したコロイド粒子に直流電圧を加えると、正に荷電した粒子は陰極に、負に荷電した粒子は陽極へ移動するが、この現象を利用して物質の分離精製や均一性の測定を行うのが電気泳動法である。荷電した粒子の移動速度（易動度）は、粒子の荷電の強弱・粒子の大きさや形状・溶媒中の電解質の種類・イオン強度・pH・電圧など多くの因子に左右される。又、電気泳動法は、移動界面電気泳動法（Tiselius の電気泳動法）と支持体電気泳動法（ゾーン電気泳動法：zone electrophoresis）とに大別される。前者は、U 字管内で試料中の荷電粒子が緩衝液中を移動する際の境界面を光学的に分析するものであり、後者は、汙紙・セルロースアセテート・寒天・デンプン・ポリアクリルアミドゲルなどを支持体とし、その上に試料をつけて電圧をかけることにより試料中の物質を移動させ、染色して定量するものである。

発色性合成基質法

ヘパリンを加えて AT-III - ヘパリン複合体を形成させ、そのトロンピン不活化能をトロンピンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

比色法

Colorimetry

溶液の色の濃さを標準液の色の濃さと比較して溶液濃度を求める方法で、最も簡単な方法は肉眼で比較する方法である。しかし、通常は、溶液の吸光度はその濃度と液層の幅に比例するというランベルト - ベアの法則（Lambert-Beer law）に基づき、光電光度計を用いて試料溶液の吸光度を測定し、標準液の吸光度と比較することによって測定値を求める。溶液が無色の場合は、発色試薬を加えるか、目にみえない紫外線や赤外線吸収を調べる。

比濁法

Turbidimetry

抗原抗体反応溶液に光を入射させ、透過する光の強さを測定する方法を比濁法（turbidimetry）とよび、標準抗原と抗体の反応液の透過光の強さ、又は散乱強度から作成した検量線を用いることにより、未知検体中の抗原の定量が可能となる。

比濁法：ネフェロメトリー法

Nephelometry

沈降物によって散乱した光の強さを入射光と直角の方向から測定する方法は比濁法（ネフェロメトリー：nephelometry）とよばれる。これらの方法では、標準抗原と抗体の反応液の透過光の強さ、又は散乱強度から作成した検量線を用いることにより、未知検体中の抗原の定量が可能となる。なお、最近では光の特性の優れた（直進性が良くエネルギーが高い）レーザー光線を光源としたレーザーネフェロメトリーが行われている。

フローサイトメトリー法

Flow Cytometry

細胞浮遊液を高速度で流し、レーザー光を照射して、前方散乱光と測方散乱光を検出する。前方散乱光の強さは細胞の大きさ、測方散乱光は細胞内構造を反映する。得られた情報をコンピュータで処理し、個々の細胞を解析する。

リアルタイム PCR

Real Time Polymerase Chain Reaction

PCRの増幅をリアルタイムに測定する方法。TaqMan 法では蛍光色素を標識したオリゴヌクレオチドを用いる。このオリゴヌクレオチドは伸長反応の過程で分解され、蛍光強度が増加する性質を持つ。PCR サイクル毎に蛍光強度を測定することで DNA の増幅を測定し、また、特定の DNA 配列を特異的に定量することができる。

原子吸光法

Atomic Absorption Method

原子の吸光現象を利用した測定法、試料に熱エネルギーを加え、分子間の結合や原子間の結合を切断し、バラバラの遊離原子にすると、ガス状になる。これに可視光線や紫外線を通してさせると、基底状態の原子が、その原子固有の波長の光を吸収し励起状態になる。したがって、そのときの吸光度を測定すれば、試料中の目的とする元素の濃度を求めることができる。

参考文献

1. 河合忠、水島裕：今日の臨床検査，南江堂，1990.
2. 臨床検査医学事典編集委員会：臨床検査医学事典，朝倉書店，1987.
3. 試薬製造元資料

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
1	総蛋白(TP)	A.G.Gornall, et al.:Biol.Chem., 177:751, 1949
1	アルブミン	村本 良三, 他:臨床化学 26:38-43, 1997
1	蛋白分画	セバックス SP(泳動膜)パンフレット
1	A/G比	浅井 孝道:検査と技術 7:815, 1979
1	フェリチン定量	田口 隆由, 他:医療と検査機器・試薬 26(4):305, 2003
1	プレアルブミン(トランスサイレチン)	古田島伸雄, 他:JJCLA 32(1):84, 2007
1	セルロプラスミン(CP)	飯村 康夫, 他:日本臨床 42(春季増刊号):1209, 1984
1	III型コラーゲン-IIIペプチド(P-III-P)	北原 志穂, 他:医学と薬学 72(9):1579~1590, 2015.
1	IV型コラーゲン A5	大高木結媛, 他:医学と薬学 77(5):785~792, 2020
1	IV型コラーゲン	試薬添付文書
2	肝細胞増殖因子(HGF)	杉原 潤一, 他:新薬と臨床 41(9):180, 1992
2	α_1 -マイクログロブリン(α_1 -MG) (血清)	徳山昌司郎:医学と薬学 39:835, 1998
2	α_1 -マイクログロブリン(α_1 -MG) (尿)	徳山昌司郎:医学と薬学 39:835, 1998
2	β_2 -マイクログロブリン(β_2 -MG) (血清)	望月 照次, 他:臨床検査機器・試薬 8(5):1244, 1985
2	β_2 -マイクログロブリン(β_2 -MG) (尿)	望月 照次, 他:臨床検査機器・試薬 8(5):1244, 1985
2	ミオグロビン定量	試薬添付文書
2	ミオグロビン定量(尿)	吉川 文雄, 他:医学と薬学 37(5):1255, 1997
2	H-FABP定量(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	藤田 孝, 他:機器・試薬 33(5):629, 2010
2	心室筋ミオン軽鎖 I	宮崎 修一, 他:医学と薬学 52(3):443, 2004
2	心筋トロポニンT(TnT)	荒井 信之, 他:医療と検査機器・試薬 32(2):269, 2009
3	血糖(グルコース)	H.U.Bergmeyer, ed:Methods of Enzymatic Analysis, Academic Press, New York and London:117, 1963
3	グリコアルブミン(GA)	藤田 知代, 他:医学と薬学 47(1):141, 2002
3	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5-AG)	森脇 貴美, 他:臨床検査機器・試薬 24(2):139, 2001
3	HbA1c(NGSP)	藤本 一満, 他:機器・試薬 36(4):525, 2013
3	総コレステロール(T-Chol)	Allain, C.C., et al.:Clin. Chem. 20:470, 1974
3	LDL-コレステロール(LDL-C)	井上 郁夫, 他:医学と薬学 69(1):163, 2013
3	HDL-コレステロール(HDL-C)	田中 忍, 他:医学検査 58(5):402, 2009
3	コレステロール分画	試薬添付文書
4	尿中硫酸飽和型胆汁酸(USBA)	山根 寛, 他:神大医保健紀要 第13号:1, 1997
4	レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	滝野 豊, 他:医学と薬学 56(2):269, 2006
4	遊離コレステロール(F-Chol)	Allain, C.C., et al.:Clin. Chem. 20:470, 1974
4	中性脂肪(TG)	松宮 和人:Medical Technology 11(12):1201, 1983
4	総脂質(TL)	Cheek, C.S., et al.:Clin. Chem. 15(2):102, 1969
4	リン脂質(PL)	仁科 甫啓:検査と技術 15(4):333, 1987
4	遊離脂肪酸(FFA-NEFA)	Shimizu, S., et al.:Anal Biochem 98:341, 1979
4	β -リポ蛋白(β -LP)	柴田 進:臨床化学診断法 金芳堂, 1965
4	リポ蛋白分画	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 32:548, 2009
5	アポリポ蛋白 A-I	藤田 誠一, 他:臨床検査 29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白 A-II	藤田 誠一, 他:臨床検査 29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白 B	藤田 誠一, 他:臨床検査 29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白 C-II	藤田 誠一, 他:臨床検査 29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白 C-III	藤田 誠一, 他:臨床検査 29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白 E	藤田 誠一, 他:臨床検査 29:1401, 1985
5	リポ蛋白(a) (LP(a))	岡岡 成人, 他:ホルモンと臨床 41:1119, 1993
5	総胆汁酸(TBA)	吉田 雅明, 他:臨床検査機器・試薬 17(2):335, 1994
6	尿酸窒素(UN) (血清)	太田 坂徳, 他:臨床病理 21(補冊):303, 1973
6	尿酸窒素(UN) (蓄尿)	太田 坂徳, 他:臨床病理 21(補冊):303, 1973
6	クレアチニン(血清)	大澤 進:Medical Technology 26(4):389, 1998
6	クレアチニン(蓄尿)	大澤 進:Medical Technology 26(4):389, 1998
6	シスタチンC	平田 昭彦, 他:日本臨床 60巻 増刊号 8:519, 2002
6	クレアチン(血清)	林泰之, 玄番昭夫:正常値ガイドブック-その臨床応用:-224-225(1985)
6	クレアチン(蓄尿)	林泰之, 玄番昭夫:正常値ガイドブック-その臨床応用:-224-225(1985)
6	尿酸(UA) (血清)	岩田 一郎, 他:臨床検査 20:941, 1976
6	尿酸(UA) (蓄尿)	岩田 一郎, 他:臨床検査 20:941, 1976
7	アンモニア(NH ₃)	美崎 英生:検査と技術 27(8):973, 1999
7	総ビリルビン(T-Bil)	徳田 邦明, 他:臨床化学 22:116, 1993
7	直接ビリルビン(D-Bil)	徳田 邦明, 他:臨床化学 22:116, 1993
7	ハプトグロビン(型判定含む)	櫻林郁之介, 他:臨床病理 53(特集号):71, 1983
7	ハプトグロビン(型判定なし)	加野象次郎, 他:Medical Technology 7(13):1345, 1979
7	赤血球コプロポフィン	M.Salmi:Clin.Chem. 26(3):1832, 1980
8	プロトポフィン	Salmi M et al : Clinical Chemistry 26(13):1832~1835, 1980.
8	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST) (GOT)	日本臨床化学会:臨床化学 18(4):226, 1989
8	アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT) (GPT)	日本臨床化学会:臨床化学 18(4):250, 1989
8	アルカリホスファターゼ(ALP)-IFCC	日本臨床化学会:臨床化学 19(2):209, 1990
8	乳酸脱水素酵素(LD)-IFCC	日本臨床化学会:臨床化学 19(2):228, 1990
8	コリンエステラーゼ(ChE)	高木 康:総合臨床 27:2392, 1978
8	γ -グルタミルトランスアミノペプチダーゼ(γ -GT)	日本臨床化学会:臨床化学 24:106, 1995
9	ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	Recommendations of the German Society for Clinical Chemistry:Z.Klin.Chem.Klin.Biochem., 10:280, 1972
9	アルドラーゼ(ALD)	三浦 雅一, 他:臨床検査機器・試薬 12(5):1005, 1989
9	クレアチンキナーゼ(CK)	日本臨床化学会:臨床化学 19(2):184, 1990
9	CK-MB	初山 弘幸, 他:医学と薬学 29(3):675, 1993
9	アミラーゼ(AMY) (血清)	白井 秀明:医学と薬学 59(6):1093, 2008
9	アミラーゼ(AMY) (尿)	白井 秀明:医学と薬学 59(6):1093, 2008
9	膵アミラーゼ(P-AMY)	野村 博, 他:臨床検査機器・試薬 19(1):27, 1996
9	リパーゼ	引地 篤, 飯塚 直美:生物試料分析 40(5):255, 2017
9	リポ蛋白リパーゼ(LPL)	Watanabe, H. et al.:Atherosclerosis 145, 45, 1999.
10	アデニンデアミンナーゼ(ADA)	江頭 静摩, 他:現代の診療 24(4):131, 1982
10	グアナゼ(GU)	手登根 稔, 他:検査と技術13(10):901, 1985
10	リゾチーム(血清)	北村 元仕, 他:実践臨床化学 医歯薬出版:432, 1983
10	リゾチーム(尿)	北村 元仕, 他:実践臨床化学 医歯薬出版:432, 1983
10	アンギオテンシン I 転換酵素(ACE)	山下寿美子, 他:臨床検査機器・試薬 10(1):71, 1987
10	トリプシン	植田紳之助, 他:医学と薬学 77(12):1659~1668, 2020
11	膵ホスホリパーゼ A ₂ (PLA ₂)	上田 章, 他:臨床病理 37(5):561, 1989
11	ペプシノゲン I・II (PG・II)	三木 一正:医学と薬学 49(3):519, 2003
11	BAP(骨型アルカリホスファターゼ)	倉澤健太郎, 他:医学と薬学 55(2):279, 2006
11	total P I NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	日高 好博:医学と薬学 70(2):357, 2013
11	LDアイソザイム	試薬添付文書
11	ALPアイソザイム	松下 誠:検査と技術 33(12):1359, 2005
11	アミラーゼアイソザイム(AMYアイソザイム)	星野 忠, 他:JJCLA 35(4):773, 2010
12	CKアイソザイム	Galen RS.:HUMAN PATHOLOGY 6(2):141, 1975
12	ケトン体分画<動脈血>	菊野 晃, 他:臨床検査 41:963, 1997
12	ケトン体分画<静脈血>	菊野 晃, 他:臨床検査 41:963, 1997
12	乳酸	浅沼 和子, 他:生物試料分析 8(3):16, 1985
12	ビルビン酸	浅沼 和子, 他:生物試料分析 8(3):16, 1985
12	ヒアルロン酸	島村 朗, 他:医学と薬学 44(6):1441, 2000
13	ナトリウム(Na) (血清)	関口 光夫:検査と技術 17(9):1167, 1989
13	ナトリウム(Na) (蓄尿)	関口 光夫:検査と技術 17(9):1167, 1989
13	クロール(Cl) (血清)	関口 光夫:検査と技術 17(9):1167, 1989
13	クロール(Cl) (蓄尿)	関口 光夫:検査と技術 17(9):1167, 1989
13	カリウム(K) (血清)	関口 光夫:検査と技術 17(9):1167, 1989
13	カリウム(K) (蓄尿)	関口 光夫:検査と技術 17(9):1167, 1989
13	カルシウム(Ca) (血清)	第54回 神奈川医学検査学会 抄録(2005.11)
13	カルシウム(Ca) (蓄尿)	第54回 神奈川医学検査学会 抄録(2005.11)

頁	目	文 献 名
13	イオン化カルシウム	桑 克彦:検査と技術 19(2):119, 1991
14	マグネシウム(Mg) (血清)	北村 元仕, 他:実践臨床化学 医歯薬出版:166, 1983
14	マグネシウム(Mg) (蓄尿)	北村 元仕, 他:実践臨床化学 医歯薬出版:166, 1983
14	無機リン(IP) (血清)	Daly, J. A. and Ertlingshausen, G.:Clin. Chem., 18:263, 1972
14	無機リン(IP) (蓄尿)	Daly, J. A. and Ertlingshausen, G.:Clin. Chem., 18:263, 1972
14	鉄(Fe) (血清)	徳井 健志, 奥田 潤:臨床化学 16(1):48, 1987
14	鉄(Fe) (尿)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
14	総鉄結合能(TIBC) [比色法]	斉藤 宏:基礎と臨床 8(11):408, 1974
14	不飽和鉄結合能(UIBC) [比色法]	山田 満廣, 他:JJCLA 13(5):659, 1988
15	銅(Cu) (血清)	金井 泉, 他:臨床検査法提要 金原出版 31:604, 1998
15	銅(Cu) (尿)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	アルミニウム(Al)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	亜鉛(Zn) (血清)	松本 和子:臨床検査(増刊号)34(11):1367, 1990
15	亜鉛(Zn) (尿)	松本 和子:臨床検査(増刊号)34(11):1367, 1990
15	鉛(Pb) (全血)	原田 章, 他:鉛健康診断のすすめ方:56, 1990
15	鉛(Pb) (尿)	原田 章, 他:鉛健康診断のすすめ方:56, 1990
15	カドミウム(Cd) (全血)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	カドミウム(Cd) (尿)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
16	クロム(Cr) (全血)	松岡 澄:産業医学 13(6):27, 1971
16	クロム(Cr) (尿)	松岡 澄:産業医学 13(6):27, 1971
16	水銀(Hg) (全血)	神奈川県公害センター監修:公害関係の分析法と解説 神奈川県弘済会, 1972
16	水銀(Hg) (尿)	神奈川県公害センター監修:公害関係の分析法と解説 神奈川県弘済会, 1972
16	マンガン(Mn) (全血)	加地 浩, 他:日本災害医学会誌 37:195, 1989
16	マンガン(Mn) (血清)	加地 浩, 他:日本災害医学会誌 37:195, 1989
16	マンガン(Mn) (尿)	Mikac-Devic, D. et al.:Clin. Chem. 23:948, 1977
16	ニッケル(Ni)	Mikac-Devic, D. et al.:Clin. Chem. 23:948, 1977
17	総三塩化物(TTC)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連, 1990
17	三塩化(トリクロル)酢酸(TCA)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連, 1990
17	マンデル酸(MA)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連, 1990
17	馬尿酸(HA)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連, 1990
17	メチル馬尿酸(MHA)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連, 1990
17	δ-アミノレブリン酸(δ-ALA)	岡山 明:労働衛生管理 3(4):45, 1992
17	N-メチルホルムアミド	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連, 1990
17	2,5-ヘキサジオン(2,5-HD)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方 全衛連, 1990
18	エタノール	塚本昭次郎:アルコール研究 5:8, 1970
18	ビタミン A (レチノール)	須原 聡, 他:臨床検査 36(3):235, 1992
18	レチノール結合蛋白	古田島伸雄, 他:日本臨床検査自動化学会誌 32(1):84, 2007
18	ビタミン B ₁ (チアミン)	安田 和人, 他:臨床病理 XXIX:564, 1981
18	ビタミン B ₂ (リボフラビン)	安田 和人, 他:日本臨床 62(12):148, 2004
18	ビタミン B ₆	吉田 継親, 他:薬学雑誌 98:1319, 1978
18	ビタミン B ₁₂	河口 行雄, 他:医学と薬学 41(1):145, 1999
18	葉酸	安田 和人, 他:医療と検査機器・試薬 25(5):441, 2002
18	ビタミン C (アスコルビン酸)	Lykkesfeldt J et al.:Analytical Biochemistry 229:329, 1995.
19	25OHビタミンD(CLEIA)	糸賀 仁美, 畑 伸顕, 他:医学と薬学 76(9):1303-1310, 2019
19	1 α-25-(OH) ₂ ビタミン D(1,25-ジヒドロキシビタミン D3)	高田 朋玲, 他:医学と薬学 37(5):1205, 1997
19	25-ヒドロキシビタミンD	D. L. Ersfeld et al.:Clinical Biochemistry 37:867, 2004
19	ビタミン E (トコフェロール)	阿部 皓一, 他:栄養と食糧 28:277, 1975
19	ビタミン K分画	Langenberg, J.P., et al.:J. Chromatogr. 305:61, 1984
19	カルニチン	市本 景子, 他:新薬と臨床 66(9):1176, 2017
19	ニコチン酸(ナイアシン)	宮沢 滋:ビタミン 56(9・10):487, 1982
19	脂肪酸4分画	小沢 昭夫, 他:分析化学 31:87, 1981
20	結石分析	神 ちひろ, 分析化学 53(7):735, 2004.
20	全脂質脂肪酸分画	金井 晃, 他:ぶんせき 11:774, 1978
20	総ホモステイン	Araki A, Sako Y:J Chromatogr 422:43, 1987
20	アミノ酸分析定量(血漿)	遠藤 治郎, 他:日本臨床 50(7):69, 1992
20	アミノ酸分析定量(尿)	遠藤 治郎, 他:日本臨床 50(7):69, 1992
20	BTR(総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比)	飯塚 誠一, 他:現代医療 26(増1):99, 1994
20	M2BPGi(MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	久野 敦:医学のあゆみ, 249(8):666 ~ 670, 2014
21	KL-6	高松久美子, 他:医学と薬学 62(3):491-499, 2009
21	SP-A(肺サーファクタントプロテインA)	大木 卓, 他:医学と薬学 71(1):161, 2014
21	SP-D(肺サーファクタントプロテインD)	土居 耕介, 他:医学と薬学:78-261, 2021
22	クレアチニンクリアランス	大澤 進:Medical Technology 26(4):389, 1998
22	クレアチニンクリアランス(24時間内因性)	大澤 進:Medical Technology 26(4):389, 1998
22	尿酸クリアランス(C _{cr} , 尿酸cr/C _{cr} も含む)	藤森 新, 他:臨床検査 34(9):1121, 1990
22	PFD(PABA排出率) (腎機能)	Yamato C et al.:Analytical Biochemistry 98:13, 1979
22	eGFRcreat	CKD診療ガイド 2012:日本腎臓病学会編
22	eGFRcys	CKD診療ガイド 2012:日本腎臓病学会編
25	成長ホルモン(GH)	小山 紗生, 他:医学と薬学 68(5):899-910, 2012
25	ソマトメジン C(IGF-1)	Blackburn, G.F. et al.:Clin.Chem, 37(9):1534, 1991
26	甲状腺刺激ホルモン(TSH)	川崎 芳正, 他:医学と薬学 63(2):325-329, 2010
26	黄体形成ホルモン(LH)	井本祐司, 他:医療と検査機器・試薬 25:557-563, 2002
26	卵胞刺激ホルモン(FSH)	井本祐司, 他:医療と検査機器・試薬 25:557-563, 2002
26	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	阿部 正樹, 他:医学と薬学 57(2):239, 2007
26	プロラクチン(PRL)	井本祐司, 他:医療と検査機器・試薬 25:557-563, 2002
26	AVP(アルギニンバソプレシン)	大磯コタカ, 他:日本内分泌学会誌:62:608, 1986
27	トリヨードサイロニン(T ₃)	上條 桂一, 他:医学と薬学 40(2):387-394, 1998
27	遊離トリヨードサイロニン(F-T ₃)	川崎 芳正, 他:医学と薬学 63(2):325-329, 2010
27	サイロキシン(T ₄)	上條 桂一, 他:医学と薬学 40(2):387-394, 1998
27	遊離サイロキシン(F-T ₄)	川崎 芳正, 他:医学と薬学 63(2):325-329, 2010
27	TBG定量	海瀬 信子, 他:核医学 16(5):777, 1979
27	サイログロブリン(Tg)	北川 亘, 他:医学と薬学 71(9):1655-1666, 2014
27	カルシトニン	北川 亘, 他:医学と薬学 72(1):97-108, 2015
27	【副甲状腺ホルモン】PTH-Intact	山岡 美穂, 他:医学と薬学 46(5):753, 2001
27	【副甲状腺ホルモン】Whole-PTH	古屋 実, 他:医学と薬学 67(5):757-765, 2012
27	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PHrP)	福本 誠二, 他:ホルモンと臨床 40(12):91, 1992
28	インスリン(IRI)	前畑 英介, 他:医学と薬学 44(6):1069, 2000
28	C-ペプチド(CPR) (血清)	J Schultess, et, al.:Clin Chem Lab Med 47:834-841, 2009, 石倉はる美, 他:医学検査 59(4):402, 2010
28	C-ペプチド(CPR) (蓄尿)	J Schultess, et, al.:Clin Chem Lab Med 47:834-841, 2009, 石倉はる美, 他:医学検査 59(4):402, 2010
28	隣グルカゴン	福垣貴之, 他:医学と薬学 72, 491-497, 2015, 菊池唯史, 他:医学と薬学 75, 417-424, 2018.
28	ガストリン	飯沼 一茂, 他:Radioisotopes31(7)350 ~ 356, 1982.
28	カテコールアミン分画(血漿)	西村 千江, 他:臨床検査機器・試薬 16:1169, 1993
28	カテコールアミン分画(髄液)	西村 千江, 他:臨床検査機器・試薬 16:1169, 1993
28	カテコールアミン分画(蓄尿)	西村 千江, 他:臨床検査機器・試薬 16:1169, 1993
29	ドーパミン総	守 和子:産業医学 17:170, 1975
29	L-ドーパ	守 和子:産業医学 17:170, 1975
29	5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	白川 淳二, 他:日本臨床・広範田血液・尿化学検査免疫学の検査下巻 .175, 1990
29	ホモバニリン酸(HVA) (血漿)	東海林哲郎, 他:臨床検査ガイド 2013 ~ 2014:420 ~ 422, 2013
30	パニールマンデル酸(VMA)	東海林哲郎, 他:臨床検査ガイド 2013 ~ 2014:423 ~ 425, 2013
30	メタネフリン・ノルメタネフリン分画	Shoup R.E., et al.:Clin. Chem. 23:1268, 1977
31	17-ケトステロイド分画(17-KS分画)	石田 孝, 他:臨床化学 15:13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(アンドロステロン)	石田 孝, 他:臨床化学 15:13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(エチオコラノロン)	石田 孝, 他:臨床化学 15:13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(デヒドロエピアンドロステロン)	石田 孝, 他:臨床化学 15:13, 1986

検査方法参考文献一覽

頁	項 目	文 献 名
31	17-ケトステロイド分画(11-ケト-エチオコラノロン)	石田 孝,他:臨床化学 15:13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(11-ヒドロキシアンドロステロン)	石田 孝,他:臨床化学 15:13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(11-ヒドロキシエチオコラノロン)	石田 孝,他:臨床化学 15:13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(11-ケトアンドロステロン)	石田 孝,他:臨床化学 15:13, 1986
31	11-ヒドロキシコルチコステロイド(11-OHCS)	宇田川美佐子,他:臨床化学 5(3):321, 1977
31	コルチゾール	関口 昌江,他:医学と薬学 69(6):985-991, 2013
31	遊離コルチゾール	西川 哲男,他:ホルモンと臨床 28:471, 1980
32	デハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	増戸 梨恵,他:医学と薬学 56(3):443, 2006
32	アルドステロン(血清・血漿)	文俊,他:医学と薬学 76(12):1819~1826, 2019, 猿田 享男:日本臨床 63(増刊号):328~331, 2005
32	アルドステロン(蓄尿)	佐藤 文俊,他:医学と薬学 76(12):1819~1826, 2019
33	エストラジオール(E ₂)(血清)	佐藤 達郎,他:岡山医学検査 44:6-12, 2007, 松崎 利也,他:医学と薬学 70:331-339, 2013
33	エストリオール(E ₃)(血清)	吉田 孝雄:ホルモンと臨床 21:86, 1973
33	プロゲステロン	中村 悟,他:医学と薬学 40(3):541-545, 1998
34	プレグナジオール(P ₂)	平井 利生,他:JJCLA 9:564, 1984
34	プレグナトリオール(P ₃)	平井 利生,他:JJCLA 9:564, 1984
34	テストステロン(血清)	佐藤 達郎,他:岡山医学検査 44:6-12, 2007, 松崎 利也,他:医学と薬学 70:331-339, 2013
34	遊離テストステロン	大塚 喜彦,他:医学と薬学 72(1):147-151, 2015
34	抗ミューラー管ホルモン(AMH)	柳田小百合,他:医学と薬学 72(6):1095-1101, 2015
35	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(血清)(HCG)	花川 準司,他:臨床検査機器・試薬 20(4):609, 1997
35	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(尿)	花川 準司,他:臨床検査機器・試薬 20(4):609, 1997
35	遊離βHCG(HCGβサブユニット)	日本産科婦人科学会/日本病理学会 編:絨毛性疾患取扱い規約 第3版, 59-65, 2011(金原出版)
36	サイクリック AMP(c-AMP)(血漿)	孫 孝義,他:日内分泌誌 61:912, 1985
36	サイクリック AMP(c-AMP)(蓄尿)	孫 孝義,他:日内分泌誌 61:912, 1985
36	セロトニン(全血)	Picard, M., et al.:J.Chromatogr. 341:445, 1985
36	セロトニン(多血小板血漿)	Picard, M., et al.:J.Chromatogr. 341:445, 1985
36	レニン活性(PRA)	宇津 貴男,他:医学と薬学 73(3):311~321, 2016
36	レニン定量(PRC)	佐藤 文俊,他:医学と薬学 76(12):1819~1826, 2019, 猿田 享男:日本臨床 63(増刊号):328~331, 2005
37	エリスロポエチン	増田 詩織,他:医学と薬学 67(2):297, 2012
37	オステオカルシン(BGP)	戸来 孝,他:日本臨床自動化学会誌 40:52-57, 2015
37	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	西村 順,他:医学と薬学 57(4):523, 2007
38	HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	松岡 泰弘,他:機器・試薬 33(4):535, 2010
38	BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	山田 恵,他:医学と薬学 63(6):913-918, 2010
38	NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	宮本 康平,他:医学と薬学 77(1):81-90, 2020
41	α-フェトプロテイン(AFP)	福岡 達仁,他:医学と薬学 58(3):473-479, 2007
41	α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	佐藤 繁樹,他:臨床病理 58:1155-1161, 12:2010
41	CEA(癌胎児性抗原)	山田 孝,他:医学と薬学 29(5):1201, 1993
41	BFP(塩基性フェトプロテイン)	石井 勝:癌と化学療法 15(7):2107-2113, 1988
41	NCC-ST-439	大倉 久直,他:癌と化学療法 14(6):1901, 1987
41	DUPAN-2	張 正和,他:脾胃 1(1):69, 1986
41	CA19-9	福岡 達仁,他:医学と薬学 58(3):473-479, 2007
41	CA15-3	福岡 達仁,他:医学と薬学 58(3):473-479, 2007
41	CA125	福岡 達仁,他:医学と薬学 58(3):473-479, 2007
42	BCA225	小林美耶子,他:医学と薬学 72(7):1249, 2015
42	SLX(シアリル Le ^x -抗原)	井村 裕夫,他:癌と化学療法 14(5):1315, 1987
42	CSLEX(シアリル Le ^x 抗原)	三嶋 芳樹,他:医学と薬学 29(5):1193, 1993
42	シアリルTn抗原(STN)	井村 裕夫,他:癌と化学療法 16(9):3213, 1989
42	CA72-4	高居 邦友,他:医学と薬学 78(7):865-871, 2021
42	SPan-1	山村 倫子,他:臨床成人病 19(1):115, 1989
42	シフラ(CYFRA21-1)(サイトケラチン19フラグメント)	佐々木 秀恵,他:医学と薬学 70:837-842, 2013
42	扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	羽田真理子,他:医学と薬学 52(1):101, 2004
42	エラスターゼ 1	大出 勝也,他:臨床病理 50(4):376, 2002
42	PSA(前立腺特異抗原)	河野 均也,他:臨床検査機器・試薬 24(3):223, 2001
43	高感度PSAタンデム	野村 朋子,他:医学と薬学 51(1):179, 2004
43	高感度PSAタンデム F/T比	野村 朋子,他:医学と薬学 51(1):179, 2004
44	γ-Sm(γ-セミノプロテイン)	佐藤 達郎,他:医学と薬学 43(1):97, 2000
44	Pro GRP(ガストリン放出ペプチド前駆体)	前川 知子,他:医学と薬学 71(9):1643, 2014
44	NSE(神経特異エノラーゼ)	花田 浩之,他:医学と薬学 60(4):657, 2008
44	α ₁ -酸性糖蛋白(α ₁ -AGP)	櫻林郁之介,他:臨床病理 53(特集号):71, 1983
44	PIVKA II 定量	菅原 昌章,他:医学と薬学 73(3):293-300, 2016
45	I CTP (I型コラーゲンCテロペプチド)	清原 剛,他:ホルモンと臨床 42:1189, 1994
45	TRACP-5b 定量(酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	西沢 良記,他:医学と薬学 54(5):709, 2005
45	NTx (I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド)(尿)	馬場 広太,他:臨床検査 42:477-481, 1998
45	デオキシピリジノリン(DPD)	山本 逸雄,他:ホルモンと臨床 44(7):747, 1996
46	抗p53抗体	橋本 礼輔,他:医学と薬学 75(8):955, 2018
46	インターロイキン2受容体(IL-2R)	ルミバルス Presto II を用いた可溶性インターロイキン2レセプター(sIL-2R)測定試薬「ルミバルス プレスト IL-2R」の基礎検討 臨床病理 第68巻 第6号(2020年6月)別冊
49	ABO血液型	安田 広康,他:新輸血検査の実際(初版),日本臨床検査技師会:28, 2008
49	Rh(D)血液型	安田 広康,他:新輸血検査の実際(初版),日本臨床検査技師会:28, 2008
49	Rh-Hr式血液型	安田 広康,他:新輸血検査の実際(初版),日本臨床検査技師会:11, 2008
49	直接クームス試験	安田 広康,他:新輸血検査の実際(初版),日本臨床検査技師会:58, 2008
49	間接クームス試験	安田 広康,他:新輸血検査の実際(初版),日本臨床検査技師会:1, 2008
49	クームス定量試験	安田 広康,他:新輸血検査の実際(初版),日本臨床検査技師会:132, 2008
49	不規則抗体	安田 広康,他:新輸血検査の実際(初版),日本臨床検査技師会:35, 2008
49	交差適合試験	安田 広康,他:新輸血検査の実際(初版),日本臨床検査技師会:55, 2008
49	抗血小板抗体	柴田 洋一:輸血学(遺山 博編),中外医学社:457, 1978
50	血小板関連 IgG(PA-IgG)	林 悟,他:臨床病理 32:1253, 1984
50	HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	阪田 敏幸:医学と薬学 68(3):547, 2012
51	梅毒定性・半定量(RPR法)	大里 和久,他:日本性感染症学会誌 13(1):124, 2002, 赤坂 希,他:機器・試薬 23(3):191, 2000
51	梅毒定性・半定量(TPHA)	大里 和久,他:日本性感染症学会誌 13(1):124, 2002, 大里 和久,他:臨床検査機器・試薬 14(4):739, 1991
51	梅毒定性・半定量(FTA-ABS)	水岡 慶二:皮膚科の臨床・昭44 11(4):294, 1969
51	抗ストレプトリジンO定量(ASO)	Rantz, L., et al.:Proc. Exp. Biol. Med., 59:22, 1945
51	マイコプラズマ抗体半定量(PA法)	廣善 孝一,他:獨協医科大学病院 臨床検査部血清室
51	マイコプラズマ抗体半定量(CF法)	北村 元仕,他:臨床検査マニュアル(文光堂):880, 1988
52	寒冷凝集反応	工藤 肇:日本臨床 26:330, 1968
52	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニイIgG抗体	PERSON K., et al.:Clinical and Diagnostic Laboratory Immunology 7(5):739, 2000
52	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニイIgA抗体	PERSON K., et al.:Clinical and Diagnostic Laboratory Immunology 7(5):739, 2000
52	クラミジア・ニューモニイ IgM 抗体	岸本 寿男,他:感染症学雑誌 70(8):821, 1996
52	トリコスポロン・アサヒ抗体	三宅 修司,他:日本呼吸器学会誌 39(1):7, 2001
52	MAC抗体	吉田 春花,他:医学検査 62(5):587, 2013
53	トキソプラズマIgG抗体	田畑 宏道,他:医学と薬学 71(1):145-151, 2014
53	トキソプラズマIgM抗体	田畑 宏道,他:医学と薬学 71(1):145-151, 2014
53	百日咳菌抗体	岡田 賢司:医学と薬学 65(4):531, 2011
53	クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体	松本 明,他:感染症学雑誌 66(5):584, 1992
54	ツツガム Gilliam IgG抗体	山本 正悟:臨床とウイルス 12(3):270, 1984
54	ツツガム Gilliam IgM抗体	山本 正悟:臨床とウイルス 12(3):270, 1984
54	ツツガム Kato IgG抗体	山本 正悟:臨床とウイルス 12(3):270, 1984
54	ツツガム Kato IgM抗体	山本 正悟:臨床とウイルス 12(3):270, 1984
54	ツツガム Karp IgG抗体	山本 正悟:臨床とウイルス 12(3):270, 1984
54	ツツガム Karp IgM抗体	山本 正悟:臨床とウイルス 12(3):270, 1984
55	ヘリコバクター・ピロリ抗体/国内株	乾 正幸,他:日本ヘリコバクター学会誌 19(1):33~42, 2017
55	ヘリコバクター・ピロリ抗体IgG/国内株	菊地 正悟,他:医学と薬学 43(3):581, 2000
55	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)	認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構:胃がんリスク層別化検査(ABC分類)2016年度改訂版 運用の手引き, 2016.
55	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)(除菌歴あり)	認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構:胃がんリスク層別化検査(ABC分類)2016年度改訂版 運用の手引き, 2016.

56 プロカルシトニン定量(PCT) 吉岡 範, 他: 医学と薬学 74:1119-1127, 2017

56 エンドトキシン 大石 春樹, 他: 薬学雑誌 105(3):300-303, 1985

56 (1→3)-β-D-グルカン 吉田耕一郎, 他: 医学と薬学 67(6):895, 2012

56 透析液エンドトキシン 生井 梨愛, 他: 腎と透析 別冊74, 2003

57 カンジダ・マンナン抗原 相原 守夫, 他: 臨床検査 34(3):367, 1990

57 クリプトコッカス抗原定性 二見 修平, 他: Jpn. J. Med. Mycol. 30(3):211, 1989

57 アスペルギルス抗原 Stynen, D., et al.: J. Clin. Microbiol. 33(2):497, 1995

58 肺炎球菌莢膜抗原定性 小林 隆夫, 他: 感染症学雑誌 76(12):995, 2002

58 尿中レゾネラ抗原定性 山口 育夫, 他: 医学検査 64(2):221, 2015

58 結核菌 DNA(PCR) (TB-PCR) 田口 直子, 他: 医学と薬学 62(1):121, 2009

58 MAC DNA(PCR) (マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセラー-核酸検出) 田口 直子, 他: 医学と薬学 62(1):121, 2009

58 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能(QFTプラス) 福島喜代康, 他: 結核 93(10):517, 2018

58 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能(T-SPOT. TB) Meier T, et al.: European Journal of Clinical Microbiology & Infectious Diseases 24:529-536, 2005

59 クラミジア・トラコマチス DNA(PCR) 熊本 悦明, 他: 医学と薬学 66(6):1007, 2011

59 淋菌DNA(PCR) 熊本 悦明, 他: 医学と薬学 66(6):1007, 2011

59 淋菌/クラミジア・トラコマチス同時測定DNA(PCR) 熊本 悦明, 他: 医学と薬学 66(6):1007, 2011

61 糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性 柴谷 直美, 他: Helicobacter Research 10(5):426, 2006

61 尿素呼吸試験(UBT) (ユービット) 吉田 純一, 他: 日本臨床 51(12):126, 1993

62 リウマトイド因子(RF)定性 櫻林郁之介, 他 ラテックス凝集比濁法 検査と技術 16(7):607, 1988

62 リウマトイド因子(RF)定量 櫻林郁之介, 他 ラテックス凝集比濁法 検査と技術 16(7):607, 1988

62 抗CCP抗体定量(抗シトルリリン化ペプチド抗体) 玉井 慎美, 他: 医学と薬学 64(5):779, 2010

62 IgG型リウマトイド因子(IgG-RF) 中国 清: 医学と薬学 45(3):481, 2001

62 抗ガラクトース欠損IgG抗体(CA-RF) 山田 雄二, 他: 基礎と臨床 31(1):81, 1997

62 MMMP-3(マトリックスメタロプロティナーゼ-3) 田中 敏典, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 36(4):666, 2011

62 モノクローナルRF結合免疫複合体(mRF-IC) 柴崎 光衛, 他: 医学検査 43, 897-903, 1994

63 抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体) 森田 新二, 他: 医学と薬学 55(5):775, 2006

63 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体) 森田 新二, 他: 医学と薬学 55(5):775, 2006

63 TSH レセプター抗体(第3世代) 吉村 弘, 他: 医学と薬学 59(6):1111, 2008

63 TSAb(バイオアッセイ法) 田上 哲也, 他: 糖尿病・内分泌代謝科53, 479-486, 2021

63 抗核抗体半定量(ANA) 林 伸英, 他: 臨床病理 64(2)別冊:142-151, 2016

63 抗RNAポリメラーゼIII抗体 桑名 正隆: リウマチ科 40(3):239, 2008

63 抗セントロメア抗体(EIA(ELISA)法) 宮脇 昌二, 他: 医学と薬学 45(1):129, 2001

63 抗DNA抗体定量 鈴木 王洋, 他: 臨床免疫 25(8):1096, 1993

64 抗ss-DNA-IgG抗体定量 陣内 記代, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 26(6):747, 2001

64 抗ds-DNA-IgG抗体定量 陣内 記代, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 26(6):747, 2001

64 抗ss-DNA-IgM抗体 陣内 記代, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 26(6):747, 2001

64 抗ds-DNA-IgM抗体 陣内 記代, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 26(6):747, 2001

64 抗RNP抗体定量 西山 進, 他: 医学と薬学 68(2):345, 2012

64 抗Sm抗体定量 西山 進, 他: 医学と薬学 68(2):345, 2012

64 抗SS-A/Ro抗体定量 西山 進, 他: 医学と薬学 68(2):345, 2012

64 抗SS-B/La抗体定量 西山 進, 他: 医学と薬学 68(2):345, 2012

64 抗Scl-70抗体定量 小島 和夫, 他: 医学と薬学 69(4):677, 2013

64 抗Jo-1抗体定量 松下 雅和, 他: 医学と薬学 70(1):109-117, 2013

65 抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体) 太田 光照, 他: ホルモンと臨床 40(7):749, 1992

65 抗アクアポリン4抗体 高橋 利幸, 他: 医学と薬学 73(10):1297-1300, 2016.

65 抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体) 本村 政勝, 他: 医学と薬学 70(2):421-428, 2013

65 抗カルジオリピン-β₂-グリコプロテイン1複合体抗体(抗CL-β₂GP1抗体) 小池 隆夫, 他: 医学と薬学 26(3):535, 1991

65 抗カルジオリピンIgG抗体 鏑木 淳一, 他: 医学と薬学 31, 771-776, 1994.

65 抗カルジオリピンIgM抗体 鏑木 淳一, 大矢 和彦: 医学と薬学 43(6):1183, 2000

65 ループスアンチコアグラント(LA) (DRVVT法) 金井 正光, 他: 臨床検査法提要 金原出版 34:424, 2015

65 ループスアンチコアグラント(LA) (リン脂質中和法) 後藤 守孝, 他: Mod. Physician 15(12):1545, 1995

66 PR3-ANCA(C-ANCA, 抗好中球細胞質プロティナーゼ3抗体) 松下 雅和, 他: 医学と薬学 66(5):823, 2011

66 MPO-ANCA(P-ANCA, 抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体) 松下 雅和, 他: 医学と薬学 66(5):823, 2011

66 抗デスマoglein 1抗体(抗Dsg1抗体) 吉田かおり, 他: 医学と薬学 70(5-6):989, 2013

66 抗デスマoglein 3抗体(抗Dsg3抗体) 吉田かおり, 他: 医学と薬学 70(5-6):989, 2013

66 抗BP180抗体(抗BP180NC16a抗体) 黒田 慶子, 他: 医学と薬学 57(5):751, 2007

66 抗皮膚抗体 吉岡 順子: 皮膚 23(1):29, 1981

66 抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体) 臼井 丈一, 他: 医学と薬学 68(4):697, 2012

66 精子不動化抗体 磯島 晋三, 他: 日本産婦人科学会雑誌 31:1906, 1979

67 抗LKM1抗体 宮川 浩, 他: 医学と薬学 44(1):121, 2000

67 抗ミトコンドリア抗体(AMA) 長島 秀夫: 日本臨床 43:222, 1985

67 抗ミトコンドリアM2抗体(AMA-M2) 丹野 瑞木, 他: 医学と薬学 67(3):485, 2012

67 抗平滑筋抗体 長島 秀夫: 日本臨床 40:935, 1982

67 抗胃壁細胞抗体 長島 秀夫: 日本臨床 40:937, 1982

67 インスリン抗体 内湯 安子, 他: 医学と薬学 65, 525-530, 2011

67 抗GAD抗体(抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体) 及川 洋一, 他: 医学と薬学 72(9), 2015

67 抗I-A-2抗体 川崎 英二, 他: 医学と薬学 66(2):345, 2011

68 IgG 黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25(2):159, 2002

68 IgG2 川 茂幸, 他: 医学と薬学 74(4):463, 2017.

68 IgG4 川 茂幸, 他: 医学と薬学 64(1):95, 2010

68 IgA 黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25(2):159, 2002

68 IgM 黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25(2):159, 2002

68 C₃(β₁C/β₁Aグロブリン) 黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25(2):159, 2002

68 C₄(β₁Eグロブリン) 黒澤 弘美, 他: 医療と検査機器・試薬 25(2):159, 2002

68 C1q 中村 敏男, 他: 臨床免疫 14:92, 1982

68 血清補体価(CH₅₀) 中藤 聡子, 他: 臨床検査機器・試薬 19(4):609, 1996

69 C反応性蛋白(CRP)定性 田中 元彦, 他: 臨床検査機器・試薬 27(3):195, 2004

69 C反応性蛋白(CRP)定量 田中 元彦, 他: 臨床検査機器・試薬 27(3):195, 2004

69 血清アミロイドA蛋白(SAA) 旭 由香里, 他: 医学と薬学 78(2):175-181, 2021

69 クリオグロブリン定性 金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:831, 1998

69 トランスフェリン(Tf) 日高 宏哉, 他: 検査と技術 30(13):1377, 2002

69 遊離L鎖κ/λ比 伊藤 早織, 他: 医学と薬学 64(1):111, 2010

69 免疫電気泳動(抗ヒト血清による定性) 櫻林 郁之介, 「免疫電気泳動法」, 『電気泳動法のすべて』, 医歯薬出版株式会社, 126-13, 1981.

69 免疫電気泳動(免疫固定法によるM蛋白同定) 広瀬 美子, 他: 臨床検査機器・試薬 16:253, 1993

69 尿中免疫電気泳動(免疫固定法によるベンス・ジョーンズ蛋白(B JP)同定) 長縄 謹子: 検査と技術 12:401, 1984

69 α₁-アンチトリプシン 山下 順香, 他: 医学と薬学 29(5):1239, 1993

73 IgE 島津伸一郎, 他: アレルギーの領域2(7):62, 1995

73 IgEシングルアレルゲン(ハウスダスト1) 我妻 義則, 他: 医学と薬学 23:83, 1990

73 IgEマルチアレルゲン 我妻 義則, 他: 医学と薬学 23:83, 1990

73 Viewアレルギー39 張田 聖恵: 医学と薬学 73(6):721-726, 2016

73 アトピー鑑別試験 奥平 博一, 他: アレルギー 40:544, 1991

73 ヒトTARC(Th2ケモカイン) 石田 俊雄, 他: 医学と薬学 58(6):901~907, 2007

74 I3アレルゲンセット 我妻 義則, 他: 医学と薬学 23:83, 1990

74 I10アレルゲンセット 我妻 義則, 他: 医学と薬学 23:83, 1990

77 HBs抗原定性 赤羽 賢浩, 他: 基礎と臨床 19(5):515-525, 1985

77 HBs抗体定性 吉村英理子, 他: 基礎と臨床 29(17):4545, 1995

77 HBs抗体半定量 吉村英理子, 他: 基礎と臨床 29(17):4545, 1995

77 HBs抗原 関口 仁, 他: 臨床検査機器・試薬 22(4):283, 1999

77 HBs抗体 出口 松夫, 他: 医学と薬学 74(9):1137-1144, 2017

77 HBe抗原 宮川 正明, 他: 医学と薬学 52(4):621, 2004

77 HBe抗体 宮川 正明, 他: 医学と薬学 52(4):621, 2004

77 HBc抗体 飯田 健一, 他: Prog.Med. 22:1037, 2002

77 HBc-IgM抗体 中尾瑠美子, 他: 医学と薬学 52(5):847, 2004

検査方法参考文献一覽

頁	項 目	文 献 名
78	HBV-DNA定量(リアルタイムPCR法)	菅原 昌章, 他: 医学と薬学 別冊 73(10):1329-1339, 2016
78	HBVゲノタイプ(判定)	田中 靖人, 他: 臨床病理 57(1):42, 2009
78	HBVコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査(HBV-DNA PC-CP)	松山 和弘, 他: 肝臓学 41:59, 2000
78	HA-IgG抗体	田中 英介, 他: 医学と薬学 46(6):1017, 2001
78	HA-IgM抗体	田中 英介, 他: 医学と薬学 46(6):1017, 2001
79	HCV抗体	小柳 博明, 他: 医学と薬学 55(3):467, 2006. 近平 佳美, 他: 医学と薬学 37(2):521, 1997
79	HCVコア抗原	八橋 弘, 他: 医学と薬学 68(1):157, 2012
79	HCV群別	長谷川 隆, 他: 医学と薬学 70(3):633, 2013
79	HCV-RNA定量(リアルタイムPCR法)	菅原 昌章, 他: 医学と薬学 別冊 73(10):1329-1339, 2016
79	ジェノタイプHCV-RNA-PCR	Okamoto H. et al.: J. General Virology 74:2385, 1993
80	HTLV-1抗体(第3世代)(ATLA)	有馬 直道, 他: 医学と薬学 65(5):651, 2011
80	HTLV-1(ATLV)抗体(ラインプロット法・LIA法)	Zrein M. et al.: Clin Diagn Lab Immunol 5(1):45, 1998
81	HIV抗原・抗体	新田 幸一, 他: 医学と薬学 57(2):231, 2007
81	HIV-1RNA定量(リアルタイムPCR法)	目崎 和久, 他: 医学と薬学 73(6):705, 2016
82	単純ヘルペス(HSV)(CF)	金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
82	水痘・帯状ヘルペス(VZV)(CF)	金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
82	サトメカゴ(CMV)(CF)	金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
82	ムンプス(CF)	金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
82	アデノ(CF)	金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
82	インフルエンザA型(CF)	金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
82	インフルエンザB型(CF)	金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
82	RS(CF)	金井 興美, 他: 微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
82	日本脳炎(CF)	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
82	コクサッキーA群9型(CF)	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
82	コクサッキーB群1型(CF)	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
82	コクサッキーB群2型(CF)	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
82	コクサッキーB群3型(CF)	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
82	コクサッキーB群4型(CF)	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
82	コクサッキーB群5型(CF)	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
82	コクサッキーB群6型(CF)	北村 元仕, 他: 臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
83	ムンプス(HI)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:214, 1973
83	風疹(HI)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:214, 1973
83	インフルエンザA型(H1N1)(H3N2)(HI)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:214, 1973
83	インフルエンザB型(山形系統)(ピクトリア系統)(HI)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:214, 1973
83	パラインフルエンザ1型(HI)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:214, 1973
83	パラインフルエンザ2型(HI)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:214, 1973
83	パラインフルエンザ3型(HI)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:214, 1973
83	日本脳炎(UaGAR株)(HI)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:214, 1973
84	単純ヘルペス1型(HSV)(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	単純ヘルペス2型(HSV)(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	ムンプス(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ1型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ2型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ3型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ4型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ5型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ6型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ7型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ8型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ11型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ19型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ21型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	アデノ37型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	RS(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
84	麻疹(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーA群2型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーA群3型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーA群4型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーA群5型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーA群6型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーA群7型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーA群9型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーA群10型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーA群16型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーB群1型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーB群2型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーB群3型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーB群4型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーB群5型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	コクサッキーB群6型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	エコー1型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	エコー3型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	エコー4型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	エコー5型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	エコー6型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
85	エコー7型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー9型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー11型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー12型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー13型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー14型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー16型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー17型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー18型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー19型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー21型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー22型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー24型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー25型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エコー30型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エンテロ70型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
86	エンテロ71型(NT)	国立予防衛生研究所学友会: ウイルス実験学 総論 2版, 丸善:260, 1973
87	EBウイルス 抗VCA IgG抗体(FA)	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 臨時増刊 35:179, 1978
87	EBウイルス 抗VCA IgM抗体(FA)	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 臨時増刊 35:179, 1978
87	EBウイルス 抗EA-DR IgG抗体(FA)	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 臨時増刊 35:179, 1978
87	EBウイルス 抗EBNA抗体(FA)	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 臨時増刊 35:179, 1978
87	EBウイルス 抗VCA IgA抗体(FA)	日沼 頼夫, 他: 臨床病理 臨時増刊 35:179, 1978
87	EBウイルス 抗EA IgG抗体[EIA(ELISA)]	矢部 茂季, 他: 新薬と臨牀 43:351, 1994
87	EBウイルス 抗EBNA IgG抗体[EIA(ELISA)]	矢部 茂季, 他: 新薬と臨牀 43:351, 1994
87	EBウイルス 抗VCA IgG抗体[EIA(ELISA)]	矢部 茂季, 他: 新薬と臨牀 43:351, 1994
87	EBウイルス 抗VCA IgM抗体[EIA(ELISA)]	矢部 茂季, 他: 新薬と臨牀 43:351, 1994
87	ヒトパルボB19 IgG抗体(EIA)	杉下 知子, 他: 医学と薬学 38(6):1191, 1997
87	ヒトパルボB19 IgM抗体(EIA)	杉下 知子, 他: 医学と薬学 38(6):1191, 1997

頁 項 目 文 献 名

88	風疹IgM抗体 (EIA)	Champsaur,H., et al.:J.Med.Virol. 5:273, 1980
88	麻疹IgM抗体 (EIA)	庵原 俊昭, 他:医学と薬学 69(6):969, 2013
88	単純ヘルペス (HSV) IgG抗体 (EIA)	金井 興美, 他:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチャ検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:48, 1987
88	単純ヘルペス (HSV) IgM抗体 (EIA)	川名 尚, 他:医学と薬学 69(3):517, 2013
88	水痘帯状ヘルペス (VZV) IgG抗体 (EIA)	金井 興美, 他:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチャ検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:48, 1987
88	水痘帯状ヘルペス (VZV) IgM抗体 (EIA)	金井 興美, 他:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチャ検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:48, 1987
88	サイトメガロウイルス (CMV) IgG抗体 (CLEIA)	熊田 洋高, 他:医学と薬学 72(6):1087, 2015
88	サイトメガロウイルス (CMV) IgM抗体 (CLEIA)	金井 興美, 他:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチャ検査 第3版 第1分冊, 日本公衆衛生協会:48, 1987
88	ムンプスIgG抗体 (EIA)	熊田 洋高, 他:医学と薬学 72(6):1087, 2015
88	ムンプスIgM抗体 (EIA)	内田 立志, 他:川崎医学会誌 35(2):139, 2009
89	ウイルス分離	Hsiung GD:DIAGNOSTIC VIROLOGY An Illustrated Handbook.New Haven and London, Yale University:3, 1973
89	ウイルス同定	Hsiung GD:DIAGNOSTIC VIROLOGY An Illustrated Handbook.New Haven and London, Yale University:3, 1973
90	サイトメガロウイルス pp65抗原定性 (C10,C11)CMV(C10,C11)	浅井 隆善, 他:今日の移植 7(6):553, 1994
90	単純ヘルペスウイルス (HSV) 抗原	吉田 晃, 他:臨床とウイルス 13:490, 1985
90	水痘帯状ヘルペス (VZV) 抗原	新村 真人, 他:感染症学雑誌 64:195, 1990
90	ロタウイルス抗原定性	原 三千丸:日本小児科学会雑誌 106(6):766, 2002
90	ノロウイルス抗原定性	渡部 雅勝, 他:医学と薬学 71(10):1917, 2014
90	ノロウイルス抗原 (BLEIA)	鈴木 渉, 他:感染症学雑誌 89(2):230, 2015
91	HPV-DNA 検出 (高リスク)	石 和久, 他:医学と薬学 39(4):849, 1998
91	HPV-DNA簡易ジェノタイプ (16型, 18型, その他ハイリスクグループ)	三浦 俊昭, 他:医学と薬学 69(1):157, 2013
91	HPV-DNAジェノタイプ (ハイリスク13種)	尾崎 聡, 他:臨床病理 60(7):621, 2012
91	HPV-DNA型別	二谷 悦子, 他:医学と薬学 64(1):105, 2010
93	白血球数 (WBC)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:237, 2015
93	赤血球数 (RBC)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:237, 2015
93	ヘモグロビン (Hb) (血色素量)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:237, 2015
93	ヘマトクリット (Ht)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:237, 2015
93	MCV (平均赤血球容積)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:237, 2015
93	MCH (平均赤血球血色素量)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:237, 2015
93	MCHC (平均赤血球血色素濃度)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:237, 2015
93	血小板数 (PLT)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:237, 2015
93	白血球像	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:250, 2015
93	赤血球像	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:261, 2015
94	網赤血球数	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:237, 2015
94	好酸球数	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:274, 2015
94	全血比重 (GB)	金井 泉, 他:臨床検査法提要 金原出版 29:404, 1983
94	赤血球沈降速度 (ESR)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:349, 2015
94	浸透圧	長浜 大輔:検査と技術 14(9):961, 1986
94	マラリア原虫	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:1177, 2015
94	フィラリア原虫	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:1179, 2015
94	骨髄像	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:283, 2015
95	骨髄像特殊染色 アルカリホスファターゼ染色 (ALP染色)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:284, 2015
95	骨髄像特殊染色 PAS染色	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:288, 2015
95	骨髄像特殊染色 ベルオキシダーゼ染色	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:283, 2015
95	骨髄像特殊染色 エステラーゼ染色	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:286, 2015
95	骨髄像特殊染色 鉄染色	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:289, 2015
95	血液特殊染色 アルカリホスファターゼ染色 (ALP染色)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:284, 2015
95	血液特殊染色 PAS染色	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:288, 2015
95	血液特殊染色 ベルオキシダーゼ染色	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:283, 2015
95	血液特殊染色 エステラーゼ染色	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:286, 2015
95	血液特殊染色 鉄染色	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:289, 2015
96	プロトロンビン時間 (PT)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:395, 2015
96	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:392, 2015
96	フィブリノゲン定量 (Fib)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:403, 2015
96	PIVKA-II【凝固】	早野 正芳, 他:機器・試薬 35(1):87, 2012
96	第II因子	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:403, 2015
96	第V因子	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:403, 2015
96	第VII因子	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:404, 2015
96	第VIII因子	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:408, 2015
97	第IX因子	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:408, 2015
97	第X因子	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:404, 2015
97	第XI因子	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:411, 2015
97	第XII因子	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:411, 2015
97	第XIII因子	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:413, 2015
97	フォン・ウィルブラント因子抗原 定量 (v.W因子抗原 定量)	安室 洋子, 他:臨床検査機器・試薬 8(6):1386, 1985
97	フォン・ウィルブラント因子活性 (v.W因子活性) (リストセチンコファクター)	高瀬 俊夫, 他:診療と新薬 19:3097, 1982
97	ADAMTS13 活性	Kato S, et al.:Transfusion 46:1444, 2006
97	ADAMTS13 インヒビター定量	Kato S, et al.:Transfusion 46:1444, 2006
98	第VIII因子インヒビター (第VIII因子-INH)	Sirridge, M.S., et al.:Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis, 3rd Ed.Lea & Febiger.196, 1983
98	第IX因子インヒビター (第IX因子-INH)	Sirridge, M.S., et al.:Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis, 3rd Ed.Lea & Febiger.196, 1983
98	プラスミノゲン抗原	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:425, 2015
98	プラスミノゲン活性	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:425, 2015
98	アンチプラスミン (プラスミンインヒビター)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:426, 2015
98	アンチトロンビン活性 (AT-III)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:415, 2015
98	フィブリン・フィブリノゲン分解産物 (血漿FDP)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:435, 2015
98	可溶性フィブリンモノマー複合体 (SFMC)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:429, 2015
98	Dダイマー	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:435, 2015
98	プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PIC)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:435, 2015
98	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:430, 2015
99	プロテインC活性	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:417, 2015
99	プロテインC (抗原量)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:417, 2015
99	プロテインS (遊離型抗原量)	安藤 秀実, 他:機器・試薬 41(5):509~519, 2018.
99	プロテインS活性	鬼沢 実:機器・試薬 15(2):166, 1992
99	プラスミノゲンアクチベーターインヒビター-1 (PAI-1)	金井 正光, 他:臨床検査法提要 金原出版 34:428, 2015
99	トロンボモジュリン (TM)	天野 景裕, 他:臨床病理 39(9):967, 1991
100	血小板第4因子 (PF4)	高橋 芳右, 他:血液と脈管 18:326, 1987
100	β -トロンボグロブリン (β -TG)	高橋 芳右, 他:血液と脈管 18:326, 1987
101	フェノバルビタール	石橋みどり, 他:医学と薬学 42(6):1061, 1999
101	フェニトイン	石橋みどり, 他:医学と薬学 42(6):1061, 1999
101	カルバマゼピン	石橋みどり, 他:医学と薬学 42(6):1061, 1999
101	プリミドン	宮本 侃治:臨床化学 6(3):202, 1978
101	バルプロ酸	石橋みどり, 他:医学と薬学 42(6):1061, 1999
101	エトスクシמיד	Oellerich, M.:J.Clin.Chem.Clin.Biochem. 18, 197, 1980.
101	トリメタゾロン	Wolfgang, S. and Beelen, C.C.M.:抗けいれん薬・ドラッグモニタリング (広川書店):100, 1982
101	クロナゼパム	大田 博子, 他:医薬ジャーナル 24(11):92, 1988
101	アセタゾラミド	Sylvia,M.W., et al.:J.Pharm.Sci. 66:527, 1977
101	スルチアム	Berry,D.J., et al.:J.Chromatogr. 171:363, 1979
101	ソニサミド	安田 真依, 他:臨床検査機器・試薬 38(2):205~210, 2015
102	ニトラゼパム	Beharrell, G.P., et al.:J.Chromatogr. 70:45, 1972
102	ジアゼパム	Brodie RR, et al.:Chromatogr 150:61, 1978
102	クロバザム	Pawel K Kunicki:Journal of Chromatography B 750:41, 2001
102	ラモトリギン	小峯 幸弘:沖縄医報 45(9):51, 2009
102	ガバペンチン	Forrest G et al.:Journal of Chromatography B 681:421, 1996
102	トピラマート	小峯 幸弘:沖縄医報 45(9):51, 2009

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
102	レベチラセタム	赤松 直樹, 他: Epilepsy 4(2):129, 2010
102	炭酸リチウム	高橋 修: 臨床検査(増刊号) 34(11):1468, 1990
102	ハロペリドール	Furukori N. Y. et al.: Ther Drug Monit. 26(3):336, 2004
102	フロムペリドール	Furukori N. Y. et al.: Ther Drug Monit. 26(3):336, 2004
103	サリチル酸	木村 英樹, 他: JJCLA 33(5):860, 2008
103	ジゴキシン	末森 一恵: Medical Technology 37(9):1005, 2009
103	プロパフェノン	Haefeli E.W., et al.: Clin.Pharmacol.Ther. 48(3):245, 1990
103	塩酸ピルジカイニド	上野 和行: Pharma Medica 11(4):97, 1993
103	シベンソリン	寺川 雅人, 他: 薬物動態 3:761, 1988
103	プロカイナムイド	Pincus, M.R. et al.: Clinical Diagnosis and Management by Laboratory Methods, 18:349, 1991
104	プロプラノロール	Ahnoff, M., et al.: J. Chromatogr 340:73, 1985
104	キニジン	木村 英樹, 他: JJCLA 33(5):860, 2008
104	リドカイン	宮本 侃治: 臨床化学 6(3):202, 1978
104	ジソピラミド	西川 隆, 他: 医学と薬学 9(4):1213, 1983
104	アプリンジン	高田 充隆, 他: 病院薬学 14(4):256, 1988
104	メキシレチン	高中 篤, 他: 病院薬学 Vol.13:132 ~ 136, 1987
104	フレカイニド	加藤 林也, 他: 臨床薬理 20(3):505, 1989
104	ピルメノール	市川 林, 他: 臨床医薬 11(4):903, 1995
104	アミオダロン	Kress, et al.: J Chromatography 417:456, 1987
104	ペプリゾル	山崎 泰志, 他: 臨床医薬 14(1):139, 1988
105	アセトアミノフェン	木村 英樹, 他: JJCLA 33(5):860, 2008
105	メトトレキサート	宮崎 弘和, 他: Therapeutic Reserch 2:113, 1985
105	イマチニブ	Picard S. et al.: Blood 109(8):3496, 2007
105	ゲンタマイシン	Jolley, M.E., et al.: Clin.Chem. 27:1190, 1981
105	トブラマイシン	木村 英樹, 他: JJCLA 33(5):860, 2008
105	アミカシン	木村 英樹, 他: JJCLA 33(5):860, 2008
105	アルベカシン	久保 博明, 他: 医学と薬学 19(6):1454, 1988
106	バンコマイシン	キット添付説明書
106	テイコoplanin	諸岡 美里, 他: JJCLA 38(1):79, 2013
106	シクロスポリン	向井田麻由, 他: 医学と薬学 62(4):767, 2009
106	タクロリムス	向井田麻由, 他: 医学と薬学 60(1):133, 2008
106	エベロリムス	深見 春恵, 他: 医学と薬学 70(2):317-321, 2013
106	ミコフェノール酸	細坪 秀夫, 他: 今日の移植 14(4):485-491, 2001
106	テオフィリン(気管支拡張剤)	石橋みどり, 他: 医学と薬学 42(6):1061, 1999
109	比重	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	PH(尿)	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	蛋白定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	糖定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	ウロビリノーゲン定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	ビリルビン定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	ケトン体(アセトン体)定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	潜血反応	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	白血球定性	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	亜硝酸塩	山本 ユミ, 他: 医療と検査機器・試薬 26(3):217, 2003
109	蛋白定量	安原 正善, 他: 臨床検査機器・試薬 8(5):1175, 1985
109	VMA定性	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 32:190, 2005
109	ペンスジョーンズ蛋白定性	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 32:177, 2005
109	コプロボルフィン定性	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:178, 1998
110	糖定量	松岡 健平: 臨床検査 MOOK 18:1, 1984
110	浸透圧	長浜 大輔: 検査と技術 14(9):961, 1986
110	NAG	渡辺 信子, 他: JJCLA 20(2):134, 1995
110	線維素分解産物(尿中FDP)	堀内 伸純, 他: 臨床検査機器・試薬 14:267, 1991
110	δ-アミノレプリニン酸(δ-ALA)	岡山 明: 労働衛生管理 3(4):45, 1992
110	ポルフォビリノーゲン定量	近藤 雅雄, 他: 日本臨床 53, 1364-1370, 1995.
110	ウロボルフィン定量	近藤 雅雄: 日本臨床 53(6):65, 1995
110	コプロボルフィン定量	近藤 雅雄: 日本臨床 53(6):65, 1995
110	尿中アルブミン定量	芦田 尚登, 他: 自動化機器による免疫比濁法を用いた尿中微量アルブミン測定法の検討 臨床検査機器・試薬 第14巻 第3号(平成3年6月)別冊
111	尿中IV型コラーゲン	小幡 賢一, 他: 臨床検査機器・試薬 18(3):439, 1995
111	尿中トランスフェリン	今野 稔: 医学と薬学 32(3):555, 1994
111	L-FABP(L型脂肪酸結合蛋白)	Kamijo A., et al.: Journal of Laboratory and Clinical Medicine 143(1):23 ~ 30, 2004.
111	尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)	久野 豊, 他: 医学検査 48(7):1116, 1999
111	尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)(染色した場合)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 32:210, 2005
111	虫卵検査 虫卵(塗抹)	吉田 幸雄: 図説人体寄生虫学 南山堂 第8版 284, 2011
111	虫卵検査 虫卵(集卵)(浮遊法)	吉田 幸雄: 図説人体寄生虫学 南山堂 第8版 284, 2011
112	虫体検出	吉田 幸雄: 図説人体寄生虫学 南山堂 第8版 284, 2011
112	ヘモグロビン(潜血LA)定性・定量	竹下 俊隆, 他: 大腸肛門誌 38:780, 1985
112	ヘモグロビン(潜血金コロイド)定性・定量	山懸 文夫, 他: 医療と検査機器・試薬 29(2):121, 2006
112	ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)	山懸 文夫, 他: 医療と検査機器・試薬 29(2):121, 2006
113	精液一般検査	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 29:656, 1998
113	pH(精液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 29:656, 1983
113	精子濃度(精液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 29:656, 1983
113	奇形精子率(精液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 29:656, 1983
113	運動率(精液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 29:656, 1983
113	オリゴクローナルバンド[等電点電気泳動法]	藤井 英治, 他: 生物物理化学 28(4):261, 1984
114	比重(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 32:254, 2005
114	pH(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 32:662, 2005
114	ノンネアペルト反応(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:251, 1998
114	パンディ反応(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:252, 1998
114	細胞数(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:245, 1998
114	トリプトファン反応(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:256, 1998
114	細胞種類(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:247, 1998
114	蛋白定量(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:249, 1998
114	糖定量(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 32:260, 2005
114	ナトリウム(Na)(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 30:228, 1993
114	クロール(Cl)(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:255, 1998
114	カリウム(K)(髄液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 30:228, 1993
115	ムチン塊形成試験(関節液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:235, 1998
115	ルンベルグ反応(穿刺液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:228, 1998
115	リノバルタ反応(穿刺液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:227, 1998
115	比重(穿刺液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 32:239, 2005
115	pH(穿刺液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 32:662, 2005
115	沈渣(穿刺液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:191, 1998
115	細胞種類(穿刺液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:229, 1998
115	細胞数(穿刺液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:245, 1998
116	蛋白定量(穿刺液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:228, 1998
116	糖定量(穿刺液)	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:228, 1998
116	関節液結晶	金井 泉, 他: 臨床検査法提要 金原出版 31:235, 1998
116	有核細胞数	金井 正光, 他: 臨床検査法提要 金原出版 34:278, 2015
116	巨核細胞数	金井 正光, 他: 臨床検査法提要 金原出版 34:278, 2015
116	鼻汁中好酸球	奥田 稔: 臨床検査
116	喀痰中好酸球	奥田 稔: 臨床検査
117	産胎児性フィブロネクチン定性(頸膈分泌液)	一條 元彦, 他: 産婦人科治療 67(2):212, 1993
117	顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)	北村 光, 他: 臨床検査機器・試薬 21(4):357, 1998

頁	項目	文献名
119	G-band法(先天性疾患)	島田 裕充:臨床病理 特集80:76, 1989
119	15染色体(ブラダーウイリ症候群)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
119	15染色体(アンジェルマン症候群)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
119	22染色体(22q11 欠失)	稲澤 譲治:臨床FISHプロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	G-band法(血液疾患)	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):39, 1997
120	BCR-ABL t(9;22)転座(フィラデルフィア染色体)	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	PML-RARA t(15;17)転座	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8)t(8;21)転座	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	TP53 del(17)短腕欠失	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	IGH-FGFR3t(4;14)転座	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	IGH-MAF t(14;16)転座	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	IGH-CCND1 t(11;14)転座	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	IGH-MYC t(8;14)転座	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	D135319 del(13)長腕欠失	稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
120	CKS1B 1q21 増幅	増幅 稲澤 譲治:臨床 FISH プロトコール阿部 達生監修(秀潤社):90, 1997
121	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgG	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
121	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgA	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
121	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgM	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
121	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgD	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
121	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)K(カッパー)	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
121	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)L(ラムダ)	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
121	T細胞・B細胞百分率(CD3, CD19)	Wauwe JV, et al:Immunology 44:865, 1981
121	T細胞サブセット(CD4, CD8)	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
122	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
123	Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
123	CD4×CD29	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
123	CD4×CD45RA	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
123	CD57×CD16	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
123	CD11b×CD8	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
123	HLA-DR×CD4	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
123	HLA-DR×CD8	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
124	CCR4 タンパク(FCM)	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
124	造血器毒性腫瘍細胞検査 白血病/リンパ腫解析検査(LLA)CD45 ゲーティング	Shida T, et al.:Clin Cancer Research 9:3625, 2003
124	造血器毒性腫瘍細胞検査 悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45 ゲーティング	Browits MJ, et al.:Am J Clin Pathol 100:534, 1993
125	MLC(リンパ球混合培養試験)	Brain B., et al.:Blood 23:108, 1964
125	HLA-A,B(血清対応型タイプ)	齊藤克行:MHC 5(1), 57:1998
125	HLA-DR(血清対応型タイプ)	佐田 正晴, 他:今日の移植 7 Suppl:71, 1994
125	HLA-A(DNAタイプ)	石川 善英:MHC 5(2), 96:1998
125	HLA-B(DNAタイプ)	石川 善英:MHC 5(2), 96:1998
125	HLA-C(DNAタイプ)	石川 善英:MHC 5(2), 96:1998
125	HLA-DPB1(DNAタイプ)	成瀬 妙子, 他:MHC 5(2):101, 1998
125	HLA-DRB1(DNAタイプ)	成瀬 妙子, 他:MHC 5(2):101, 1998
125	HLA-DQB1(DNAタイプ)	成瀬 妙子, 他:MHC 5(2):101, 1998
126	PHAによるリンパ球幼若化検査	笠原 忠, 他:臨床検査 23(7):660, 1979
126	Con-Aによるリンパ球幼若化検査	笠原 忠, 他:臨床検査 23(7):660, 1979
126	薬剤によるリンパ球刺激試験(LST)	中島 一格:Medical Technology 21(7):722, 1993
126	NK細胞活性	康 浩一, 他:Medical Technology 21(7):574, 1993
127	EGFR遺伝子変異解析(血漿)	Weber B, et al. BMC Cancer 14: 294, 2014
128	EGFR遺伝子変異解析(リアルタイムPCR法)	林 海美子, 他:検査と技術 42(5):504, 2014
128	RAS/BRAF 変異解析	T.Yoshino et al. / EBioMedicine2(2015)317 - 323
129	マイクロサテライト不安定性検査(HNPCC・リンパ症候群)	Buhard O, et al.:J Clin Oncol 24:241, 2006
129	マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(CDX)	Buhard O, et al.:J Clin Oncol 24:241, 2006
130	UGT1A1遺伝子多型解析	Shun-ichi Suzuki, et al.:Sensors 2012, 12, 16614 - 16627
131	細菌顕微鏡検査 一般細菌	永田 邦昭:感染症診断に役立つグラム染色 日水製薬株式会社 2006
131	細菌顕微鏡検査 クリプトコッカス	永田 邦昭:感染症診断に役立つグラム染色 日水製薬株式会社 2006
131	細菌顕微鏡検査 真菌	永田 邦昭:感染症診断に役立つグラム染色 日水製薬株式会社 2006
131	細菌顕微鏡検査 疥癬虫	永田 邦昭:感染症診断に役立つグラム染色 日水製薬株式会社 2006
131	嫌気培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
131	MRSA培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
131	百日咳菌培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	マイコプラズマ培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	ジフテリア培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	レジオネラ培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	エルシニア培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	クロストリジウム・ディフィシル(嫌気培養)	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	カンピロバクター培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	ヘリコバクター・ピロリ培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	髄膜炎菌培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	淋菌培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	B群連鎖球菌(GBS)培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
132	酵母様真菌培養	D.H. ラローン:医真菌同定の手引き(第5版) 2013
132	糸状菌培養	D.H. ラローン:医真菌同定の手引き(第5版) 2013
132	クリプトコッカス培養	D.H. ラローン:医真菌同定の手引き(第5版) 2013
132	トリコモナス培養	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
133	赤痢アメーバ	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
133	大腸菌血清型別	坂崎 利一:Escherichia 属, 腸内細菌<下巻>第3版 1992
133	大腸菌ヘロトキシン(RPLA)	甲斐 明美, 他:感染症誌 71:248, 1997
133	大腸菌ヘロトキシン(ELISA)	渡辺 昌三, 他:医学と薬学 39(2):341-349, 1998
133	クロストリジウム・ディフィシル抗原(トキシンA・B)	加藤 はる, 他:日本臨床微生物学雑誌 12:115 - 122, 2002
134	薬剤感受性検査1菌種	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
134	薬剤感受性検査2菌種	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
134	薬剤感受性検査3菌種	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
134	ヘリコバクター・ピロリ感受性検査	小栗 豊子:臨床微生物検査ハンドブック第5版 2017
135	抗酸菌塗抹鏡検チールネールゼン染色	日本結核病学会 抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016 南江堂 2016
135	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(直接塗抹法)	日本結核病学会 抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016 南江堂 2016
135	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(集菌塗抹法)	日本結核病学会 抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016 南江堂 2016
135	抗酸菌分離培養検査2	日本結核病学会 抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016 南江堂 2016
135	抗酸菌分離培養検査1	日本結核病学会 抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016 南江堂 2016
136	結核菌群抗原定性	日本結核病学会 抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016 南江堂 2016
136	抗酸菌核酸同定(質量分析法)	日本結核病学会 抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016 南江堂 2016
136	抗酸菌薬剤感受性検査	日本結核病学会 抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016 南江堂 2016
151	病理組織顕微鏡検査	佐野 豊:細胞学検査法 南山堂, 1976
152	エストロゲンレセプター	野村 雍夫:ホルモンと臨床 31:1191, 1983
152	プロゲステロンレセプター	中尾 誠, 他:ホルモンと臨床 36:189, 1988
152	乳癌HER2遺伝子(FISH)	胃癌・乳癌 HER2 病理診断ガイドライン第1版, 2015
152	胃癌HER2遺伝子(FISH)	胃癌・乳癌 HER2 病理診断ガイドライン第1版, 2015
153	HER2/neuタンパク	胃癌・乳癌 HER2 病理診断ガイドライン第1版, 2015
153	EGFRタンパク	試薬添付文書
160	Y染色体微小欠失(AZF欠失)	高 栄哲, 他:Journal of Mammalian Ova Research 30(4):135 - 144, 2013.
160	脳梗塞リスク評価(A6C)	Madoka Yoshida et al.:Atherosclerosis 203:557, 2009
161	抗ラングルハンス島細胞抗体(ICA)	桜美 武彦:免疫と疾患 4:21, 1982
163	結核菌 Nested PCR	T.Takahashi, et al.:Neurology 64:1789, 2005

